

堀 遺 跡

(第 4 地点)

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



水戸市埋蔵文化財調査報告
第 65 集

堀
遺
跡
(第 4 地点)

二〇一五

水戸市教育委員会
株式会社 KUNO
株式会社 地域文化財研究所

2015

水戸市教育委員会
株式会社 KUNO
株式会社 地域文化財研究所

堀 遺 跡

(第 4 地点)

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

水戸市教育委員会
株式会社 KUNO
株式会社 地域文化財研究所



遺跡遠景（台渡里官衙遺跡群を臨む）



調査区全景（空撮）



SB01 全景（東から）



SX01 全景（南東から）

ごあいさつ

堀遺跡は、那須茶臼岳を水源とする那珂川下流域右岸の台地上に位置しております。この堀遺跡の周辺には、古代常陸国那賀郡の寺院・官衙遺跡である国指定史跡「台渡里官衙遺跡群」や県内でも有数の規模を誇る前方後円墳である国指定史跡「愛宕山古墳」などが残されており、古くから政治・文化の中心地であったと考えられます。

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

このたびの調査は、当該遺跡内に宅地造成工事が計画され、遺跡への影響が予想されたため、文化財保護の観点から十分に協議を重ねました。しかしながら、遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り、次善の策として発掘調査を実施し、記録のうえでの保護措置を講ずることとしたものです。

本調査により、奈良・平安時代の竪穴建物跡・掘立柱建物跡等が確認され、古代那賀郡衙との密接な関わりが明らかになるとともに、大規模な台地整形など、中・近世における活発な土地利用の痕跡を捉えることができました。これらの成果は、地域社会の歴史を繙くうえで貴重な資料となることでしょう。

ここに刊行する本書が、かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査の実施にあたり多大なご理解とご協力をいただきました事業主、周辺住民の皆様、並びに種々のご指導、ご助言をいただきました皆様方に心から感謝を申し上げます。

平成 27 年 6 月

水戸市教育委員会

教育長 本 多 清 峰

例 言

- 1 本書は、株式会社KUNOが計画する宅地造成に伴い実施された、堀遺跡（第4地点）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、株式会社KUNOより委託を受けた株式会社地域文化財研究所が水戸市教育委員会の指導の下に行った。
- 3 遺跡の所在地及び面積、調査期間、担当者など調査体制は下記の通りである。

所在地 茨城県水戸市堀町 428-1, 428-3, 428-4, 431, 433

面積 2,273.99 m²

調査期間 平成26年（2014）10月14日～同年12月5日

調査担当者 間宮正光

調査参加者 [発掘調査]

野村浩史 高安幸且 萩野谷幸次 久野周也 柏勝 佐藤精二 澤島恒則
小野瀬良武 寺門嘉津子 寺門節子 小坂部克巳 仲澤勝美 川又誠二
高安丈夫 大山年明 大貫浩一 村上巧兒 石島昇 高久照美 川崎剛史
北村昶 鬼沢勲

[整理調査]

野村浩史 川村理華 木村春代 藤井陽子 増田香理 秋元智子 榎勝雄
田中成光 古里兼吉

- 4 整理調査及び本書の作成は間宮が担当した。
- 5 執筆分担は第1章第1節、第2章が米川暢敬（水戸市教育委員会）、その他が間宮である。
- 6 SI05より出土した帯金具（鉞尾）については、永嶋正春氏よりご教示を賜った。
- 7 調査記録及び出土品は、一括して水戸市大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財センターにて保管・管理している。
- 8 調査においては下記の方々にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。
(敬称略・順不同)

永嶋正春 道上文 井上哲朗 比毛君男 齋藤弘道 大森昇

国立歴史民俗博物館 茨城県教育庁文化課 水戸市教育委員会

水戸市大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財センター 房総中近世考古学研究会

凡 例


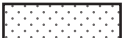
- 1 調査において使用した略号は次の通りである。
堀遺跡 第4地点・・・201064-4
竪穴建物跡・・・SI 掘立柱建物跡・・・SB 塚・・・ST 台地整形遺構・・・SX 溝跡・・・SD
柵列・・・SA 地下式坑・方形竪穴状遺構・土坑・・・SK 井戸跡・・・SE ピット・・・P
- 2 測量は、国家標準直角座標IV系（日本測地系）に基づいた。遺構実測図中の方位は座標北を示し、土層断面図及び断面図に記した数値はそれぞれ標高を示す。
- 3 遺構の形態及び規模は基本的に現存している形状で判断し、計測は壁上端を基準に行った。主軸方向は長軸線を軸線に、座標北に対して何度偏針するかを記載したが、地下式坑については、出入口となる竪坑を基準にしたため、短軸方向となっている。深度は検出面から、遺構内施設については床面及び底面からの深さである。
- 4 土坑・ピットの平面形態について、円形基調の遺構では、長軸に対し短軸が8割以上を計測するものを円形、6割以上8割未満を楕円形、6割未満を長楕円形とした。方形基調も同様である。
- 5 色相は、農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』に基づいた。
- 6 遺物の年代は、奈良・平安時代においては浅井哲也氏の「茨城県内における奈良・平安時代の土器」を中心に従来の編年観を援用し、中世においては全国シンポジウム『中世窯業の諸相』及び茨城県考古学協会シンポジウム『茨城中世考古学の最前線』で提示された編年、近世瀬戸・美濃製品は「瀬戸窯編年」を主に用いた。
- 7 出土遺物観察表中の計測値は（ ）が復元値、〈 〉が残存値を示す。単位はcmである。また、溝の出土位置についてはグリッドを併記している。
- 8 出土遺物の集計は接合後各遺構毎に行い、出土傾向を知るひとつの目安として提示した。仕様は出土遺物集計表の前に凡例を設けている。
- 9 遺物観察表及び集計表、写真図版中の遺構名は略号を用い時代・種別毎に記載した。
- 10 掲載遺物には、遺構毎に番号が付されており、本文・挿図・図版とも一致している。
- 11 表紙に使用した図は、SE04出土の滑石製石鍋（4）である。
- 12 本書に用いた基本的な挿図縮尺及びアミかけ・記号は下記の通りである。

挿図縮尺 遺構：全体図・・・1:500 塚・台地整形遺構・・・1:200（断面図 1:60, 1:100）

竪穴建物跡・掘立柱建物跡・地下式坑・方形竪穴状遺構・井戸跡・

土坑・・・1:60 溝跡・・・1:100（断面 1:60）

遺物：土器・陶磁器・・・1:3（大甕 1:4） 瓦・・・1:4 石・金属製品・・・1:3, 1:4
（石鏃・銭貨・鉞尾 2:3, 石臼 1:6, 大型砥石 1:8）

アミかけ 遺構：・・・粘土 ・・・焼土 ・・・掘り方（断面）

遺物：・・・須恵器（断面） ・・・内面黒色処理

・・・灰釉範囲 ・・・鉄釉範囲

記号 ●・・・遺物

目 次

本文目次

ごあいさつ

例言 凡例 目次

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯 1

第2節 調査の方法と経過

(1) 発掘調査の方法と経過 1

(2) 整理調査の方法と経過 2

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 3

第2節 歴史的環境 3

第3節 掘遺跡における既往の調査 5

第3章 調査の成果

第1節 基本堆積土層 7

第2節 検出された遺構と遺物の概要 9

第3節 縄文時代

(1) 遺構外出土遺物 9

第4節 奈良・平安時代

(1) 竪穴建物跡 11

(2) 掘立柱建物跡 21

(3) 土坑 26

(4) ピット 28

(5) 遺構外出土遺物 29

第5節 中・近世

(1) 塚 31

(2) 台地整形遺構 31

(3) 溝跡 35

(4) 掘立柱建物跡 42

(5) 柵列 44

(6) 地下式坑 47

(7) 方形竪穴状遺構 51

(8) 井戸跡 51

(9) 土坑 59

(10) ピット 69

(11) 遺構外出土遺物 69

第4章 総括

第1節 土地利用の変遷 89

第2節 滑石製石鍋について 91

写真図版 抄録

挿図目次

| | | | |
|--------|--|--------|---|
| 第 1 図 | 遺跡位置及び調査区位置図 | 第 30 図 | SX01 出土遺物 (2) …………… 34 |
| 第 2 図 | 遺跡周辺の旧地形図 | 第 31 図 | SD01, 出土遺物 …………… 35 |
| 第 3 図 | 周辺の遺跡位置図 …………… 4 | 第 32 図 | SD02・03・04・11 …………… 36 |
| 第 4 図 | 堀遺跡既往調査地点位置図 …………… 6 | 第 33 図 | SD05・06・07 …………… 38 |
| 第 5 図 | 基本堆積土層 …………… 7 | 第 34 図 | SD06 出土遺物 …………… 39 |
| 第 6 図 | 全体図 …………… 8 | 第 35 図 | SD08 …………… 40 |
| 第 7 図 | 縄文時代遺構外出土遺物 …………… 9 | 第 36 図 | SD09・10 …………… 41 |
| 第 8 図 | SI01, 出土遺物 (1) …………… 10 | 第 37 図 | SB03 …………… 42 |
| 第 9 図 | SI01 出土遺物 (2) …………… 11 | 第 38 図 | SB06, SK50・51, SB06 出土遺物 …………… 43 |
| 第 10 図 | SI01 出土遺物 (3) …………… 12 | 第 39 図 | SA01, 出土遺物 …………… 45 |
| 第 11 図 | SI02 …………… 13 | 第 40 図 | SK01・02・03・12・13, SK01・02 出土遺物 …………… 46 |
| 第 12 図 | SI02 出土遺物 …………… 14 | 第 41 図 | SK04・05, 出土遺物 …………… 48 |
| 第 13 図 | SI03 …………… 15 | 第 42 図 | SK06・41・45, SK06・41 出土遺物 …………… 50 |
| 第 14 図 | SI03 出土遺物 …………… 16 | 第 43 図 | SK07・09・27・34, SK09・34 出土遺物 …………… 52 |
| 第 15 図 | SI04 …………… 17 | 第 44 図 | SE01 …………… 53 |
| 第 16 図 | SI04 出土遺物 …………… 18 | 第 45 図 | SE01 出土遺物 …………… 54 |
| 第 17 図 | SI05 …………… 19 | 第 46 図 | SE02, 出土遺物 …………… 55 |
| 第 18 図 | SI05 出土遺物 …………… 20 | 第 47 図 | SE03, 出土遺物 …………… 56 |
| 第 19 図 | SB01 出土遺物 …………… 21 | 第 48 図 | SE04, 出土遺物 …………… 57 |
| 第 20 図 | SB01 (1) …………… 22 | 第 49 図 | SK08・10・11・14・15・16, SK10・15 出土遺物 …………… 58 |
| 第 21 図 | SB01 (2) …………… 23 | 第 50 図 | SK17・18・19・20・21・22・23・26 …………… 60 |
| 第 22 図 | SB02・04 …………… 24 | 第 51 図 | SK24・25・28, SK24・28 出土遺物 …………… 62 |
| 第 23 図 | SB05, 出土遺物 …………… 25 | 第 52 図 | SK29, 出土遺物 …………… 64 |
| 第 24 図 | SK35・37・38・47・48・49・52・53・54, SK35・54 出土遺物 …………… 26 | 第 53 図 | SK30・31・32・33・36・39・40・42・43・44, SK31・43 出土遺物 …………… 66 |
| 第 25 図 | P31・33, 奈良・平安時代遺構外 出土遺物 (1) …………… 28 | 第 54 図 | SK46・55・56・57・58・59・60, SK46 出土遺物 …………… 68 |
| 第 26 図 | 奈良・平安時代遺構外出土遺物 (2) …………… 29 | 第 55 図 | 中・近世遺構外出土遺物 …………… 69 |
| 第 27 図 | ST01, 出土遺物 …………… 30 | | |
| 第 28 図 | SX01 …………… 32 | | |
| 第 29 図 | SX01 出土遺物 (1) …………… 33 | | |

表目次

| | | | |
|-------|--|--------|---|
| 第 1 表 | 堀遺跡周辺の遺跡一覧 …………… 4 | 第 9 表 | SX01 出土遺物観察表 …………… 75 |
| 第 2 表 | 奈良・平安時代ピット一覧表 …………… 28 | 第 10 表 | SX01, SD01・06, SB06, SA01, SK01・02・04 出土遺物観察表 …………… 76 |
| 第 3 表 | 中・近世ピット一覧表 …………… 69 | 第 11 表 | SK05・06・41・09・34, SE01 出土遺物観察表 …………… 77 |
| 第 4 表 | 縄文時代遺構外, SI01・02 出土遺物観察表 …………… 70 | 第 12 表 | SE02・03・04, SK10・15・24・28・29 出土遺物観察表 …………… 78 |
| 第 5 表 | SI02・03・04 出土遺物観察表 …………… 71 | 第 13 表 | SK29・31・43・46, 中・近世遺構外 出土遺物観察表 …………… 79 |
| 第 6 表 | SI05, SB01 出土遺物観察表 …………… 72 | 第 14 表 | 出土遺物集計表 …………… 80 |
| 第 7 表 | SB01・05, SK35・54, P31・33, 奈良・平安 時代遺構外出土遺物観察表 …………… 73 | 第 15 表 | 遺構変遷表 …………… 90 |
| 第 8 表 | 奈良・平安時代遺構外, ST01, SX01 出土遺物観察表 …………… 74 | | |

写真図版目次

- 卷頭図版1 遺跡遠景 調査区全景
 卷頭図版2 SB01 全景 SX01 全景
 図版1 調査区全景 調査区北部全景
 調査区東部全景 調査区西部全景
 調査前現況 調査前現況
 TP01 基本堆積土層 TP02 基本堆積土層
 図版2 SI01 全景 同土層断面
 同遺物出土近景 同完掘全景
 SI02 全景 同土層断面
 同カマド調査状況 SI03 全景
 図版3 SI03 カマド近景 SI04 全景
 同遺物出土状況 同遺物出土近景
 同完掘全景 SI05 全景
 同 P1 土層断面 同完掘全景
 図版4 SB01 全景 同柱痕確認状況
 同柱掘り方構築状況 同 P1 底面近景
 同 P2 底面近景
 図版5 SB01P1 土層断面 同 P1 土層断面
 同 P3 土層断面 同 P5 土層断面
 同 P7 土層断面 同 P8 土層断面
 同 P9 土層断面 同 P12 土層断面
 図版6 SB02 全景 同柱痕確認状況
 同 P2 土層断面 同 P4 土層断面
 SB04 全景 SB05 全景 SK35 全景
 同土層断面
 図版7 SK37 全景 SK38 全景 SK47 全景
 SK48 全景 SK49 全景 SK52 全景
 SK53 全景 SK54 全景
 図版8 ST01 現況 同現況 同土層断面
 同完掘全景 SX01 全景
 図版9 SD01 全景 同土層断面
 SD02, SK27 全景 SD03・11 全景
 SD04 全景 SD05・06・07 全景 同全景
 SD05・06 土層断面
 図版10 SD08 全景 SD09 全景 同土層断面
 SD10 全景 SB03 全景 同 P2 土層断面
 同 P3 土層断面 同 P5・10 土層断面
 図版11 SB06, SK50・51 全景 SB06P1 土層断面
 同 P12・13 土層断面 同 P14・15 土層断面
 SA01 全景 同 P11・12・14 土層断面
 同 P15・20 土層断面 同 P42・43 土層断面
 図版12 SK01・13 全景 SK02 全景 SK03・12 全景
 SK04 全景 同土層断面 SK05 全景
 同土層断面 SK06 全景
 図版13 SK41 全景 SK45 全景 同土層断面
 SK07・08, P01 全景 SK07 全景
 同土層断面 SK09 全景 SK34 全景
 図版14 SE01 全景 同土層断面 SE02 全景
 同礫検出状況 同土層断面
 SE03 全景 SE04 全景 同土層断面
 図版15 SK10 全景 SK11 全景 SK14 全景
 SK15・16・21 全景 SK15・16 土層断面
 SK17 全景 同土層断面 SK18 全景
 図版16 SK19 全景 SK20 全景 SK22 全景
 SK23 全景 SK24 全景
 SK24・25 土層断面 SK25 全景 SK26 全景
 図版17 SK28 全景 SK29 遺物出土状況
 同土層断面 SK30 全景 SK31 全景
 SK32 全景 SK33 全景 SK36 全景
 図版18 SK39 全景 SK40 全景 SK42 全景
 SK43・44 全景 SK46 全景 SK50 全景
 SK51 全景 SK55 全景
 図版19 SK56 全景 SK57・59 全景 SK58 全景
 SK60 全景 P04～10 全景 P11～17 全景
 P27 全景 P28～33 全景
 図版20 縄文時代遺構外, SI01 出土遺物
 図版21 SI02・03・04 出土遺物
 図版22 SI04・05 出土遺物
 図版23 SB01・05, SK35・54, P31・33,
 奈良・平安時代遺構外出土遺物
 図版24 奈良・平安時代遺構外, ST01, SX01
 出土遺物
 図版25 SX01 出土遺物
 図版26 SX01, SD01・06, SB06, SA01, SK01・02・04
 ・05・06・09・34・41, SE01 出土遺物
 図版27 SE01・02・03・04 出土遺物
 図版28 SE04, SK10・15・24・28・29・31・43・46,
 中・近世遺構外出土遺物



第1図 遺跡位置及び調査区位置図 (1:25,000)



第2図 遺跡周辺の旧地形図 (1:20,000)

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成26年8月1日付けで、宅地造成工事に伴い、事業者から茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あての文化財保護法（以下「法」という。）第93条第1項に基づく届出が、水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。

開発が計画されている堀町428-1番地外は、周知の埋蔵文化財包蔵地「堀遺跡」の範囲内に該当しており、過去、数度にわたって開発が計画された土地であった。そのため、市教委は、当該地点における埋蔵文化財の存否を確認するため、平成13年6月4日から平成13年6月5日にかけて、試掘調査を行っていた。その結果、数多くの埋蔵文化財が発見されており、今回の事業計画と照合したところ、計画道路及び雨水浸透貯留槽埋設箇所において、確認された埋蔵文化財への影響は避けられないとの判断に至った。これを受けて市教委は、埋蔵文化財の保存のあり方について事業者との協議を重ねたが、設計変更等による遺構の現状保存が極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった届出について、上記部分において、次善の策として記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して、県教委教育長あて進達した。

平成26年9月11日付けで、県教委教育長から事業者に対し、上記部分において工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨指示・勧告があった。

これを受けて、事業者は市教委・株式会社地域文化財研究所と発掘調査実施に係る協定書を締結したうえで、株式会社地域文化財研究所と発掘調査業務委託契約を締結し、当該調査を堀遺跡第4地点発掘調査として、平成26年10月14日から発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の方法と経過

（1）発掘調査の方法と経過

調査は、事業区域内における計画道路と雨水浸透貯留槽、防火水槽が付設される部分を対象に、これまで実施されてきた堀遺跡の調査方法を踏襲して行った。

調査は、現況写真の撮影、表土除去、遺構確認、中・近世の遺構掘り下げ、奈良・平安時代の遺構掘り下げの順で進め、各段階を記録した。

調査区にはこれまでの調査を考慮し、公共座標（日本測地系）を用いて10m×10mの方眼を被せ、南西端を起点に東西方向に算用数字、南北方向にアルファベットを付したグリッドを設け（第6図）、実測や遺物取り上げ時の基準にした。

遺構の掘り下げは、4もしくは2分割を基本に、堆積土層と遺構間の新旧関係を把握する土層観察用ベルトを設定し、新しい遺構より行った。竪穴建物跡は最終的に掘り方調査を行い、掘立柱建物跡は柱痕確認により、建物の構成を把握したうえで柱痕を通す形で堆積土層を観察・記録した。とくに大型総柱建物のSB01は、桁・梁行きともに全ての柱掘り方を通す形で堆積土層を記録している。塚は10cmの等高線による現況測量を経て断ち割り、封土を全て除去した。台地整形遺構は地形に添う形で土層観察用ベルトを設定、人力により掘り下げながら下部の遺構を確認・調査している。井戸跡は湧水が激しく、検出された4基のうち3基については完掘できたが、残る1基は安全上確認面から

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

2.30 mの掘り下げで調査を断念した。また、攪乱を含め遺構として疑わしいものも土層を観察しながら掘り下げ、遺構の有無を判断している。

出土遺物については、現位置での記録を基本とするが、微細な遺物は、土層観察用ベルトを用いた4分割の場合、北東角を1区として右回りで4区まで、2分割の場合、北あるいは東を1区に小区を設定し一括して対応した。土坑や井戸跡などは層位毎に取り扱っている。なお、出土した遺物は全て台帳を作成しながら取り上げた。

記録は10 cm間隔の等高線による1:200の全体図、遺構は1:20の縮尺を基本に、土層断面図及び平・断面図を作成した。土層の色調は『新版標準土色帖』に拠っている。写真撮影は、白黒35mm、カラーズライド35mm・6×7判の3台で記録し、デジタルカメラを補助に用いた。終了時点でラジコンヘリコプターによる空撮を実施している。

発掘調査は、10月14日から開始し、調査区西部より重機を用いて表土除去に着手した。また、これと併行して安全対策を講じ調査環境を整備する。15日、塚は古墳の可能性を考え、現況測量と精査及び遺構確認に取りかかる。16日、テストピットを掘り下げ基本堆積土層を把握する。17日、塚を断ち割り、古墳でないことが確定した。調査区西部の遺構確認状況を写真撮影する。20日、中・近世の遺構掘り下げを開始した。調査区西部では、漸移層と類似するもやや様相が異なることから、地形に併せる形で土層観察用ベルトを設定し除去に取りかかる。この部分は後に台地整形遺構と判断した。29日、表土除去を終了し、遺構は全域に分布するものの調査区西部から北部に密集することが判明する。11月6日、地下式坑・方形竅穴状遺構・井戸跡・大型方形土坑など中・近世遺構の掘り下げを概ね終了し、奈良・平安時代遺構の掘り下げに着手する。18日、SB01・02は柱掘り方の埋め土に版築技法を用いており、規模や形態から官衙的な様相が明らかになる。12月1日、この頃より記録主体の調査になる。3日、空撮準備に取りかかる。5日、水戸市教育委員会より終了確認を受け、調査区全体の空撮を実施し、現場における調査を無事終了する。

(2) 整理調査の方法と経過

整理調査は、発掘調査によって得られた出土品及び記録を対象として行った。出土品は遺物収納箱20箱分で、作業は、遺物水洗い・注記、図面・写真の整理及び台帳の作成、遺構図面の修正、遺物の接合・復原、遺物実測、トレース、編集、分析へと進めた。なお、掲載遺物は281点である。

詳細は凡例に記載したが、遺物は細片に至るまで水洗いし、インク・ジェットプリンターを用い、可能な限り注記に努めた。注記にあたっては遺跡名・調査地点・遺構・出土位置・日時の順で行い、遺構の略号は奈良文化財研究所の用例にならった。接合はセメダインCを用いて臨み、その後分類、成果を出土遺物集計表に掲載した。集計は遺構毎に行い出土量を把握する一助とし、その仕様はP80「第14表 出土遺物集計表」の冒頭で示した。復元は器面保護の観点から最小限にとどめ、実測及び写真撮影に耐えられないものを対象にエポキシ樹脂で補強した。アセトンを使用すれば容易に除去可能である。実測は遺構に伴うものを基本に、掲載が必要と考えられる遺物を抽出している。なお、遺構図面の修正は第2原図を作成して行った。写真撮影はデジタルカメラを使用し、実測遺物の全量を撮影している。遺構写真は撮影内容・方向・日時などの必要事項を掲載のうえ、台帳を作成してアルバムに収納した。台帳には図面・写真・遺物の3種類がある。遺物は報告書使用の番号で統一し、報告書使用と未使用に分け内容を明記して収納した。

整理調査は、終了書類を関係機関へ提出した後水洗いより着手した。翌平成27年2月に注記を行い、3月には本格的な調査となり、4月に調査資料を分析し報告書にまとめた。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

水戸市は、日本最大を誇る関東平野の北東部に位置する。市域の北部には、八溝山地を横切り、鷲子山塊と鶏足山塊とを南北に分ち、西から東へ流れる那珂川とその支流により沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。東茨城台地はその西端で八溝山地の外縁にあたる丘陵へと続き、市域西部を形成している。茨城台地のうち、水戸市域にあたる部分をとくに水戸台地と呼ぶことがあるが、この台地は那珂川とその支流によって開析された樹枝状の支谷により大きく4つに細分され、北西からそれぞれ上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地と呼ばれる。

堀遺跡は、いわゆる上市台地の北端に位置する標高約30mの台地平坦面に立地する。台地に北面して田野川が西から東に流れ、台地の北東縁辺に沿うように流れる那珂川に合流する。この合流地点は、台地の尽きるところにあり、ここから那珂川が大きく蛇行し、南東方向の鹿島灘に向かって流れていく。

第2節 歴史的環境

堀遺跡は、古代の集落跡をはじめとして、縄文時代から近世にかけて断続的に営まれてきた複合遺跡である。本遺跡における奈良・平安時代の様相がしばしば注視されるのは、直近に官衙・寺院跡である国指定史跡「台渡里官衙遺跡群」が存在し、早くからその関連集落であるとの指摘が為されてきたためである。

堀遺跡の東に位置するアラヤ遺跡では、縄文時代早期後葉の竪穴状遺構8基が確認され、周辺に所在する西原遺跡、安戸星遺跡、渡里町遺跡などからは、早期から晩期にかけての土器が万遍なく出土しており、縄文時代の活発な土地利用をうかがわせる。

弥生時代については、土器の表面採集に留まる程度であり、今後の資料の蓄積が待たれるところである。

古墳時代を迎えると、前代同様集落が営まれるが、特筆すべきはこの地域における造墓活動である。台地縁辺という好立地もあつてか、堀遺跡と範囲を一部重複する西原古墳群をはじめ、安戸星古墳群など、前期から終末期にかけて活発に古墳が築造されている。なかでも、前方後方墳を擁し、前期から終末期まで断続的に古墳が築造された西原古墳群や、那珂川流域でも最大級の規模を誇る中期の前方後円墳である国指定史跡「愛宕山古墳」を擁する愛宕山古墳群などは、該期における在地首長の動態を探るうえで、また、次代へと続く権力の系譜を辿るうえで極めて重要である。

奈良・平安時代に至っては、台渡里廃寺跡、台渡里官衙遺跡群において、常陸国那賀郡衙跡及びその周辺寺院が造営され、堀遺跡は官衙に近接する関連集落としての性格を強く帯びようになる。台渡里官衙遺跡を中心に堀遺跡と対になる位置には渡里町遺跡が存在し、灰釉陶器や瓦の出土がみられるなど、こちらも堀遺跡同様官衙関連集落としての特徴を示している。

中世の様相としては、春秋氏の居城として伝えられる長者山城が、堀遺跡東方の台地縁辺部に築かれる。一部土塁・堀が現存するが、これまで縄張り図の作成はあったものの、十分な調査成果が蓄積されてきたとは言い難い。しかし近年、土塁・堀の外側で15世紀後半～16世紀初頭の土器群を伴う

第2章 遺跡の位置と環境

地下式坑や井戸跡などの遺構群の発見に至っており、少しずつではあるが、中世城館の構造を検討しうる資料が蓄積されつつある。

台渡里官衙遺跡群の第25次調査では、2区から拳大の円礫による集積遺構が発見され、17世紀前半の瀬戸・美濃や波佐見碗、17世紀後半の瀬戸・美濃大鉢、18世紀前半の肥前系磁器碗が出土した。また4区では、攪乱土中からではあるが、カワラケとともに益子人形や土人形が出土しており、17世紀前半頃には、当該地域に近世村落の形成があったものとみられる。



第3図 周辺の遺跡位置図 (1:25,000)

第1表 堀遺跡周辺の遺跡一覧

| No. | 遺跡名 | 種別 | 遺物 | 備考 |
|-----|---------|-----------|---|--------------------|
| 024 | アラヤ遺跡 | 集落跡 | 縄文土器(早・中・後・晩)・石斧・石剣・土偶、土師器(古・奈・平)、須恵器 | |
| 026 | 西原遺跡 | 集落跡 | 縄文土器(早～後)、土師器(奈・平)、須恵器(奈・平) | |
| 029 | 安戸星遺跡 | 集落跡 | 縄文土器(早～後)、弥生土器(後)、土師器(古前) | |
| 064 | 堀遺跡 | 集落跡 | 弥生土器(後)、土師器(奈・平)、須恵器(奈・平) | 前方後円1(2)、円8(11) |
| 080 | 西原古墳群 | 古墳群 | 土師器(古)、須恵器、鉄鏃・勾玉・管玉・丸玉・小玉・棗玉・銅環 | 前方後方1、円8(13) |
| 088 | 安戸星古墳群 | 古墳群 | ガラス玉 | 前方後方0(1)、円0(12) 湮滅 |
| 098 | 台渡里麿寺跡 | 寺院跡 | 土師器(奈・平)、須恵器(奈・平)、布目瓦・軒丸瓦・平瓦、土師質土器、内耳土器 | |
| 100 | 長者山城跡 | 城館跡 | | |
| 121 | 渡里町遺跡 | 集落跡 | 縄文土器(早・中・後)、土師器(古)、須恵器 | |
| 210 | 中根遺跡 | 集落跡 | 縄文土器(早・中・晩)・石製品・土製品、弥生土器(後)、土師器(古)、須恵器(古・奈・平) | |
| 276 | 台渡里官衙遺跡 | 官衙跡 / 集落跡 | 縄文土器(晩)、土師器(古・奈・平)、須恵器(古・奈・平)、軒丸瓦、平瓦、鉄製品(古)、内耳土器、磁器 | |

第3節 堀遺跡における既往の調査

堀遺跡における発掘調査は、試掘・確認調査を含めて、現在のところ計55地点を数える。

本調査を第4地点と呼称するのは、平成13年に、当該地点において最初に試掘調査を実施した際の地点名を引き継いでいるからである。これら55地点の調査の中には、個人住宅建築等小規模開発に伴う狭小で零細な調査や、現在室内整理作業中の調査も含んでいるため、ここで網羅的に記すことは適切ではないように思える。そのため、ここでは、既往の調査における注目すべき成果について、主に本発掘調査を中心として、その概要をまとめておくこととしたい。

堀遺跡において、遺構として明確に確認されたもので最も古く考えられるのは、遺跡のほぼ中心に位置する第2地点において確認された1軒の竪穴建物跡である。この建物跡からは、十王台式の範疇となる弥生時代後期の壺と土師器壺及び埴が出土した。これらは共伴である可能性が高く、この竪穴建物跡は古墳時代前期初頭に帰属するものと考えられる。

第2地点において確認された遺構群のうち、主体を為すのは竪穴建物跡・掘立柱建物跡から構成される大規模な古代集落跡である。この集落が最盛期を迎えるのは8世紀後半～9世紀にかけてであり、特筆すべきは、刀子・鎌・鏃・釣針・釘・錠などの鉄製品や、須恵器壺Gなど特殊な器種の土器、人面墨書のある土師器小甕などが出土していることである。これらの遺物群とあわせて、5号掘立柱建物跡は桁行8間以上、梁行2間の長屋風の構造を有しており、9世紀代の公的建物である可能性が指摘されていることからみても、この集落のもつ、直近に位置する古代那賀郡衙及びその周辺寺院との密接な関わりは疑うべくもないことであり、那賀郡衙等の造営や修造などに関わった計画村落である可能性が指摘できよう。

他にも、第2地点の周辺に位置する第9、11地点をはじめとして、第10、30、44地点などにおいても竪穴建物跡を中心とした数多くの奈良・平安時代の遺構群が発見されている。なかでも、個人住宅建築に伴う小規模な調査ではあったものの、第30地点においては、8世紀後半の竪穴建物跡から椀状滓が出土しており、集落内の一角において製鉄が行われていたことを示唆する成果が得られている。

遺跡範囲の西端付近に位置する第1地点では、9世紀代の竪穴建物跡とともに、規模の異なる3棟の側柱掘立柱建物跡が検出されており、古代集落跡としての規模の大きさをうかがうことができる。該期における集落としての土地利用の範囲がどこまで及んでいたかについては、竪穴建物跡や掘立柱建物跡の分布範囲から検討していくほかないが、集落跡の西限としては、第1地点の北西に位置する第6地点において、廂・孫廂を有する掘立柱建物跡が発見されており、これは古代村落内の仏堂と考えられる。古代において、仏堂がしばしば竪穴建物跡や掘立柱建物跡によって構成される生活空間の外縁部に位置することから、こと西側については、現在の包蔵地範囲が概ね古代集落跡の西辺として理解できる。

このように、当該遺跡における土地利用は、その期間の中心を奈良・平安時代に置くことができるが、散在的ではあるものの、中世に至っても連綿と続いていたことが明らかになっている。第9地点における調査では、中世の地下式坑が発見されており、その周囲において確認されている掘立柱建物跡と併せて、集落としての土地利用は続いていたことを示している。

以上、ここに挙げた他の何れの地点においても、その出土量に多寡はあるものの、多くは8世紀後半～9世紀にかけての遺構・遺物がみられ、上記の調査成果を補強する内容ではあっても、特段修正すべき内容ではない。その遺構分布の状況、分布密度からみても、堀遺跡が古代を中心として営まれ

第2章 遺跡の位置と環境

た大規模な集落跡であったことは疑うべくもない。しかし、集落内においては、掘立柱建物跡を中心として構成される、いわゆる公的性格を有するエリアと、竪穴建物跡を中心として構成される一般集落的様相の強いエリアが存在することや、古代常陸国那賀郡において、当該集落の果たした役割、そして、以後の時代に至るまでの土地利用の動態など、検討すべき課題は未だ多く残っている。目下、直近に位置する官衙・寺院遺跡との関連性に留意しつつ、鋭意整理・検討の作業を進めているところであるが、アラヤ遺跡や西原古墳群など、周辺遺跡においても一定の調査成果の蓄積をみている現在、時間的、地域的にも、今後はより巨視的に、この台地縁辺部における土地利用から、人々の営みについて検討を進めなくてはならない段階にある。



第4図 堀遺跡既往調査地点位置図 (1:5,000)

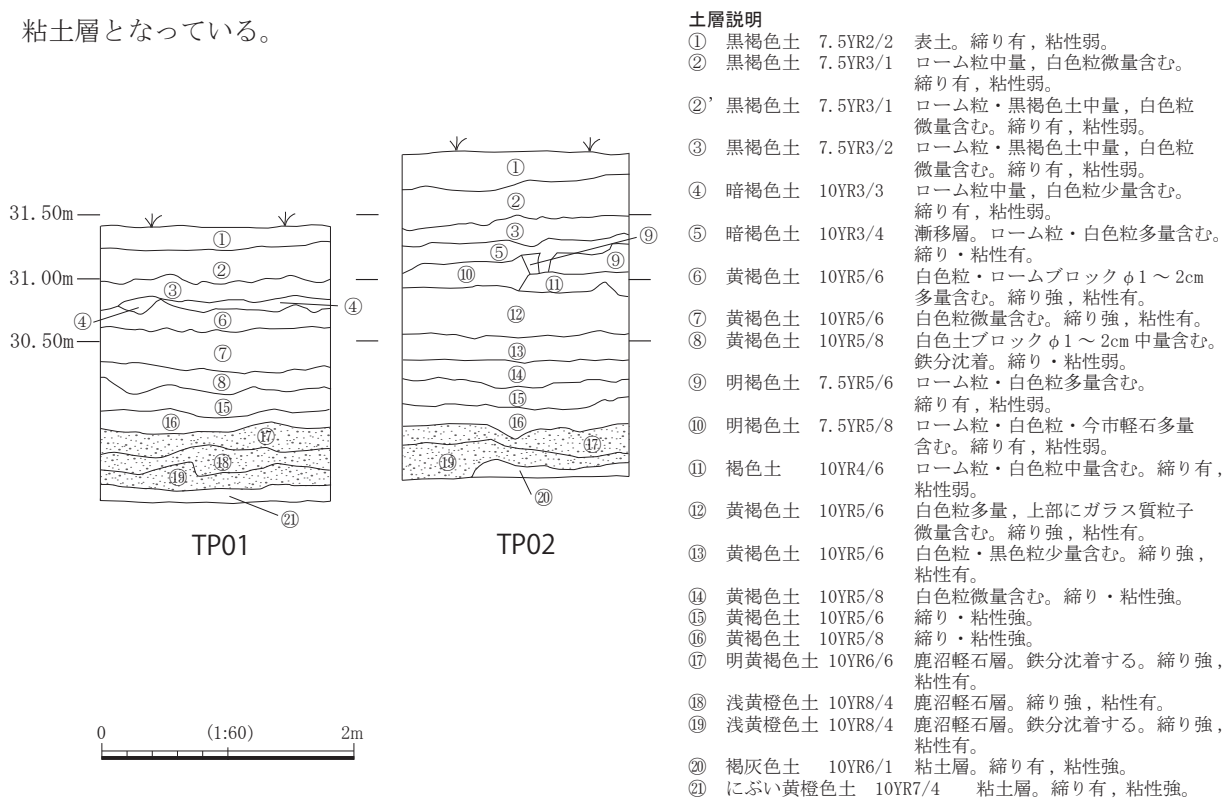
第3章 調査の成果

第1節 基本堆積土層

堀遺跡の立地する水戸台地は、水戸層と呼ばれる第三紀層を基盤とし、砂・礫・シルトで構成される見和層、上市礫層、関東ローム層の順で堆積する。調査区は、広大な遺跡範囲のほぼ中央部にあたり、耕地として利用されていた。このため現況にみる地勢はほぼ平坦であるが、調査により浅い谷や窪地など、一様ではない起伏のある地形が明らかになっている。とくに南へ向けて僅かながら高くなり、限られた範囲の調査のため断定はできないものの、西には第2地点との間に浅い谷、あるいは窪地が入り込む可能性がある。

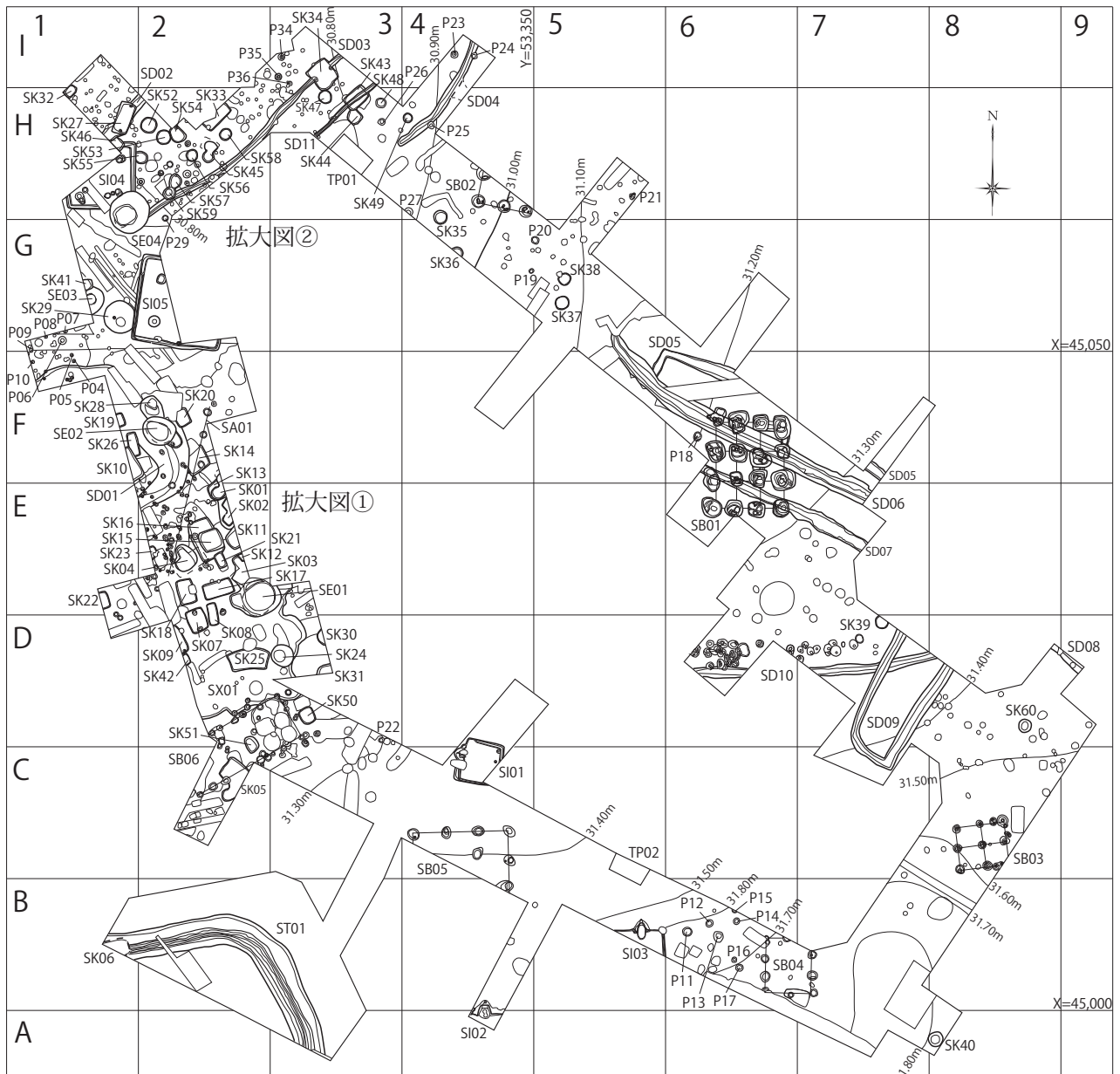
本調査では北部と南部の二カ所において基本堆積土層を観察・記録した。両者間には色相や含有物の量などにおいて微妙な相違が認められている。

表土層は部分的に攪乱を受けており、これを除去すると②・③層の旧表土層となる。本層の層厚はまちまちであり、西部では②層に類似するも含有物が異なる黒褐色土層を確認し②'層とした。⑤層はローム層の漸移層に位置付けられている暗褐色土層で、本調査における遺構確認面である。ただし、表土層が薄く、耕作により失われている場所もあり、北部では④層がこれに相当する。また⑧層には白色土ブロックと鉄分の沈着が認められるなど、北部においては地形の形成に水の影響が想定された。なお、北部では今市軽石は確認できない。一方南部では、⑩層に今市軽石を多量に含み、さらに⑫層では微量であるが、始良 Tn 火山灰 (AT) の可能性のあるガラス質粒子を含有していた。ハードローム層は下部になるほど粘性・硬度を増し、⑰・⑱層の鹿沼軽石層に至る。鹿沼軽石層は上層では粒径が細かく下層ほど粗くなり、以下⑳・㉑層の粘土層となっている。



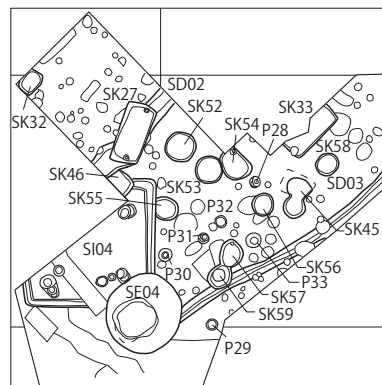
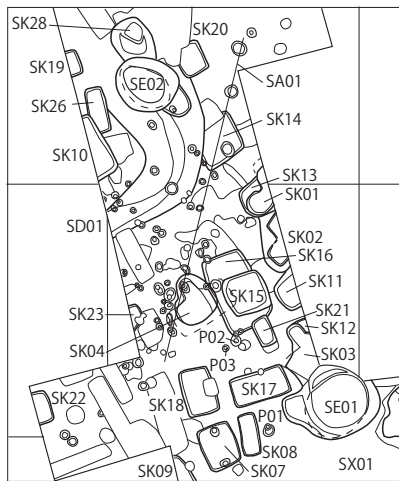
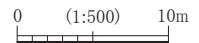
第5図 基本堆積土層

第3章 調査の成果

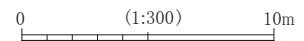


拡大図①

拡大図②



*全体図は新旧関係を表していない。



第6図 全体図

第2節 検出された遺構と遺物の概要

堀遺跡は、縄文時代から近世にかけて営まれた複合遺跡である。那賀郡衙の関連集落として知られていたが、本調査では奈良・平安時代と中・近世に大別できる結果となった。

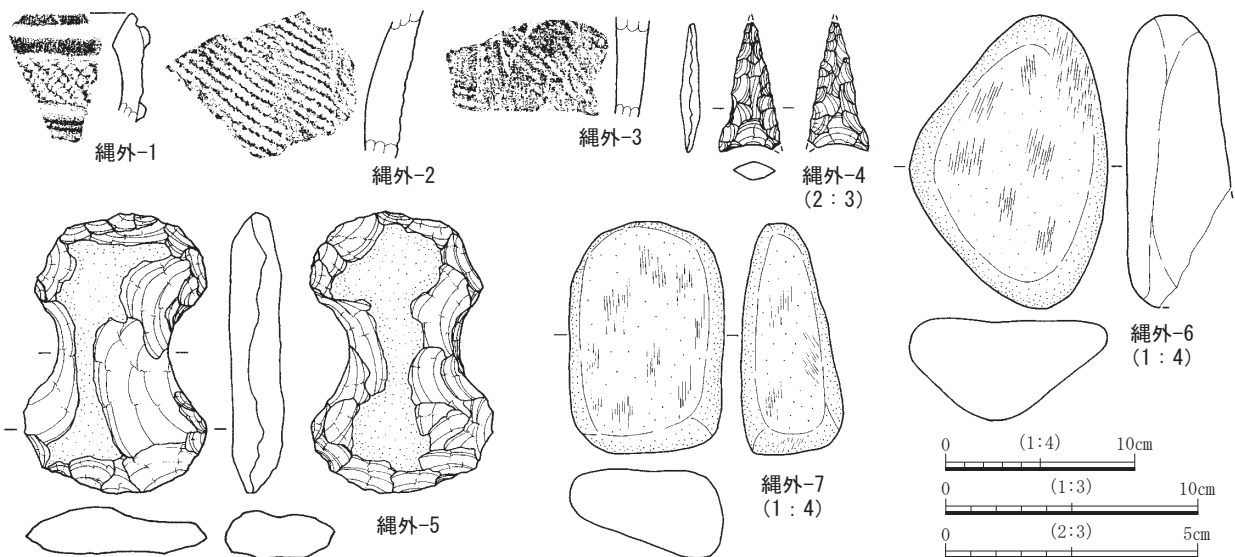
奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡5軒、掘立柱建物跡4棟、土坑9基、ピット6本で、竪穴建物跡が調査区北西から南部、柱掘り方が大型の掘立柱建物跡が北東から東部に分布する。掘立柱建物跡ではSB01・02の構築に版築技法を用いており、規模や形態から官衙的な様相がうかがわれる。とくにSB01は3間×3間の総柱建物で、豊島郡衙の御殿前遺跡において検出されている、柱掘り方を連結した「地中梁」（「柱筋溝状遺構」）とされる溝状の掘り込みと類似した痕跡が、明瞭ではないものの確認された。中・近世の遺構は、塚1基、台地整形遺構1ヵ所、溝跡11条、掘立柱建物跡2棟、柵列1条、地下式坑8基、方形竪穴状遺構4基、井戸跡4基、土坑39基、ピット30本で、調査区の北から西部に密集する。西部では地山を最大で0.8m掘削した台地整形遺構が検出された。調査範囲が限定的なため断定はできないが、西へ向けた緩やかな傾斜地を削平したもので、この地区には地下式坑や方形竪穴状遺構、土坑がまとまって構築されている。なお、方形竪穴状遺構については、方形竪穴遺構（中世竪穴建物）と類似するが、規模が小さいため方形竪穴状遺構の名称を用いた。

遺物は総数3,442点を数え、収納箱20箱分に相当する。縄文時代中期後半加曾利E式土器を最古に、奈良・平安時代の土師器、須恵器、土・金属・石製品、瓦、墨書土器、中・近世の常滑系、瀬戸・美濃系、肥前系の陶磁器、土師質・瓦質土器、金属・石製品、瓦、銭貨が出土した。奈良・平安時代では、土師器と須恵器の比率は拮抗し、須恵器は木葉下窯の製品である。瓦は平瓦が多く成形は一枚作りで、縄叩きと格子叩きが混在する。中・近世では瀬戸・美濃製品が多数を占めていた。特筆される遺物としては、帯金具の鉋尾と滑石製石鍋が出土しており、遺跡の性格を物語る資料として注目される。

第3節 縄文時代

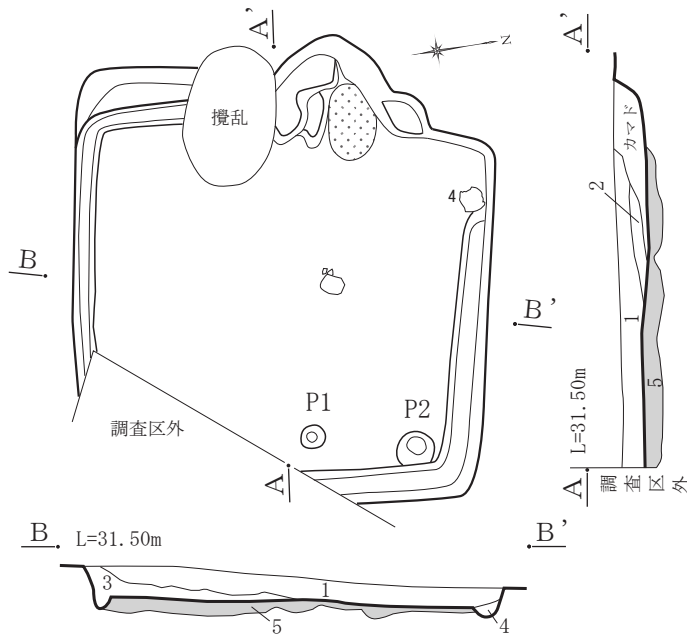
(1) 遺構外出土遺物

本調査において縄文時代の遺構は検出されていない。該当期の遺物としては中期後半の土器片（加曾利E式）と石器が合計8点出土しており、そのうち7点を第7図に掲載した。



第7図 縄文時代遺構外出土遺物

第3章 調査の成果

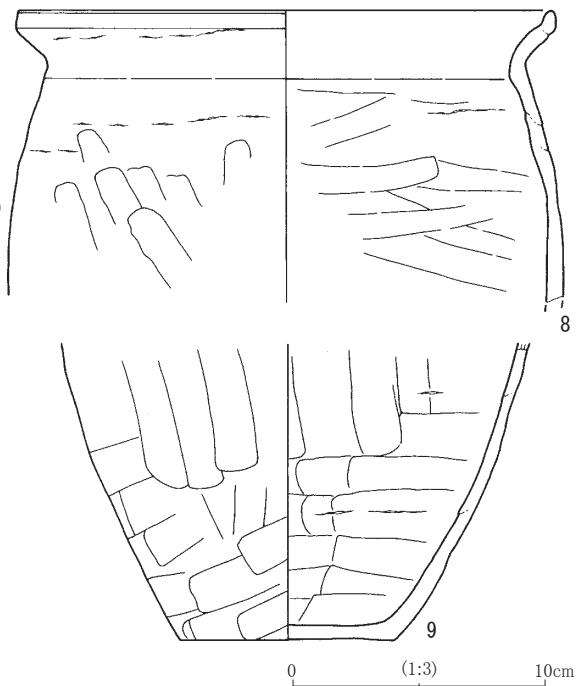
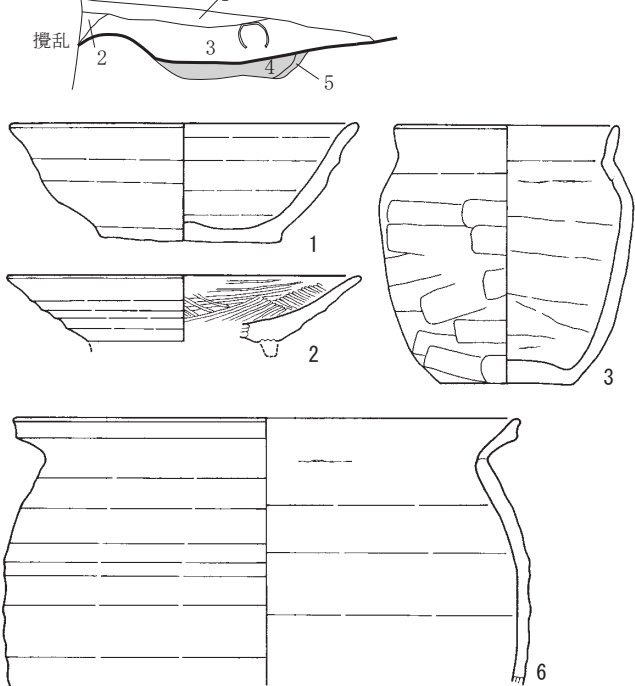
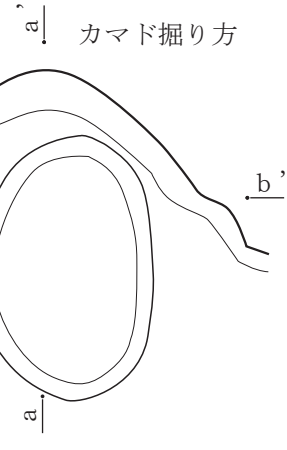
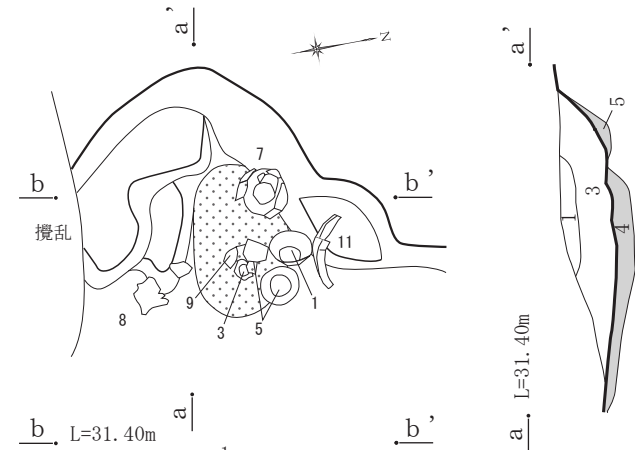
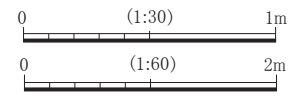


土層説明

- | | | | |
|---|------|---------|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム粒中量, 今市軽石・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム粒多量, 今市軽石・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 3 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 5 | 褐色土 | 10YR4/6 | ロームブロックφ1~3cm密に含む。締り強, 粘性有。貼り床。 |

カマド 土層説明

- | | | | |
|---|------|---------|---------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 締り・粘性弱。 |
| 2 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 3 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土粒密に含む。締り有, 粘性弱。 |
| 4 | 褐色土 | 10YR4/4 | ブロック状焼土密に含む。締り有, 粘性弱。 |
| 5 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土粒中量含む。締り有, 粘性弱。 |



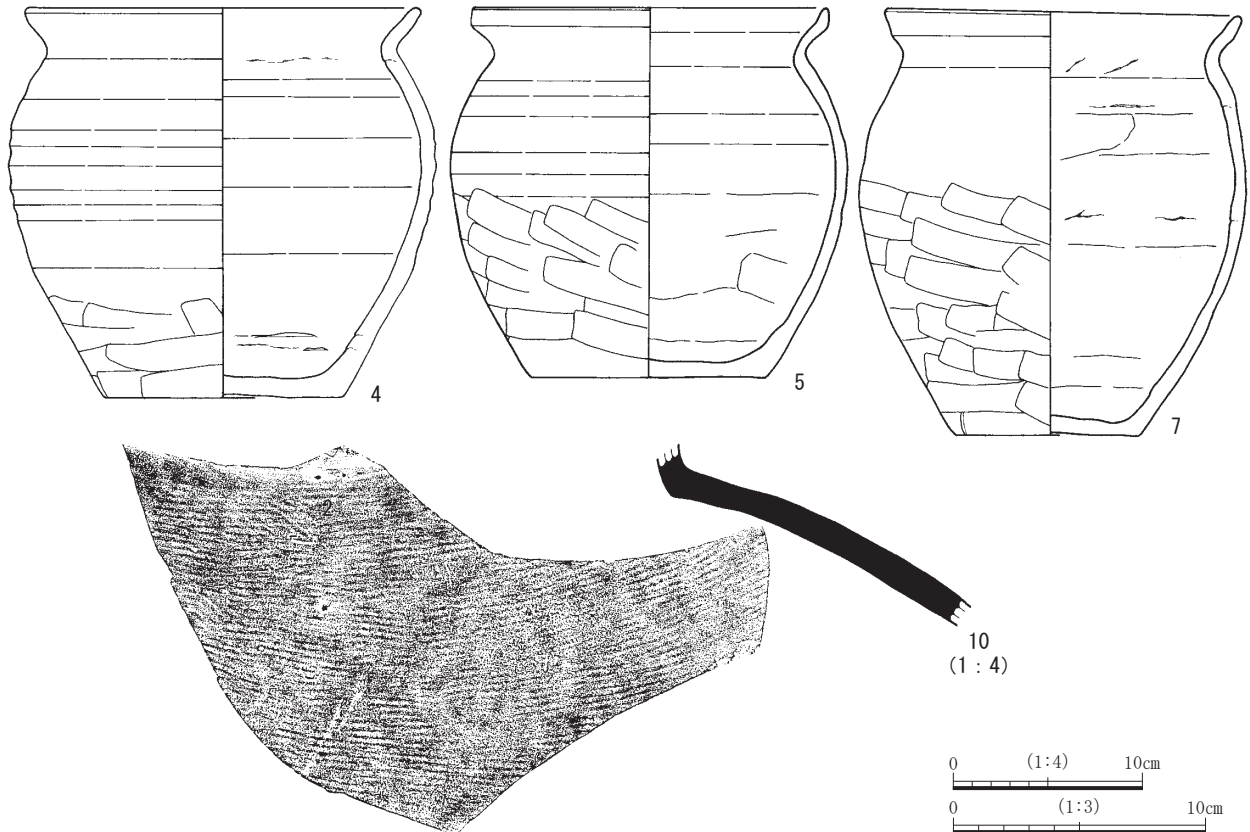
第8図 SI01, 出土遺物 (1)

第4節 奈良・平安時代

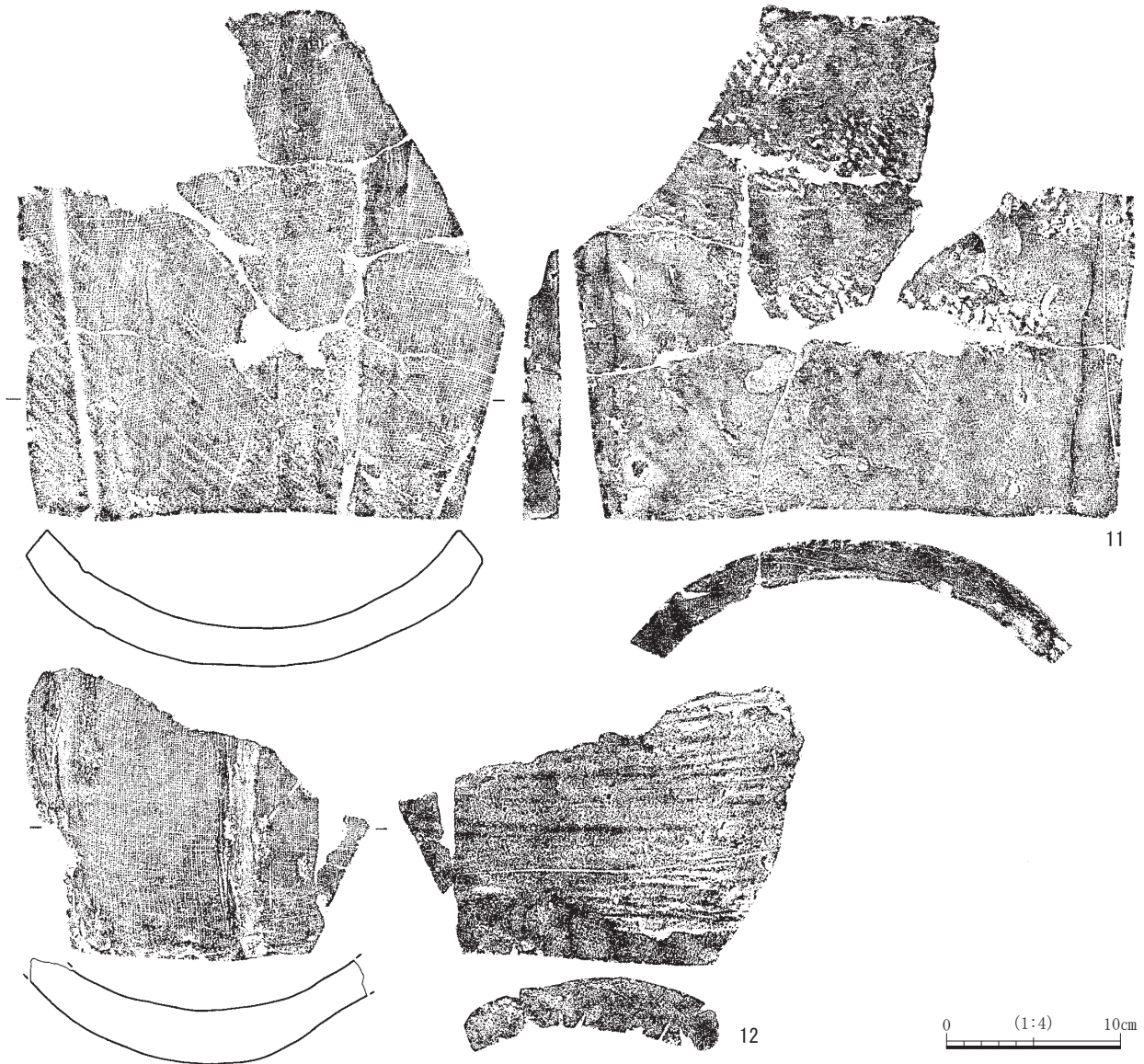
(1) 竪穴建物跡

SI01 (第8・9・10図, 第4表, 図版2・20)

調査区西部, C・D-4グリッドに位置する。平面は正方形で, 東西2.95m, 南北3.34m, 深さは0.14~0.25mを計測し, 主軸方向はN-75°-Wを示す。覆土は上層に黒褐色土, 下層に暗褐色土が堆積し, ローム粒の含有が顕著である。床面はほぼ平坦で, 全体に5~12cm掘り窪め, ロームブロックを密に含んだ褐色土を用いて床を貼る。よく締まるが硬化までは至っていない。壁は垂直気味に立ち上がり, カマドを除く壁下に幅14~28cm, 深さ3~12cmの壁溝が巡る。ピットは東壁周辺に2本が検出され, P1は直径20cm, 深さ14cm, P2は直径30cm, 深さ12cmである。P1は出入口施設に伴うものとみられるが掘り込みは浅い。カマドは西壁の北よりに付設され, 主軸方向は建物跡と同一である。天井及び明瞭な袖は残存しないものの, 右袖の位置に平瓦が直立して埋め込まれていた。構材に平瓦を用いた可能性がある。ただ, 左袖については段状に僅かながら高くなるも, 攪乱により不明である。燃烧部は12cm掘り窪めて使用し, 62cm×42cmの範囲で赤変硬化した火床面が形成され, ブロック状焼土が堆積する。煙道部は短く屋外へかけて35cm掘り込む。燃烧部の掘り方が106cm×74cmであることを考慮すると, カマドの全長は130cm, 燃烧部長80cmの規模と想定される。遺物は土師器(坏・埴・皿・壺・甕)93点, 須恵器(坏・蓋・鉢・長頸壺・甕)37点, 平瓦2点を数える。土師器の甕の中には小型の形態も含まれており, ロクロ調整が施されていた。須恵器は木葉下窯の製品で占められているが, 流れ込みと判断されるもので, 量も少なく供膳・煮沸具ともに土師器が主体となる。遺物の出土状態は, 北東隅角から4の土師器小型甕が出土しているものの, 大



第9図 SI01出土遺物(2)

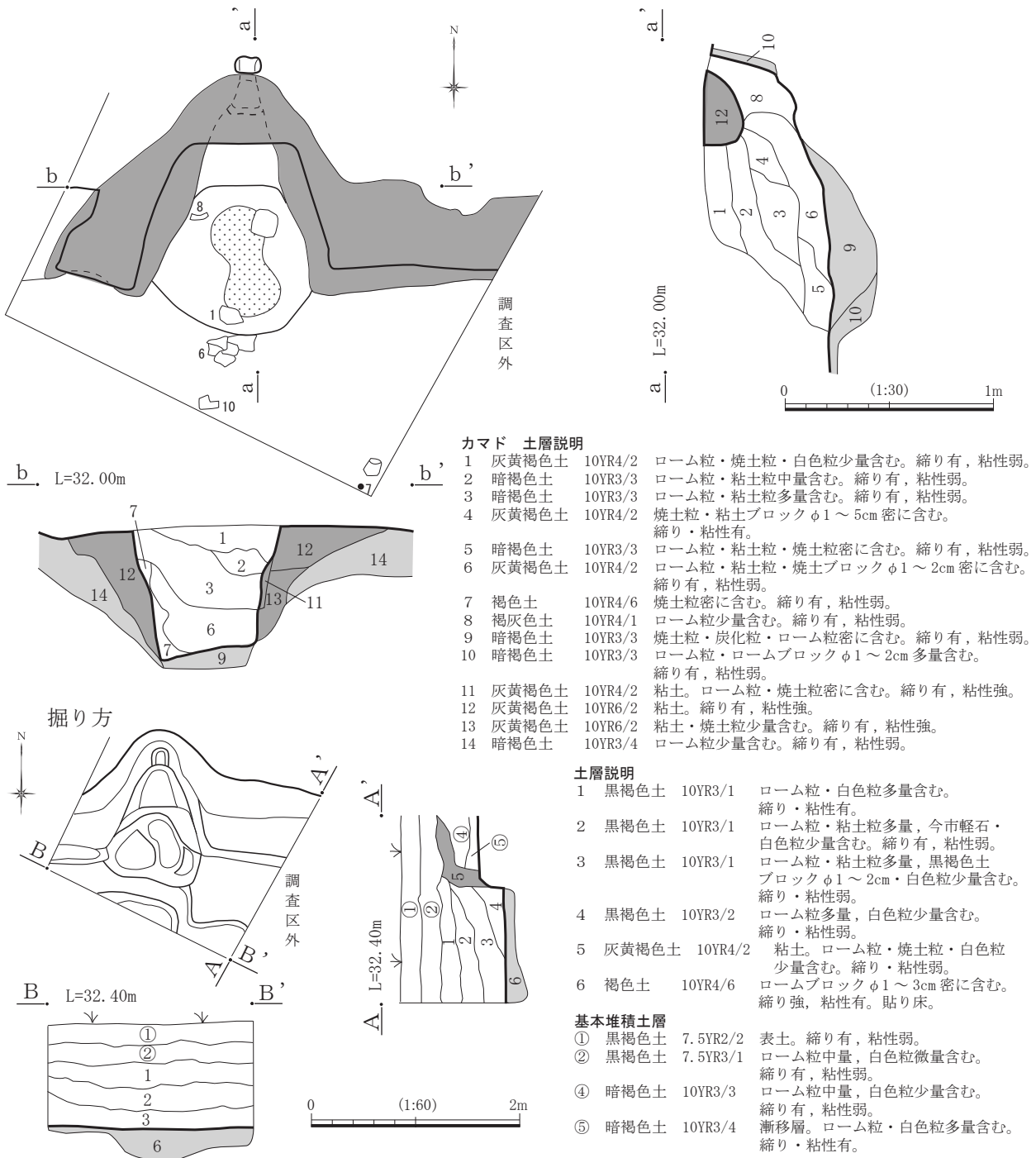


第10図 SI01 出土遺物 (3)

多数はカマド内に集中し、坏・甕が到位の状態で火床面上から発見された。この中の5の土師器小型甕は、支脚として用いられた可能性がある。時期は坏・甕の形態から10世紀初頭に比定される。

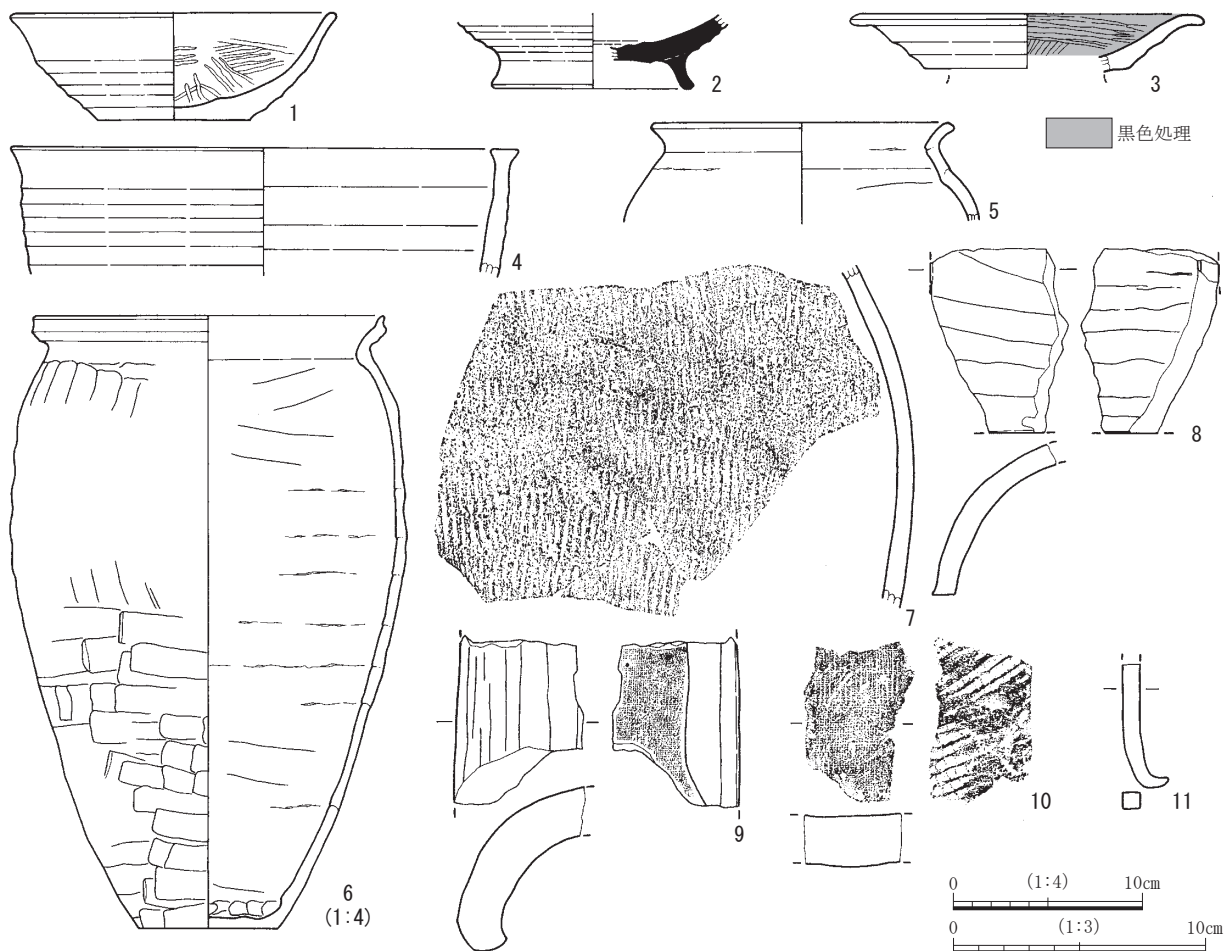
SI02 (第11・12図, 第4・5表, 図版2・21)

調査区南西部, A・B-4グリッドに位置する。カマドを中心として検出され, 大半が調査区外となる。平面は不明で, 検出範囲は東西2.25m, 南北1.65m, 調査区際における土層断面観察での深さは0.63mを計測する。主軸方向はカマドと建物跡の北壁から判断してN-3°-Wとみられる。覆土は黒褐色土を主体とし, ローム粒の含有が顕著である。床面はほぼ平坦で, 5~30cm掘り窪め, ロームブロックを密に含んだ褐色土を用いて貼る。よく踏み固められ全体に硬化している。壁は二段に掘り込まれた後, 灰黄褐色粘土を厚さ20cmで貼り付け, 垂直の壁を構築する。壁溝及びピットは認められていない。カマドは北壁の屋外に付設され, 主軸方向は建物跡と同一である。構築には灰黄褐色粘土を用いており, 天井の一部が残存する。煙道は急激に立ち上がり確認面において13cm×8cm



第11図 SI02

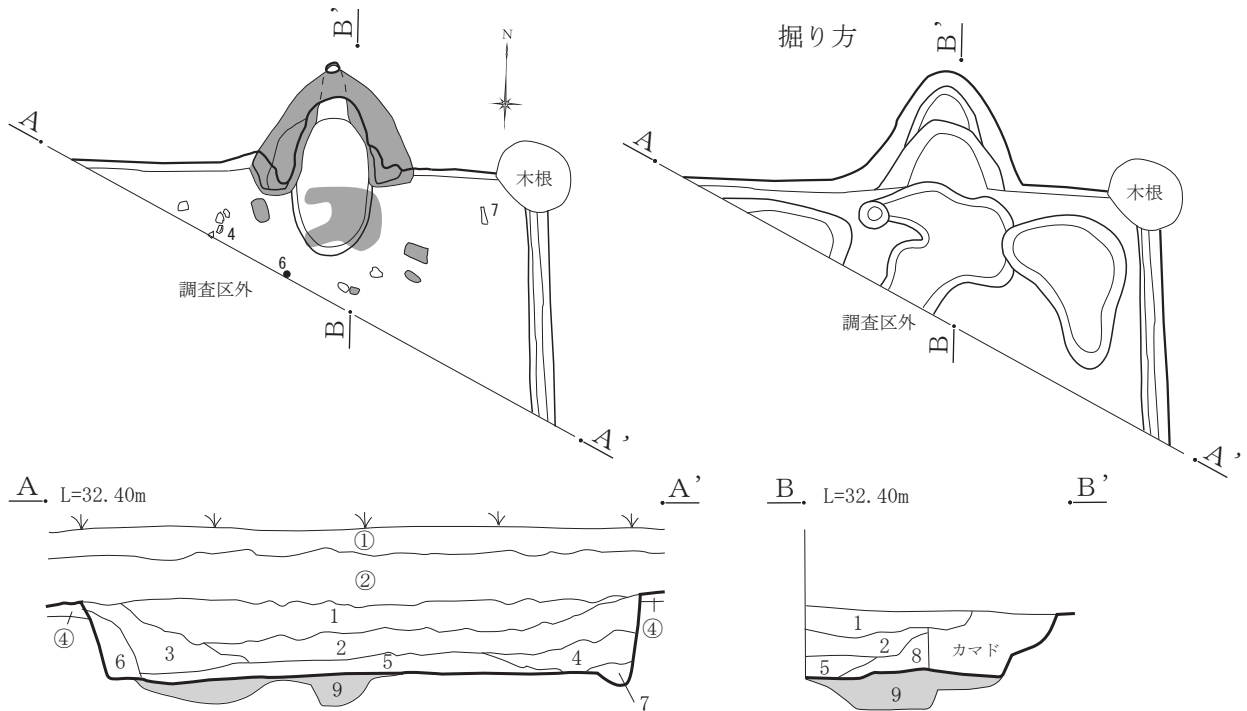
の煙出しが検出された。燃焼部は45cm掘り窪めて使用し，最上部には瓢箪形の赤変硬化した火床面が認められる。カマドの規模は全長135cm，燃焼部最大幅70cmである。本期の遺物は土師器（坏・皿・鉢・甕）200点，須恵器（坏・甕）43点，土製品（支脚）2点，鉄製品（釘）1点，瓦（丸瓦・平瓦）4点，カマドの構材とみられる粘土塊1点を数え，土師器の比率が高い。須恵器は木葉下窯の製品で占められていた。供膳具は土師器と須恵器，煮炊具は土師器，貯蔵具は須恵器で構成される。時期は遺物から9世紀後半である。



第12図 SI02 出土遺物

SI03 (第13・14図, 第5表, 図版2・3・21)

調査区南部, B-5 グリッドに位置する。カマド周辺を中心とした1/3ほどの検出で, 大半が調査区外となる。平面は北東隅角が直角となることから方形とみられる。検出範囲は東西3.80m, 南北1.90m, 調査区際における土層断面観察での深さは0.59mを計測する。主軸方向はN-5°-Wを示す。覆土は黒褐色土を主体とし, ローム粒の含有が顕著である。床面は多少の凹凸はあるものの全体にはほぼ平坦で, 北壁周辺を中心に15~30cm掘り窪め, ロームブロックを密に含んだ褐色土を用いて床を貼る。よく踏み固められ全体に硬化している。壁は垂直気味に立ち上がり, 東壁下のみ幅18cm, 深さ10cmの壁溝が巡る。調査範囲においてピットは認められない。カマドは北壁のやや東よりに付設され, 屋外へかけて構築される。主軸方向は建物跡と同一で, 灰黄褐色粘土を用いた天井の一部と袖が残存する。袖は短く, 煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり, 確認面において10cm×7cmの煙出しが検出された。燃焼部は18cm掘り窪めて使用しているが, 赤変硬化した火床面は認められていない。カマドの規模は全長152cm, 燃焼部最大幅57cm, 袖の残存長は右16cm, 左38cmである。遺物は土師器(坏・甕)151点, 須恵器(坏・盤・蓋・短頸壺・壺瓶類・甕)80点, 鉄製品(鎌)1点, 粘土塊3点を数え, 須恵器は木葉下窯の製品で占められていた。供膳具は須恵器, 煮炊具は土師器, 貯蔵具は須恵器で構成される。遺物は調査範囲が限られていることもあり, カマド周辺に集中する。時期は遺物から9世紀前半である。

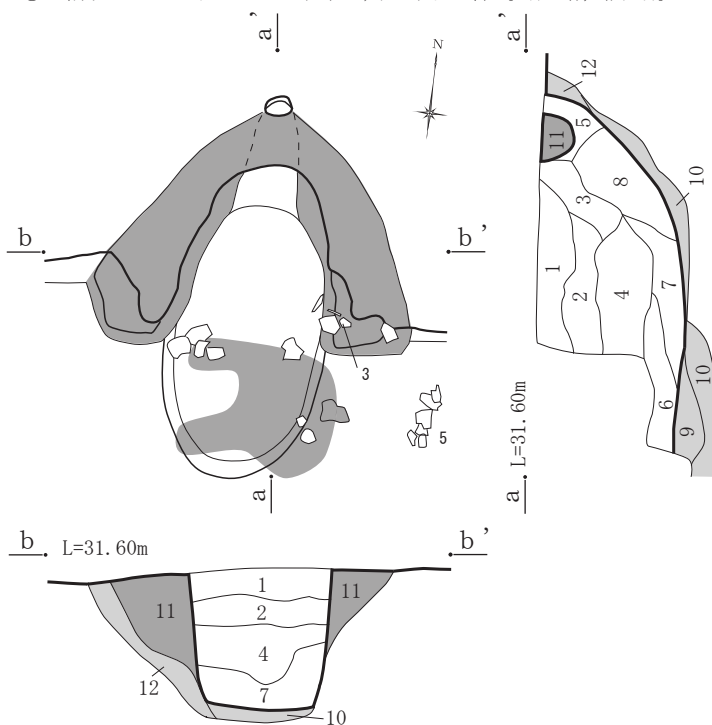
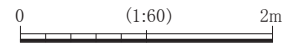


土層説明

- | | |
|----------------|---|
| 1 黒褐色土 10YR3/1 | ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 2 黒褐色土 10YR3/2 | ローム粒多量, 粘土粒・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 3 黒褐色土 10YR3/2 | ローム粒中量, 白色粒・ロームブロックφ1~3cm少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 4 黒褐色土 10YR3/1 | ローム粒多量, 白色粒微量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 5 黒褐色土 10YR3/2 | ローム粒中量, 白色粒・粘土粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 6 黄褐色土 10YR5/6 | 白色粒中量, 黒褐色土混入。締り有, 粘性弱。 |
| 7 黒褐色土 10YR3/2 | ローム粒中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 8 暗褐色土 10YR3/3 | ローム粒・粘土粒・焼土粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 9 褐色土 10YR4/6 | ロームブロックφ1~3cm密に含む。締り強, 粘性有。貼り床。 |

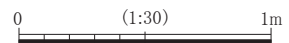
基本堆積土層

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| ① 黒褐色土 7.5YR2/2 | 表土。締り有, 粘性弱。 |
| ② 黒褐色土 7.5YR3/1 | ローム粒中量, 白色粒微量含む。締り有, 粘性弱。 |
| ④ 暗褐色土 10YR3/3 | ローム粒中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |

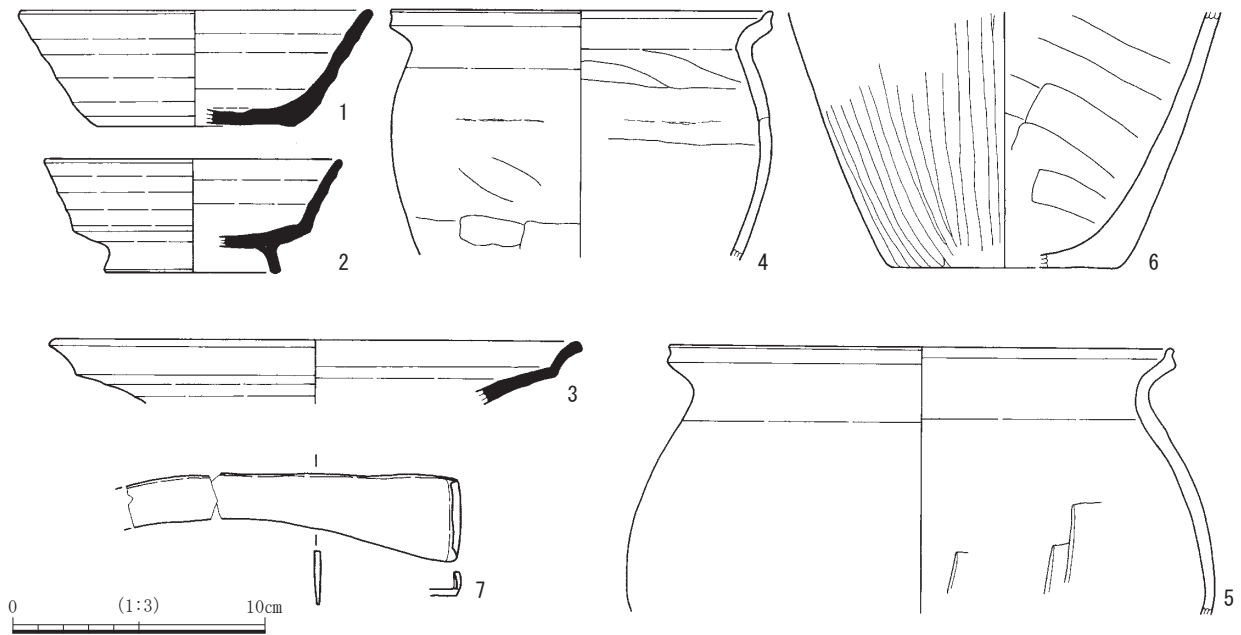


カマド 土層説明

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色土 10YR3/1 | ローム粒・焼土粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 2 黒褐色土 10YR3/1 | ローム粒中量, 粘土粒密, 白色粒少量含む。締り・粘性有。 |
| 3 灰黄褐色土 10YR4/2 | 粘土粒・砂粒中量含む。締り・粘性有。 |
| 4 黒褐色土 10YR2/2 | ローム粒・粘土粒多量, 白色粒少量含む。締り・粘性有。 |
| 5 褐色土 10YR4/4 | 焼土粒少量含む。締り・粘性有。 |
| 6 褐灰色土 10YR4/1 | 焼土粒・粘土粒・粘土ブロックφ1~2cm密に含む。締り・粘性有。 |
| 7 褐灰色土 10YR4/1 | ローム粒・焼土粒・粘土粒中量含む。締り・粘性有。 |
| 8 灰黄褐色土 10YR4/2 | 粘土粒・粘土ブロックφ1~3cm・砂粒多量含む。締り・粘性有。 |
| 9 暗褐色土 10YR3/3 | ローム粒・ロームブロックφ1~3cm・黒褐色土密に含む。締り強, 粘性有。 |
| 10 暗褐色土 10YR3/3 | ローム粒中量, 焼土粒多量含む。締り有, 粘性弱。 |
| 11 灰黄褐色土 10YR6/2 | 粘土。焼土粒少量含む。締り有, 粘性強。 |
| 12 褐色土 10YR4/6 | ローム粒中量含む。締り有, 粘性強。 |



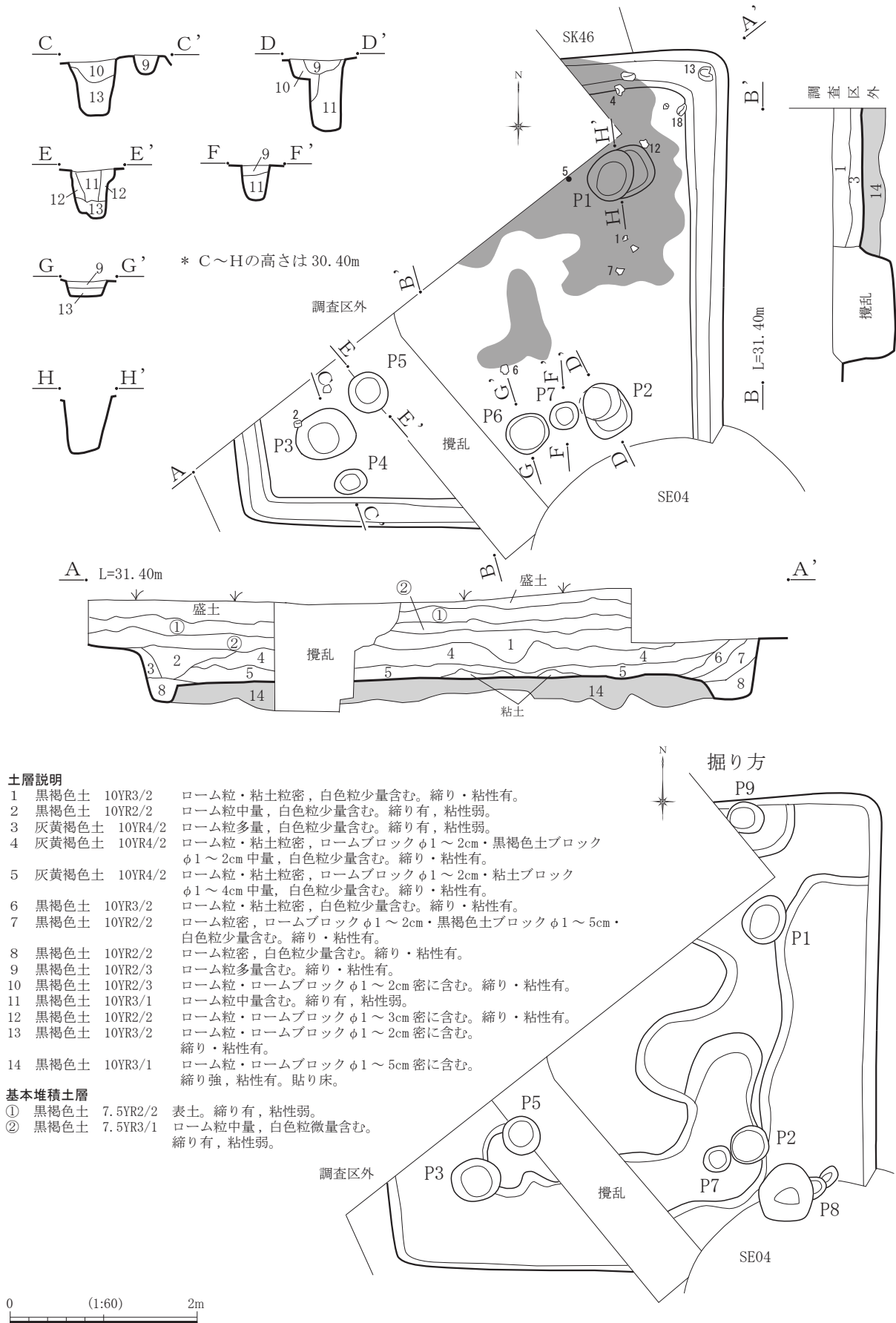
第13図 SI03



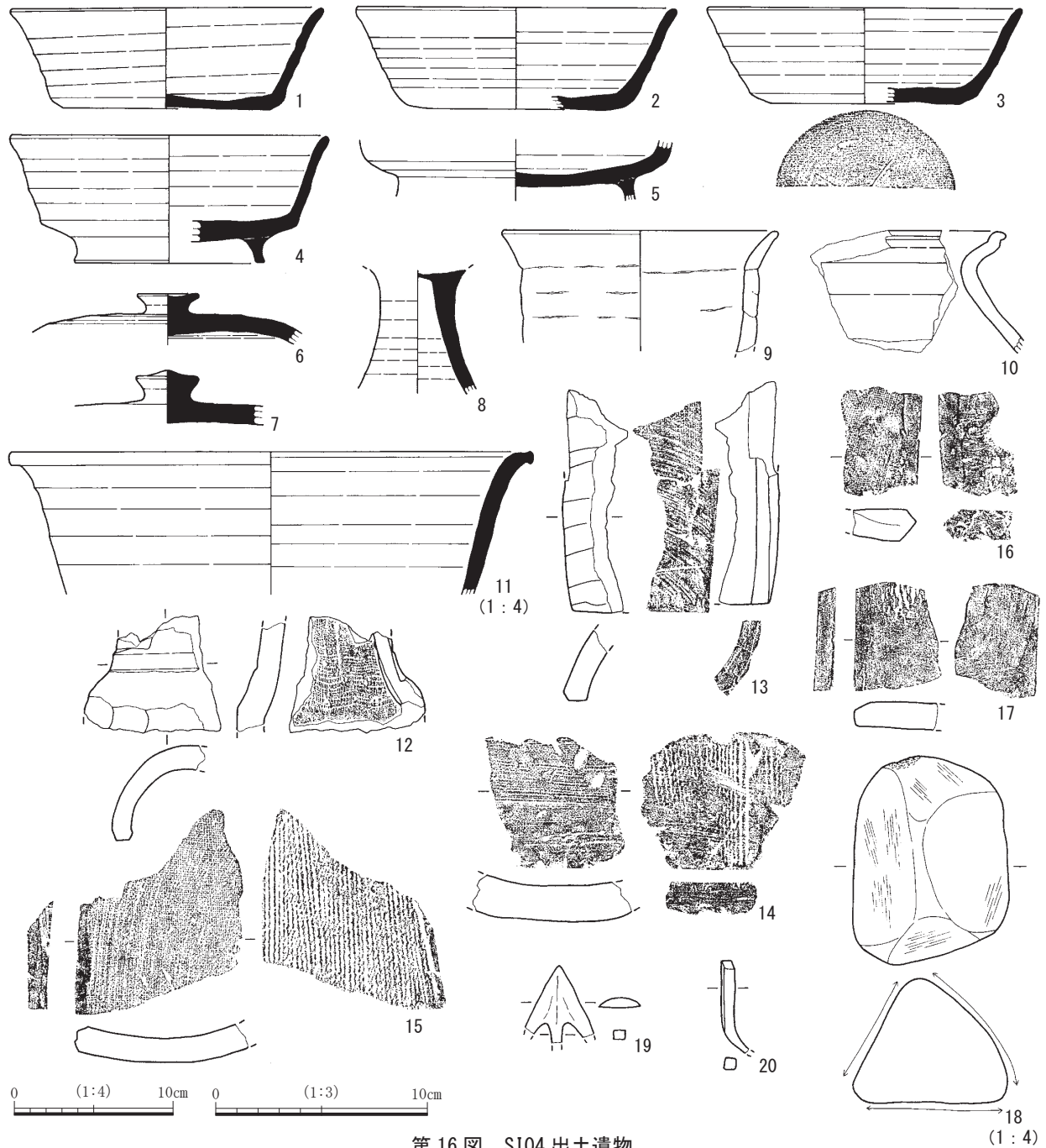
第14図 SI03 出土遺物

SI04 (第15・16図, 第5表, 図版3・21・22)

調査区北西部, H-1 グリッドに位置する。北西1/2ほどが調査区外となり, 南東隅角をSE04により壊されている。平面は北東と南西の隅角が検出されていることから正方形とみられる。規模は東西5.20m, 南北5.10m, 調査区際における土層断面観察での深さは0.48mを計測する。主軸方向はN-0°を示す。覆土は表層及び壁際・壁溝内に黒褐色土, 下層及び床面を灰黄褐色土がそれぞれ覆う。床面上ではローム粒・ロームブロック・粘土粒・粘土ブロックの含有が顕著であり, 人為堆積と判断した。とくに, 北東側の床面には粘土の堆積が確認される。カマド構築土の流出の可能性もあるが, それとするならば量は多い。床面は多少の起伏はあるものの概ね平坦であり, 中央部を20cm前後, 東壁下では幅70~90cm, 深さ35cmで箱形の溝状に掘り下げ, ロームブロックを密に含んだ黒褐色土を用いて床を貼っていた。全体によく踏み固められ硬化する。壁は垂直気味に立ち上がり, 壁下に幅28~45cm, 深さ20~25cmの壁溝が巡る。ピットは使用面で7本, 掘り方調査で2本が検出され, P1~P3が支柱穴に相当する。内側に位置するP5についても床面の形成が認められなかったことから支柱を補う用途と判断した。規模はP1が長軸55cm, 深さ59cm, P2は直径42cm, 深さ77cm, P3は長軸64cm, 深さ59cm, P4は長軸33cm, 深さ18cm, P5は直径43cm, 深さ64cm, P6は直径45cm, 深さ17cm, P7は直径30cm, 深さ40cm, P8は長軸63cm, 深さ80cm, P9は長軸40cm, 深さ28cmである。何れも黒褐色土を主体とした堆積が確認され, 底面にはローム粒・ロームブロックの含有が顕著である。なお, 柱間寸法は芯々でP1・P2間が2.40m, P2・P3間が2.95mを計測する。カマドは北壁に付設されていたとみられるも調査範囲では検出されていない。遺物は土師器(坏・甕)93点, 須恵器(坏・蓋・高坏・壺瓶類・甕)113点, 鉄製品(鏃・釘)3点, 石製品(磨石)1点, 瓦(丸瓦・平瓦・熨斗瓦)9点, 自然礫1点を数える。須恵器の比率が高く, 木葉下窯の製品で占められ, 供膳具は須恵器, 煮炊具は土師器, 貯蔵具は須恵器で構成されていた。遺物は主に粘土が分布する北東部に偏在している。時期は遺物から8世紀後半である。



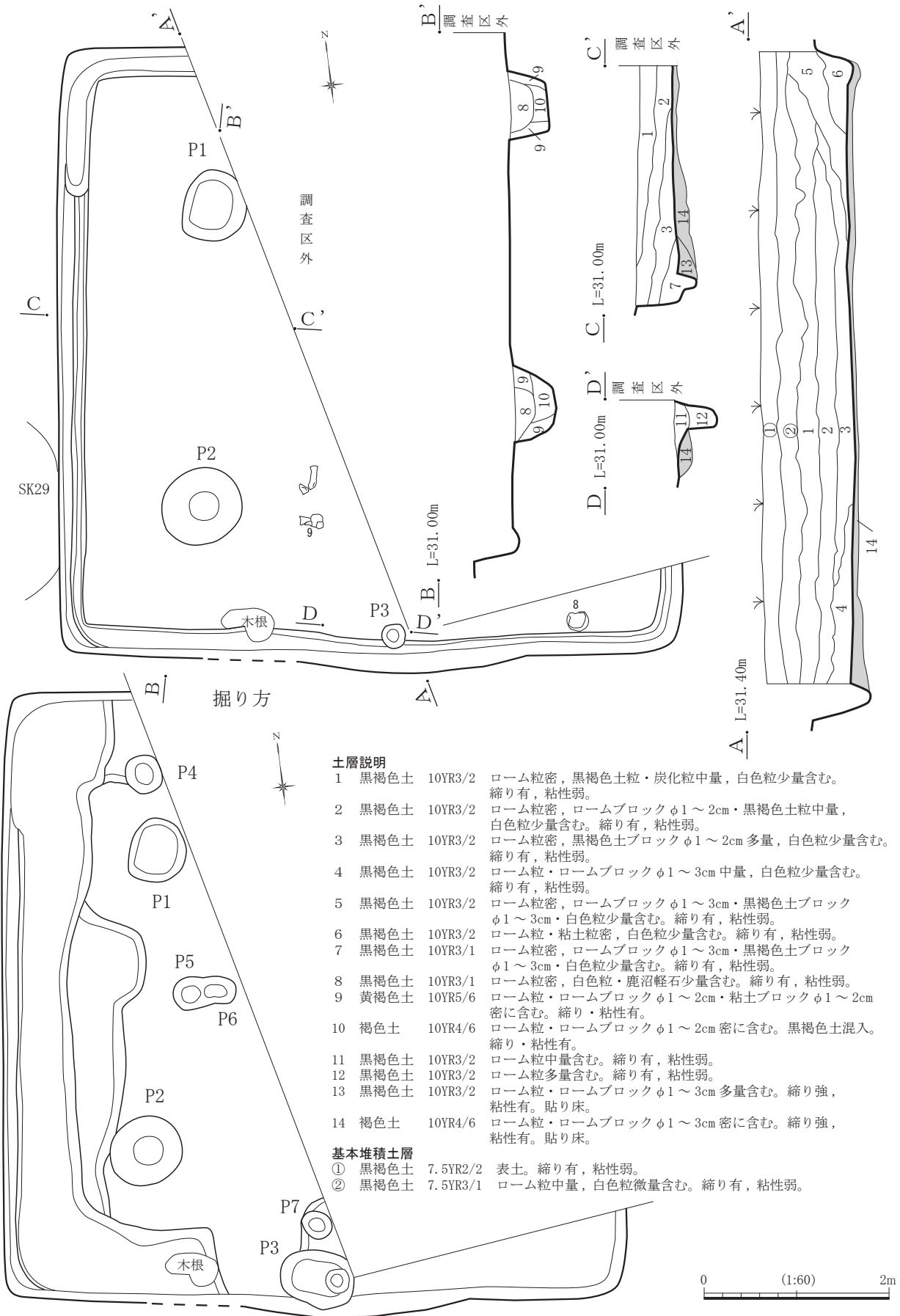
第15図 S104



第16図 SI04 出土遺物

SI05 (第17・18図, 第6表, 図版3・22)

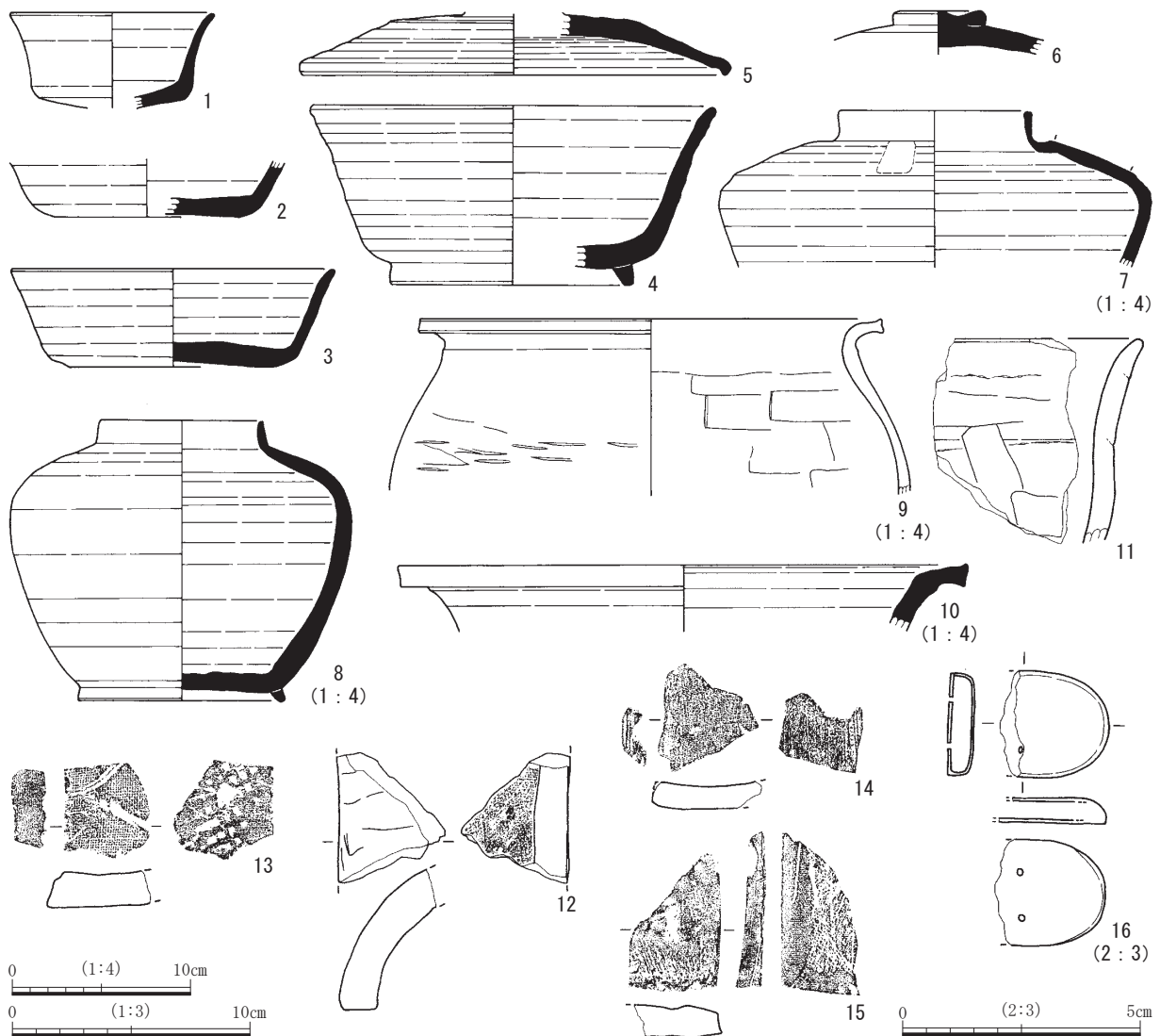
調査区北西部, G-2グリッドに位置する。東1/2ほどが調査区外となり, 南西部において中・近世遺構のSK29と重複する。平面は直角を為す隅角が三カ所検出されていることから正方形とみられる。規模は東西6.72m, 南北6.62m, 調査区際における土層断面観察での深さは0.62mを計測する。主軸方向はN-7°-Eを示す。覆土は黒褐色土を主体とし, ローム粒・ロームブロックの含有が顕著であり, 人為堆積と判断した。床面は多少の起伏はあるものの概ね平坦である。掘り方は, 西壁下を幅40~65cm, 深さ20cmで箱形の溝状に掘り窪め, 一部黒褐色土を用いるも, ロームブロックを密に含んだ褐色土を主体として床を貼っていた。全体によく踏みめられ硬化し, 壁は垂直気味に立



第17図 S105

第3章 調査の成果

ち上がる。調査範囲の壁下には幅25~35cm、深さ10~20cmの壁溝が巡り、西壁下は二段に掘り込まれていた。ピットは使用面で3本、掘り方調査で4本が検出され、P1・2が支柱穴の一部に相当し、P3は出入り口施設に伴うとみられる。支柱穴の覆土は黒褐色土を主体とし、ローム粒・ロームブロック・粘土ブロックを含有した黄褐色土で柱を固定していた。規模はP1が長軸74cm、深さ44cm、P2は直径87cm、深さ44cm、P3は直径23cm、深さ30cm、P4は直径43cm、深さ22cm、P5は直径35cm、深さ11cm、P6は長軸35cm、深さ8cm、P7は長軸32cm、深さ8cmである。柱間寸法は芯々でP1・2間が3.30mを計測する。本期の遺物は土師器（坏・甕）241点、須恵器（坏・盤・蓋・短頸壺・壺瓶類・甕）193点、銅製品（鉈尾）1点、瓦（丸瓦・平瓦・熨斗瓦）13点を数える。須恵器に比べ土師器が多く、須恵器は木葉下窯の製品で占められていた。供膳具は須恵器、煮炊具は土師器、貯蔵具は須恵器で構成されており、覆土上層で銅製帯金具の鉈尾（16）が発見された。全体として遺物は南側に偏在する傾向にあり、須恵器の短頸壺（8）が壁際において正位の状態で出土している。時期は遺物から8世紀後半である。

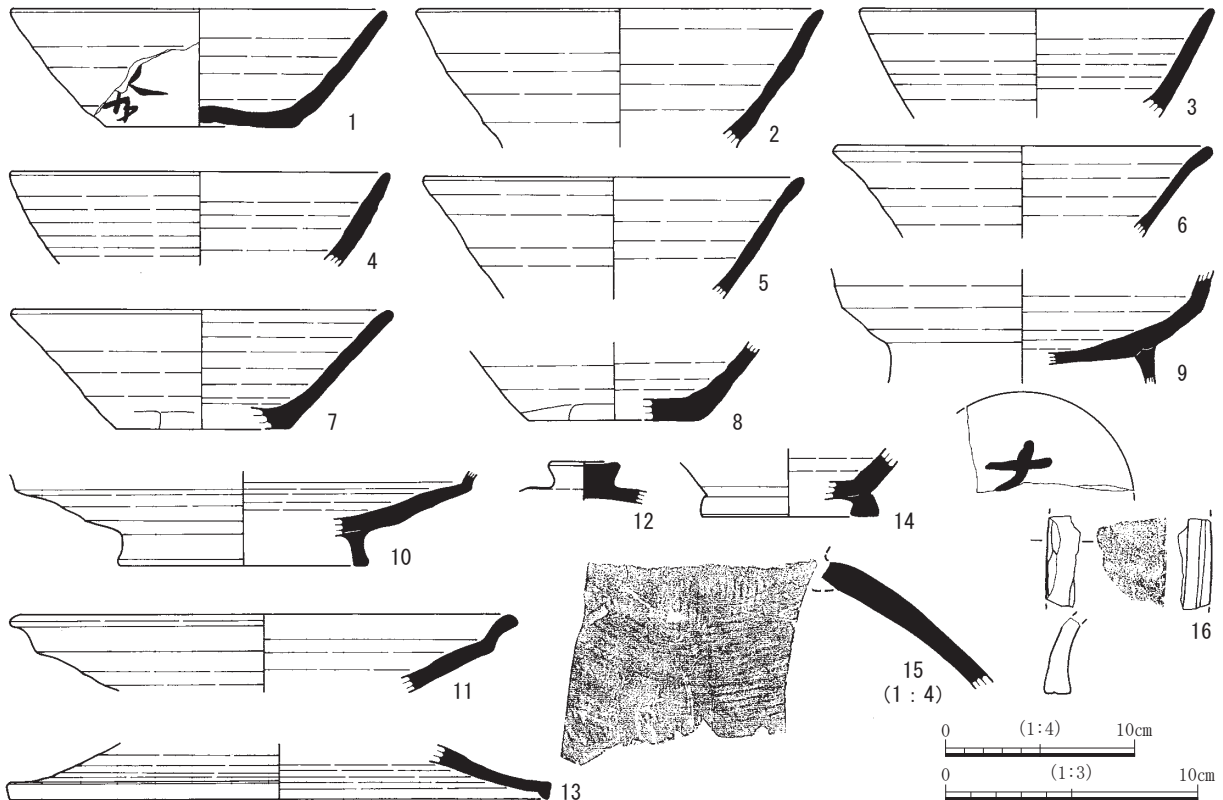


第18図 SI05 出土遺物

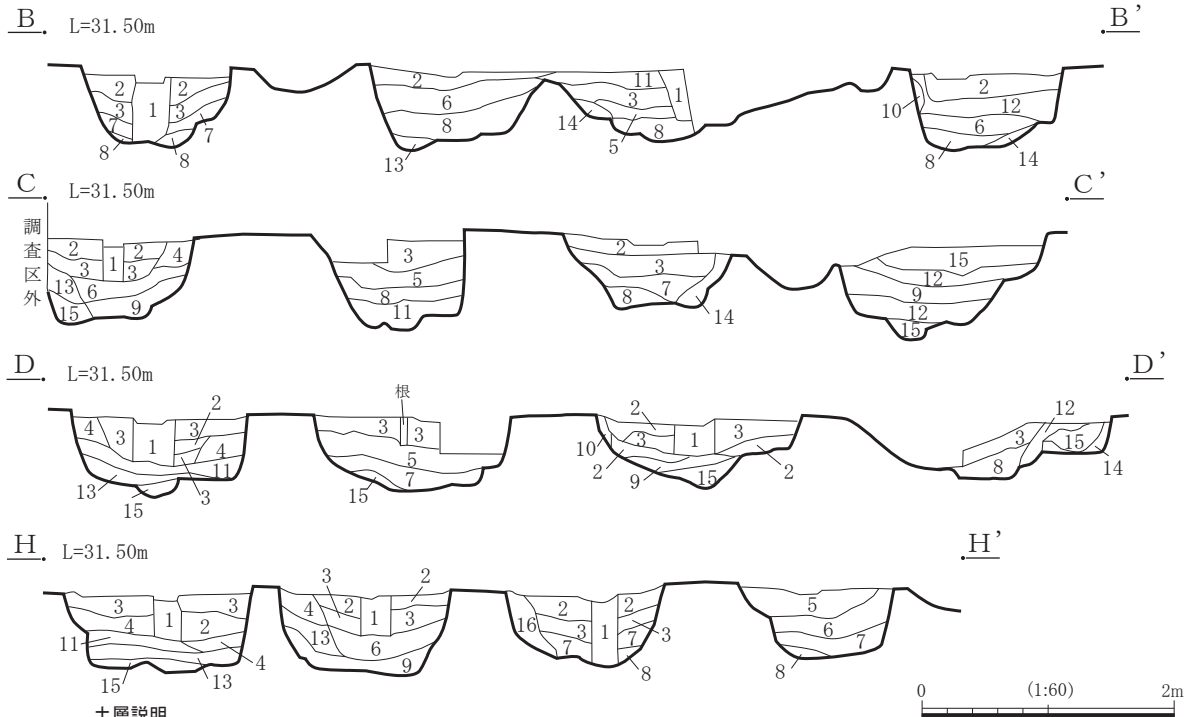
(2) 掘立柱建物跡

SB01 (第19・20・21図, 第6・7表, 巻頭図版2, 図版4・5・23)

調査区東部, E・F-6グリッドに位置し, P2・4・6・9・10・11・13・15がSD06・07に壊されている。平面規格は桁行3間, 梁行3間の総柱建物で, 規模は桁行長6.60m(約22尺), 梁行長5.70m(約19尺), 面積37.62㎡を計測し, 傾きはN-5°-Wを示す。柱は16本で構成され, 掘り方は隅丸方形を基調とし大型である。なお, 各柱掘り方は長軸方向にばらつきがあり, 段状に穿たれた方形の張り出しが観察できたことから建て替えを考慮して調査したが, 底面からそれを示す硬化面(あたり)あるいは柱座は認められず, 壺掘り状の痕跡と判断した。また, P1・2, P1・5, P6・7は幅50~95cm, 深さ8~15cmの浅い溝で連結されており, 豊島郡衙の御殿前遺跡において検出されている, 「地中梁」(「柱筋溝状遺構」)の可能性が高い。各柱掘り方の規模は, 長軸・短軸ともに1mを超えるものが多く, 深さは52~92cmでしっかりとした構築である。底面の標高は一定していない。柱痕に基づく柱間寸法は, 桁行約2.10m, 梁行約1.80mで, 概ね等間隔に配置されている。埋め土は底面に暗褐色土, そのうえに含有物の違いにより分層される黒褐色土が互層を為していた。全体にローム粒・ロームブロックの含有が顕著で, 硬化までは至っていないが締まりがあり, 版築を意識しての構築と判断した。柱痕は直径27~35cmの黒褐色土で, P3・6・8・9・12・14・16において観察され, 硬化面はP1・2・3・4・5・7・11・13・14・15・16で確認されている。本期の遺物はP16を除いた全柱掘り方から出土しており, 土師器坏・甕, 須恵器坏・盤・蓋・壺瓶類・甕, 瓦の139点が発見された。細片で占められているが, P4・9からは判読不明ながら墨書土器が出土している。時期は遺物から9世紀中葉に比定される。



第19図 SB01出土遺物



土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, ロームブロックφ1~2cm少量含む。締り有, 粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量含む。締り有, 粘性弱。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm中量含む。締り有, 粘性弱。
- 4 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm少量含む。締り有, 粘性弱。
- 5 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量, ロームブロックφ1~2cm少量含む。締り有, 粘性弱。
- 6 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm密に含む。締り・粘性有。
- 7 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm中量含む。締り・粘性有。
- 8 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm密に含む。締り・粘性弱。
- 9 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm中量含む。締り・粘性有。
- 10 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量含む。締り・粘性有。
- 11 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 12 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm密に含む。締り・粘性有。
- 13 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm密に含む。締り・粘性弱。
- 14 褐色土 10YR4/6 ローム粒多量含む。締り・粘性強。
- 15 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm密に含む。締り・粘性強。
- 16 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm・黒褐色土ブロックφ1~2cm密に含む。締り有, 粘性弱。

SB01 ピット計測値

| 番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 | P11 | P12 | P13 | P14 | P15 | P16 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東西 | 127 | 112 | 178 | 123 | 117 | 164 | 127 | 136 | 155 | 136 | 93 | 135 | 133 | 130 | 122 | 140 |
| 南北 | 180 | 106 | 155 | 137 | 123 | 145 | 136 | 118 | 163 | 137 | 108 | 127 | 138 | 163 | 186 | 171 |
| 深さ | 57 | 62 | 91 | 90 | 81 | 65 | 76 | 71 | 92 | 62 | 87 | 87 | 52 | 59 | 78 | 73 |

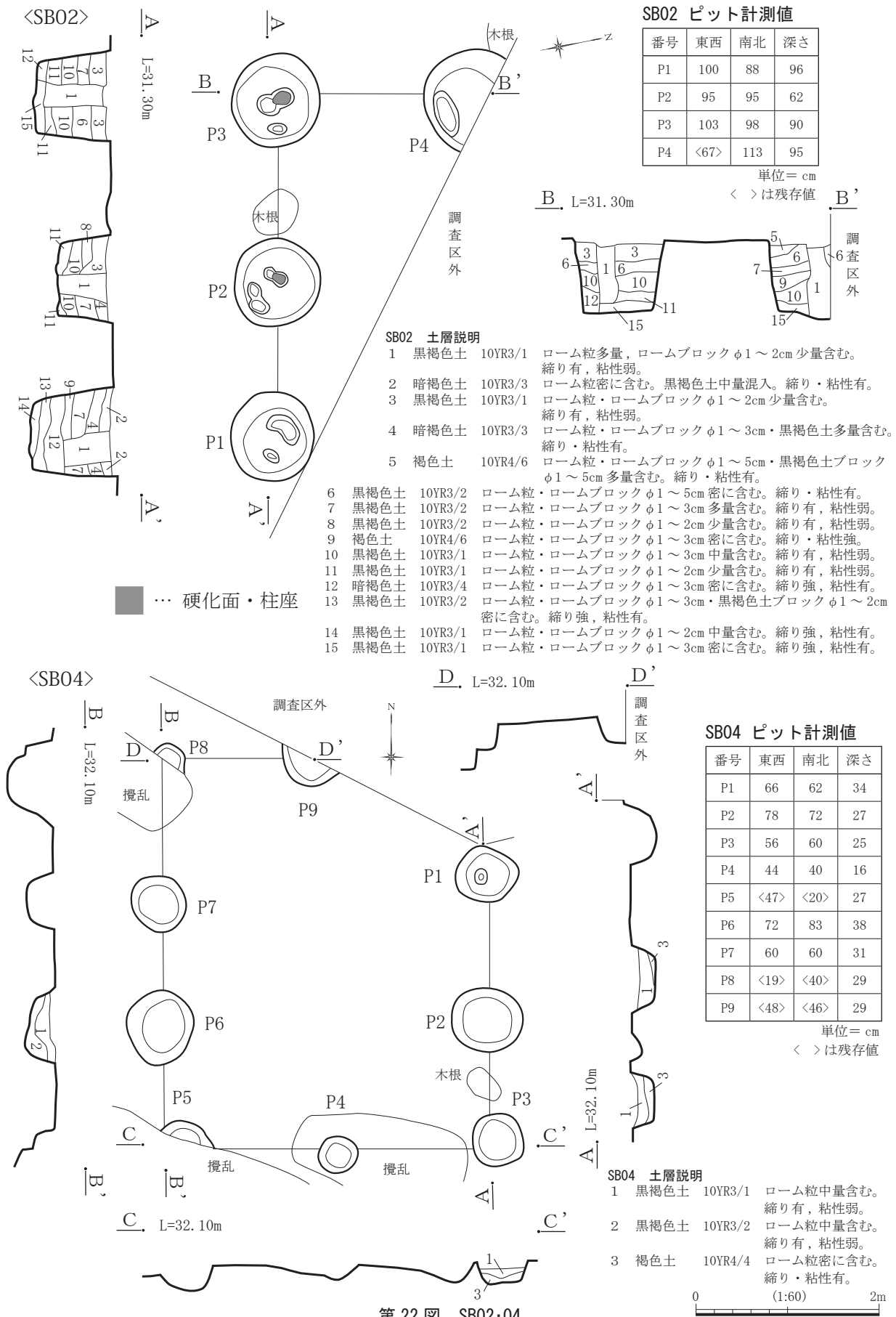
単位= cm

第21図 SB01 (2)

SB02 (第22図, 図版6)

調査区北東部, H-4 グリッドに位置し, 大半が調査区外となる。平面規格は不明で, 規模は桁行方向を南北とするならば桁行長2.40m以上, 梁行長4.20m (約14尺) を計測する。建物の傾きはN-11°-Eを示す。柱は4本が調査され, 掘り方の平面は大型の円形である。各掘り方の規模は長軸・短軸ともに1m前後, 深さは62~96cmでしっかりとした構築であり, 底面の標高はP2を除き一定する。柱痕に基づく柱間寸法は, 2.10m (約7尺) で, ほぼ等間隔に配置されていた。埋め土はローム粒・ロームブロックを含有した暗褐色土と黒褐色土がそれぞれ互層を為し, 締まりは強く, 版築を意識しての構築と理解される。柱痕は直径20~30cmの黒褐色土で, 全柱掘り方において認められ, 硬化面はP2・3で確認されている。遺物は出土していない。時期は構築状況から奈良・平安時代である。

第3章 調査の成果

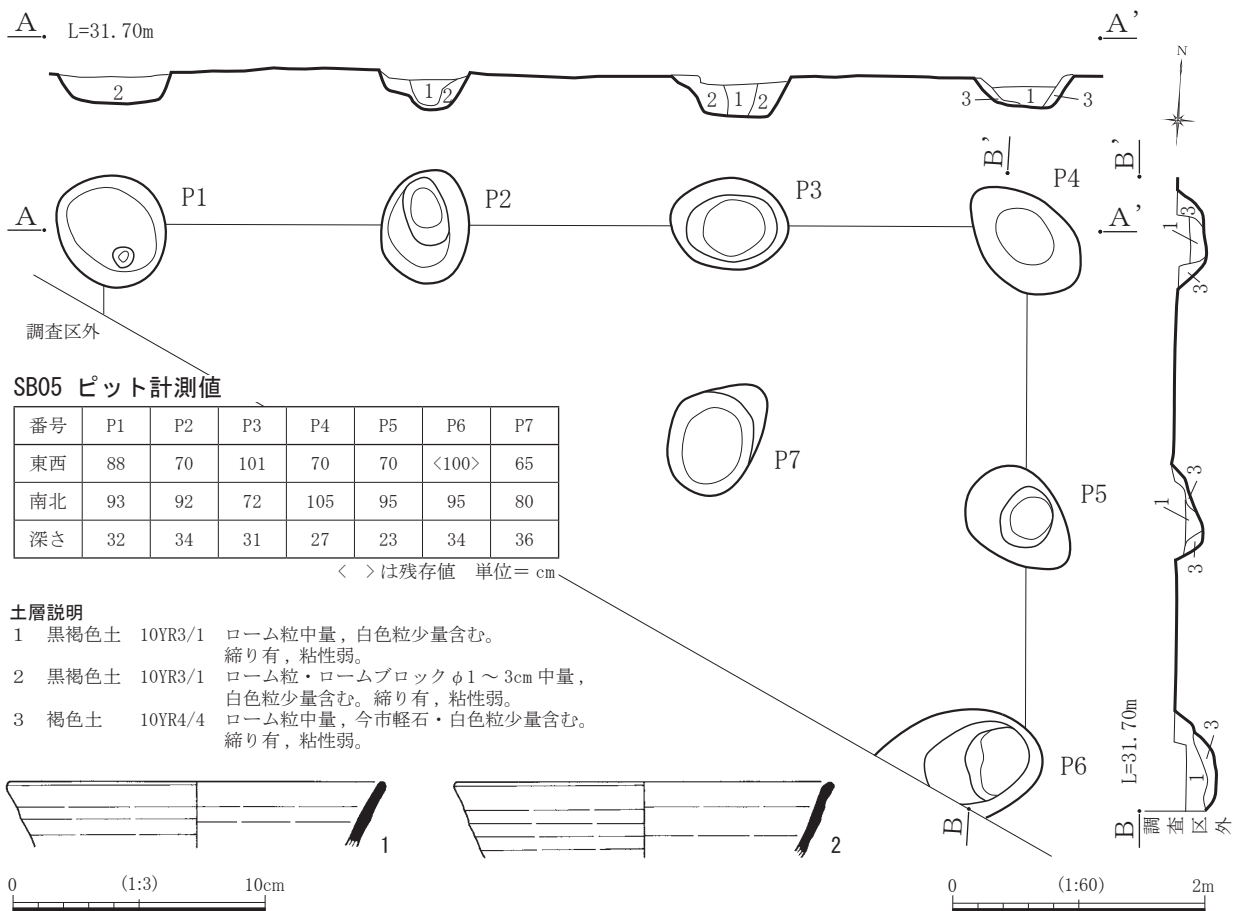


SB04 (第22図, 図版6)

調査区南部, B-6・7グリッドに位置し, 一部が調査区外になる。平面規格は桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 規模は桁行長4.20m (約14尺), 梁行長3.60m (約12尺), 面積15.12㎡を計測する。建物の傾きはN-1°-Eを示す。柱穴は9本が調査された。各柱掘り方の平面は円形基調で, 規模は長軸44~83cm, 短軸40~72cm, 深さは16~38cmを測り, 底面の標高はP4を除き概ね一定する。柱間寸法は芯々で, 桁行が1.20~1.50m, 梁行が1.80mである。埋め土は黒褐色土が主体となる。柱痕及び硬化面は確認できない。遺物はP3から須恵器の坏3点・甕1点, P4から須恵器の坏1点・盤1点・蓋1点が出土した。時期は遺物から8世紀後半~9世紀前半である。

SB05 (第23図, 第7表, 図版6・23)

調査区南西部, B・C-4グリッドに位置し, 1/2が調査区外になる。平面規格は桁行3間, 梁行2間の側柱建物と想定され, 規模は桁行長7.50m (約25尺), 梁行長4.50m (約15尺)を計測する。建物の傾きはN-89°-Eを示す。柱穴は7本が調査された。各柱掘り方の平面は円形基調で, 規模は長軸80~105cm, 短軸65~95cm, 深さは23~36cmを測り, 底面の標高は一定するが浅い。柱間寸法は芯々で2.40mとほぼ等間隔に配置されている。埋め土は黒褐色土を主体とし, 柱痕は直径20cm前後の黒褐色土でP2・3において確認される。遺物はP1から須恵器の坏2点, P2から土師器の甕1点, 須恵器の坏1点・甕1点, P3から土師器の甕3点, 須恵器の坏2点・蓋1点・甕1点, P5から須恵器の坏1点が出土している。時期は遺物から8世紀後半~9世紀前半である。



第23図 SB05, 出土遺物

第3章 調査の成果

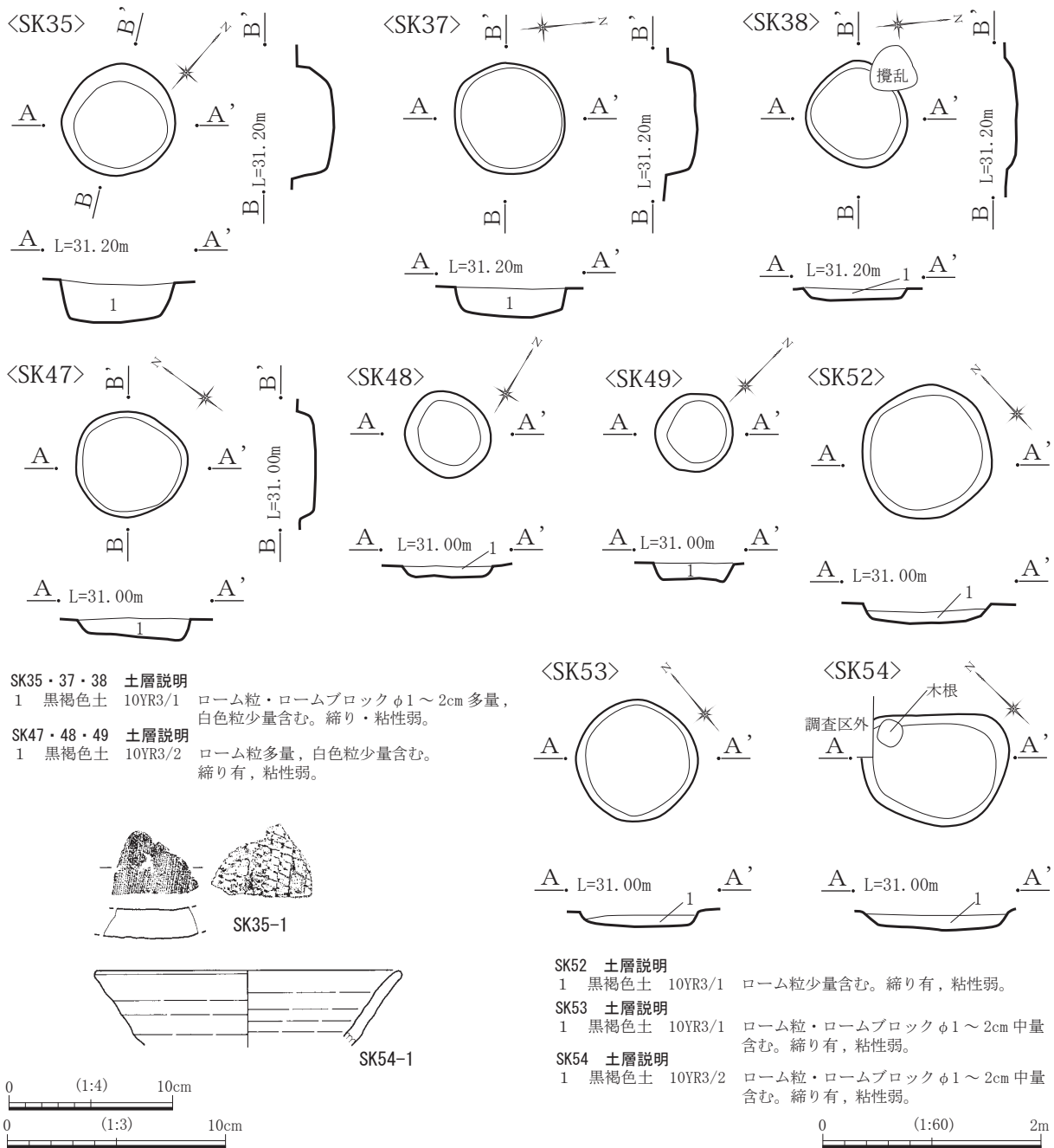
(3) 土坑

SK35 (第24図, 第7表, 図版6・23)

調査区北東部, G・H-4グリッドに位置する。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり1.04m, 短軸1.02m, 深さは0.34mを測る。主軸方向はN-25°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。遺物は土師器の甕1点, 須恵器の坏3点, 平瓦1点が出土した。時期は奈良・平安時代に位置付けられるが特定は困難である。

SK37 (第24図, 図版7)

調査区北東部, G-5グリッドに位置する。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり1.08m, 短



第24図 SK35・37・38・47・48・49・52・53・54, SK35・54 出土遺物

軸1.00m、深さは0.26mを測る。主軸方向はN-44°-Eを示す。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は土師器の甕2点、須恵器の坏1点が出土した。時期はSK35と覆土を同じくすることから奈良・平安時代に位置付けられるが特定は困難である。

SK38（第24図、図版7）

調査区北東部、G-5グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸を東西にとり0.94m、短軸0.86m、深さは0.10mを測る。主軸方向はN-48°-Eを示す。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期はSK35と覆土を同じくすることから奈良・平安時代とした。

SK47（第24図、図版7）

調査区北部、H-3グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸を南北にとり1.00m、短軸0.95m、深さは0.18mを測る。主軸方向はN-40°-Wを示す。底面は南へ向け僅かに傾斜し、壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土の単層である。遺物は土師器甕1点、須恵器坏4点が出土した。時期は遺物から奈良・平安時代とした。

SK48（第24図、図版7）

調査区北部、H-3グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸を南北にとり0.82m、短軸0.74m、深さは0.10mを測る。主軸方向はN-43°-Wを示す。底面は多少の凹凸はあるものの全体には平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土の単層である。遺物は出土していない。時期はSK47と覆土を同じくすることから奈良・平安時代とした。

SK49（第24図、図版7）

調査区北東部、H-4グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸を南北にとり0.73m、短軸0.70m、深さは0.15mを測る。主軸方向はN-40°-Wを示す。底面は平坦で壁際がやや深くなり、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土の単層である。遺物は出土していない。時期はSK47と覆土を同じくすることから奈良・平安時代とした。

SK52（第24図、図版7）

調査区北部、H-2グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸を南北にとり1.21m、短軸1.19m、深さは0.18mを測る。主軸方向はN-30°-Eを示す。底面は中央が僅かに深く、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒を含んだ黒褐色土の単層である。遺物は土師器甕3点、須恵器坏2点・甕1点が出土した。時期は遺物から8世紀後半～9世紀前半である。

SK53（第24図、図版7）

調査区北部、H-2グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸を南北にとり1.12m、短軸1.10m、深さは0.16mを測る。主軸方向はN-35°-Wを示す。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックを含んだ黒褐色土の単層である。遺物は土師器甕1点が出土した。時期は遺物と覆土から奈良・平安時代とした。

SK54（第24図、第7表、図版7・23）

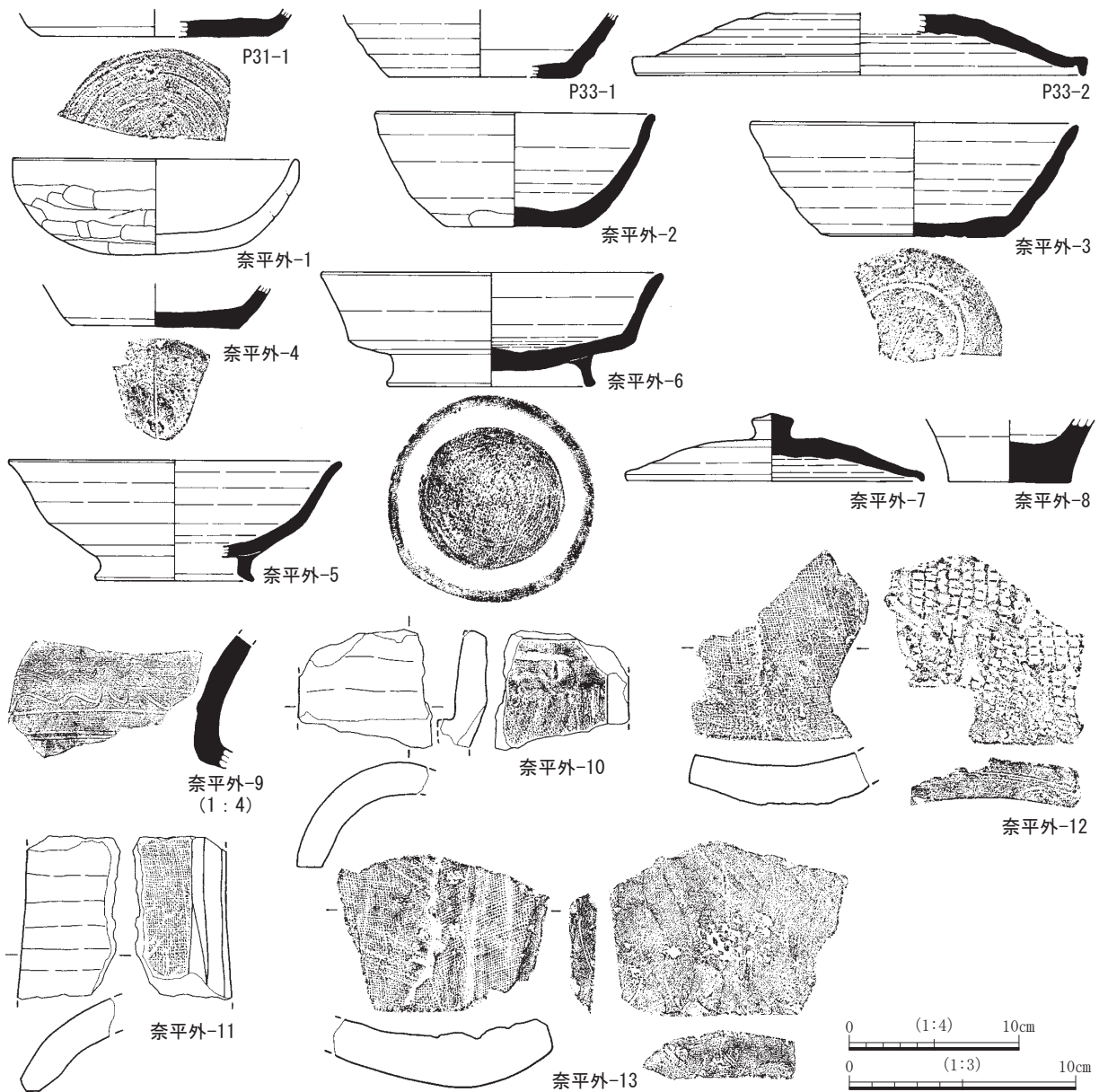
調査区北部、H-2グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸を南北にとり1.31m、短軸1.00m、深さは0.16mを測る。主軸方向はN-43°-Wを示す。底面は中央が僅かに深く、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックを含んだ黒褐色土の単層である。遺物は土師器坏1点・甕3点が出土した。時期は遺物から奈良・平安時代とした。

(4) ピット

調査では、遺構に伴わないこの時期の単独のピットが6本検出された。調査区北部のH-2グリッドに集中しているが、規則性はうかがわれず、建物などの構築物を復元することはできない。形状・規模の詳細は表に記載したが、平面は円形で、断面形は筒状となる。規模は長軸43~60cm、深さ28~63cmである。覆土は黒褐色土を主体とし、P28・29・33では柱痕が観察される。遺物はP31・32・33において土師器の甕、須恵器の坏・蓋・壺瓶類・甕などが出土している。時期は出土遺物と覆土により本期の所産と判断した。

第2表 奈良・平安時代ピット一覧表

| 遺構名 | 位置 | 平面形態 | 断面形 | 長軸×短軸×深さ | 主な覆土 | 遺構名 | 位置 | 平面形態 | 断面形 | 長軸×短軸×深さ | 主な覆土 |
|-----|-------|------|-----|----------|------|-----|-----|------|-----|----------|------|
| P28 | H-2 | 円形 | 杭状 | 43×38×34 | 黒褐色土 | P31 | H-2 | 円形 | 筒状 | 45×40×52 | 黒褐色土 |
| P29 | H・G-2 | 円形 | 筒状 | 45×43×38 | 黒褐色土 | P32 | H-2 | 円形 | 筒状 | 48×45×49 | 黒褐色土 |
| P30 | H-1・2 | 円形 | 筒状 | 54×50×63 | 黒褐色土 | P33 | H-2 | 円形 | 筒状 | 60×57×28 | 黒褐色土 |

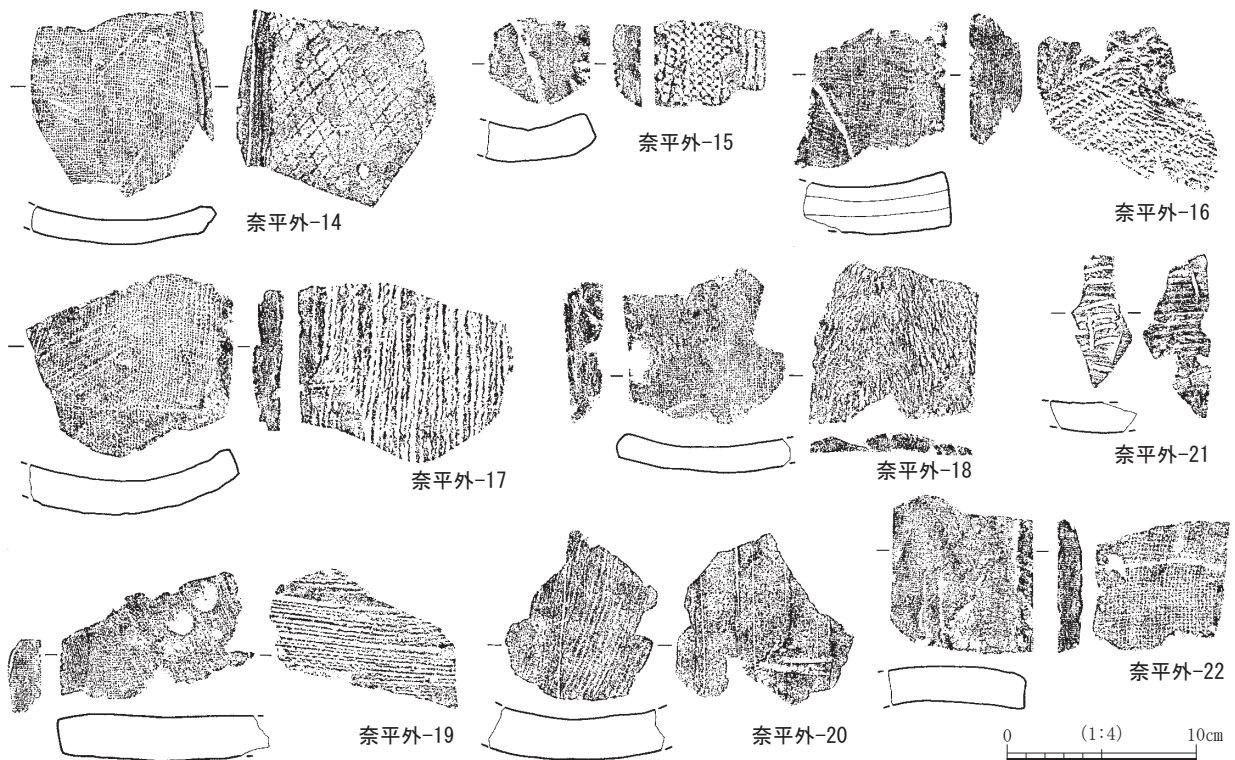


第25図 P31・33, 奈良・平安時代遺構外出土遺物 (1)

(5) 遺構外出土遺物

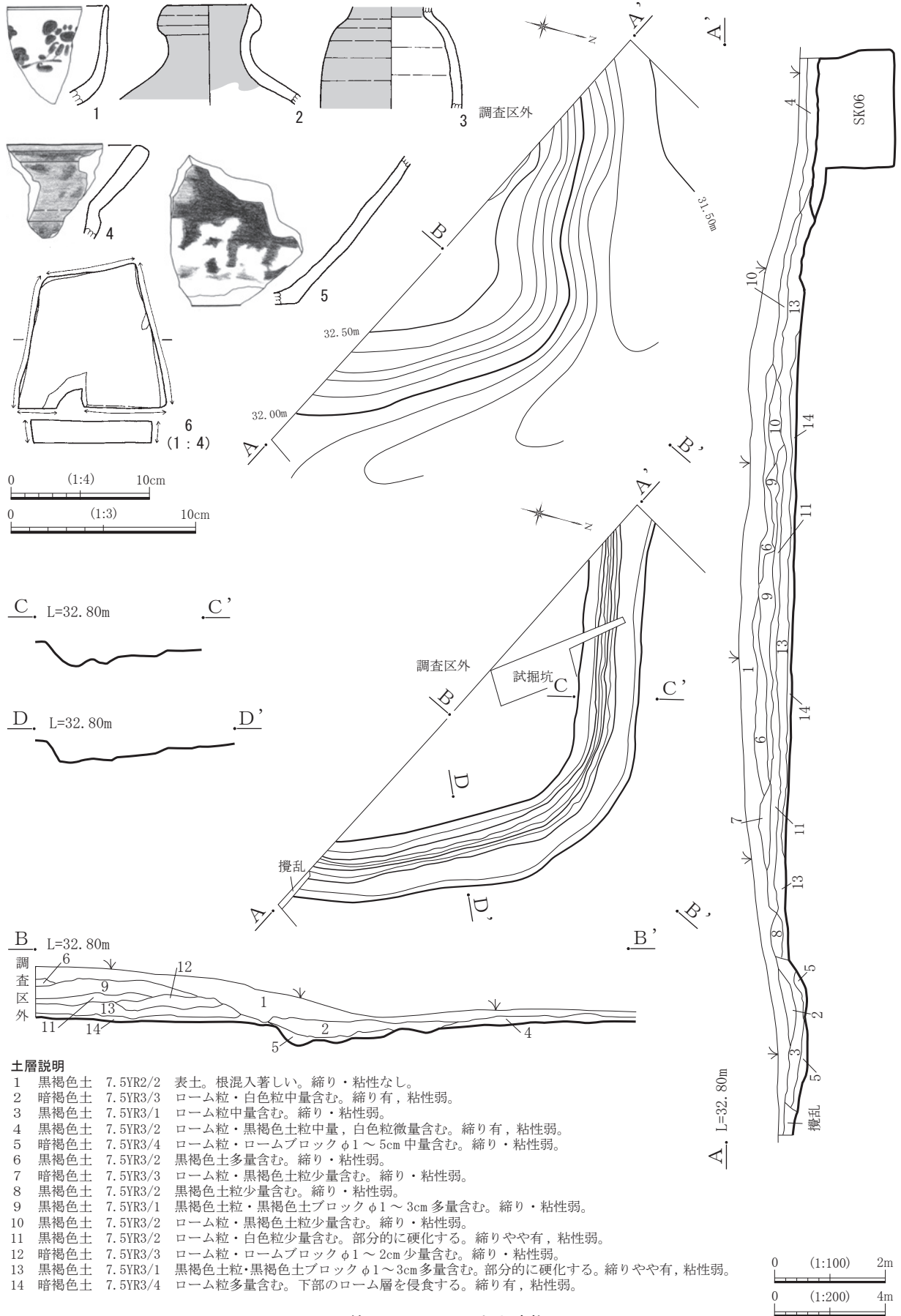
本調査では、奈良・平安時代に帰属するものの、遺構に伴わない遺物が多数出土している。大多数は調査区北西部あるいは西部において検出されたもので、井戸跡や台地整形遺構の埋め土、整地層に混入したものである。本項ではその中から、特徴的な遺物や、同じ器種や器形が遺構内からは出土せず、掲載が必要と判断した資料を提示する。

1はSK41（地下式坑）の覆土上面から発見された非ロクロの土師器坏である。古墳時代に帰属する可能性があるものの、隣接する第2地点ではこの時期に遡る遺構は認められず、形態がやや平底気味であることから本期に含めた。内面に漆が付着しており、パレットとして用いられた可能性がある。2～6は木葉下窯産の須恵器の坏で、2～4は無台、5・6は有台である。3・4・6の底部外面には焼成前の線刻が観察される。7・8・9は須恵器の蓋・壺瓶類・大甕で、8は底部が厚く疑問も残るが、底径が小さいことから壺G類などの器形と推測される。10・11は丸瓦で、10には玉縁が確認されるなど有段式である。12～21は一枚造りとみられる平瓦であり、凹面に布目痕を残す。成形は凸面を格子叩き（型押文）あるいは縄叩き（縄目文）後ナデるものが多い。破片が占めているため型押文の単位を把握することは難しいが、縄目文の縄の太さには幅2～3mmと4～5mmの二種類が認められる。なお、16では粘土の接合痕が割れ口において観察された。また、18は平瓦として図示したが、熨斗瓦の可能性もある。さらに、21の平瓦は凹面にヘラケズリと判断されるが刻書とも解釈が可能な痕跡がある。台渡里廃寺出土の文字瓦中に似た資料（03K-D区）が認められることから、文字瓦も考慮して掲載しておく。22は道具瓦の熨斗瓦として扱ったが、平瓦の可能性もある。今回出土した瓦は焼成がよい資料もみられるが、その大多数は未還元やよくない製品で占められていた。



第26図 奈良・平安時代遺構外出土遺物（2）

第3章 調査の成果



第27図 ST01, 出土遺物

第5節 中・近世

(1) 塚

ST01 (第27図, 第8表, 図版8・24)

調査区南西部, A-3, B-1・2・3グリッドに位置する隅丸方形の大型塚である。調査区の中で僅かではあるが高い場所に立地する。調査を実施したのは遺構の南部分約1/2で, 残りは調査区外の宅地内にあって壊されている。現況においては辛うじて周溝の痕跡を目視できたものの封土は崩れており, 平面形態は円形なのか方形なのか判断することは困難であった。なお, 頂部に祠や石塔などの信仰標識は認められていない。周溝部分においてSK06と重複関係にあり, 本跡が新しく埋め戻しでの構築である。封土は旧表土上を叩き締めた後, 黒褐色土粒・黒褐色土ブロックを含有した黒褐色土を主体に水平に積み上げる。高さは最大で0.70m遺存していた。封土の構築にあたっては叩き締めが行われており, 第11・13層では部分的ながら硬化が確認でき, 周溝下のSK06も上部は叩き締められていた。周溝は幅2.05~2.65m, 最大深度0.42mで直線状に穿たれ, 隅部は弧状に整えられている。底面は外側から封土のある内側へかけ深くなることから, 外側より内側へ向け掘り下げ土砂を得たと判断される。周溝にみる塚の規模は東西14m, 南北13mで, 東西を基準にした主軸方向はN-75°-Eを示す。遺物は封土表面から奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦が66点, 中・近世の土器・陶磁器・瓦が19点得られている。封土に遺物の混入はなく, 周溝内から奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦が44点, 中・近世の土器・陶磁器, 転用砥石など15点が出土した。中・近世の遺物では, 土師質土器の内耳鍋が最も多く, 陶器では瀬戸・美濃製品が主体となる。瀬戸・美濃製品の器種をみると, 碗・鉢・徳利・香炉・播鉢などで釉薬には灰釉と鉄釉がみられ, 18~19世紀に比定される。この他常滑系の甕, 肥前系磁器の染付碗も出土している。全体としては供献よりも投棄されたとの印象が強い。なお, 掲載した6は須恵器甕の破片を砥石に転用したもので, 明確な時期判断はできないが, SX01では中・近世に帰属する砥石が出土していることにより本期に含めて考えた。時期は18・19世紀の遺物が投棄されており, この時期には機能が停止していたと推測し, さらにSK06との前後関係を考慮して17世紀代の所産としておく。

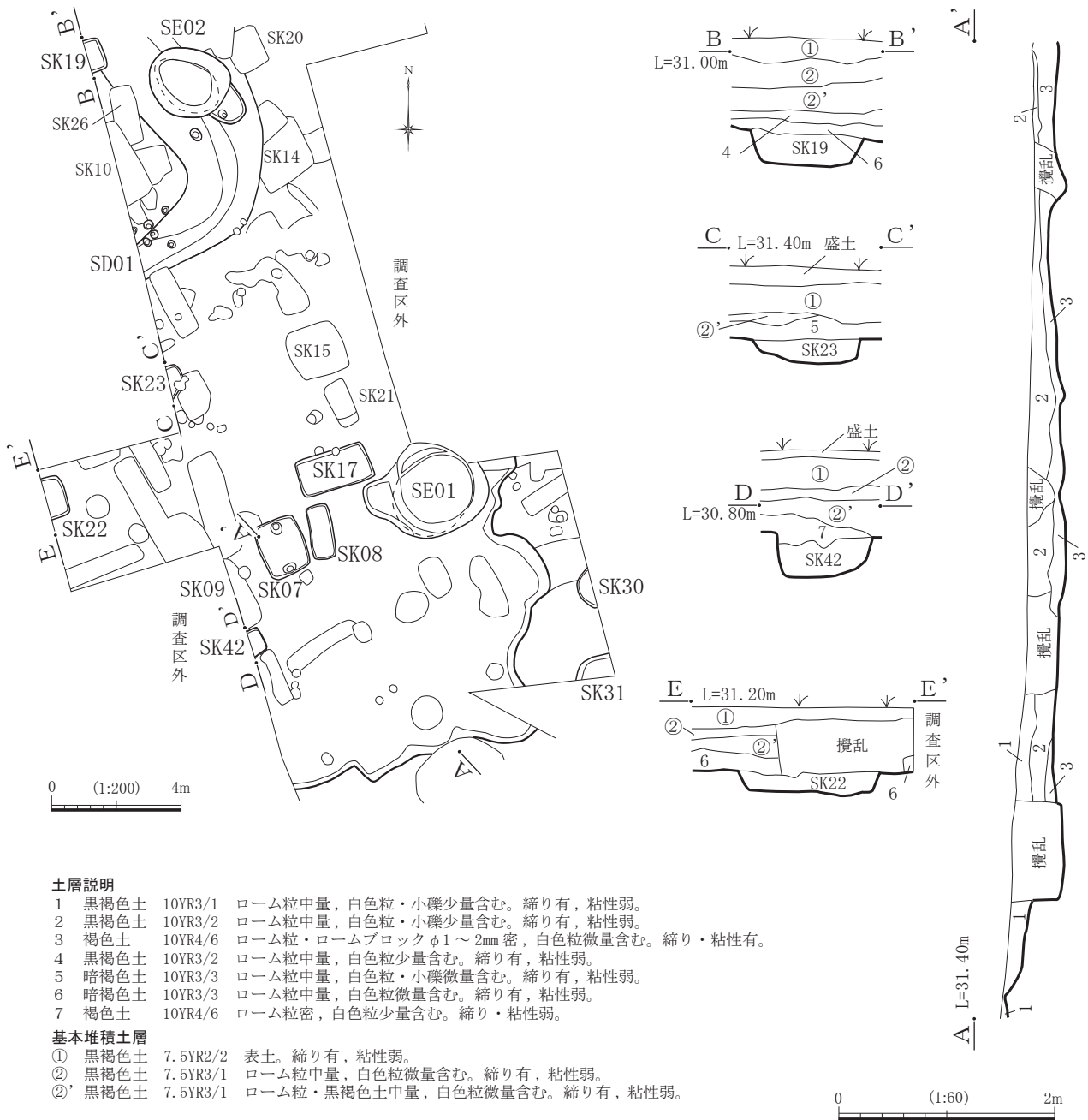
(2) 台地整形遺構

SX01 (第28・29・30図, 第8・9・10表, 巻頭図版2, 図版8・24・25・26)

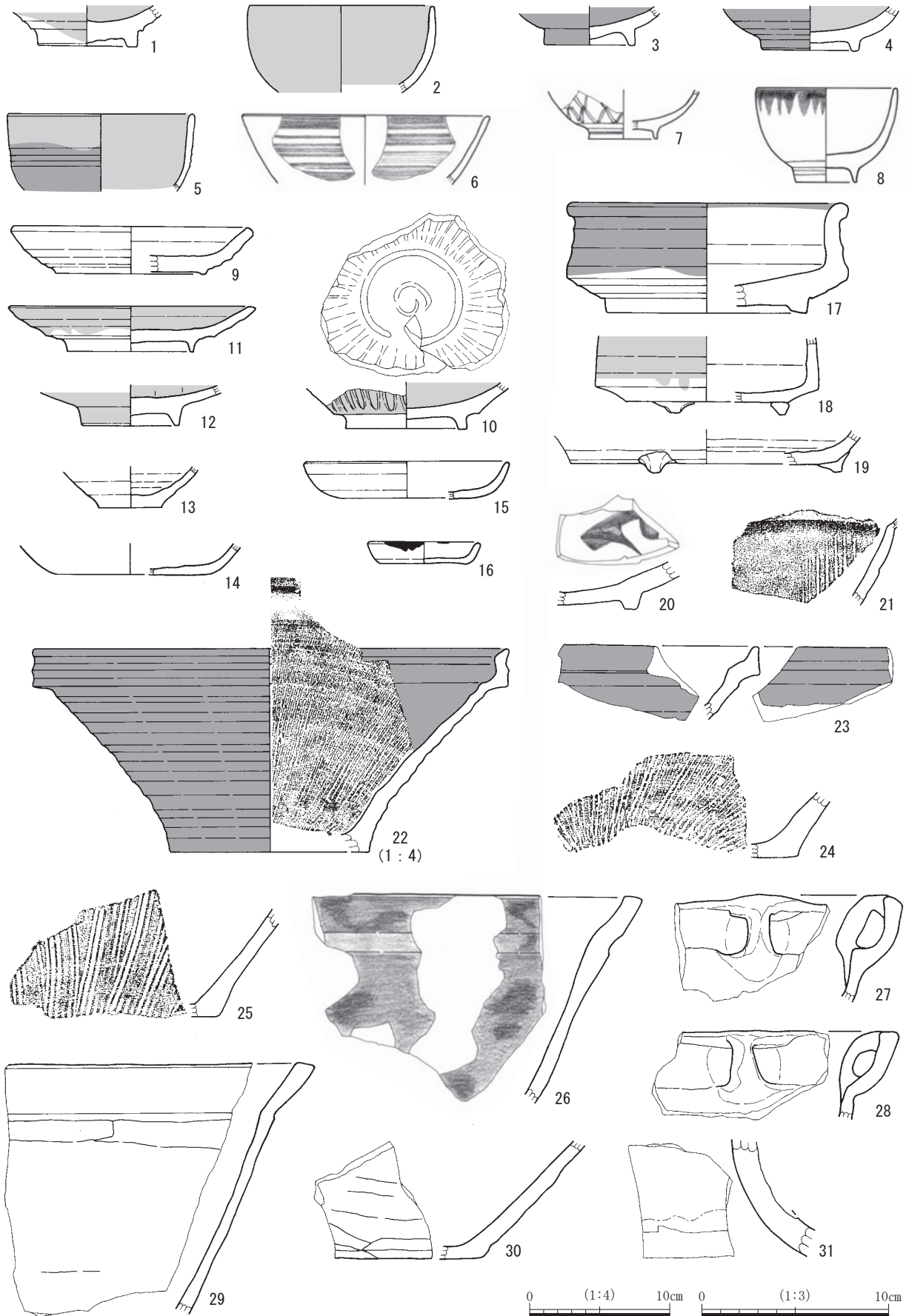
調査区西部, D-1・2・3, E・F-1・2グリッド一帯の人為的な削平である。限定的な調査に起因してか, 区画の意図が明確ではないため, 台地整形遺構として報告する。東側が高く, 西側が低くなることから, 西に浅い谷あるいは窪地があつて, そこへ至る緩やかな傾斜地をL字形に削平したものと判断した。東と西との高低差は0.8mに及び, 平面は方形を意識しているが掘り込みは直線的ではなく雑である。ただ軸線はSD01と揃えているとみられる。本遺構は, 地下式坑(SK04)や方形竪穴状遺構(SK07), 大型方形土坑(SK08・17他), 井戸跡(SE01・02)・柵列(SA01)と重複する。地下式坑については, 覆土中に天井の崩落土が少ないことから, 台地整形の過程で天井もしくはその一部が削平されたと考えられ, SA01とともに台地整形以前の遺構と判断した。さらに, 残存深度の浅い大型方形土坑(SK16・18)も同様である。これらのことから15世紀後半~16世紀代に地下式坑や残存深度の浅い大型方形土坑が構築され, 17世紀前半に台地整形による地形改変を経て, 方形竪穴状遺構(SK07)や大型方形土坑(SK08・17), 土坑(SK19・22・23・42), 井戸跡(SE01・02)が掘り込まれた。この後, 17世紀前半の陶磁器を含み, ローム粒・白色粒・小礫を含有した黒褐色土と暗褐色土によって整地されたとみられる。表層には18世紀代の遺物が覆っているものの,

第3章 調査の成果

17世紀後半のSK09・15・21が掘り込まれていることからこの時期には機能が停止したとみられる。この地区のグリッド一括遺物は整地層に帰属するもので、縄文時代の石器2点、奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦が261点、中・近世の土器・陶磁器・瓦・金属製品・石製品が237点出土した。中・近世の遺物は、D-3グリッドに集中しており、土師質土器の内耳鍋が最も多い。陶器では瀬戸・美濃製品が主体となり、器種は、碗・皿・鉢・香炉・挿鉢などで灰釉と鉄釉の施釉がみられる。最新遺物は18世紀後半の腰鍔茶碗（5）で、表層の出土であった。この他、砥石は須恵器の転用も含めると8点が出土している。時期の特定は難しいが、内耳鍋の破片も砥石として利用されていることから中・近世の所産と考えた。台地整形の用途を考えるうえでの好資料である。

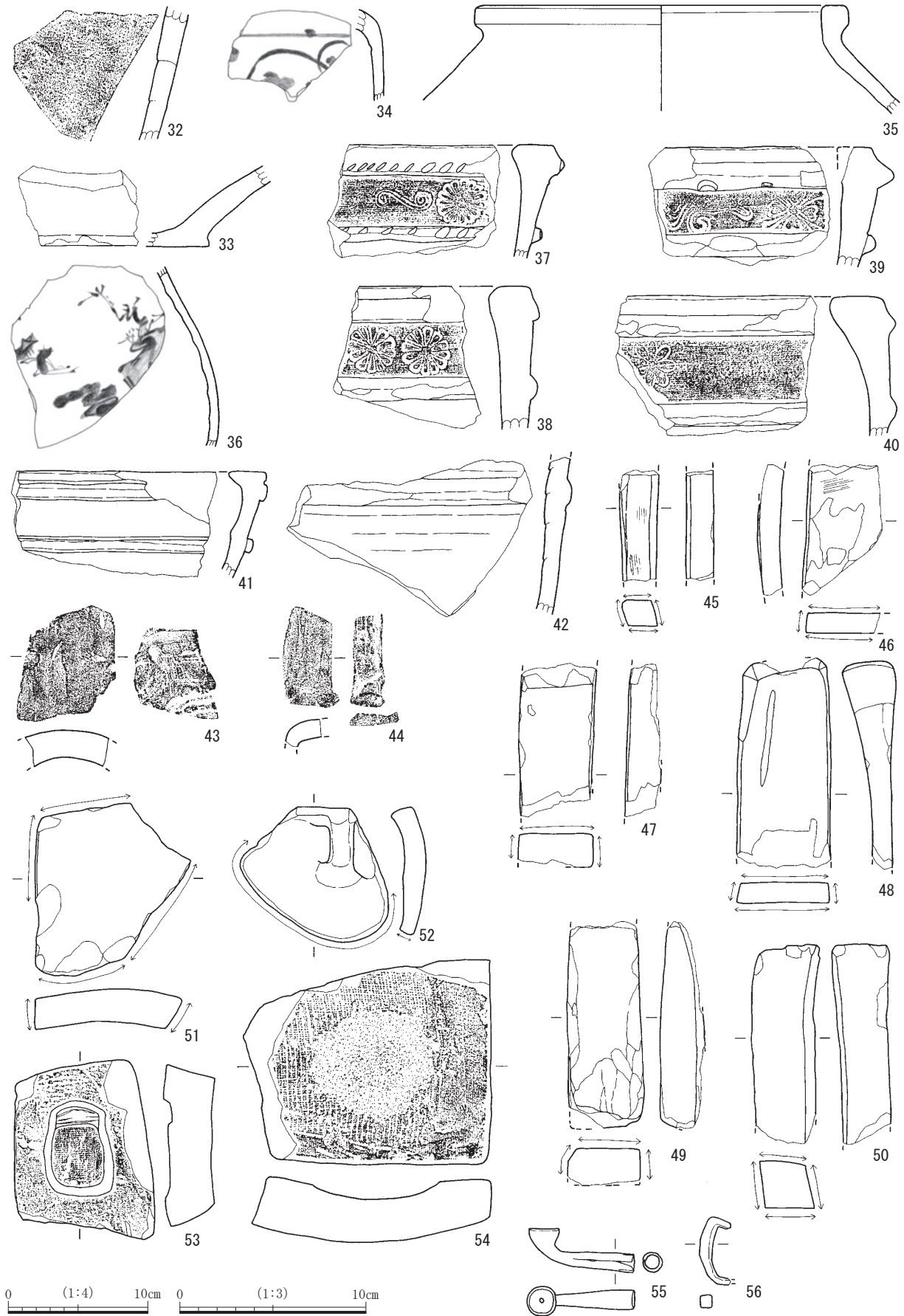


第28図 SX01



第29図 SX01 出土遺物 (1)

第3章 調査の成果



第30図 SX01 出土遺物 (2)

(3) 溝跡

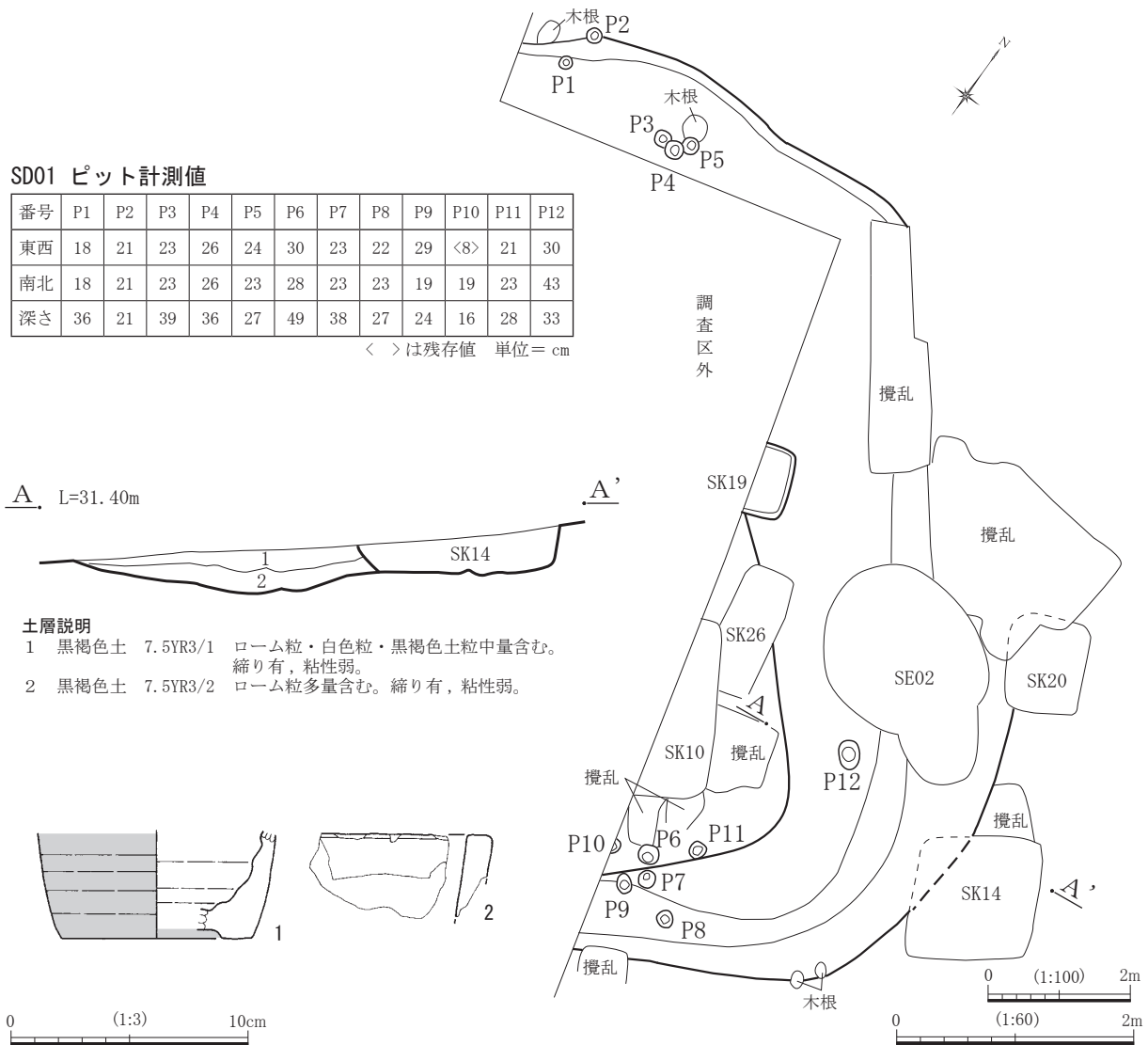
SD01 (第31図, 第10表, 図版9・26)

調査区西部, E・F-1・2グリッドに位置し, 西側が調査区外となる。SX01, SE02, SK14・19・20・26・28, SA01と重複する。台地整形遺構(SX01), SE02, SK19とは同時期で関係するとみられ, SK14・20・26より古くSK28, SA01よりも新しい。囲繞の意図は判断できないが, 調査範囲ではコの字状に掘り込まれ, 台地整形遺構とほぼ軸線を併せる。南北に走行する溝の傾きは, N-30°-Wを示す。断面は皿状で, 底面は全体にみれば平坦であるが, 北から南へ僅かに傾斜し南が低くなる。比高差は20cmである。また, 遺構内には長軸18~43cm, 深さ16~49cmのピットが12本確認され, 本遺構と関連すると判断した。ただ, 周辺には柵列(SA01)やピットが検出されており, これらと関わる可能性もある。計測値については表にまとめた。検出全長は22.80m, 上端幅1.25~3.00m以上, 下端幅0.35~1.25m以上, 東壁を基準にした深さは1.00mを測る。覆土はローム粒を含有した黒褐色土を主体に, 上下二層に分層され, さらに整地層が覆う。中・近世の遺物は瀬戸・美濃製品の灰釉壺1点, 土師質土器の内耳鍋2点が出土している。時期は遺物と遺構間の重複関係から17世紀前半である。

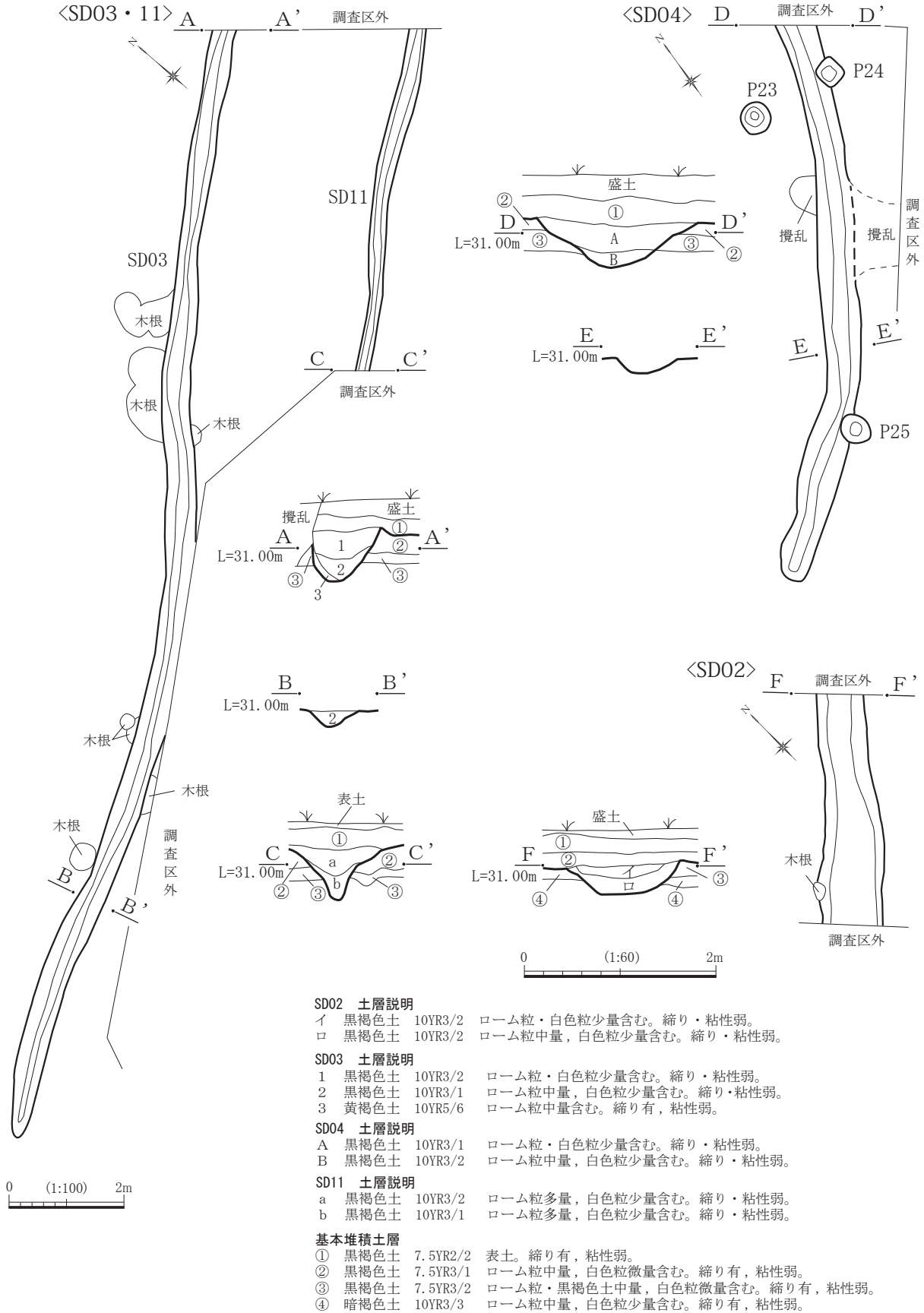
SD01 ピット計測値

| 番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 | P11 | P12 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 東西 | 18 | 21 | 23 | 26 | 24 | 30 | 23 | 22 | 29 | <8> | 21 | 30 |
| 南北 | 18 | 21 | 23 | 26 | 23 | 28 | 23 | 23 | 19 | 19 | 23 | 43 |
| 深さ | 36 | 21 | 39 | 36 | 27 | 49 | 38 | 27 | 24 | 16 | 28 | 33 |

< > は残存値 単位 = cm



第31図 SD01, 出土遺物



第32図 SD02・03・04・11

SD02 (第32図, 図版9)

調査区北部, H-1・2グリッドに位置し, 遺構は調査区外の南北へ延びる。SK27 (方形竪穴状遺構)・46と重複しており, 本跡が新しい。基本堆積土層の③層から直線状に掘り込まれ, 走行方向はN-42°-Eを示す。断面は逆台形で, 底面は平坦であるが, 北から南へ僅かに傾斜し南が低くなる。比高差は17cmである。検出全長は4.00m, 南端部の調査区際における土層断面観察では上端幅1.21m, 下端幅0.80m, 深さ0.46mを測る。覆土はローム粒・白色粒を含有した黒褐色土を主体とし, 下層ほど含有量を増し二層に分層される。遺物は出土していない。時期は構築層位から17世紀前半～18世紀とみられる。

SD03 (第32図, 図版9)

調査区北部, H-2・3, I-3グリッドに位置し, 遺構は調査区外の東へ延びる。SK34 (方形竪穴状遺構)・59, SE04と重複しており, 本跡が最も新しい。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ, 走行方向はN-50°-Eを示す。断面はU字状で, 底面は多少の起伏はあるものの全体には平坦であり, 標高は一定する。検出全長は19.80m, 東端部の調査区際における土層断面観察では上端幅0.75m, 下端幅0.15m, 深さ0.51mを測る。覆土は西壁に黄褐色土が覆う他は, ローム粒を含有した黒褐色土を主体とする。本時期の遺物は土師質土器の内耳鍋1点である。時期は構築層位から近世後期とみられる。

SD04 (第32図, 図版9)

調査区北東部, H-3・4, I-4グリッドに位置し, 遺構は調査区外の北へ延びる。P24・25と重複しており, 本跡が古い。基本堆積土層の②層から緩やかに弧を描いて掘り込まれ, 走行方向はN-35°-Eを示す。断面は逆台形で, 南から北へ僅かに傾斜し北が低くなる。比高差は10cmである。検出全長は9.80m, 北端部の調査区際における土層断面観察では上端幅1.65m, 下端幅0.28m, 深さ0.42mを測る。覆土はローム粒・白色粒を含有した黒褐色土を主体とし, 上下二層に分層される。本時期の遺物は土師質土器の内耳鍋1点である。時期は構築層位から近世後期とみられる。

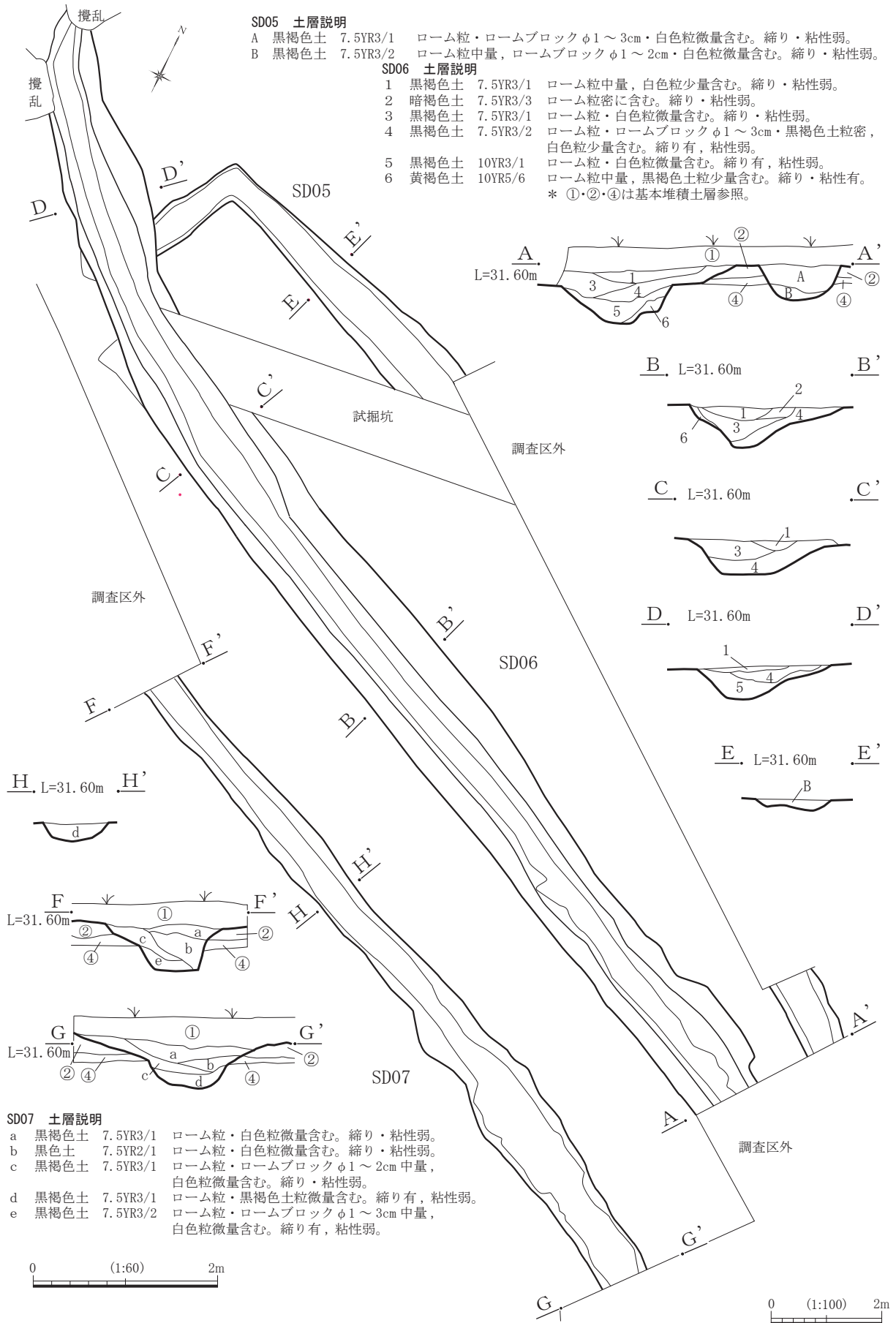
SD11 (第32図, 図版9)

調査区北部, H-3グリッドに位置し, 遺構は調査区外の南北へ延びる。SK43と重複しており, 本跡が新しい。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ, 走行方向はN-44°-Eを示す。断面はV字状で, 上端が大きく開く。底面は多少の起伏はあるものの全体には平坦であり, 標高は概ね一定する。検出全長は6.00m, 南端部の調査区際における土層断面観察では上端幅0.95m, 下端幅0.12m, 深さ0.52mを測る。覆土はローム粒を多量に含む黒褐色土が上下二層に分層される。遺物は出土していない。時期は構築層位から近世後期とみられる。

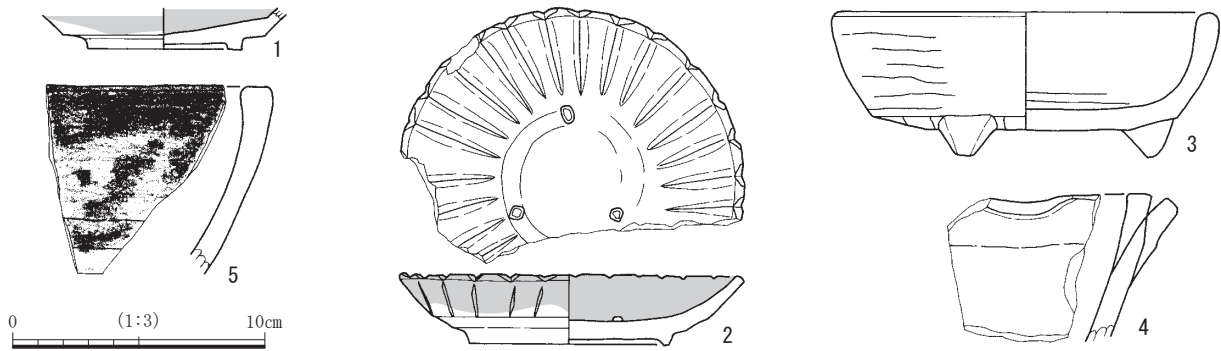
SD05 (第33図, 図版9)

調査区東部, F-5・6・7グリッドに位置する。中央部が調査区外となり詳細は不明であるが, 東へ向けさらに延び, SD08に接続する可能性もある。SD06と西端部において重複しており, 本跡が古い。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ, 北端部において直角に向きを変える。主要となる部分の走行方向はN-60°-Wを示す。断面は逆台形で, 東から西へ僅かに傾斜し西が低くなる。比高差は10cmである。検出全長は10.50m, 東端部の調査区際における土層断面観察では上端幅0.88m, 下端幅0.37m, 深さ0.38mを測る。覆土はローム粒・ロームブロック・白色粒を含有した黒褐色土を主体とし, 上下二層に分層される。本期の遺物は出土していない。時期は構築層位と重複関係から近世後期とみられる。

第3章 調査の成果



第33図 SD05-06-07



第34図 SD06 出土遺物

SD06 (第33・34図, 第10表, 図版9・26)

調査区東部, E-7, F-5・6・7, G-5 グリッドに位置し, SD05・07と併走しながら東の調査区外へと延びる。西端部でSD05, 東側でSB01とそれぞれ重複しており, 本跡が最も新しい。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ, 北端部においてやや湾曲する。走行方向はN-65°-Wを示す。断面は逆台形で, 上端は開き東側に幅0.25~0.58mのテラス状の段をもつ。底面は中央が最深部となり, 東から西へ僅かに傾斜し西が低くなる。比高差は20cmである。検出全長は23.00m, 東端部の調査区際における土層断面観察では上端幅1.80m, 下端幅0.30m, 深さ0.58mを測る。覆土はローム粒を含有した黒褐色土を主体とするが, 東側からローム粒, ロームブロック, 黒褐色土粒を密に含んだ黒褐色土の堆積が確認され, 東側に盛り土されていたか, 人為堆積の可能性がある。流水・滞水の痕跡は認められない。本期の遺物は土器・陶磁器が13点出土した。時期は17世紀中葉の陶器が発見されているものの, ②層を掘り込んでの構築から近世後期の所産と判断される。

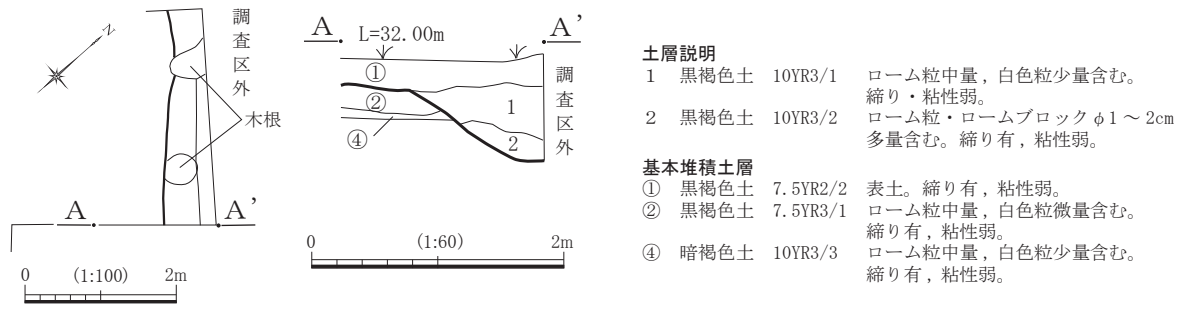
SD07 (第33図, 図版9)

調査区東部, E-6・7, F-6 グリッドに位置し, SD05・06と併走しながら東西の調査区外へ延びる。西側でSB01と重複し, 本跡が新しい。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ, 走行方向はN-65°-Wを示す。断面は逆台形で, 上端は大きく開く。底面は多少の起伏はあるものの全体には東から西へ僅かに傾斜し西が低くなる。比高差は20cmである。検出全長は13.90m, 東端部の調査区際における土層断面観察では上端幅1.91m, 下端幅0.50m, 深さ0.40m, 西端部では上端幅1.28m, 下端幅0.51m, 深さ0.55mを測る。覆土はローム粒を含有した黒褐色土を主体とするが, 西側からローム粒, ロームブロックを含んだ黒褐色土の堆積が確認され, 西側に盛り土されていたか, 人為堆積の可能性がある。流水・滞水の痕跡は認められない。本期の遺物は土器・陶器が4点出土した。時期は②層を掘り込んでの構築から近世後期の所産と判断される。

SD08 (第35図, 図版10)

調査区南東部, D-8・9 グリッドに位置し, SD06・07の何れかと同一遺構とみられる。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ, 走行方向はN-44°-Wを示す。北半分が調査区外のため詳細は不明であるが, 断面は上端が大きく開く。検出全長は2.90m, 調査区際の土層断面観察では上端幅1.04m以上, 下端幅0.25m, 深さ0.56mを測る。覆土はローム粒を含有した黒褐色土を主体とする。底面をローム粒, ロームブロックを含んだ黒褐色土が覆い, 盛り土されていたか, 人為堆積の可能性がある。遺物は出土していない。時期は構築層位からSD06・07と同じ近世後期である。

第3章 調査の成果



第35図 SD08

SD09 (第36図, 図版10)

調査区東部，C-7，D-7・8グリッドに位置し，遺構は調査区外の北へ延びる。SD10と西端部において重複しており，本跡が新しい。基本堆積土層の②層から直線状に掘り込まれ，南端部においてコの字型に向きを変える。主要部分の走行方向はN-25°-Eを示す。断面は逆台形で，上端が大きく開く。底面は多少の起伏はあるものの全体には平坦であり，底面の標高は概ね一定する。検出全長は23.20m，北端部の調査区際における土層断面観察では上端幅1.45～2.20m，下端幅0.28～0.32m，深さ0.45～0.52mを測る。覆土はローム粒を含有した黒褐色土を主体とするが，西側からローム粒，ロームブロックを多量に含んだ黒褐色土の堆積が確認され，盛り土されていたか，人為堆積の可能性がある。流水・滞水の痕跡は認められず，本期の遺物は出土していない。時期は構築層位から近世後期とみられる。

SD10 (第36図, 図版10)

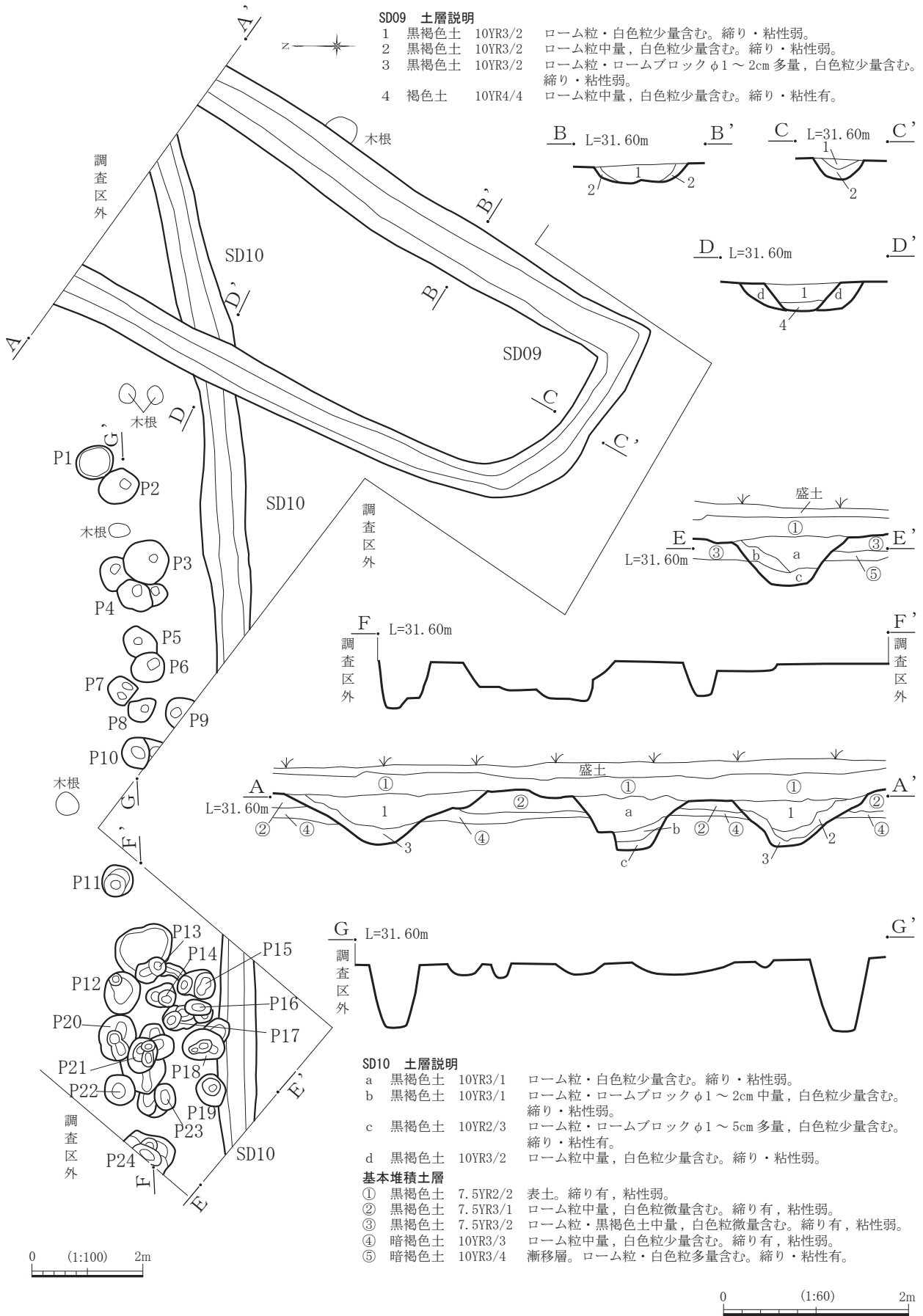
調査区東部，D-6・7グリッドに位置し，中央部のやや西側が調査区外となり，東西へ延びる。SD09と東端部において重複しており，本跡が古い。東端では基本堆積土層の②層，西端では③層から直線状に掘り込まれる。北側に長軸46～85cm，深さ24～78cmのピットが24本確認されるなど，柵が設けられたとみられる。走行方向はN-87°-Eを示す。断面は逆台形で，上端が大きく開く。底面は多少の起伏はあるものの，東から西へ僅かに傾斜し西が低くなる。比高差は24cmである。検出全長は13.50m，東端部の調査区際における土層断面観察では上端幅1.24m，下端幅0.42m，深さ0.52m，西端部の上端幅1.28m，下端幅0.45m，深さ0.55mを測る。覆土はローム粒・白色粒を含有した黒褐色土を主体とするが，北側からローム粒，ロームブロックを含んだ黒褐色土の堆積が確認され，北側に盛り土されていたか，人為堆積の可能性がある。流水・滞水の痕跡は認められず，本期の遺物は出土していない。時期は構築層位から近世後期とみられる。

SD10 ピット計測値

< >は残存値 単位= cm

| 番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 | P11 | P12 | P13 | P14 | P15 | P16 | P17 | P18 | P19 | P20 | P21 | P22 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東西 | 60 | 60 | 80 | 78 | 50 | 52 | 52 | 38 | 57 | 60 | 58 | 76 | 35 | 37 | 53 | 26 | 45 | 55 | 61 | 85 | 65 | 56 |
| 南北 | 67 | 73 | 74 | 58 | 65 | 60 | 50 | 55 | <37> | <62> | 55 | 63 | 56 | 55 | 67 | 50 | <55> | 77 | 51 | 65 | 51 | 56 |
| 深さ | 24 | 78 | 38 | 41 | 49 | 42 | 45 | 40 | 57 | 65 | 39 | 43 | 36 | 56 | 56 | 42 | 39 | 73 | 52 | 35 | 43 | 42 |

| 番号 | P23 | P24 |
|----|-----|------|
| 東西 | 46 | <60> |
| 南北 | 38 | <90> |
| 深さ | 30 | 52 |



第36図 SD09・10

第3章 調査の成果

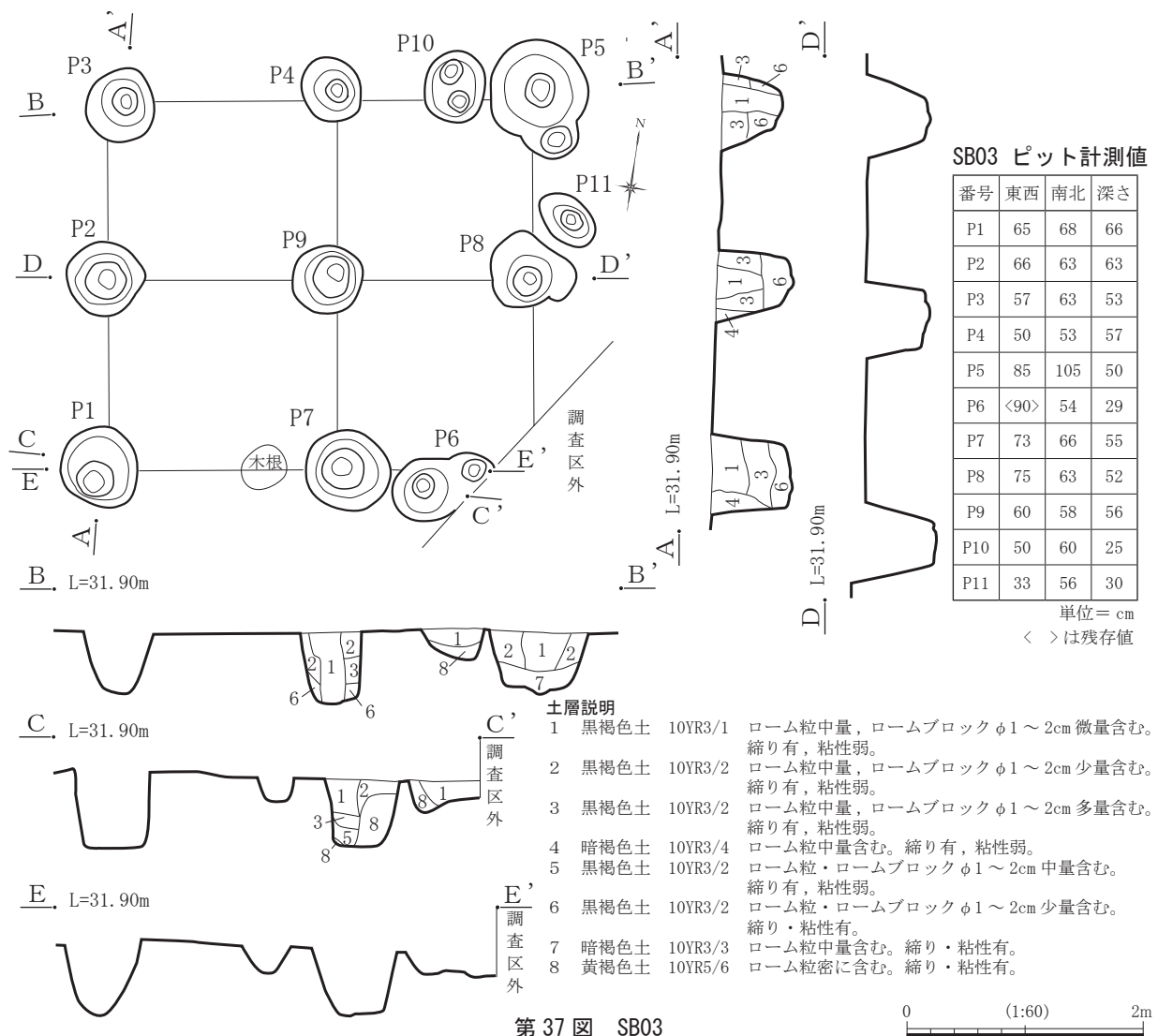
(4) 掘立柱建物跡

SB03 (第37図, 図版10)

調査区南東部, C-8グリッドに位置する。平面規格は東側に連続して柱掘り方が認められないことから桁行2間, 梁行2間の総柱型建物と判断される。規模は桁行3.60m(約12尺), 梁行3.30m(約11尺)を計測し, 建物の傾きはN-85°-Eを示す。柱掘り方は11本が調査され, 平面は円形を基調とした小型である。P1~5, 7~9の掘り方の規模は長軸53~105cm, 短軸50~85cm, 深さは50~66cmでしっかりとした構築である。柱間寸法は1.20~1.50mとなる。埋め土は黒褐色土を主体としており, P2・3・4・5において直径24~40cmの柱痕が確認できた。なお, P6・10・11については掘り込み深度が浅く, 各柱掘り方に近接することから補強などに用いられた可能性がある。奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦片が覆土上層から少量出土したが, 本期の遺物は出土していない。時期は覆土の状態から中・近世と判断したが特定は困難である。

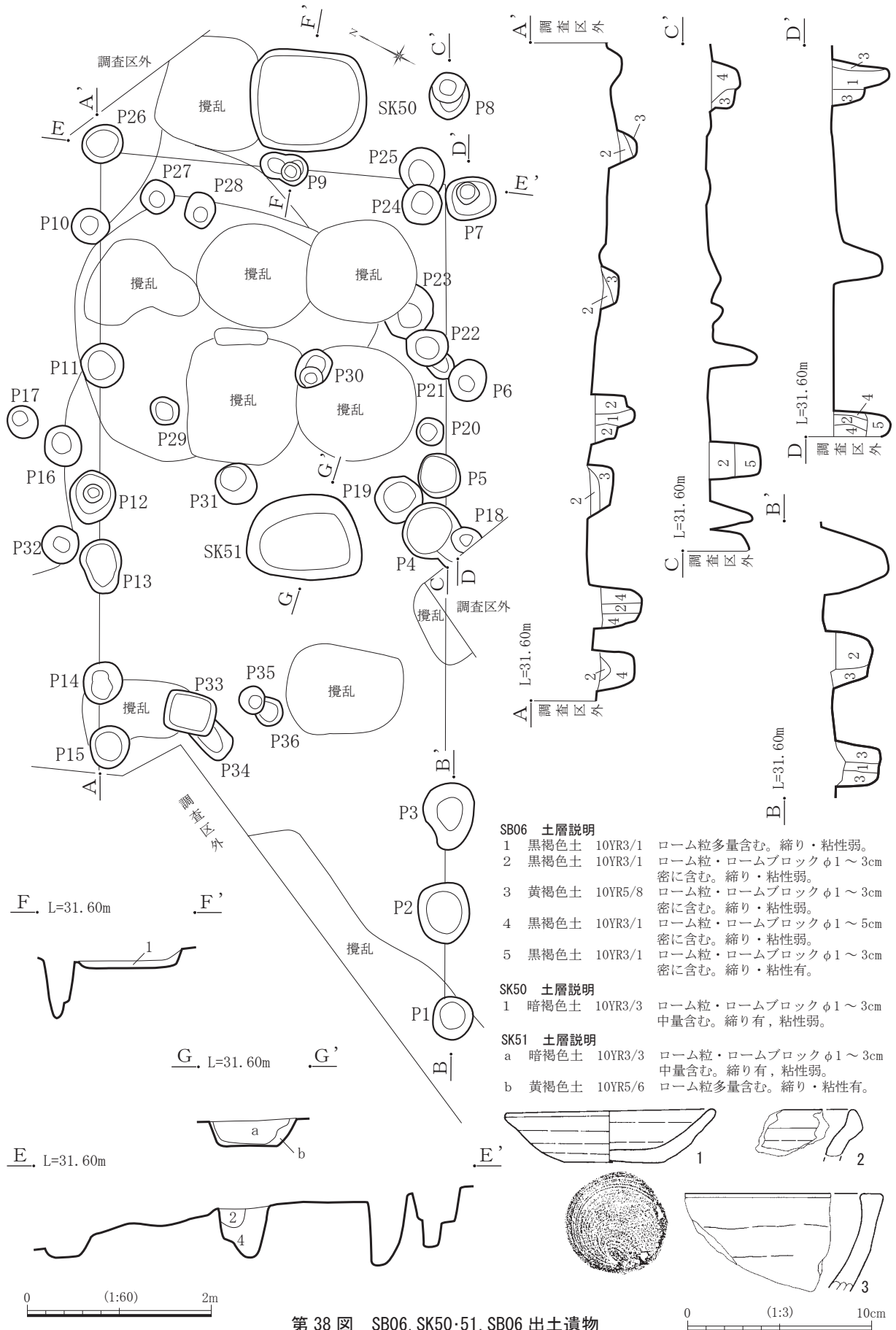
SB06 (第38図, 第10表, 図版11・26)

調査区西部, C・D-2・3グリッドに位置し, 西側の一部が調査区外となる。SK05(地下式坑)と重複しており, 本跡が新しい。平面規格は桁行7間, あるいはそれ以上, 梁行2間の長屋状側柱建



第37図 SB03

0 (1:60) 2m



第38図 SB06, SK50・51, SB06 出土遺物

第3章 調査の成果

物である。周辺にはピットが集中し、補強と建て替えが繰り返されたとみられ、SK50・51は付属する可能性がある。規模は桁行9.40m（約31尺）、梁行3.90m（約13尺）を計測し、建物の傾きはN-60°-Eを示す。柱掘り方は36本が調査され、平面は円形を基調とし小型である。各掘り方の規模は、長軸30～73cm、深さ12～72cmに収まり、長軸40～50cm台、深さ40～50cm台にまとまる。柱間寸法は一定せず芯々でP1・2間が1.15m、P2・3間が0.90m、7・9間が1.95m、P9・26間が2.05m、P13・14間が1.30mとなる。埋め土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土を主体とする。柱痕は直径10～20cmの黒褐色土で、P1・4・7・12・14・16・17・18において観察される。本期の遺物はP4から土師質土器の内耳鍋2点、P5から土師質土器播鉢2点、P6から内耳鍋1点、P7から土師質土器播鉢1点、P12から土師質土器小皿1点、P16から常滑系甕1点が出土している。掲載した1はP12から得られたもので、煤が付着し灯明使用されたとみられる。時期については土師質土器小皿を基に年代を与えると16世紀後半～17世紀初頭に比定される。

SB06 ピット計測値

〈 〉は残存値 単位= cm

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
| 番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 | P11 | P12 | P13 | P14 | P15 | P16 | P17 | P18 | P19 | P20 | P21 | P22 |
| 東西 | 46 | 64 | 73 | 60 | 46 | 45 | 47 | 50 | 33 | 40 | 45 | 55 | 43 | 47 | 46 | 43 | 34 | 26 | 51 | 29 | 28 | 38 |
| 南北 | 44 | 55 | 56 | <70> | 43 | 42 | 55 | 44 | 52 | 40 | 43 | 50 | 58 | 44 | 43 | 39 | 35 | <28> | 50 | 30 | <16> | 48 |
| 深さ | 48 | 51 | 72 | 61 | 59 | 53 | 64 | 31 | 58 | 31 | 19 | 49 | 28 | 56 | 48 | 43 | 39 | 47 | 58 | 16 | 55 | 67 |
| 番号 | P23 | P24 | P25 | P26 | P27 | P28 | P29 | P30 | P31 | P32 | P33 | P34 | P35 | P36 | | | | | | | | |
| 東西 | 58 | 41 | 50 | 40 | 35 | 38 | 30 | 44 | 44 | 38 | 44 | 33 | 28 | 30 | | | | | | | | |
| 南北 | <48> | 41 | 54 | 45 | 36 | 30 | 32 | 34 | 43 | 41 | 56 | <30> | 30 | 28 | | | | | | | | |
| 深さ | 37 | 72 | 65 | 20 | 17 | 32 | 13 | 12 | 41 | 22 | 47 | 21 | 27 | 16 | | | | | | | | |

SK50（第38図，図版11・18）

調査区西部，D-3グリッドに位置する。SB06と重複し、付属する可能性がある。平面は正方形で、規模は長軸を南北にとり1.26m、短軸1.10m、深さは0.23mを測る。主軸方向はN-25°-Wを示す。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。時期は形態と位置関係からSB06と同一とみられる。

SK51（第38図，図版11・18）

調査区西部，C・D-2グリッドに位置する。SB06と重複し、付属する可能性がある。平面は楕円形で、規模は長軸を南北にとり1.24m、短軸0.91m、深さは0.26mを測る。主軸方向はN-34°-Wを示す。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は底面に黄褐色土、その上に暗褐色土が覆う。本期の遺物は出土していない。時期は形態と位置関係からSB06と同一とみられる。

（5）柵列

SA01（第39図，第10表，図版11・26）

調査区西部，D-1，E-1・2，F-2グリッドに位置する。ピット群とすることも考えたが、直線状に並ぶことから柵列として報告する。ただ周辺には同様のピットが集中することから、頻繁に造り替えや補強が為されたか、建物跡が存在する可能性もある。SX01，SD01，SK04・14・16と重複し、SK04・16より新しくSX01，SD01，SK14よりも古い。規模は最大全長18.00mを計測し、傾きは概ねN-25°-Eを示す。ピットは43本が調査され、平面は円形を基調とした小型で、断面は円筒形もみられるが杭状が多い。男柱などの痕跡は捉えられなかった。規模は表にまとめたが、長軸18～61cm、深さ15～73cmに収まり、長軸20～30cm台、深さ30～40cm台にまとまりをみせる。ピッ

SA01 ピット計測値 < >は残存値 単位= cm

| 番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 |
|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東西 | 35 | 41 | <30> | 39 | 25 | 42 | 24 | 23 |
| 南北 | 31 | 38 | 36 | 37 | 23 | 44 | 28 | 20 |
| 深さ | 59 | 26 | 36 | 57 | 43 | 41 | 44 | 20 |

| 番号 | P9 | P10 | P11 | P12 | P13 | P14 | P15 | P16 |
|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東西 | 31 | 34 | 22 | 34 | 16 | 45 | 37 | 22 |
| 南北 | 41 | 45 | 21 | 28 | 19 | 54 | 52 | 20 |
| 深さ | 38 | 55 | 48 | 51 | 46 | 50 | 53 | 39 |

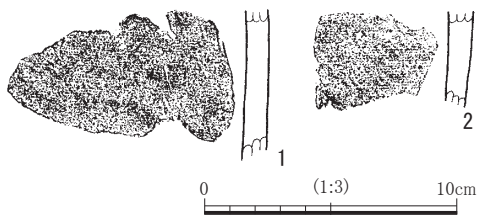
| 番号 | P17 | P18 | P19 | P20 | P21 | P22 | P23 | P24 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東西 | 21 | 14 | 16 | 31 | 25 | 30 | 26 | 40 |
| 南北 | 23 | 18 | 20 | 46 | 46 | 47 | 27 | 48 |
| 深さ | 19 | 45 | 27 | 73 | 29 | 42 | 39 | 37 |

| 番号 | P25 | P26 | P27 | P28 | P29 | P30 | P31 | P32 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東西 | 33 | 26 | 31 | 32 | 30 | 28 | 26 | 30 |
| 南北 | 27 | 31 | 36 | 33 | 30 | 27 | 25 | 28 |
| 深さ | 44 | 29 | 41 | 48 | 40 | 48 | 30 | 19 |

| 番号 | P33 | P34 | P35 | P36 | P37 | P38 | P39 | P40 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東西 | 28 | 50 | 26 | 18 | 23 | 32 | 46 | 34 |
| 南北 | 21 | 50 | 32 | 16 | 18 | 31 | 60 | 33 |
| 深さ | 62 | 30 | 29 | 25 | 24 | 27 | 15 | 30 |

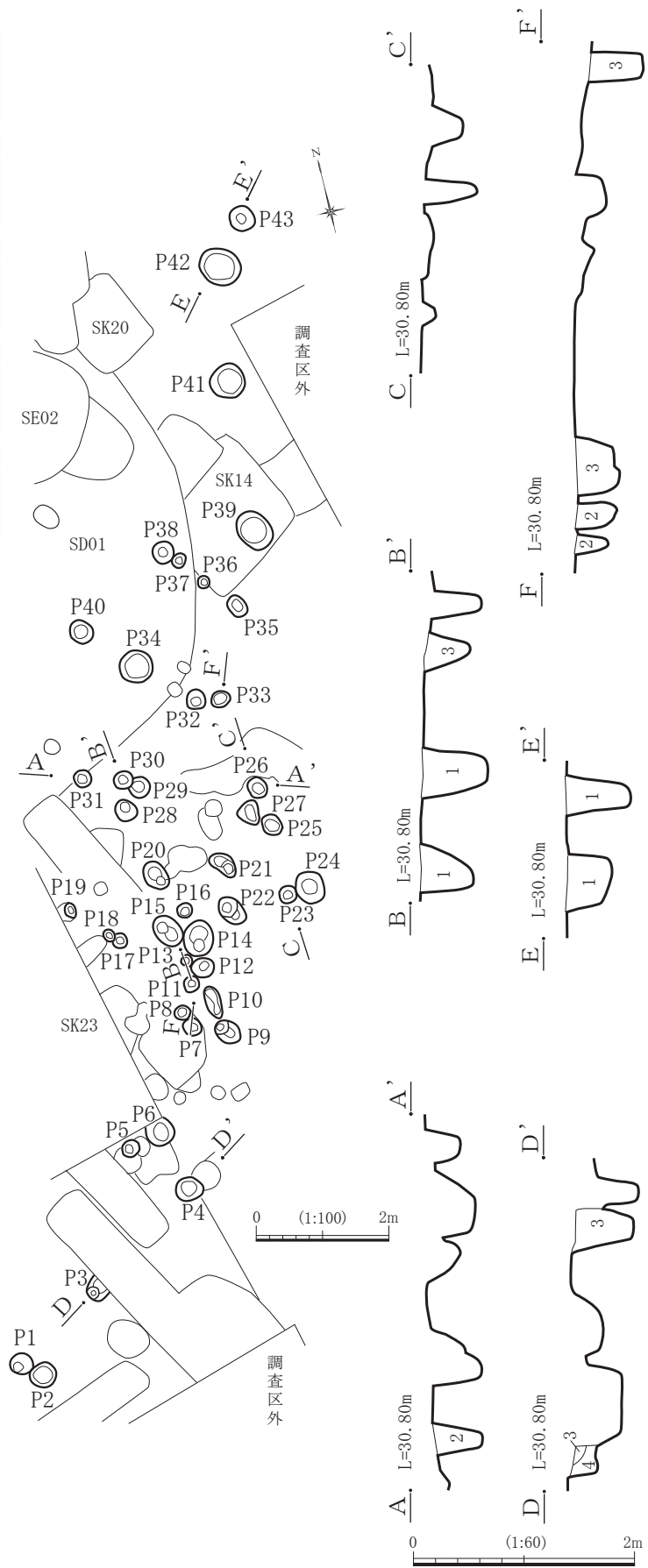
| 番号 | P41 | P42 | P43 |
|----|-----|-----|-----|
| 東西 | 52 | 61 | 38 |
| 南北 | 51 | 52 | 35 |
| 深さ | 34 | 40 | 60 |

ト間の寸法は一定せず、埋め土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土を主体とする。明瞭な柱痕は観察できない。本期の遺物はP9から瓦質土器火鉢1点、P10から土師質土器の内耳鍋1点、P19から常滑系甕1点が出土した。掲載した遺物は火鉢と常滑系甕である。時期については覆土の状況がSB06に類似することから16世紀後半～17世紀初頭に位置付けた。



SA01 土層説明

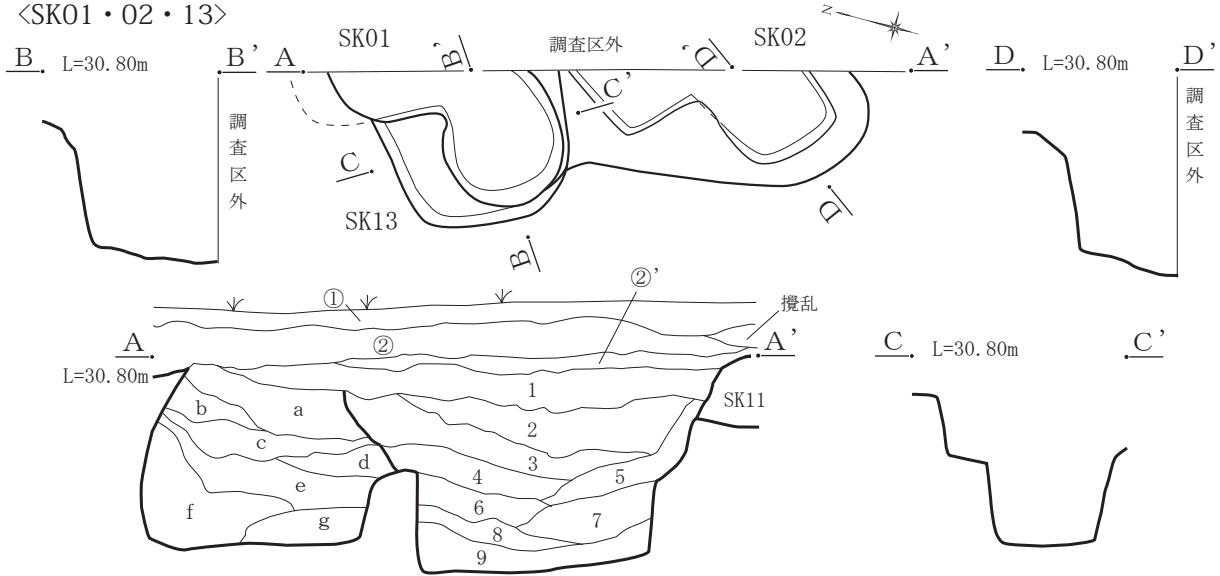
- 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック φ1～2cm 密に含む。縮り・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量含む。縮り・粘性弱。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック φ1～3cm 多量含む。縮り・粘性弱。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック φ1～4cm 密に含む。縮り・粘性弱。



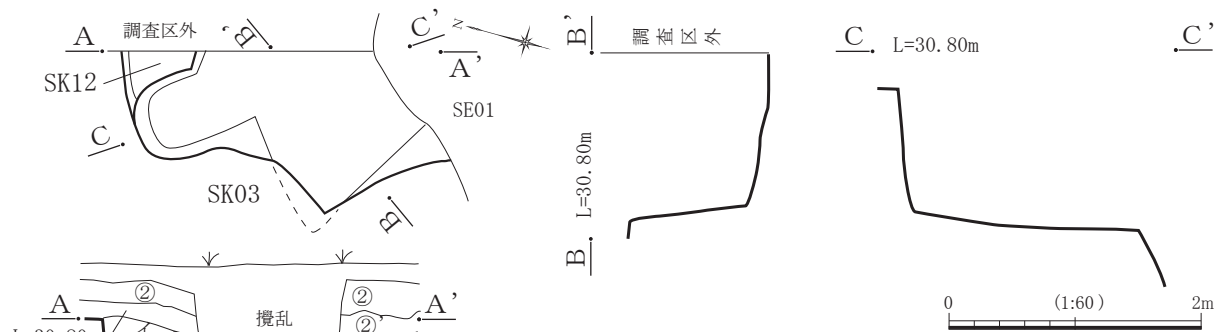
第39図 SA01, 出土遺物

第3章 調査の成果

<SK01・02・13>



<SK03・12>



SK01 土層説明

- a 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, 鹿沼軽石・白色粒微量含む。締り有, 粘性弱。
- b 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, 白色粒微量含む。締り有, 粘性弱。
- c 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量, ロームブロックφ1~5cm・鹿沼軽石・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- d 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒密, 鹿沼軽石・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- e 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm 多量, 鹿沼軽石少量含む。締り有, 粘性弱。
- f 明黄褐色土 10YR6/6 天井崩落土。締り・粘性有。
- g 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒密, 鹿沼軽石中量含む。締り・粘性有。

SK02 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・白色粒中量含む。締り有, 粘性弱。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量, 白色粒・鹿沼軽石少量含む。締り有, 粘性弱。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 5 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 6 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm 多量, 鹿沼軽石・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 7 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm 多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 8 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm 密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 9 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm 密に含む。締り・粘性有。

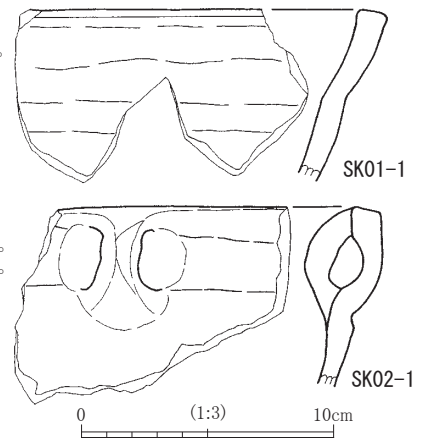
SK03 土層説明

- A 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・白色粒少量含む。締り・粘性有。
- B 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm 多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- C 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm 中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- D 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm・黒褐色土密に含む。締り有, 粘性弱。
- E 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm 密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- F 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm 密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- G 明黄褐色土 10YR6/6 天井崩落土。締り・粘性有。
- H 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒密, 白色粒・鹿沼軽石微量含む。締り・粘性有。

SK12 土層説明

- イ 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・白色粒少量含む。締り・粘性有。
- ロ 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・白色粒中量含む。締り有, 粘性弱。
- ハ 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒密, 白色粒・鹿沼軽石少量含む。締り有, 粘性弱。
- ニ 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。

*①~②' は基本堆積土層参照。



第40図 SK01・02・03・12・13, SK01・02 出土遺物

(6) 地下式坑

SK01 (第40図, 第10表, 図版12・26)

調査区西部, E・F-2グリッドに位置する。検出は竪坑部分であって, 主室の大半は東の調査区外となる。SK02・13と重複し, SK13より新しくSK02よりも古い。天井は主室の北側において一部が残存する。竪坑は円形で, 主室の西側に接続しており段は認められず, 主室に向け緩やかに傾斜する。竪坑を基準にした主軸長は1.50m以上を測り, 方向はN-60°-Eを示す。主室の規模は南北2.05m以上, 天井高は0.97mで, 底面は平坦となり, 壁は内傾気味に立ち上がる。深さは1.39mを計測し, 竪坑は直径0.95mである。覆土は黒褐色土・黄褐色土・明黄褐色土が確認され, 機能停止後早い段階で埋め戻されている。なお, f層の明黄褐色土は天井崩落土と判断した。本期の遺物は瀬戸・美濃系灰釉壺類1点, 土師質土器の内耳鍋4点であった。何れも上層からの出土である。時期は遺物から15世紀後半～16世紀とみられる。

SK02 (第40図, 第10表, 図版12・26)

調査区西部, E-2グリッドに位置する。検出は竪坑部分が中心で, 主室の大半が調査区外となる。SK01・11と重複し, 本跡が最も新しい。天井は残存しない。SK01と重複しており天井を設けなかった可能性や, 方形竪穴も視野に入る。竪坑は方形で, 主室の西側に接続しており段は認められず, 主室に向け緩やかに傾斜する。竪坑を基準にした主軸長は1.70m以上を測り, 方向はN-35°-Eを示す。主室の規模は南北1.52m以上で, 底面は平坦となり, 壁は垂直に立ち上がって上部で開く。土層断面での深さは1.55mを計測し, 竪坑は長軸0.93m, 短軸0.84mである。主室の覆土は人為的な堆積を示しており, 二度にわたって埋め戻された可能性がある。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋8点で上層から出土した。時期は遺物から15世紀後半～16世紀とみられるがSK01より新しい。

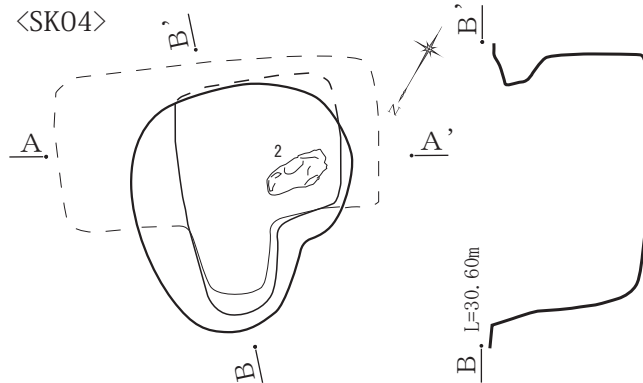
SK03 (第40図, 図版12)

調査区西部, E-2グリッドに位置する。検出は竪坑部分と主室の1/2とみられ, 東部分が調査区外となる。SE01, SK12と重複し, SK12より新しくSE01よりも古い。天井は残存しない。竪坑は方形で, 主室の北側に接続しており段は認められず, 主室に向け緩やかに傾斜する。竪坑を基準にした主軸長は2.00m以上を測り, 方向はN-145°-Eを示す。主室の規模は東西1.30m以上, 南北1.09m以上で, 底面は平坦となり, 壁は垂直に立ち上がる。深さは1.27mを計測し, 竪坑は長軸0.88m, 短軸0.68mである。覆土は機能停止後に黒褐色土が自然堆積した後天井は崩落し, さらに黒褐色土で埋め戻す。土量からみた天井の厚さは35cm前後と薄い。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋1点で, 上層からの出土である。時期は遺物と形態から16世紀前半とみられる。

SK04 (第41図, 第10表, 図版12・26)

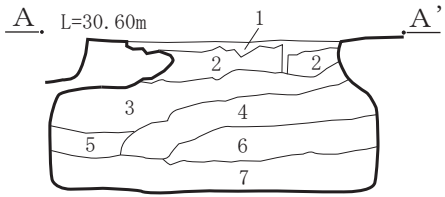
調査区西部, E-2グリッドに位置する。SA01と重複し, 本跡が古い。壁際の天井が残存しており, 横長方形単室の主室に方形気味の竪坑を伴う。竪坑は主室の北側に接し, 段は認められず平坦である。竪坑を基準にした主軸長は2.16mを測り, 方向はN-145°-Eを示す。主室の規模は長軸を東西にとり2.58m, 短軸1.25m, 天井高は0.82mで, 底面は平坦となり, 壁は垂直に立ち上がる。深さは1.20mを計測し, 竪坑は長軸1.20m, 短軸0.84mである。覆土は機能停止後に第6・7層の黒褐色土が堆積した後第4層の天井が崩落し, さらに暗褐色土・黒褐色土で埋め戻す。土量からみた天井の厚さは25cm前後と薄く, 台地整形により天井が削り取られ, 埋め戻されたと判断される。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋3点, 砥石1点で上層からの出土である。砥石は大型で据え付けて用いたと推測され, 天井崩落後投げ込まれたものである。時期は遺物から16世紀前半とみられる。

<SK04>



SK04 土層説明

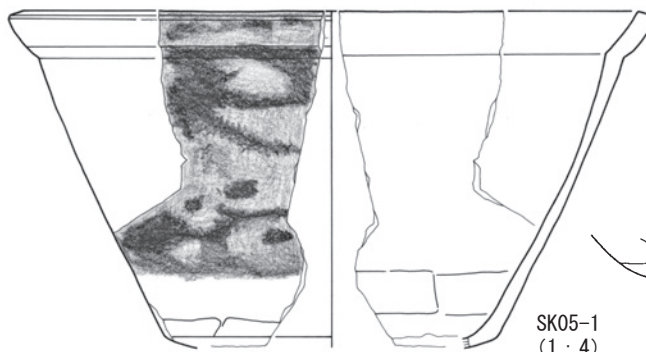
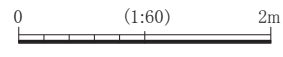
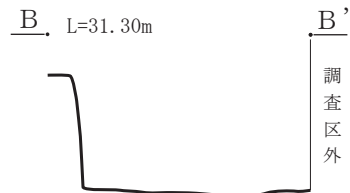
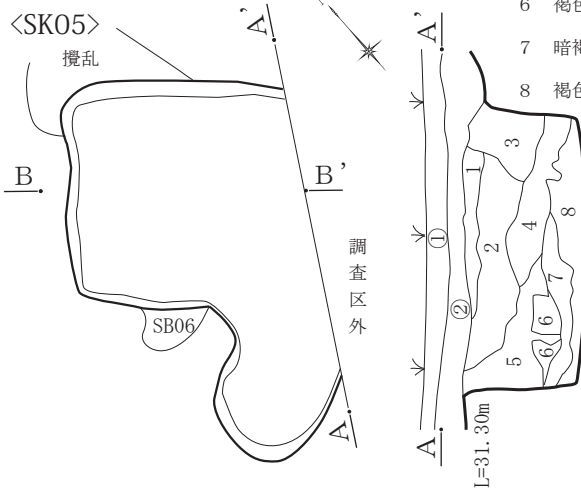
- 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・白色粒中量, ロームブロックφ1~3cm 微量含む。締り有, 粘性弱。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1cm・ローム土密, 鹿沼軽石微量含む。締り有, 粘性弱。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm・黒褐色土密を含む。締り有, 粘性弱。
- 4 明黄褐色土 10YR6/8 天井崩落土。ローム土。締り・粘性有。
- 5 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm・黒褐色土ブロックφ1~2cm 多量含む。締り有, 粘性弱。
- 6 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm・黒褐色土粒中量, 白色粒・鹿沼軽石少量含む。締り有, 粘性弱。
- 7 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm・黒褐色土粒中量, 白色粒・鹿沼軽石少量含む。締り有, 粘性弱。



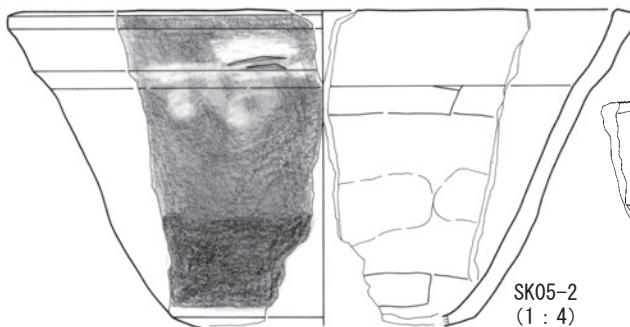
SK05 土層説明

- 1 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒中量, 白色粒・ロームブロックφ1~2cm 少量含む。締り有, 粘性弱。
 - 2 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 - 3 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm 密, 白色粒微量含む。締り有, 粘性弱。
 - 4 黒褐色土 7.5YR3/1 暗褐色土ブロックφ1~5cm 中量, ローム粒・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 - 5 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm 中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 - 6 褐色土 10YR4/4 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm・白色粒密を含む。締り・粘性有。
 - 7 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm・白色粒中量含み, 黒褐色土混入する。締り・粘性有。
 - 8 褐色土 10YR4/4 ローム粒・白色粒多量, 鹿沼軽石少量含み, 黒褐色土混入する。締り・粘性有。
- *①・②は基本堆積土層参照。

<SK05>



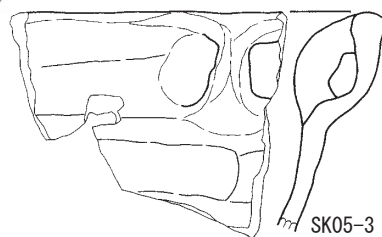
SK05-1 (1:4)



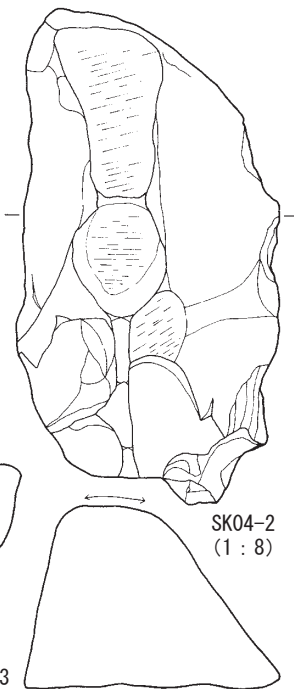
SK05-2 (1:4)



SK04-1



SK05-3



SK04-2 (1:8)

第41図 SK04・05, 出土遺物

SK05 (第41図, 第11表, 図版12・26)

調査区西部, C-2 グリッドに位置する。検出は竪坑部分と主室の2/3とみられ, 東部分が調査区外となる。SB06と重複し, 本跡が古い。天井の残存は確認できなかった。横長方形単室の主室に楕円形の深い竪坑を伴う。竪坑は主室の南側に接続しており段は認められず, 主室に向け緩やかに傾斜する。竪坑を基準にした主軸長は3.00mで, 方向はN-44°-Eを示す。主室の規模は東西を長軸とし2.00m以上, 短軸1.80mで, 底面は平坦となる。壁は垂直に立ち上がり, 上部がやや開く。深さは0.97mを計測し, 竪坑は長軸1.30m, 短軸1.02mである。覆土は下層に褐色土・暗褐色土が堆積するも, 主体はローム粒・ロームブロックを含有した黒褐色土で, 全体に埋め戻されたと判断される。天井の崩落は確認できない。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋6点のみで, 何れも上層からの出土であった。時期は遺物から15世紀後半とみられる。

SK06 (第42図, 第11表, 図版12・26)

調査区南西部, B-1 グリッドに位置する。検出は主室の1/2とみられ, 西部分が調査区外となる。ST01と重複し, 上部を周溝により壊されている。横長方形単室の主室で, 天井は壁際が辛うじて残存する。竪坑は主室の南側に接続していた可能性があるも, 調査区外のため不明である。主室の規模は東西を長軸とし1.82m以上, 短軸1.35mで, 主室の長軸方向はN-75°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は内傾き気味に立ち上がり, 深さは1.20mを計測する。覆土は人為的な埋め戻しによるもので, 上層に黒褐色土, 下層に黄褐色土が確認され, 最上層のST01周溝部分は叩き締められていた。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋6点のみで, 何れも上層からの出土である。時期は遺物から15世紀後半～16世紀とみられる。

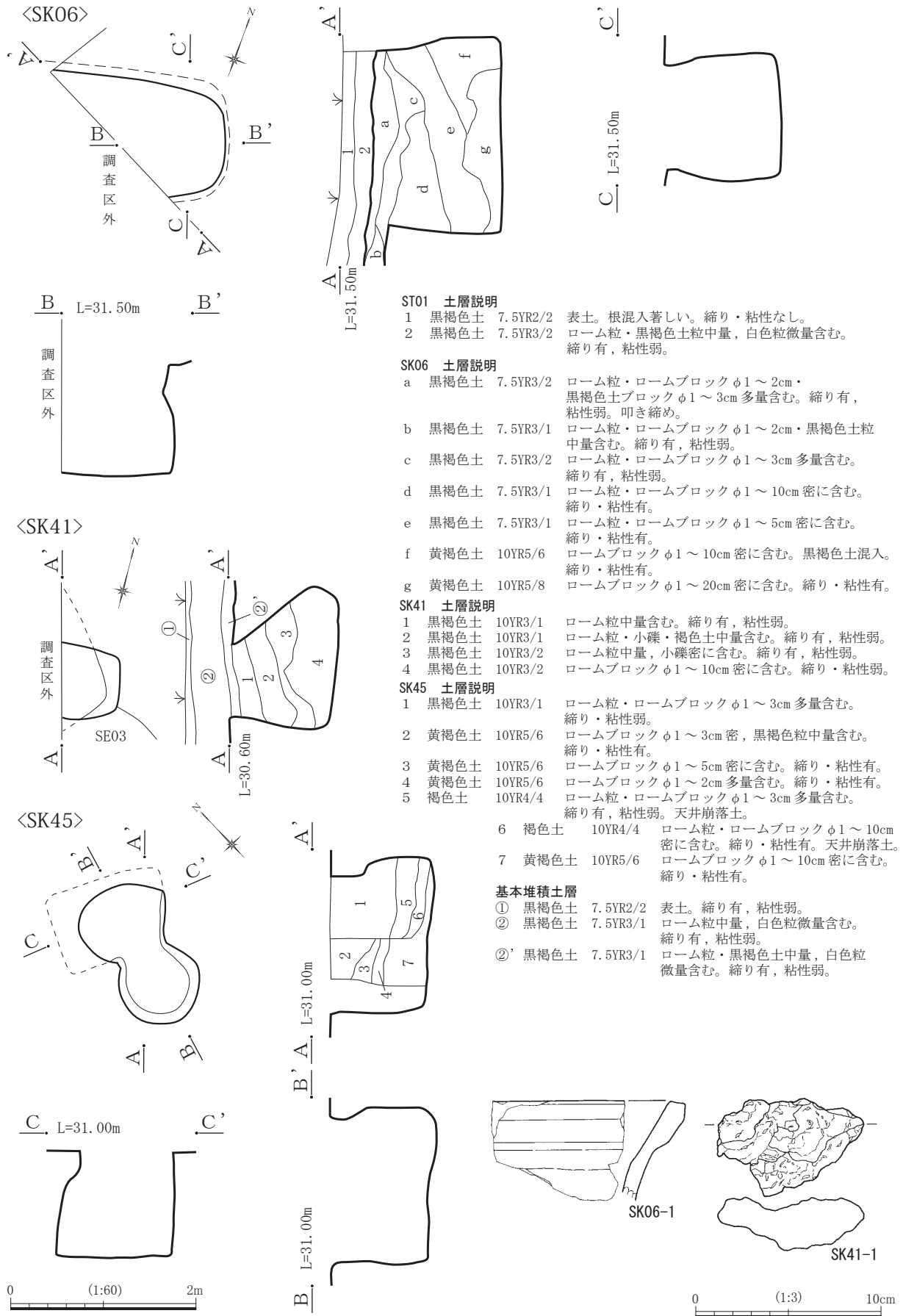
SK41 (第42図, 第11表, 図版13・26)

調査区北西部, G-1 グリッドに位置する。検出は竪坑の可能性もあるが主室部分と判断した。大半が西の調査区外となる。SE03と重複し, 本跡が古い。天井部は北側の一部が残存する。主室の形態は, 二カ所の隅角が検出されていることから横長方形になる可能性が高く, 北あるいは南に竪坑が設けられていたとみられる。主室の規模は東西0.65m以上, 南北1.35m以上, 天井高は1.13mで, 竪坑の位置を南に仮定し, 主室の東壁を基準にするならば, 主軸方向はN-30°-Wである。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がり, 深さは1.13mを計測する。覆土は下半をロームブロックを密に含む黒褐色土, さらに小礫を含んだ黒褐色土により埋め戻されていた。遺物は覆土上層から土師器の坏, 平瓦, 椀形滓が出土しており, 中世の可能性のある椀形滓を図示した。なお, 土師器の坏については奈良・平安時代の遺構外出土遺物として報告している。時期は重複関係からSE03以前の中世であるが, 特定は困難である。

SK45 (第42図, 図版13)

調査区北部, H-2 グリッドに位置する。壁際の天井が残存し, 横長方形単室の主室に円形の竪坑を伴う。竪坑を基準にした主軸長は1.75mを測り, 方向はN-15°-Eを示す。主室の規模は長軸を東西にとり1.25m, 短軸0.90m, 天井高は0.82mと小型である。底面は壁際がやや低くなるものの全体には平坦となり, 壁は垂直あるいは内傾気味に立ち上がる。深さは1.15mを計測し, 竪坑は直径0.90mである。覆土は機能停止後, 竪坑部分をロームブロックを含んだ黄褐色土で閉塞している。その後天井とみられる第5・6層の褐色土が崩落し, 第1層の黒褐色土を用いて埋め戻したと判断される。本期の遺物は出土していない。時期は形態と覆土から中世後半から近世前半とみられるが, 特定は困難である。

第3章 調査の成果



第42図 SK06・41・45, SK06・41 出土遺物

(7) 方形竪穴状遺構

SK07 (第43図, 図版13)

調査区西部, D・E-2グリッドに位置する。台地整形遺構(SX01)と同時期とみられ, 上面に整地層が覆う。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり1.76m, 短軸1.44m, 深さは0.62mを測る。主軸方向はN-25°-Wを示す。底面は平坦で, よく締まり全面が硬化する。壁は垂直に立ち上がり, 南と北壁の中央壁際に対置的なピットが構築される。ピットの規模はP1が長軸37cm, 短軸33cm, 深さ56cm, P2が長軸44cm, 短軸27cm, 深さ44cmを測る。覆土はローム粒・ロームブロック・黒褐色土ブロックの含有が顕著な暗褐色土を主体とした人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から17世紀前半である。

SK09 (第43図, 第11表, 図版13・26)

調査区西部, D-2グリッドに位置し, 大半が調査区外となる。台地整形遺構(SX01)より新しく整地層を掘り込む。平面は長方形の可能性が高く, 規模は長軸を南北にとり2.21m, 短軸0.68m以上, 深さは0.33mを測る。主軸方向はN-26°-Wを示す。底面は平坦で, よく締まりピットを除いた全面が硬化する。壁は垂直に立ち上がり, 南壁際にピットが穿たれ北壁にも対置的なピットが存在したとみられる。ピットの規模は直径23cm, 深さ44cmである。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土を主体とする。本期の遺物は瀬戸・美濃系の灰釉皿1点, 肥前系陶器の碗1点, 土師質土器小皿4点・内耳鍋11点が出土した。時期は構築の層位に遺物を考慮すると17世紀後半である。

SK27 (第43図, 図版9)

調査区北部, H-1グリッドに位置する。SD02と重複し, 本跡が古い。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり2.46m, 短軸1.20m, 深さは0.49mを測る。主軸方向はN-20°-Eである。底面は平坦で, よく締まりピットを除いた全面が硬化する。壁は垂直に立ち上がり, 南と北壁の中央壁際に対置的なピットが構築される。ピットは外傾して掘り込まれ, 規模はP1が直径18cm, 深さ30cm, P2が直径22cm, 深さ41cmである。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土がSK34と同一であることから16世紀前半とみられる。

SK34 (第43図, 第11表, 図版13・26)

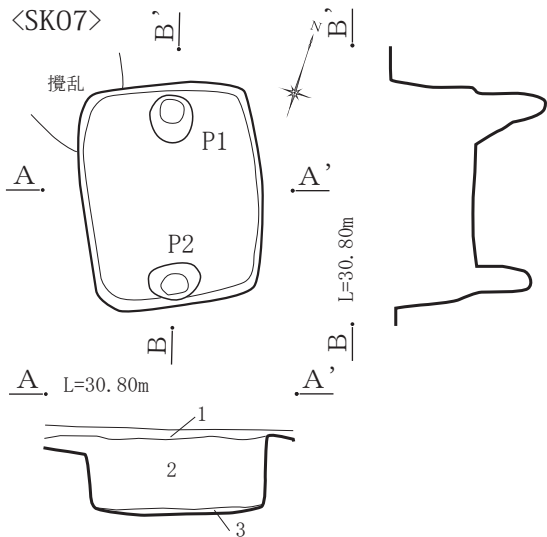
調査区北部, I-3グリッドに位置する。SD03と重複し, 本跡が古い。平面は正方形で, 規模は長軸を東西にとり2.00m, 短軸1.90m, 深さは0.35mを測る。主軸方向はN-55°-Eである。底面は平坦で, よく締まり全面が硬化する。壁は垂直に立ち上がり, 南と北壁の中央壁際に対置的なピットが構築される。ピットは垂直に掘り込まれ, 規模はP1が長軸35cm, 短軸22cm, 深さ20cm, P2が長軸46cm, 短軸30cm, 深さ27cmである。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋2点が出土した。時期は遺物から16世紀前半とみられる。

(8) 井戸跡

SE01 (第44・45図, 第11表, 図版14・26・27)

調査区西部, E-2・3グリッドに位置する。SX01, SK03と重複し, SK03より新しくSX01と同時期とみられる。形態は円形を基調とする素掘りの井戸で, ハードローム層を掘り抜き粘土層まで達して, 標高28m地点で湧水する。主軸方向はN-85°-Eを示し, 開口部は東西3.00m, 南北2.92mを測る。上面は播鉢状に掘り込み, 下部を円筒形に穿つ漏斗形である。水溜の形状は円形とみられる。

第3章 調査の成果



SK07 土層説明

- 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量, 白色粒・今市軽石微量含む。縮り有, 粘性弱。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm・黒褐色土ブロックφ1~5cm密, 白色粒・鹿沼軽石・今市軽石微量含む。縮り有, 粘性弱。
- 3 褐色土 10YR4/6 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm密に含む。縮り強, 粘性有。

SK09 土層説明

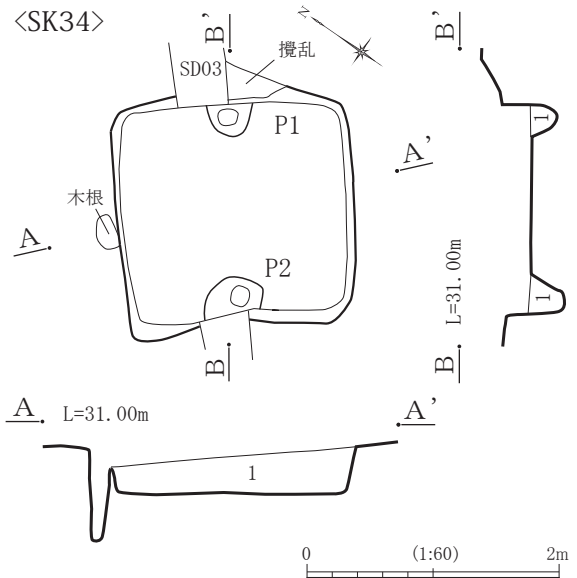
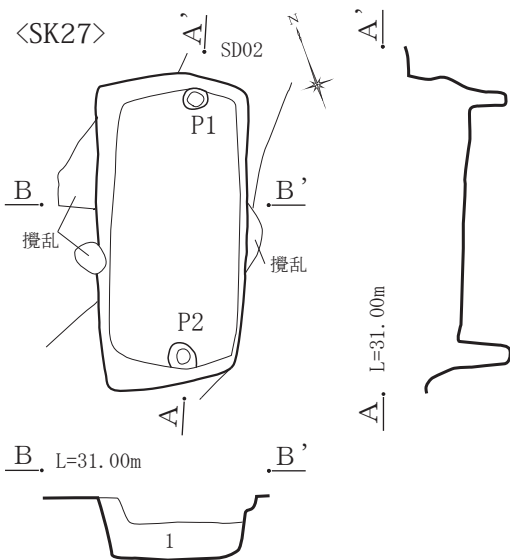
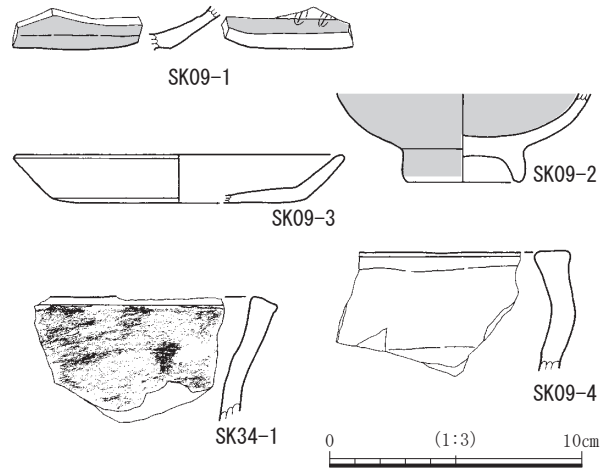
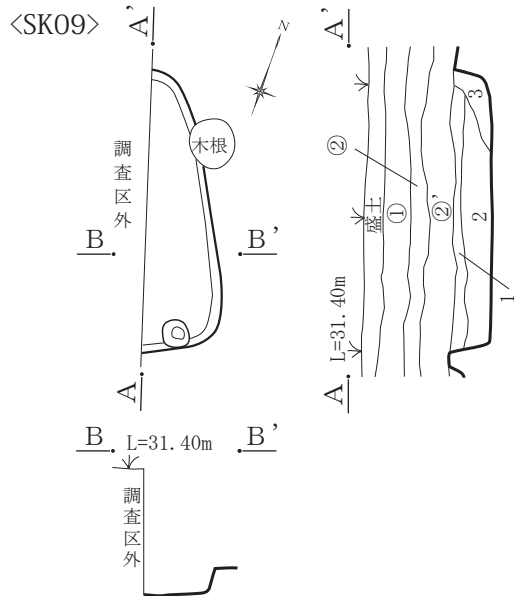
- 1 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒中量, 白色粒少量含む。縮り有, 粘性弱。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒密, 白色粒・ロームブロックφ1~2cm少量含む。縮り有, 粘性弱。
- 3 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒多量, 白色粒少量含む。縮り有, 粘性弱。

SK27・34 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm密, 白色粒少量含む。縮り有, 粘性弱。

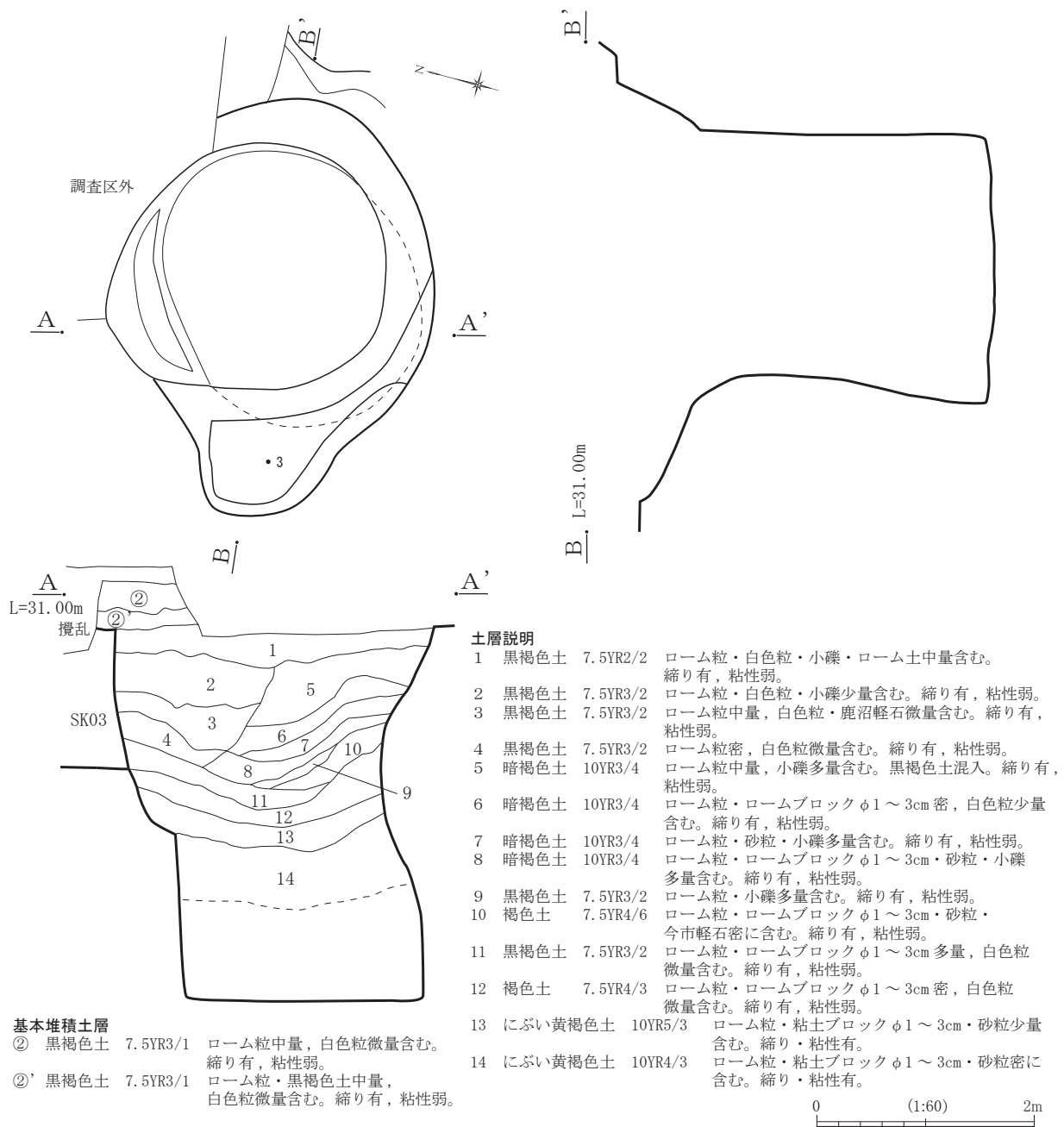
基本堆積土層

- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 表土。縮り有, 粘性弱。
- ② 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒中量, 白色粒微量含む。縮り有, 粘性弱。
- ②' 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・黒褐色土中量, 白色粒微量含む。縮り有, 粘性弱。

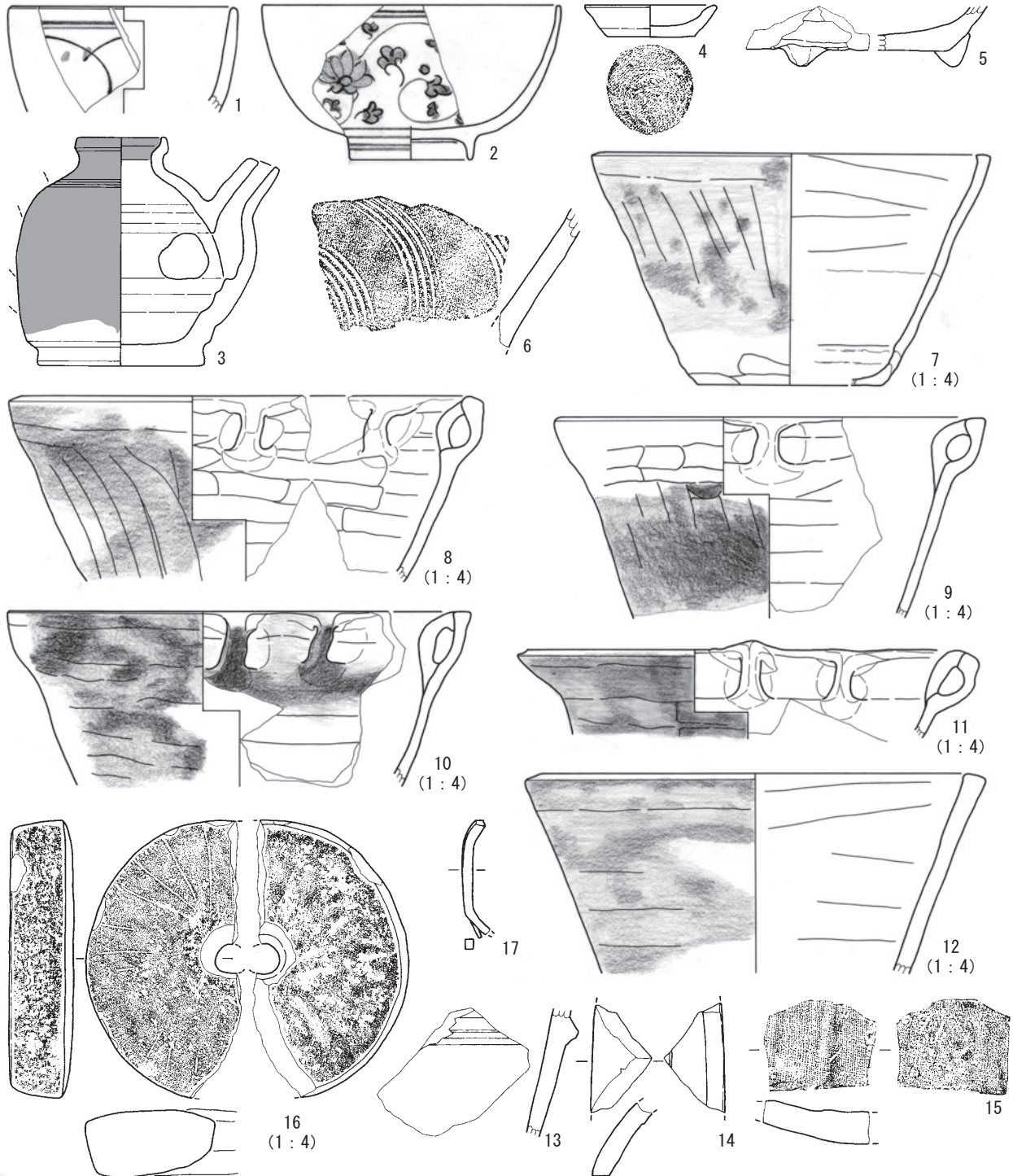


第43図 SK07・09・27・34, SK09・34 出土遺物

が水により崩落しているため判然としない。規模は現状で東西2.40m、南北2.45m、確認面から基底面までの深さは3.55mを計測し、西側が1.18m、深さ0.38mで張り出す。覆土は人為的堆積と判断されるもので、下層にローム粒・粘土ブロックの含有が顕著なにぶい黄褐色土が厚く堆積し、中層から上層へかけ小礫を含む暗褐色土と黒褐色土により埋め戻されていた。全体に粗く、検出された他の井戸と共通した覆土である。本期の遺物は瀬戸・美濃系の灰釉壺類1点、鉄釉水注1点、肥前系陶器の碗1点、肥前系磁器の染付碗2点・小杯1点、土師質土器小皿1点・挿鉢2点・内耳土鍋60点、瓦質土器香炉4点・火鉢12点、瓦2点、鉄釘1点、石臼1点で、上層からの出土が大多数を占めていた。時期は17・18世紀代の遺物を含む土砂が上部を覆うものの、下層出土遺物から17世紀前半とみられる。



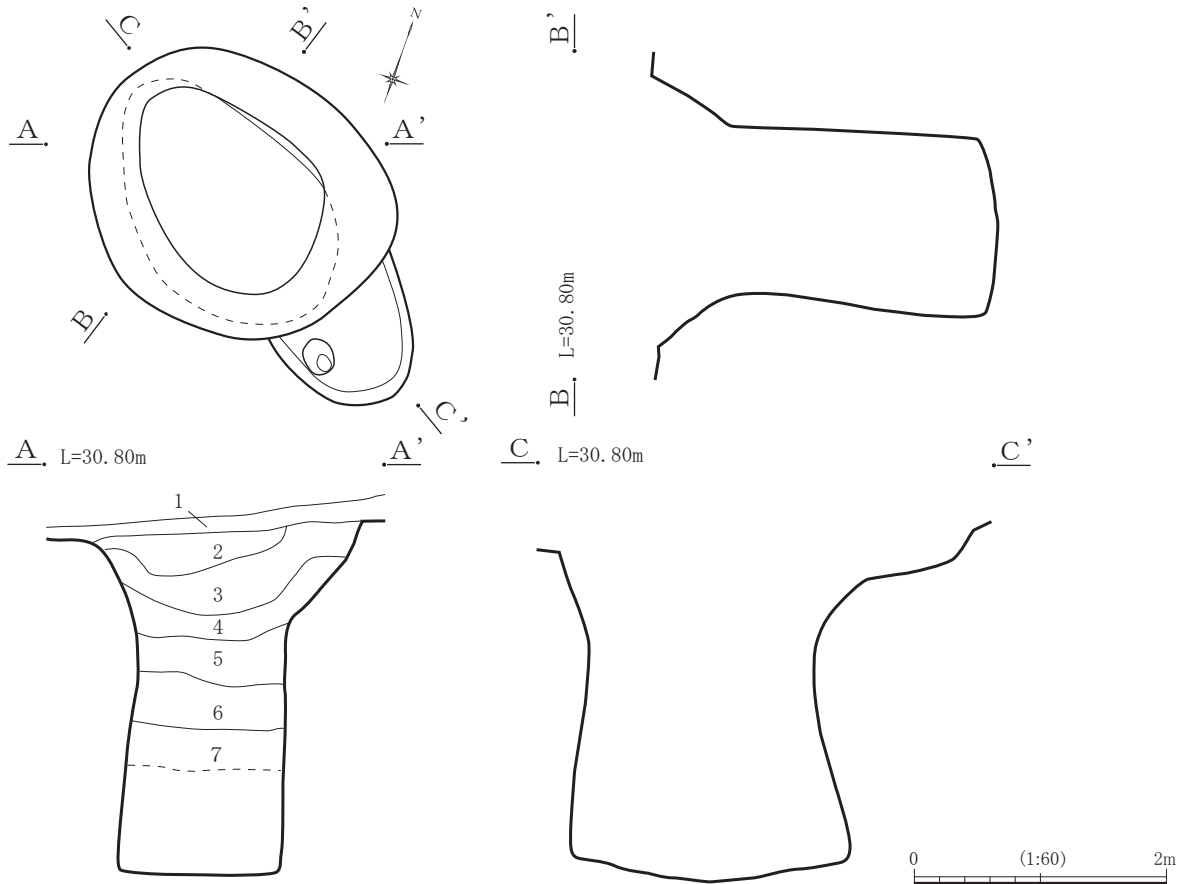
第44図 SE01



第45図 SE01 出土遺物

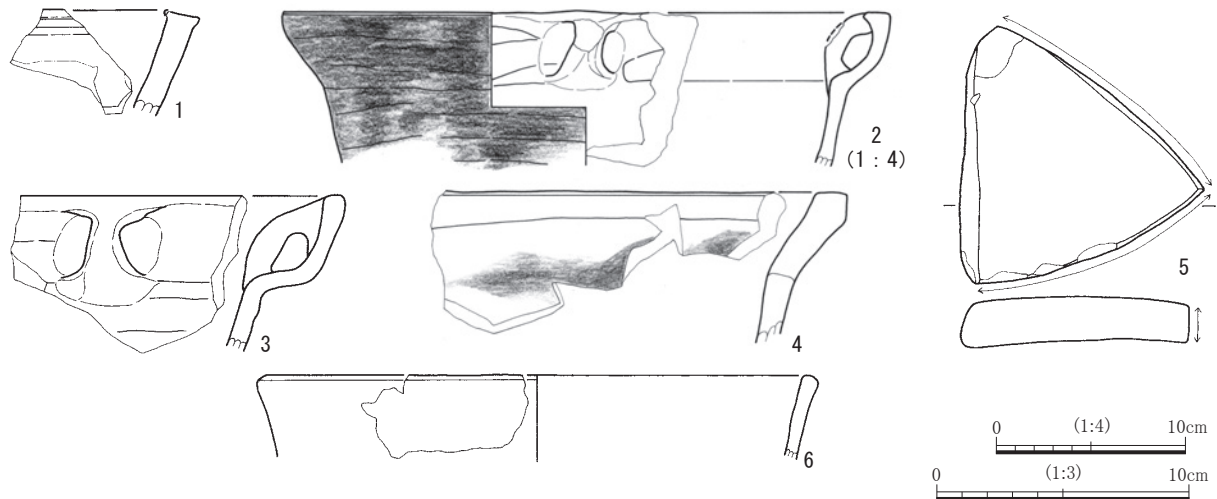
SE02 (第46図, 第12表, 図版14・27)

調査区西部, F-2グリッドに位置する。SX01, SD01, SK28と重複し, SK28よりも新しく他とは同時期とみられる。形態は楕円形を基調とする素掘りの井戸で, ハードロームを掘り抜き粘土層まで達し, 標高28m地点で湧水する。主軸方向はN-62°-Wを示し, 開口部は東西2.44m, 南北2.20mを測る。上面は挿鉢状に掘り込み, 下部を円筒形に穿つ漏斗形である。底面は東西2.23m, 南北1.50m, 確認面から基底面までの深さは2.90mを計測する。東に長軸1.05m, 短軸0.82mの張り出しを



土層説明

- | | | | |
|-----------------|----------------------------|-----------------|---------------------------|
| 1 黒褐色土 7.5YR3/1 | ローム粒・白色粒・黒褐色土中量含む。縮り有，粘性弱。 | 4 黒褐色土 7.5YR3/1 | ローム粒少量，小礫・砂粒密に含む。縮り有，粘性弱。 |
| 2 黒褐色土 7.5YR3/1 | ローム粒少量，白色粒微量含む。縮り有，粘性弱。 | 5 黒褐色土 7.5YR2/2 | ローム粒少量，砂粒・小礫中量含む。縮り有，粘性弱。 |
| 3 黒褐色土 7.5YR3/1 | ローム粒・砂粒少量，小礫多量含む。縮り有，粘性弱。 | 6 黒褐色土 7.5YR3/1 | ローム粒・砂粒・小礫中量含む。縮り・粘性有。 |
| | | 7 黒褐色土 7.5YR3/2 | ローム粒・砂粒・小礫中量含む。縮り・粘性有。 |



第46図 SE02, 出土遺物

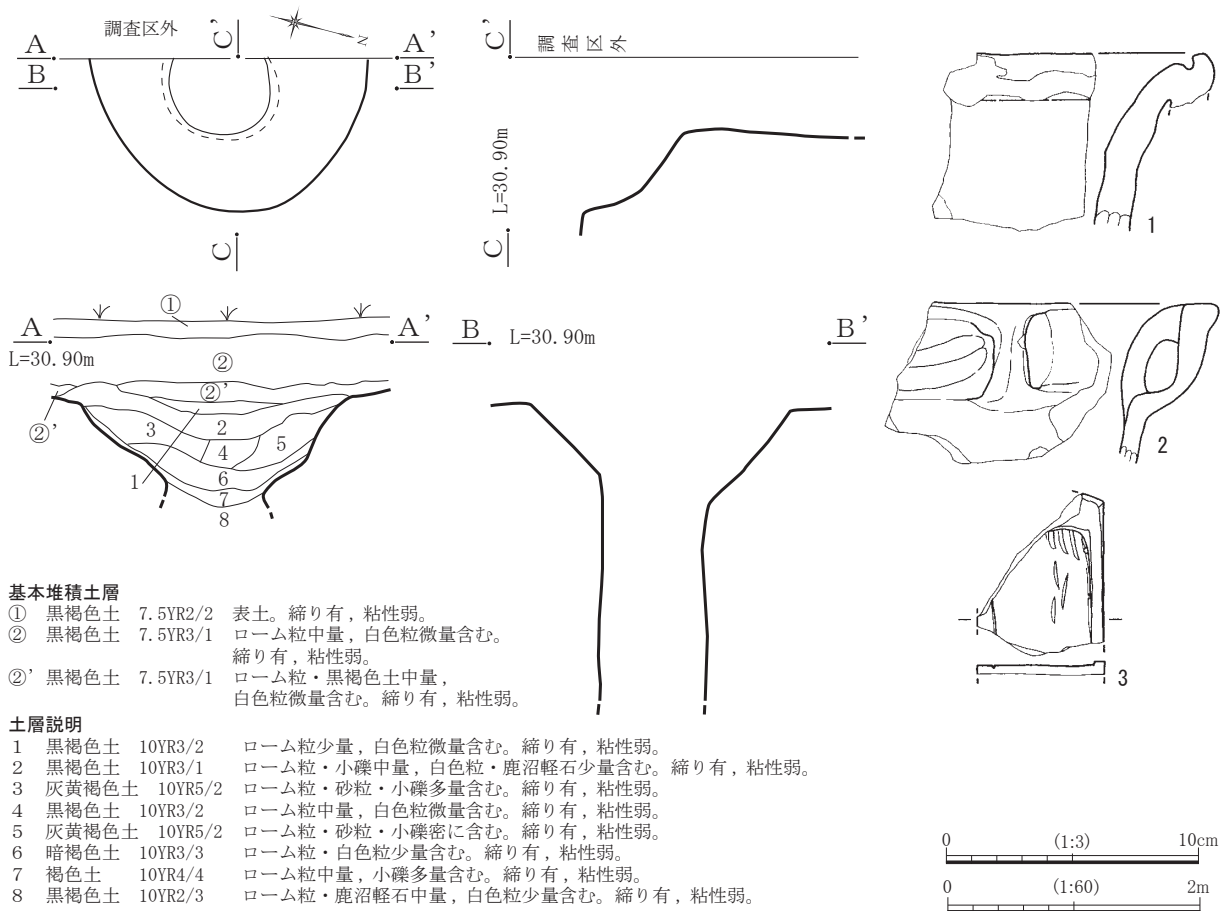
伴う。覆土は人為堆積の黒褐色土で，下層に砂粒を含む。全体に小礫を含有した土砂により埋め戻され，粗い堆積である。本期の遺物は常滑系の鉢1点，土師質土器の内耳鍋19点，鉄鍋1点，転用砥石1点が上層から出土した。時期は15世紀後半の遺物を含むも重複関係から17世紀前半である。

SE03 (第47図, 第12表, 図版14・27)

調査区北西部, G-1 グリッドに位置し, 西側1/2が調査区外となる。SK41と重複しており, 本跡が新しい。形態は円形を基調とする素掘りの井戸とみられ, ハードローム層を掘り抜き構築しているが, 安全上完掘できず遺構確認面から2.30mまでの調査となった。主軸方向は不明であるが, 開口部は東西1.23m以上, 南北2.22mを測り, 上面は挿鉢状に掘り込み, 下部を直径0.90mの円筒形に穿つ漏斗形である。覆土は埋戻しで, ローム粒・砂粒・小礫の含有が顕著な灰黄褐色土と黒褐色土で上部を閉塞する。本期の遺物は覆土上層から出土した常滑系甕1点, 土師質土器内耳鍋4点, 硯1点である。掲載した1は6b型式の常滑系甕, 2は15世紀後半の内耳鍋であり時間幅がある。時期は17世紀前半。

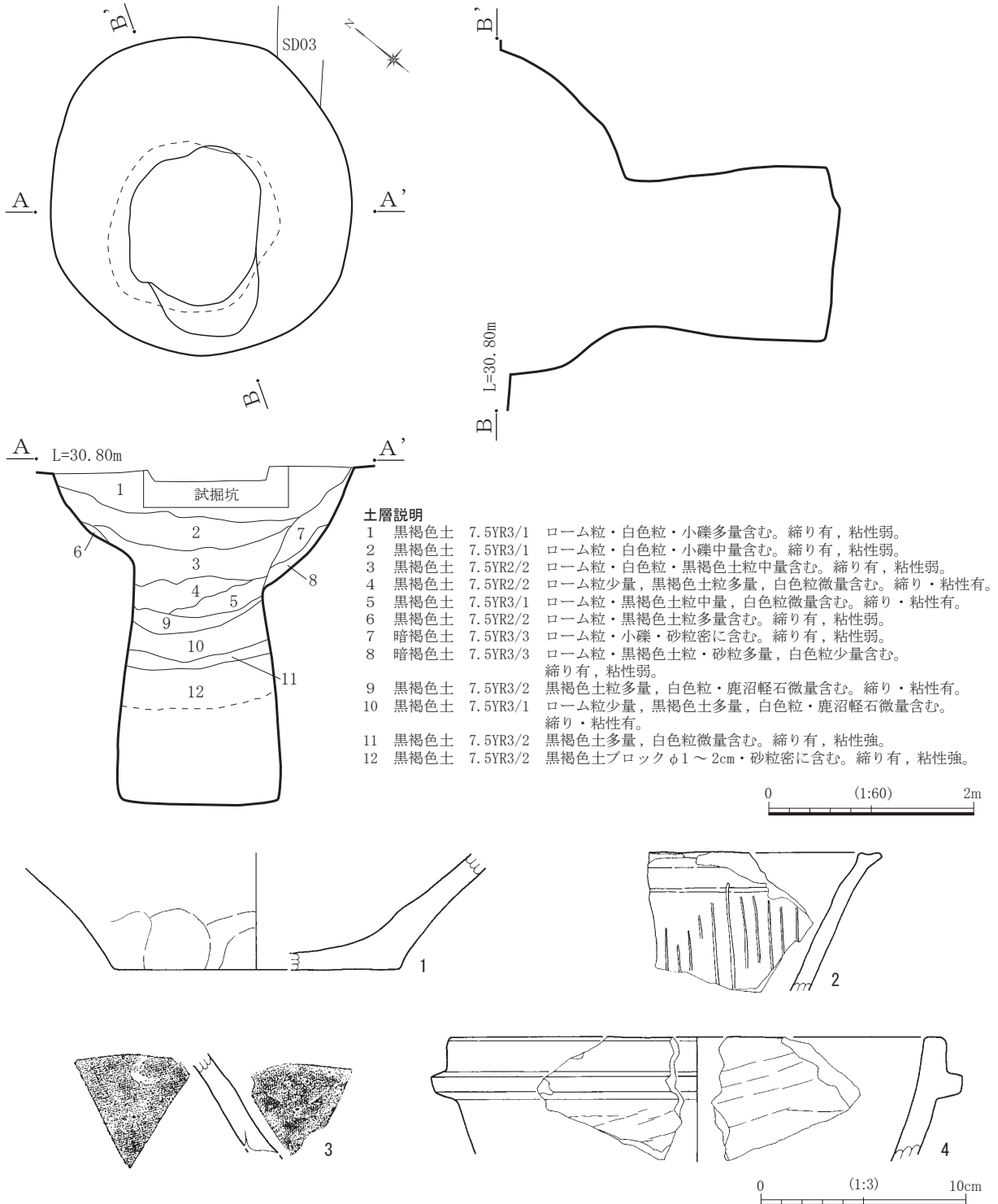
SE04 (第48図, 第12表, 図版14・27・28)

調査区北西部, G・H-1・2 グリッドに位置する。SI04, SD03と重複し, SD03より古くSI04よりも新しい。形態は円形を基調とする素掘りの井戸で, ハードローム層を掘り抜き粘土層まで達し, 標高28m地点で湧水する。主軸方向はN-30°-Eを示し, 開口部は東西2.98m, 南北3.16mを測る。上面は挿鉢状に掘り込み, 下部を直方形に穿つ。下部の形態から木質の残存は確認できないが, 井戸枠が設けられていた可能性もある。ただ, 壁は水の影響による崩落が激しいので, 痕跡は捉えられておらず, 水溜の形状もまた不明である。底面は東西1.80m, 南北1.71m, 確認面から基底面までの深さ3.30mを計測する。覆土は埋戻しと判断されるもので, 黒褐色土が主体である。上部に小



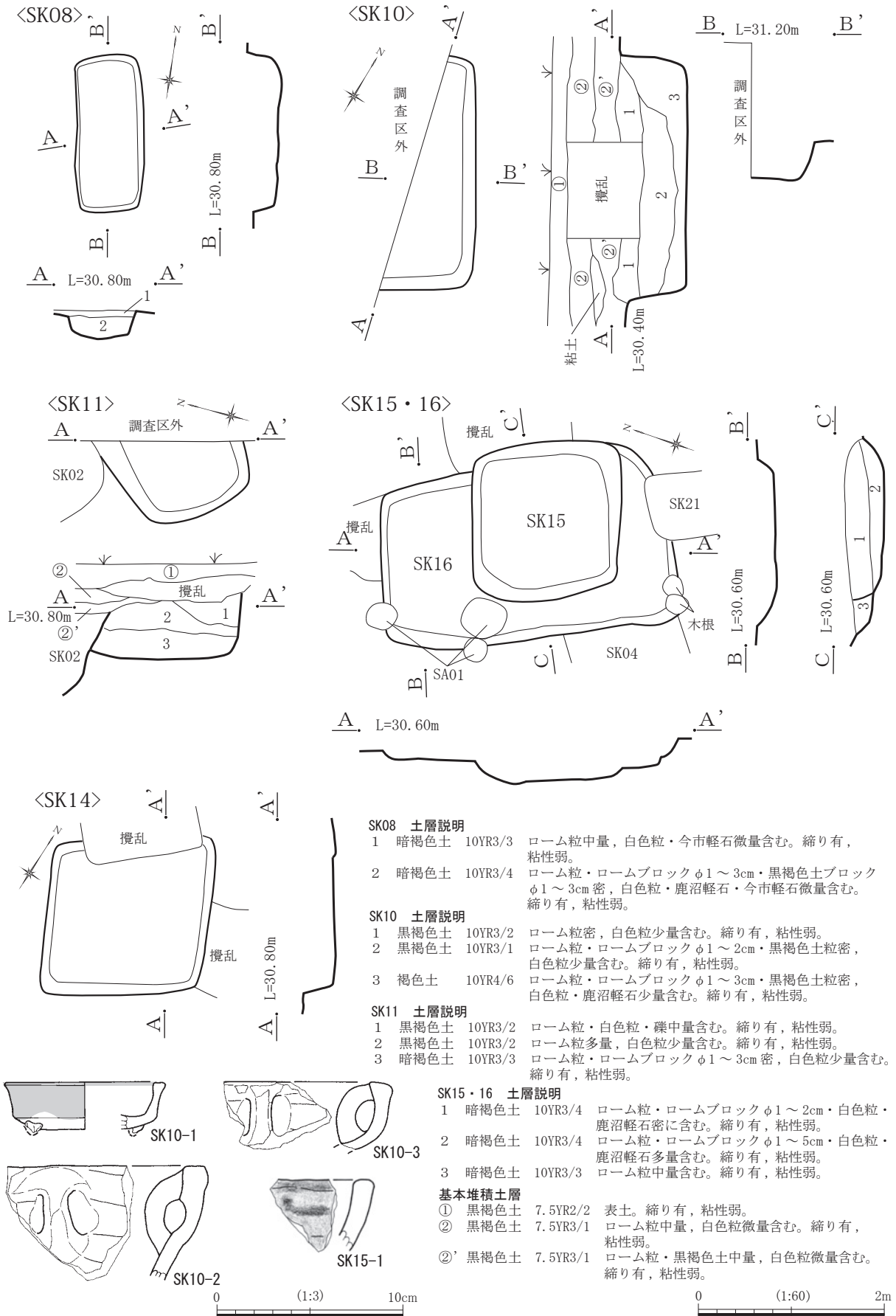
第47図 SE03, 出土遺物

礫の含有が顕著で、他の井戸と同じく閉塞されていた。本期の遺物は常滑系の捏鉢1点・甕1点、土師質土器小皿1点・内耳鍋2点・鉢1点、滑石製石鍋1点である。滑石製石鍋は北九州産の可能性があり、13世紀末～14世紀初頭に比定され、覆土上層の発見である。下層からは常滑製品が出土している。時期は遺物に時間幅が確認されるものの、閉塞の状況から17世紀前半とみられる。



第48図 SE04, 出土遺物

第3章 調査の成果



第49図 SK08・10・11・14・15・16, SK10・15 出土遺物

(9) 土坑

SK08 (第49図, 図版13)

調査区西部, D・E-2グリッドに位置する。台地整形時の構築である。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり1.67m, 短軸0.74m, 深さは0.35mを測る。主軸方向はN-9°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロック・黒褐色土ブロックの含有が顕著な暗褐色土を主体とした人為堆積である。遺物は出土していない。時期は遺構間の重複関係から17世紀前半とみられる。

SK10 (第49図, 第12表, 図版15・28)

調査区西部, F-1・2グリッドに位置し, 1/2以上が調査区外となる。台地整形後の整地層を掘り込む。SK26と重複しており, 本跡が新しい。平面は方形と判断され, 規模は南北2.51m, 東西0.98m以上, 調査区際の土層断面にみる深さは0.69mを測る。主軸方向は南北に仮定するとN-30°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。覆土は下層に褐色土が堆積し, 黒褐色土が覆う人為堆積である。本期の遺物は瀬戸・美濃系灰釉香炉1点, 土師質土器の内耳鍋3点が出土している。時期は遺物から17世紀後半である。

SK11 (第49図, 図版15)

調査区西部, E-2グリッドに位置し, 1/2が調査区外となる。地下式坑のSK02と重複しており, 本跡が古い。平面は検出された二カ所の隅角が直角となることから方形と判断される。規模は東西1.30m以上, 南北1.35m, 調査区際の土層断面にみる深さは0.60mを測る。主軸方向はN-50°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土は下層にローム粒・ロームブロックを密に含んだ暗褐色土, 上層にローム粒を多量に含んだ黒褐色土が堆積する。遺物は出土していない。時期は遺構間の重複関係から15世紀後半以前の中世後期とみられる。

SK12 (第40図, 図版12)

調査区西部, E-2グリッドに位置し, 大半が地下式坑のSK03に壊されている。平面は検出された一辺が直線状となることから方形と推測される。規模は東西0.50m以上, 南北0.65m以上, 深さは0.87mを測る。主軸方向は不明である。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム粒・白色粒を含んだ黒褐色土を主体とする。遺物は出土していない。時期は遺構間の重複関係から15世紀後半以前の中世後期とみられる。

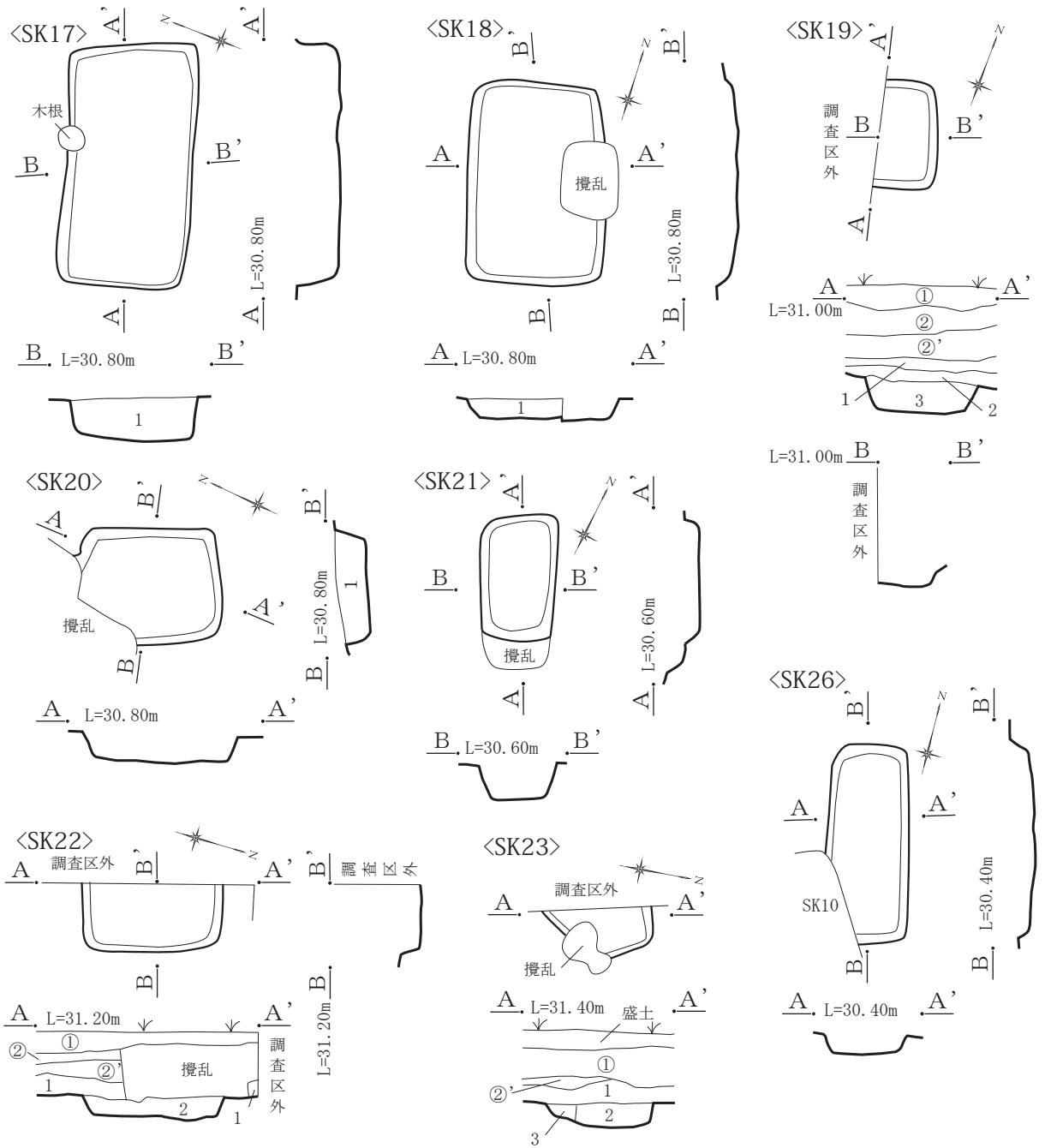
SK13 (第40図, 図版12)

調査区西部, E・F-2グリッドに位置し, 大半が地下式坑のSK01に壊されている。平面は検出された隅角が直角となることから方形と推測される。規模は東西1.10m以上, 南北1.10m以上, 深さは0.50mを測る。主軸方向は不明である。底面は平坦で, 壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は遺構間の重複関係から15世紀後半以前の中世後期とみられる。

SK14 (第49図, 図版15)

調査区西部, F-2グリッドに位置する。SX01, SA01, SD01と重複し, 本跡が新しいが北部分を攪乱される。平面は方形で, 規模は長軸を東西にとり1.80m, 短軸1.76m, 深さは0.36mを測る。主軸方向はN-56°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は土師質土器内耳鍋2点が出土した。時期は覆土の状況と遺物から17世紀後半とみられる。

第3章 調査の成果



SK17・18 土層説明

1 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロックφ1～3cm・黒褐色土ブロックφ1～3cm密，白色粒・鹿沼軽石・今市軽石微量含む。締り有，粘性弱。

SK19 土層説明

1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量，白色粒少量含む。締り有，粘性弱。整地層。
 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量，白色粒微量含む。締り有，粘性弱。整地層。
 3 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロックφ1～3cm・黒褐色土ブロックφ1～3cm密，白色粒・鹿沼軽石微量含む。締り有，粘性弱。

SK20 土層説明

1 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒中量，白色粒微量含む。締り有，粘性弱。

SK22 土層説明

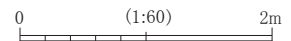
1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量，白色粒微量含む。締り有，粘性弱。整地層。
 2 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロックφ1～3cm・黒褐色土ブロックφ1～3cm密に含む。締り有，粘性弱。

SK23 土層説明

1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量，白色粒・小礫微量含む。締り有，粘性弱。整地層。
 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量，白色粒少量含む。締り有，粘性弱。
 3 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量，ロームブロックφ1～2cm・白色粒少量含む。締り有，粘性弱。

基本堆積土層

① 黒褐色土 7.5YR2/2 表土。締り有，粘性弱。
 ② 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒中量，白色粒微量含む。締り有，粘性弱。
 ②' 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・黒褐色土中量，白色粒微量含む。締り有，粘性弱。



第50図 SK17・18・19・20・21・22・23・26

SK15 (第49図, 第12表, 図版15・28)

調査区西部, E-2 グリッドに位置する。SX01, SK16と重複し, 最も新しい。平面は正方形で, 規模は長軸を東西にとり1.70m, 短軸1.62m, 深さは最も遺存する東壁を基準にすると0.44mを測る。主軸方向はN-65°-Eを示す。底面は多少の起伏があり, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロック・白色粒・鹿沼軽石の含有が顕著な暗褐色土である。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋が1点出土した。時期は遺物から17世紀後半である。

SK16 (第49図, 図版15)

調査区西部, E-2 グリッドに位置する。SX01, SA01, SK15・21と重複し, 台地整形前の構築で最も古い。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり3.15m, 短軸1.89m, 深さは最も遺存する南壁を基準にすると0.28mを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。底面は平坦とみられ, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土である。遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から16世紀代としたい。

SK17 (第50図, 図版15)

調査区西部, E-2 グリッドに位置する。台地整形時の構築である。平面は長方形で, 規模は長軸を東西にとり2.24m, 短軸1.16m, 深さは0.40mを測る。主軸方向はN-69°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は下端にやや丸味をもち垂直に立ち上がる。覆土は暗褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土から17世紀前半とみられる。

SK18 (第50図, 図版15)

調査区西部, E-2 グリッドに位置する。台地整形前の構築である。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり1.89m, 短軸1.29m, 深さは0.17mを測る。主軸方向はN-22°-Wを示す。底面は凹凸はあるものの全体には平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土は暗褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土から16世紀代としたい。

SK19 (第50図, 図版16)

調査区西部, F-1 グリッドに位置し, 1/2以上が調査区外となり, 台地整形遺構(SX01)と同時期で整地層が覆う。平面は方形と判断され, 規模は南北1.02m, 東西0.56m以上, 調査区際の土層断面にみる深さは0.28mを測る。主軸方向は南北に仮定するとN-20°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロック・黒褐色土ブロックを含む暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から17世紀前半とみられる。

SK20 (第50図, 図版16)

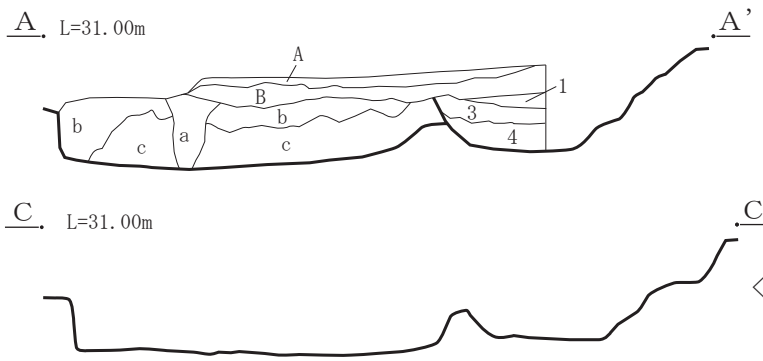
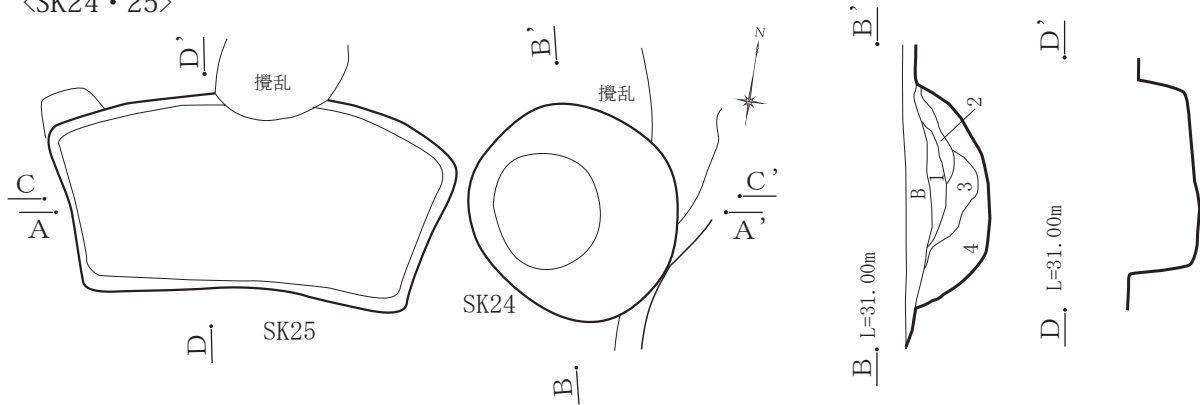
調査区西部, F-2 グリッドに位置する。SD01と重複し, 本跡が新しい。平面は正方形と判断され, 規模は長軸を南北にとり1.30m, 短軸1.10m, 深さは0.31mを測る。主軸方向はN-25°-Wを示す。底面は多少の凹凸があり, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土は暗褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から17世紀後半とみられる。

SK21 (第50図, 図版15)

調査区西部, E-2 グリッドに位置する。SX01, SK16と重複し, 最も新しい。南部分が攪乱される。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり1.25m, 短軸0.70m, 深さは0.33mを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から17世紀後半とみられる。

第3章 調査の成果

<SK24・25>



SK24 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, 白色粒・小礫少量含む。締り有, 粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, 白色粒微量含む。締り有, 粘性弱。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, 白色粒・小礫少量含む。締り有, 粘性弱。
- 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量, 白色粒・小礫少量含む。締り有, 粘性弱。

SK25 土層説明

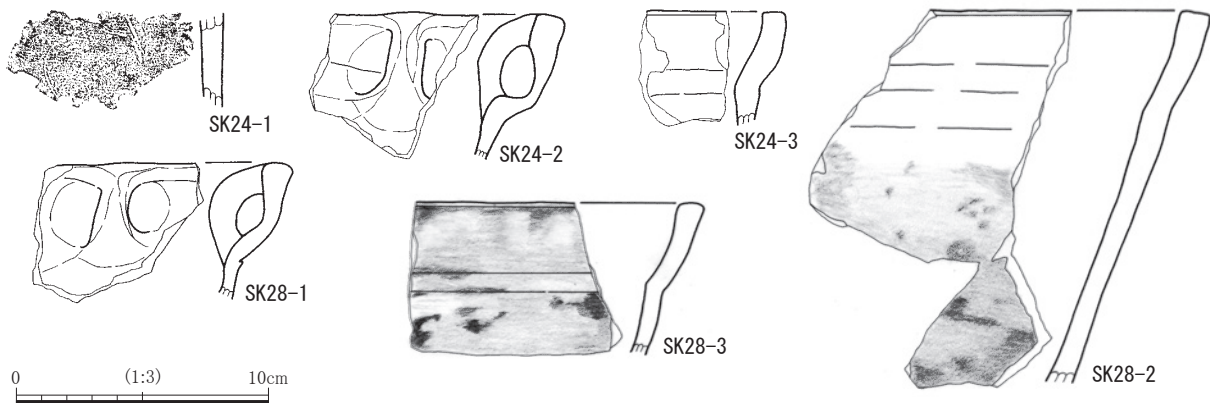
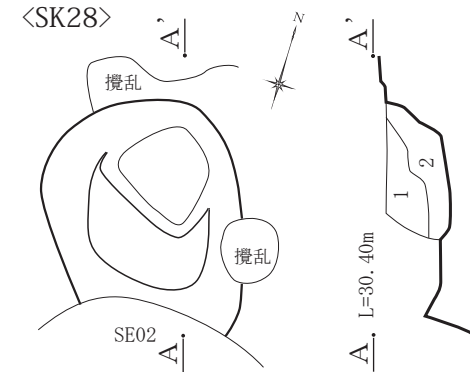
- a 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量, ロームブロックφ1~2cm密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- b 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- c 褐色土 10YR4/6 ローム粒多量, ロームブロックφ1~2cm密, 白色粒微量含む。締り・粘性有。

SK28 土層説明

- 1 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。

整地層 土層説明

- A 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量, 白色粒・小礫少量含む。締り有, 粘性弱。
- B 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量, 白色粒・小礫少量含む。締り有, 粘性弱。



第51図 SK24・25・28, SK24・28 出土遺物

SK22 (第50図, 図版16)

調査区西部, E-1 グリッドに位置する。1/2以上が調査区外となる。台地整形時の構築で, 整地層が覆う。平面は方形と推測され, 規模は南北1.31m, 東西0.66m以上, 深さは0.18mを測る。主軸方向は南北に仮定するとN-14°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロック・黒褐色土ブロックの含有が顕著な暗褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は構築層位から17世紀前半とみられる。

SK23 (第50図, 図版16)

調査区西部, E-2 グリッドに位置し, 1/2以上が調査区外となる。台地整形時の構築で, 整地層が覆う。平面は方形と推測され, 規模は南北0.90m, 東西0.50m以上, 調査区際の土層断面にみる深さは0.23mを測る。主軸方向は南北に仮定するとN-28°-Wを示す。底面は平坦で, 南壁は緩やかに立ち上がるが他は垂直である。覆土は黒褐色土を主体とし, ローム粒の含有が顕著である。遺物は出土していない。時期は構築層位から17世紀前半とみられる。

SK24 (第51図, 第12表, 図版16・28)

調査区西部, D-3 グリッドに位置する。台地整形前の構築で, 整地層が覆う。SK25と重複し本跡が新しい。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり1.73m, 短軸1.68m, 深さは東壁を基準にすると0.81mを測る。主軸方向はN-13°-Wを示す。底面は中央が最も深く播鉢状となり, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・白色粒・小礫を含有した黒褐色土を主体とする。本期の遺物は常滑系甕1点, 土師質土器の内耳鍋5点が出土した。時期は遺物から16世紀前半とみられる。

SK25 (第51図, 図版16)

調査区西部, D-2 グリッドに位置する。台地整形前の構築であり, 整地層が覆う。SK24と重複し本跡が古い。平面は長方形であるが, 北壁は緩やかに弧を描く。規模は長軸を東西にとり2.97m, 短軸1.54m, 深さは0.42mを測る。主軸方向はN-81°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は上層に黒褐色土, 下層に褐色土が確認され, 全体にローム粒・ロームブロックの含有が顕著で人為堆積と判断される。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋1点が出土した。時期は遺物と遺構間の重複関係から15世紀後半~16世紀とみられる。

SK26 (第50図, 図版16)

調査区西部, F-1 グリッドに位置する。SD01, SK10と重複し, SD01より新しくSK10よりも古い。平面は長方形と判断され, 規模は長軸を南北にとり1.82m, 短軸0.75m, 深さは0.17mを測る。主軸方向はN-15°-Wを示す。底面は多少の凹凸はあるが全体には平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な暗褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土から17世紀後半としておく。

SK28 (第51図, 第12表, 図版17・28)

調査区西部, F-2 グリッドに位置する。SD01, SE02と重複し, 最も古い構築である。平面は楕円形で, 規模は長軸を南北にとり1.94m以上, 短軸1.54m, 深さは北壁を基準に0.50mを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。底面は北部分が最深部となる。覆土はローム粒・白色粒を含む暗褐色土が上下二層に分層される。本期の遺物は土師質土器の鍋1点・内耳鍋9点が出土した。時期は内面に稜をもつ深い内耳鍋から16世紀前半とする。

SK29 (第52図, 第12・13表, 図版17・28)

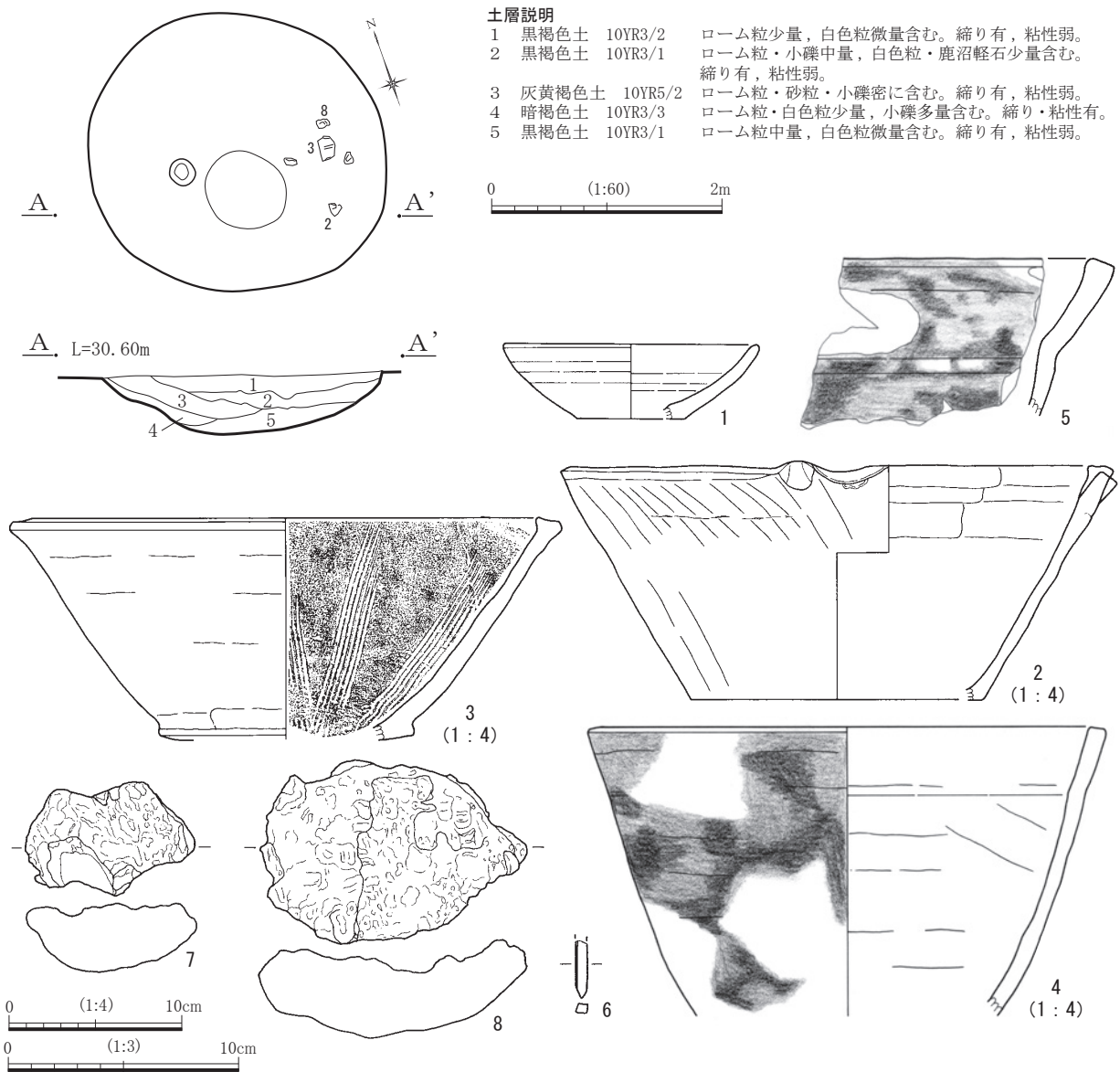
調査区北西部, G-1 グリッドに位置する。SI05と重複し, 本跡が新しい。平面は円形で, 規模

第3章 調査の成果

は長軸を南北にとり2.64m、短軸2.40m、深さは0.50mを測る。主軸方向はN-16°-Wを示す。底面は中央が最も深く播鉢状となる。壁は緩やかに立ち上がり、直径22cm、深さ24cmのピットを伴う。覆土は底面をローム粒・白色粒を含有した黒褐色土が覆い、そのうえに小礫を含んだ灰黄褐色土、暗褐色土が堆積する。形態・覆土ともにSK24と類似する。本期の遺物は土師質土器小皿1点・播鉢2点・内耳土鍋12点・片口鉢1点、鉄釘1点、鉄滓2点で、何れも覆土上層の出土であった。時期は遺物に新相と古相がみられるが、16世紀前半～中葉で後半には機能を終えたとしておきたい。

SK30 (第53図, 図版17)

調査区西部, D-3グリッドに位置し, 2/3が調査区外となる。平面は円形と推測される。規模は東西0.42m以上, 南北1.24m, 調査区際の土層断面にみる深さは0.48mを測る。主軸方向は不明である。底面は起伏があり, 壁は垂直気味に立ち上がる。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土と構築層位からSK31と同じ17世紀前半の可能性が高い。



第52図 SK29, 出土遺物

SK31 (第53図, 第13表, 図版17・28)

調査区西部, D-3 グリッドに位置し, 2/3が調査区外となる。平面は楕円形と推測される。規模は東西1.23m以上, 南北0.66m以上, 調査区際の土層断面にみる深さは0.45mを測る。主軸方向は不明である。底面は起伏があり, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋2点の出土である。時期は遺物から17世紀前半とみられる。

SK32 (第53図, 図版17)

調査区北部, H・I-1 グリッドに位置する。平面は長方形で, 規模は長軸を南北にとり0.94m, 短軸0.70m, 深さは0.16mを測る。主軸方向はN-42°-Eを示す。底面は多少の起伏があるものの全体には平坦で, 壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は黒褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は構築層位から近世とみられる。

SK33 (第53図, 図版17)

調査区北部, H-2 グリッドに位置する。1/2以上が調査区外となる。平面は長方形と判断され, 規模は東西2.35m, 南北0.75m以上, 深さは0.36mを測る。主軸方向は東西に仮定すとN-46°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は垂直気味に立ち上がり, 西壁下に直径40cm, 深さ35cmのピットを伴う。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な暗褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土から17世紀後半頃とみられる。

SK36 (第53図, 図版17)

調査区北東部, G-4 グリッドに位置し, 1/2が調査区外となる。平面は円形と推測される。規模は東西0.96m, 南北0.44m以上, 調査区際の土層断面にみる深さは0.57mを測る。主軸方向は不明である。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。覆土は黒褐色土が上下二層に分層される。本期の遺物は出土していない。時期は構築層位から近世とみられる。

SK39 (第53図, 図版18)

調査区東部, D-7 グリッドに位置し, 北部分が調査区外となる。平面は円形と判断され, 規模は長軸を南北にとり0.98m以上, 短軸0.92m, 深さは0.13mを測る。主軸方向はN-5°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土の単層である。遺物は出土していない。時期は形態と覆土から近世とみられる。

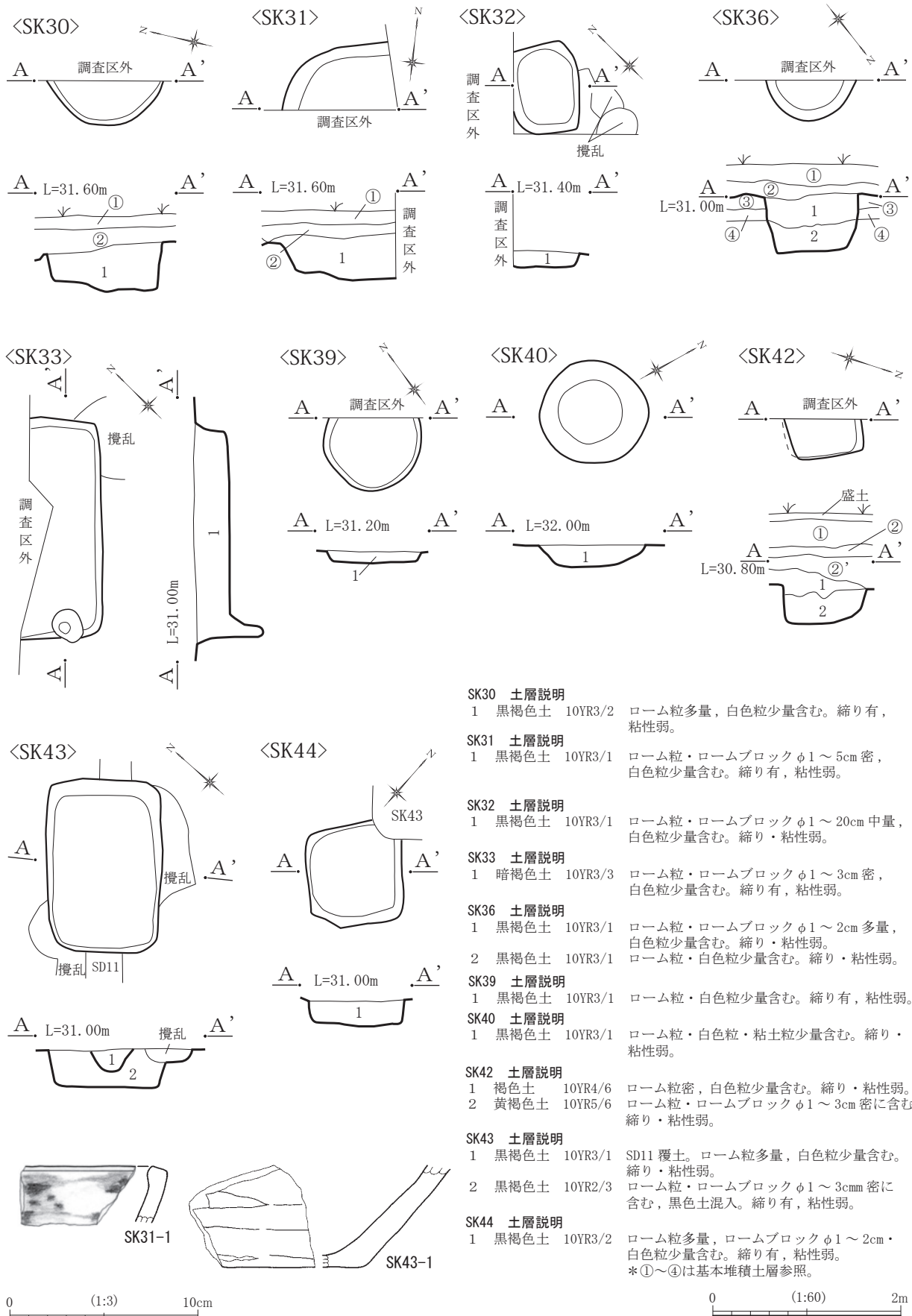
SK40 (第53図, 図版18)

調査区南部, A-8 グリッドに位置する。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり1.16m, 短軸1.10m, 深さは0.23mを測る。主軸方向はN-29°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がるが, 全体ではやや播り鉢状となっている。覆土はローム粒・白色粒・粘土粒を少量含んだ黒褐色土の単層である。本期の遺物は瀬戸・美濃系天目茶碗の体部細片が1点出土している。時期は覆土と遺物から近世とみられる。

SK42 (第53図, 図版18)

調査区西部, D-2 グリッドに位置し, 1/2以上が調査区外となる。台地整形時の構築で, 整地層が覆う。平面は方形と推測され, 規模は南北0.80m, 東西0.45m以上, 深さは0.34mを測る。主軸方向は南北に仮定するとN-20°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は下端に丸味をもって垂直に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黄褐色土の単層で人為な堆積である。本期の遺物は出土していない。時期は構築層位から17世紀前半とみられる。

第3章 調査の成果



- SK30 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- SK31 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~5cm密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- SK32 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~20cm中量, 白色粒少量含む。締り・粘性弱。
- SK33 土層説明**
 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm密, 白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- SK36 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロックφ1~2cm多量, 白色粒少量含む。締り・粘性弱。
 2 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・白色粒少量含む。締り・粘性弱。
- SK39 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
- SK40 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・白色粒・粘土粒少量含む。締り・粘性弱。
- SK42 土層説明**
 1 褐色土 10YR4/6 ローム粒密, 白色粒少量含む。締り・粘性弱。
 2 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒・ロームブロックφ1~3cm密に含む。締り・粘性弱。
- SK43 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/1 SD11 覆土。ローム粒多量, 白色粒少量含む。締り・粘性弱。
 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロックφ1~3mm密に含む, 黒色土混入。締り有, 粘性弱。
- SK44 土層説明**
 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量, ロームブロックφ1~2cm・白色粒少量含む。締り有, 粘性弱。
 *①~④は基本堆積土層参照。

第53図 SK30・31・32・33・36・39・40・42・43・44, SK31・43 出土遺物

SK43 (第53図, 第13表, 図版18・28)

調査区北部, H-3 グリッドに位置する。SD11, SK44と重複し, SK44よりも新しくSD11よりも古い。平面は長方形で, 規模は長軸を東西にとり1.82m, 短軸1.23m, 深さは0.37mを測る。主軸方向はN-47°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋1点・鉢1点が出土した。時期はやや深い内耳鍋が得られていることから16世紀代とみられる。

SK44 (第53図, 図版18)

調査区北部, H-3 グリッドに位置する。SK43と重複し, 本跡が古い。平面は正方形で, 規模は長軸を南北にとり1.09m, 短軸0.99m, 深さは0.29mを測る。主軸方向はN-43°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から16世紀以前とみられる。

SK46 (第54図, 第13表, 図版18・28)

調査区北部, H-1 グリッドに位置する。大半が調査区外となり, 奈良・平安時代のSI04, 中・近世のSD02と重複している。北部分がSD02に壊され遺存状態は悪い。平面は方形と推測される。規模は東西0.95m以上, 南北0.60m以上, 調査区際の土層断面にみる深さは0.36mを測る。主軸方向は不明である。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム粒を多量に含んだ黒褐色土の単層である。本期の遺物は土師質土器の内耳鍋1点と底面から景德元寶・天聖元寶・熙寧元寶・元豊通寶・元祐通寶など16枚の銭貨が出土した。時期は永樂通寶・宣徳通寶を含まないことから15世紀後半とみられる。

SK55 (第54図, 図版18)

調査区北部, H-2 グリッドに位置する。SI04と重複し, 本跡が新しい。平面は円形で, 規模は長軸を東西にとり1.09m, 短軸0.92m, 深さは0.27mを測る。主軸方向はN-59°-Wを示す。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックを含んだ黒褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土から近世とみられる。

SK56 (第54図, 図版19)

調査区北部, H-2 グリッドに位置する。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり0.95m, 短軸0.86m, 深さは0.22mを測る。主軸方向はN-7°-Eを示す。底面は凹凸があり, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とし, 底面を暗褐色土が覆う。遺物は出土していない。時期は形態と覆土から近世とみられる。

SK57 (第54図, 図版19)

調査区北部, H-2 グリッドに位置する。SK59と重複し, 本跡が新しい。平面は楕円形で, 規模は長軸を南北にとり1.15m, 短軸0.90m, 深さは0.25mを測る。主軸方向はN-15°-Eを示す。底面は平坦で, 壁は下端に丸味をもって緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土から近世とみられる。

SK58 (第54図, 図版19)

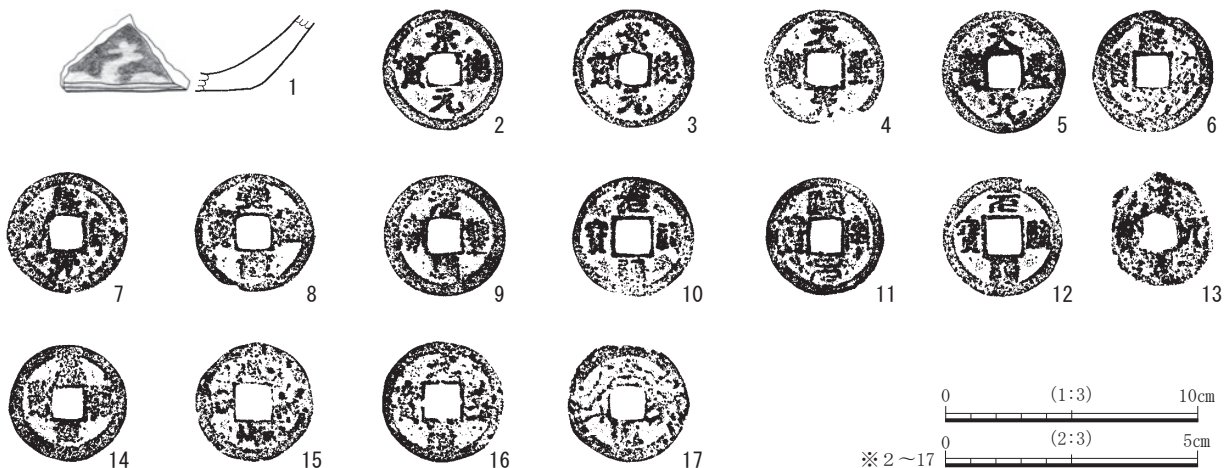
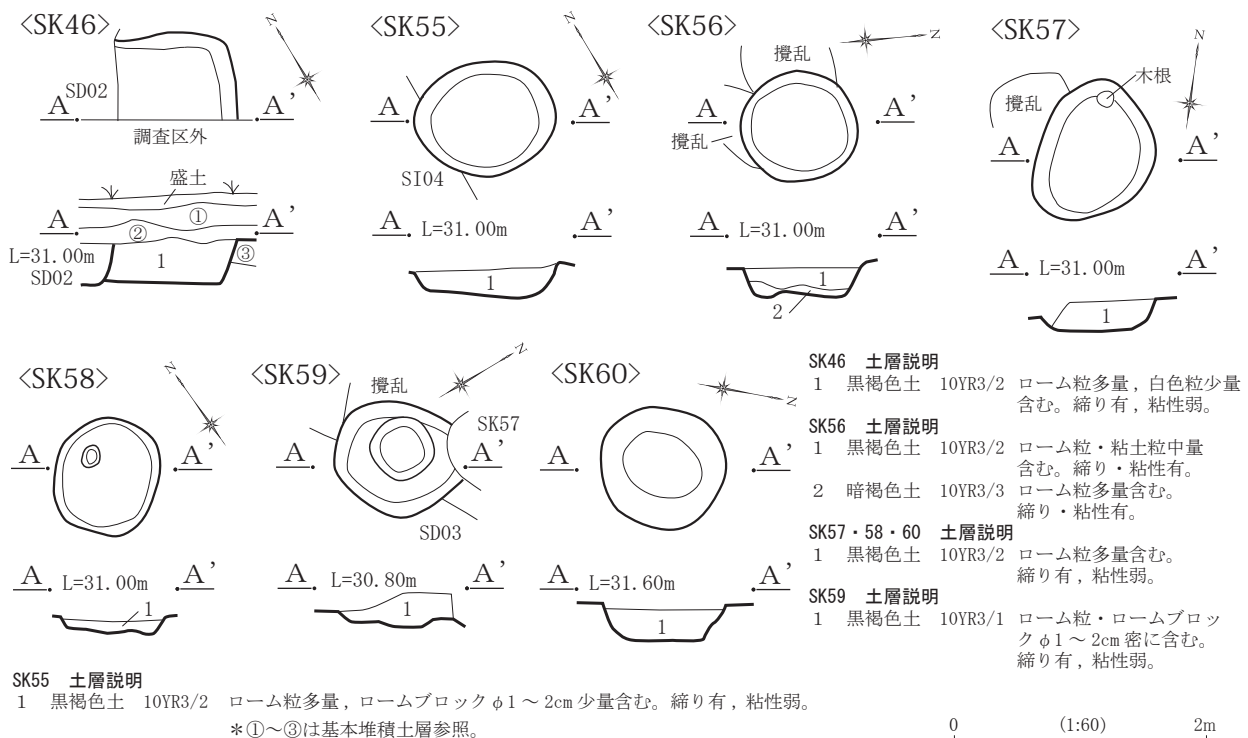
調査区北部, H-2 グリッドに位置する。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり0.90m, 短軸0.82m, 深さは0.12mを測る。主軸方向はN-43°-Eを示す。底面は凹凸があり, 長軸20cmの浅い掘り込みを伴う。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土から近世とみられる。

SK59 (第54図, 図版19)

調査区北部, H-2 グリッドに位置する。SK57, SD03と重複し, 最も古い。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり1.06m, 短軸0.88m, 深さは0.15mを測る。主軸方向はN-33°-Eを示す。底面は平坦で, 中央やや西側が一段低くなり, 壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒・ロームブロックの含有が顕著な黒褐色土の単層で人為堆積である。遺物は出土していない。時期は覆土と遺構間の重複関係から近世とみられる。

SK60 (第54図, 図版19)

調査区南東部, D-8 グリッドに位置する。平面は円形で, 規模は長軸を南北にとり1.00m, 短軸0.95m, 深さは0.30mを測る。主軸方向はN-10°-Wを示す。底面は平坦であるが, 壁は緩やかに立ち上がり, 全体では播鉢状の印象をもつ。覆土はローム粒の含有が顕著な黒褐色土の単層である。本期の遺物は出土していない。時期は覆土から近世とみられる。



第54図 SK46-55-56-57-58-59-60, SK46 出土遺物

(10) ピット

調査では、この時期の遺構に伴わない単独のピットが30本検出された。調査区北部のI-3、西部のG・F-1、南部のB-6グリッドに集中しているが、規則性はうかがわれず、建物などの構築物を復元することはできなかった。形状・規模の詳細は表に記載したが、平面は円形基調で、断面形は筒状と杭状が多い。規模は長軸24～86cm、深さ25～91cmに収まるが、長軸40～60cm台、深さ40cm台にまとまりをみせる。覆土は黒褐色土を主体とし、P02・05・16・17・19・20・26では柱痕が観察される。本期の遺物は出土していない。時期はSB06などと覆土の比較によって中・近世の所産と判断した。

第3表 中・近世ピット一覧表

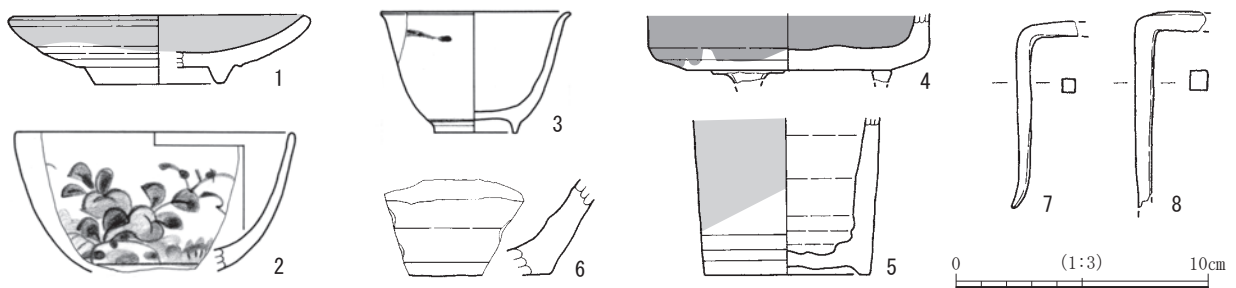
〈 〉は残存値 単位= cm

| 遺構名 | 位置 | 平面形態 | 断面形 | 長軸×短軸×深さ | 主な覆土 | 遺構名 | 位置 | 平面形態 | 断面形 | 長軸×短軸×深さ | 主な覆土 |
|-----|-----|------|-----|------------|------|-----|-------|------|-----|------------|------|
| P01 | E-2 | 楕円形 | 杭状 | 58×40×68 | 暗褐色土 | P16 | B-6 | 円形 | 筒状 | 43×36×41 | 黒褐色土 |
| P02 | E-2 | 円形 | 杭状 | 41×38×46 | 暗褐色土 | P17 | B-6 | 円形 | 筒状 | 57×52×43 | 黒褐色土 |
| P03 | E-2 | 円形 | 杭状 | 27×25×59 | 暗褐色土 | P18 | F-6 | 円形 | 皿状 | 68×55×27 | 暗褐色土 |
| P04 | F-1 | 円形 | 杭状 | 25×25×46 | 黒褐色土 | P19 | G-4・5 | 円形 | 筒状 | 38×32×46 | 黒褐色土 |
| P05 | F-1 | 円形 | 杭状 | 24×23×51 | 黒褐色土 | P20 | G-4・5 | 円形 | 筒状 | 60×55×64 | 黒褐色土 |
| P06 | G-1 | 円形 | 筒状 | 62×61×36 | 黒褐色土 | P21 | H-5 | 円形 | 杭状 | 54×44×53 | 黒褐色土 |
| P07 | G-1 | 円形か | 杭状 | 30×〈17〉×35 | 黒褐色土 | P22 | D-3 | 円形 | 杭状 | 43×37×46 | 黒褐色土 |
| P08 | G-1 | 円形か | 杭状 | 25×〈18〉×75 | 黒褐色土 | P23 | I-4 | 円形 | 筒状 | 55×51×80 | 黒褐色土 |
| P09 | F-1 | 円形 | 杭状 | 28×27×43 | 黒褐色土 | P24 | I-4 | 方形 | 筒状 | 40×39×75 | 黒褐色土 |
| P10 | F-1 | 円形 | 杭状 | 25×22×47 | 黒褐色土 | P25 | H-4 | 円形 | 筒状 | 56×46×54 | 黒褐色土 |
| P11 | B-6 | 円形 | 筒状 | 70×67×60 | 黒褐色土 | P26 | H-3 | 円形 | 筒状 | 57×51×91 | 黒褐色土 |
| P12 | B-6 | 円形 | 筒状 | 58×54×44 | 黒褐色土 | P27 | H-4 | 円形か | 筒状 | 62×〈35〉×25 | 黒褐色土 |
| P13 | B-6 | 円形 | 筒状 | 86×77×78 | 黒褐色土 | P34 | I-3 | 円形 | 杭状 | 52×49×46 | 黒褐色土 |
| P14 | B-6 | 円形 | 筒状 | 50×46×43 | 黒褐色土 | P35 | I-3 | 円形 | 杭状 | 53×50×41 | 黒褐色土 |
| P15 | B-6 | 円形か | 杭状 | 42×〈16〉×41 | 黒褐色土 | P36 | I-3 | 円形 | 杭状 | 36×32×57 | 黒褐色土 |

(11) 遺構外出土遺物

本調査では、中・近世に帰属するものの、遺構に伴わない遺物がC-3・4グリッドを中心として少量出土している。本項ではその中から、特徴的な遺物や、同じ器種や器形が遺構内から出土せず、掲載が必要と判断した資料を提示する。

1は瀬戸・美濃系の灰釉皿で、釉は薄く見込みと畳付に重ね焼きの痕跡を残す。17世紀前半の製品である。2・3は肥前系磁器の碗と小杯で、3の畳付に離れ砂が付着し、2は18世紀代、3は17世紀後半に比定される。4は瀬戸・美濃系の鉄釉を施した香炉で17世紀の製品である。5は瀬戸・美濃系の徳利の底部片で灰釉を施す。6の常滑系は内面がざらつくことから甕とした。7・8の鉄製品の銚は奈良・平安時代に帰属する可能性もあるが、遺存の状態から本期としたものである。



第55図 中・近世遺構外出土遺物

第3章 調査の成果

第4表 縄文時代遺構外, SI01・02 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|---------|------|-------------|---|---|--|--------------|
| 縄文時代遺構外 | 1 | 縄文土器 深鉢 | —・—・〈4.1〉 | 口縁部片。単節縄文(RL)を地文とする。口縁直下に隆帯を貼り付け後、1条の沈線を巡らし内面に稜をもつ。加曽利E I式。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②良好 ③明赤褐色(5YR5/8) | B-6 グリッド |
| | 2 | 縄文土器 深鉢 | —・—・〈5.8〉 | 胴部片。単節縄文(LRタテ回転)を施文。加曽利E I～II式。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③外面:にぶい黄褐色(10YR6/4) 内面:橙色(7.5YR6/6) | SB06 P16 |
| | 3 | 縄文土器 深鉢 | —・—・〈4.0〉 | 胴部片。単節縄文(LRタテ回転)を地文に磨消懸垂文を垂下させる。加曽利E IV式か。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②普通 ③外面:にぶい黄褐色(10YR6/4) 内面:橙色(7.5YR6/6) | SE03 上層 |
| | 4 | 石器 石鏃 | 全長<2.6>, 幅<1.2>, 厚さ0.4, 重さ<0.9>g。 ほぼ完形, 先端部欠損。凹基無茎鏃。砂岩製か。 | | | SI05 2区下層 |
| | 5 | 石器 打製石斧 | 全長11.0, 幅7.2, 厚さ2.2, 重さ189.7g。 完形。分銅形。砂岩製。 | | | SX01 |
| | 6 | 石器 磨石 | 全長15.5, 幅10.3, 厚さ5.5, 重さ<948.2>g。 ほぼ完形。全面をよく使用する。 | | | SX01 |
| | 7 | 石器 磨石 | 全長12.2, 幅8.2, 厚さ5.4, 重さ776.2g。 完形。全面をよく使用する。 | | | SB01 P10 |
| SI01 | 1 | 土師器 坏 | 13.7・7.0・4.7 | 1/2存。体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切りによる切離し後、周縁部回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・チャート・白色粒・黒色粒・白色針状物質中量 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR6/4) | カマド |
| | 2 | 土師器 高台付皿 | (13.8)・—・〈2.6〉 | 1/3存。体部外面ロクロナデ, 下端回転ヘラケズリ。内面ミガキ。底部高台の接合痕が条線状に残る。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/6) | 3区 |
| | 3 | 土師器 小型壺 | (8.6)・5.2・10.2 | 2/3存。口縁部ヨコナデ。体部外面横位のヘラケズリ。内面ヘラナデ, 煤付着。 | ①大粒の長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR5/3) | カマド |
| | 4 | 土師器 小型甕 | 15.2・9.4・15.4 | 3/5存。体部ロクロナデ, 外面下端横位のヘラケズリ。口縁部煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③灰褐色(7.5YR4/2) | 床上 11cm |
| | 5 | 土師器 小型甕 | (13.8)・9.2・14.6 | 2/3存。体部ロクロナデ。外面下端横位のヘラケズリ。内面下端ヘラナデ。口縁部煤付着。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/3) | カマド |
| | 6 | 土師器 甕 | (19.8)・—・〈10.5〉 | 口縁部～胴部片。ロクロナデ。口縁部及び胴部の一部煤付着。 | ①長石・石英・チャート・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③赤褐色(5YR4/6) | 4区 |
| | 7 | 土師器 小型甕 | 13.8・7.4・16.8 | ほぼ完形。口縁部ヨコナデ。胴部下半横位のヘラケズリ。内面ヘラナデ。 | ①長石・白色粒中量 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR7/4) | カマド |
| | 8 | 土師器 甕 | (21.0)・—・〈11.5〉 | 口縁部～胴部片。口縁部ヨコナデ。胴部外面縦位のヘラケズリ。内面ヘラナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒多量 ②良好 ③黒褐色(7.5YR3/2) | カマド |
| | 9 | 土師器 甕 | —・8.5・〈11.7〉 | 1/3存。胴部外面中程縦位, 下端横位のヘラケズリ。内面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③暗褐色(7.5YR3/3) | カマド |
| | 10 | 須恵器 大甕 | —・—・〈9.5〉 | 肩部片。頸部ヨコナデ。胴部外面平行叩き。内面指頭圧痕。 | ①長石・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 上層 |
| | 11 | 瓦 平瓦 | 全長28.5, 狭端部幅25.5, 弧深5.6, 厚さ2.2, 重さ<2,840>g。2/3存。全長が短く隅角が失われていることから、隅角を打ち欠き隅切瓦とした可能性もある。凹面糸切り痕, 布目。凸面格子叩き後ナデ, 側・端面ケズリ。煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②未還元 ③にぶい褐色(7.5YR5/4) | カマド | |
| | 12 | 瓦 平瓦 | 全長<16.5>, 狭端部幅<15.0>, 厚さ3.0, 重さ<1,280>g。狭端部片。凹面布目。凸面格子叩き後ナデ, 端面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②未還元 ③にぶい褐色(7.5YR5/4) | 上層 | |
| SI02 | 1 | 土師器 坏 | (12.8)・6.0・4.2 | 2/3存。体部外面ロクロナデ, 下端回転ヘラケズリ。内面ミガキ。底部回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR5/3) | カマド |
| | 2 | 須恵器 高台付坏 | —・(8.0)・〈2.6〉 | 体部～底部片。体部ロクロナデ。底部高台を貼り付け, 高台とともにロクロナデ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒・黒色粒中量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y6/1) | 下層 |
| | 3 | 土師器 高台付皿 | (14.0)・—・〈2.2〉 | 1/3存。体部外面ロクロナデ。内面ミガキ。底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け。内面黒色処理。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR7/4) | 下層 |
| | 4 | 土師器 鉢 | (20.0)・—・〈5.0〉 | 口縁部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR5/4) | カマド |
| | 5 | 土師器 小型甕 | (12.0)・—・〈3.9〉 | 口縁部片。口縁部ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③橙色(7.5YR6/6) | 下層 |
| | 6 | 土師器 甕 | (18.7)・7.5・32.5 | 1/3存。口縁部ヨコナデ。胴部外面上半縦位, 下半横位のヘラケズリ。内面ヘラナデ。底部ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/6) | カマド |
| | 7 | 土師器 甕 | —・—・〈13.5〉 | 胴部片。外面平行叩き。内面剥離著しい。炭化痕。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②不良 ③にぶい黄褐色(10YR5/4) | 床上 24cm |
| | 8 | 瓦 丸瓦 | 全長<9.6>, 幅<6.6>, 厚さ1.2, 重さ<149.8>g。破片。凸面ナデ, 側縁ケズリ。凹面ナデ, 側・端面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y4/1) | カマド | |
| | 9 | 瓦 丸瓦 | 全長<9.0>, 幅<6.7>, 厚さ2.5, 重さ<280.0>g。破片。凸面ナデ, 側縁ケズリ。凹面布目。側面ケズリ。 | ①長石・石英・砂粒・白色粒多量 ②還元 ③暗赤褐色(5YR3/3) | カマド | |

第5表 S102・03・04 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|-------|------|-------------|--|---|--|--------------------|
| SI 02 | 10 | 瓦 平瓦 | 全長<8.7>, 幅<5.0>, 厚さ2.6, 重さ<210.6>g。 破片。凹面布目。凸面縄叩き(5mm)。 | | ①長石・石英・チャート・白雲母・白色粒多量 ②未還元 ③橙色(7.5YR6/6) | 床上 21cm |
| | 11 | 鉄製品 釘 | 全長<4.9>, 幅0.7, 厚さ0.6, 重さ<7.8>g。 ほぼ完形, 頭部及び先端部欠損。角釘で先端は曲がる。 | | | 下層 |
| SI 03 | 1 | 須恵器 坏 | (12.0)・(8.0)・4.6 | 1/4存。体部ロクロナデ, 外面下端回転ヘラケズリ。底部 全面回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・チャート・白色粒・黒色粒中量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y6/1) | カマド |
| | 2 | 須恵器 高台付坏 | (11.8)・(7.0)・4.5 | 1/4存。体部ロクロナデ。底部高台を貼り付け, 高台とと もにロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②還元 ③褐色(5YR4/1) | 1区下層 |
| | 3 | 須恵器 高台付盤 | (20.3)・―・<2.5> | 口縁部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(7.5Y5/1) | カマド 1区上層 |
| | 4 | 土師器 小型甕 | (15.0)・―・<9.8> | 口縁部～胴部上半片。口縁部ヨコナデ。胴部外面横位の ヘラケズリ。内面ヘラナデ。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/3) | 床上 17cm |
| | 5 | 土師器 甕 | 20.0・―・<10.5> | 口縁部～胴部上半片。口縁部ヨコナデ。胴部内面ヘラナ デ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/3) | 床面 |
| | 6 | 土師器 甕 | ―・(9.5)・<10.0> | 胴部下半～底部片。胴部外面縦位のミガキ。内面ヘラナ デ。底部ヘラケズリ。 | ①長石・石英・チャート・白雲母・白色粒密 ②良好 ③暗褐色(7.5YR3/3) | カマド 床上 24cm |
| | 7 | 鉄製品 鎌 | 全長<13.1>, 幅3.3, 厚さ0.2, 重さ<42.7>g。 ほぼ完形, 先端部欠損。よく使い込まれている。 | | | 床面 |
| SI 04 | 1 | 須恵器 坏 | 14.6・9.8・4.8 | 2/3存。体部ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y6/1) | 床上 11cm |
| | 2 | 須恵器 坏 | (14.8)・(8.2)・4.7 | 1/3存。体部ロクロナデ。底部全面手持ちヘラケズリ。 | ①長石・石英・チャート・白色粒多量 ②還元 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 床面 |
| | 3 | 須恵器 坏 | (14.6)・(9.0)・4.4 | 1/3存。体部ロクロナデ, 外面下端回転ヘラケズリ。底部 全面回転ヘラケズリ後, 線刻。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 上層 |
| | 4 | 須恵器 高台付坏 | (14.8)・8.8・6.0 | 1/2存。体部ロクロナデ。底部高台を貼り付け, 高台とと もにロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 床上 13cm 2区上層 |
| | 5 | 須恵器 高台付坏 | ―・―・<2.9> | 1/3存。体部ロクロナデ, 外面下端回転ヘラケズリ。底部 高台を貼り付け, 高台とともにロクロナデ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 床上 25cm |
| | 6 | 須恵器 蓋 | ―・―・<2.4> | 1/3存。体部ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒中量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 床上 10cm |
| | 7 | 須恵器 蓋 | ―・―・<2.5> | 天井部片。ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒中量 ②還元堅緻 ③灰色(N4/) | 床上 18cm |
| | 8 | 須恵器 高坏 | ―・―・<5.8> | 脚部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y5/1) | 1区下層 |
| | 9 | 土師器 小型甕 | (12.8)・―・<5.7> | 口縁部片。ヨコナデ。 | ①大粒の長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③赤褐色(5YR4/6) | 1区下層 |
| | 10 | 土師器 甕 | ―・―・<5.7> | 口縁部片。ヨコナデ。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/6) | 2区下層 |
| | 11 | 須恵器 大甕 | (32.6)・―・<9.0> | 口縁部片。ヨコナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②還元堅緻 ③灰白色(10Y7/1) | 上層 |
| | 12 | 瓦 丸瓦 | 全長<7.3>, 幅<8.6>, 厚さ1.7, 重さ<155.5>g。 破片。有段式。凸面ナデ。凹面布目。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒密 ②還元 ③暗灰黄色(2.5Y5/2) | 床上 13cm | |
| | 13 | 瓦 丸瓦 | 全長<14.0>, 幅<4.0>, 厚さ1.5, 重さ<153.4>g。 破片。凸面ナデ。凹面糸切り痕, 布目。側・端面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③灰白色(5Y7/1) | 壁溝上 48cm | |
| | 14 | 瓦 平瓦 | 全長<9.0>, 幅<9.5>, 厚さ2.2, 重さ<271.0>g。 破片。凹面糸切り痕。凸面縄叩き(2～3mm)後ナデ。端面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②未還元 ③灰黄褐色(10YR5/2) | 2区下層 | |
| | 15 | 瓦 平瓦 | 全長<13.5>, 幅<11.0>, 厚さ1.5, 重さ<244.3>g。 破片。凹面布目, 側縁ケズリ。凸面縄叩き(2～3mm)。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元堅緻 ③灰黄色(2.5Y7/2) | P2 | |
| | 16 | 瓦 平瓦 | 全長<7.2>, 幅<4.5>, 厚さ2.0, 重さ<95.4>g。 破片。凹面布目, 側縁ケズリ。凸面ナデ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y5/1) | 2区上層 | |
| | 17 | 瓦 熨斗瓦 | 全長<7.5>, 幅<5.5>, 厚さ1.7, 重さ<93.4>g。 破片。凸面縄叩き後ナデ, 側縁ケズリ。凹面糸切り痕, 布目, ナデ。側面ケズ リ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(N5/) | 1区下層 | |
| | 18 | 石製品 磨石 | 全長13.1, 幅9.8, 厚さ9.8, 重さ1,270g。 完形。全面をよく使用する。被熱顕著。安山岩製。 | | 床上 6cm | |
| | 19 | 鉄製品 鉄鎌 | 全長<3.7>, 鎌身長<3.4>, 鎌身幅<3.2>, 鎌身厚0.5, 茎幅0.6cm, 重さ<8.7>g。 ほぼ完形, 逆刺の先端欠損。有茎平根族で三角鎌とみられる。刃部は片丸造で茎の断面は矩形となる。 | | 1区下層 | |
| | 20 | 鉄製品 釘 | 全長<4.4>, 幅0.6, 厚さ0.6, 重さ<4.8>g。 ほぼ完形, 頭部及び先端部欠損。角釘で先端は曲がる。 | | 1区上層 | |

第3章 調査の成果

第6表 SI05, SB01 出土遺物観察表

| 遺物 構造 | 遺物 番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土 位置 |
|----------|----------|-------------|---|--|---|--------------|
| SI 05 | 1 | 須恵器 杯 | (8.4)・(6.1)・4.0 | 1/4存。体部ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒少量。黒色粒密 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y5/1) | 2区上層 |
| | 2 | 須恵器 杯 | —・(7.8)・2.4 | 1/3存。体部ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒少量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 1区下層 2区上層 |
| | 3 | 須恵器 杯 | 13.4・8.5・4.1 | 1/2存。体部ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒多量。黒色粒密 ②還元堅緻 ③灰色(N5/) | 2区下層 |
| | 4 | 須恵器 高台付杯 | (16.8)・(10.0)・7.5 | 1/6存。体部ロクロナデ。外面下端回転ヘラケズリ。底部高台を貼り付け、高台とともにロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y5/1) | 2区上層 |
| | 5 | 須恵器 蓋 | (17.8)・—・2.6 | 1/4存。体部ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元 ③灰褐色(5YR5/2) | 2区下層 |
| | 6 | 須恵器 蓋 | —・—・1.8 | 摘み部片。天井部回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒少量 ②未還元 ③浅黄色(2.5Y7/3) | 2区下層 |
| | 7 | 須恵器 短頸壺 | (10.6)・—・8.8 | 口縁部～胴部上半片。ロクロナデ。肩部自然袖付着し、耳の痕跡を残す。双耳あるいは四耳壺。 | ①長石・石英・白色粒多量。黒色粒密 ②還元堅緻 ③灰色(N5/) | 2区下層 |
| | 8 | 須恵器 短頸壺 | (9.2)・11.6・15.7 | 2/3存。ロクロナデ。胴部外面下端回転ヘラケズリ。底部ナデか。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質中量 ②還元 ③灰白色(2.5Y7/1) | 床面 |
| | 9 | 土師器 甕 | (25.7)・—・9.9 | 口縁部～胴部上半片。口縁部ヨコナデ。胴部外面斜位のヘラケズリ。内面ヘラナデ。 | ①長石・石英・白雲母・金雲母・白色粒多量 ②良好 ③黒褐色(10YR3/2) | 床上 8cm |
| | 10 | 須恵器 大甕 | (31.8)・—・3.7 | 口縁部片。ヨコナデ。 | ①長石・石英・白色粒中量。黒色粒密 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y5/1) | 2区上層 |
| | 11 | 土師器 甕 | —・—・8.6 | 口縁部～体部上半片。口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。甕の可能性もある。 | ①長石・石英・輝石・白色粒多量 ②良好 ③赤褐色(5YR4/6) | 1区上層 |
| | 12 | 瓦 丸瓦 | 全長<7.3>, 幅<6.0>, 厚さ2.1, 重さ<157.0>g。破片。凸面ヘラナデ, 側縁ケズリ。凹面布目, 側縁ナデ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒少量 ②未還元 ③明褐色(7.5YR7/1) | 1区上層 | |
| | 13 | 瓦 平瓦 | 全長<5.5>, 幅<5.5>, 厚さ2.0, 重さ<82.5>g。破片。凹面布目。凸面格子叩き後ナデ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒少量 ②未還元 ③明褐色(7.5YR7/1) | 2区上層 | |
| | 14 | 瓦 平瓦 | 全長<6.0>, 幅<6.1>, 厚さ1.3, 重さ<49.6>g。破片。平瓦としたが、熨斗瓦の可能性もある。凹面布目。凸面ヘラケズリ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元 ③褐色(7.5YR6/1) | 2区上層 | |
| | 15 | 瓦 熨斗瓦 | 全長<9.3>, 幅<5.3>, 厚さ1.8, 重さ<93.0>g。破片。平瓦の可能性もある。凸面指頭ナデ。凹面糸切り痕, 布目, 側・端縁ケズリ。側・端面ケズリ。 | ①長石・石英・砂粒・白色粒少量 ②未還元 ③橙色(7.5YR7/6) | 掘り方 | |
| | 16 | 銅製品 鉋尾 | 全長<2.3>, 幅<2.2>, 厚さ0.5, 重さ<4.3>g。ほぼ完形。表面に汚れとみられる付着物がある。裏板に2カ所孔有。鉋足は確認できない。蛍光X線分析により、純銅素材で鍛造製品であることが明らかとなった。別造りの鉋足で留めたものか。 | | | 1区上層 |
| SB 01 | 1 | 須恵器 杯 | (14.7)・7.4・4.6 | 1/3存。体部ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。体部外面に判読不明の墨書, 正位二文字か。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②未還元 ③灰黄色(2.5Y6/2) | P9 |
| | 2 | 須恵器 杯 | (15.8)・—・5.5 | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②未還元 ③橙色(7.5YR7/6) | P1 |
| | 3 | 須恵器 杯 | (13.7)・—・4.3 | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②未還元 ③灰白色(5Y8/1) | P3 |
| | 4 | 須恵器 杯 | (14.8)・—・3.7 | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | P3 |
| | 5 | 須恵器 杯 | (14.7)・—・4.8 | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①大粒の長石・石英・白色粒多量 ②還元 ③暗灰黄色(2.5Y5/2) | P10 |
| | 6 | 須恵器 杯 | (14.6)・—・3.6 | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②還元 ③灰色(5Y5/1) | P9 |
| | 7 | 須恵器 杯 | (14.8)・(6.9)・4.7 | 1/6存。体部ロクロナデ。外面下端手持ちヘラケズリ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(10Y5/1) | P4 |
| | 8 | 須恵器 杯 | —・(6.8)・3.1 | 体部下端～底部片。体部ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。 | ①大粒の長石・石英・チャート・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(10Y5/1) | P3 |
| | 9 | 須恵器 高台付杯 | —・—・4.5 | 体部～底部片。体部ロクロナデ。底部高台を貼り付け、高台とともにロクロナデ。底部外面に判読不明の墨書。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質中量 ②還元堅緻 ③灰色(7.5Y5/1) | P4 |
| | 10 | 須恵器 高台付盤 | —・(9.7)・3.7 | 体部～底部片。体部ロクロナデ。外面下端回転ヘラケズリ。高台ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③暗灰黄色(2.5Y5/2) | P15 |
| | 11 | 須恵器 高台付盤 | (19.2)・—・3.1 | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①大粒の長石・石英・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(N5/) | P15 |

第7表 SB01・05, SK35・54, P31・33, 奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|------------|------|---------|---|--|---|--------------------|
| SB01 | 12 | 須恵器蓋 | 一・一・<1.5> | 摘み部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質密 ②還元堅緻 ③暗灰黄色(2.5Y5/2) | P13 |
| | 13 | 須恵器蓋 | (21.2)・一・<2.2> | 口縁部～体部片。ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 | ①大粒の長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②未還元 ③にぶい橙色(7.5YR6/4) | P11 |
| | 14 | 須恵器壺・瓶類 | 一・(6.8)・<2.7> | 胴部下半～底部片。胴部外面下端回転ヘラケズリ。底部高台を貼り付け、高台とともにロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質中量 ②還元堅緻 ③灰色(N4/) | P12 |
| | 15 | 須恵器大甕 | 一・一・<6.5> | 胴部片。外面平行叩き。内面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質中量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y6/1) | P8 |
| | 16 | 瓦丸瓦 | 全長<4.8>, 幅<1.7>, 厚さ1.4, 重さ<27.6>g。破片。有段式丸瓦の一部としたが、小型瓦の可能性もある。凸面ナデ。凹面ナデ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒少量 ②未還元 ③灰白色(10YR8/1) | P12 | |
| SB05 | 1 | 須恵器杯 | (14.8)・一・<2.6> | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・黒色粒・白色針状物質中量 ②未還元 ③灰褐色(7.5YR5/2) | P1 |
| | 2 | 須恵器杯 | (14.7)・一・<3.0> | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①大粒の長石・石英・白色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y5/1) | P2 |
| SK35 | 1 | 瓦平瓦 | 全長<5.0>, 幅<6.0>, 厚さ1.7, 重さ<57.4>g。破片。凹面布目。凸面縄叩き(6mm)。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元堅緻 ③灰色(N4/) | | |
| SK54 | 1 | 土師器杯 | (13.8)・一・<3.5> | 口縁部～体部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③にぶい黄褐色(10YR7/4) | |
| P31 | 1 | 須恵器杯 | 一・(10.0)・<1.2> | 底部片。体部外面下端及び底部全面回転ヘラケズリ。底部外面に線刻。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②未還元 ③褐灰色(7.5YR5/1) | |
| P33 | 1 | 須恵器杯 | 一・(8.0)・<2.7> | 体部下半～底部片。ロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②未還元 ③灰色(7.5Y6/1) | 上層 |
| | 2 | 須恵器蓋 | (20.0)・一・<2.7> | 口縁部～体部片。ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②還元 ③黄灰色(2.5Y6/1) | 上層 |
| 奈良・平安時代遺構外 | 1 | 土師器杯 | 12.5・一・4.2 | ほぼ完形。口縁部一部欠損。口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面漆付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③赤褐色(5YR4/6) | SK41 |
| | 2 | 須恵器杯 | (12.2)・5.6・5.0 | 2/3存。体部ロクロナデ。外面下端手持ちヘラケズリ。底部全面手持ちヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②未還元 ③にぶい黄褐色(10YR7/2) | SE01 上層 |
| | 3 | 須恵器杯 | (14.2)・(8.0)・5.0 | 1/3存。体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、線刻。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y5/1) | B-7 D-8 グリッド |
| | 4 | 須恵器杯 | 一・(7.4)・<1.9> | 底部片。体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、線刻。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②還元 ③灰褐色(5YR4/2) | B-7 グリッド |
| | 5 | 須恵器高台付杯 | (14.5)・(6.9)・5.3 | 1/4存。体部ロクロナデ。外面下端回転ヘラケズリ。底部高台を貼り付け、高台とともにロクロナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②未還元 ③灰白色(10YR7/1) | SE01 上層 |
| | 6 | 須恵器高台付杯 | (14.8)・9.1・5.0 | 1/2存。体部ロクロナデ。外面下端回転ヘラケズリ。底部回転糸切りか。高台を貼り付け、高台とともにロクロナデ。線刻有。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y5/1) | SX01 |
| | 7 | 須恵器蓋 | 13.0・一・3.0 | 2/3存。体部ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒多量。白色針状物質少量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y5/1) | SE02 上層 |
| | 8 | 須恵器壺・瓶類 | 一・5.4・<2.8> | 底部片。底部厚く疑問も残るが、壺G類などの底部片か。外面雑なナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②還元堅緻 ③灰色(5Y6/1) | SE02 上層 |
| | 9 | 須恵器大甕 | 一・一・<7.9> | 頸部片。ヨコナデ。波状文を描く。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②還元堅緻 ③黄灰色(2.5Y4/1) | SX01 |
| | 10 | 瓦丸瓦 | 全長<7.0>, 幅<7.9>, 厚さ1.9, 重さ<146.4>g。玉縁片。凸面ナデ。凹面布目。側縁ケズリ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②未還元 ③灰黄色(2.5Y6/2) | SK04 上層 | |
| | 11 | 瓦丸瓦 | 全長<9.6>, 幅<5.9>, 厚さ2.0, 重さ<186.2>g。破片。凸面ナデ。側縁ケズリ。凹面布目。側縁ケズリ。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②未還元 ③灰黄色(2.5Y7/2) | SD01 | |
| | 12 | 瓦平瓦 | 全長<12.0>, 幅<12.0>, 厚さ2.2, 重さ<384.0>g。破片。凹面布目。凸面格子叩き。端面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②未還元 ③にぶい黄褐色(10YR6/4) | SE02 上層 | |
| | 13 | 瓦平瓦 | 全長<10.5>, 幅<13.5>, 厚さ3.2, 重さ<525.8>g。破片。凹面粘土継目。布目。側縁ケズリ。凸面格子叩き後ナデ。側・端面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元 ③黄灰色(2.5Y5/1) | ST01 周溝 | |
| | 14 | 瓦平瓦 | 全長<10.5>, 幅<9.5>, 厚さ1.2, 重さ<177.2>g。破片。凹面布目。側縁ケズリ。凸面格子叩き後ナデ。側面ケズリ。煤付着 | ①長石・石英・白色粒多量 ②未還元 ③灰黄褐色(10YR5/2) | ST01 周溝 | |
| | 15 | 瓦平瓦 | 全長<5.0>, 幅<6.0>, 厚さ2.0, 重さ<84.8>g。破片。凹面布目。凸面縄叩き(4～5mm)。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒密 ②未還元 ③暗灰黄色(2.5Y4/2) | SX01 | |
| | 16 | 瓦平瓦 | 全長<10.3>, 幅<9.5>, 厚さ2.8, 重さ<245.4>g。破片。粘土接合痕。凹面布目。凸面縄叩き(2～3mm)。側面ケズリ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②未還元 ③黄灰色(2.5Y6/1) | SE04 下層 | |
| | 17 | 瓦平瓦 | 全長<10.5>, 幅<11.5>, 厚さ1.8, 重さ<283.8>g。破片。凹面糸切り痕。布目。凸面縄叩き(2～3mm)。側縁ケズリ。側面ケズリ。煤付着。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元堅緻 ③灰色(7.5Y5/1) | SK05 上層 | |

第3章 調査の成果

第8表 奈良・平安時代遺構外, ST01, SX01 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|------------|------|------------|---|--|--|-------------|
| 奈良・平安時代遺構外 | 18 | 瓦平瓦 | 全長<9.5>, 幅<9.5>, 厚さ1.4, 重さ<195.7>g。破片。凹面布目。凸面縄叩きか。側面ケズリ。熨斗瓦の可能性もある。 | | ①長石・石英・白色粒密 ②未還元 ③明赤褐色(5YR5/6) | SE03 上層 |
| | 19 | 瓦平瓦 | 全長<7.5>, 幅<11.5>, 厚さ2.4, 重さ<213.2>g。破片。凹面布目, 側縁ケズリ。凸面縄叩き(2~3mm)。側面ケズリ。 | | ①長石・石英・白色粒中量 ②未還元 ③にぶい黄褐色(10YR6/4) | ST01 |
| | 20 | 瓦平瓦 | 全長<9.2>, 幅<9.4>, 厚さ2.2, 重さ<229.1>g。破片。凹面布目, ナデ。凸面ナデ。 | | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元 ③灰色(5Y6/1) | F-2 グリッド |
| | 21 | 瓦平瓦 | 全長<8.5>, 幅<4.5>, 厚さ1.6, 重さ<53.9>g。破片。凹面布目, ケズリあるいは刻書の痕跡有。台渡里廃寺出土の文字瓦(03K-D区)に似る。凸面ナデ。 | | ①長石・石英・白色粒中量 ②還元 ③灰黄色(2.5Y7/2) | SK06 上層 |
| | 22 | 瓦熨斗瓦 | 全長<8.5>, 幅<7.5>, 厚さ1.9, 重さ<187.7>g。破片。凸面ケズリ後ナデ。凹面布目。側面ケズリ。平瓦の可能性もある。 | | ①大粒の長石・石英・白色粒多量 ②還元 ③褐灰色(10YR6/1) | D-1 グリッド |
| ST01 | 1 | 肥前系磁器染付碗 | —・—・<5.2> | 口縁部~体部片。花文をあしらう。19世紀後半以降。 | ①黒色粒中量 ②良好 ③灰白色(2.5GY8/1) | 表土 |
| | 2 | 瀬戸・美濃系灰釉徳利 | 4.5・—・<5.2> | 口縁部~体部上半片。被熱。18世紀前半。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③オリーブ黄色(7.5Y6/3) | 表土 |
| | 3 | 瀬戸・美濃系灰釉徳利 | —・—・<5.3> | 体部上半片。被熱。 | ①白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③オリーブ黄色(7.5Y6/3) | 表土 周溝 |
| | 4 | 土師質土器内耳鍋 | —・—・<5.0> | 口縁部片。ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・雲母・白色粒多量 ②良好 ③明黄褐色(10YR6/6) | 周溝 |
| | 5 | 土師質土器内耳鍋 | —・—・<7.9> | 体部下半片。ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・金雲母・白色粒多量 ②良好 ③にぶい黄褐色(10YR6/3) | 周溝 |
| | 6 | 転用砥石 | 全長10.5, 幅10.7, 厚さ1.6, 重さ<265.0>g。ほぼ完形。須恵器大甕の破片の割れ口を砥石に二次利用している。 | | | 周溝 |
| SX01 | 1 | 瀬戸・美濃系灰釉碗 | —・5.3・<2.1> | 体部下半~底部片。削り出し高台。底部及び高台を除き施釉。17世紀。 | ①白色粒中量 ②良好 ③胎土:浅黄色(2.5Y7/3) | |
| | 2 | 瀬戸・美濃系灰釉碗 | (9.9)・—・<4.5> | 口縁部~体部片。丸碗。美濃焼。内外面施釉。17世紀後半~18世紀前半。 | ①白色粒少量。精良 ②良好 ③胎土:灰黄色(2.5Y7/2) | D-3 グリッド |
| | 3 | 瀬戸・美濃系鉄釉碗 | —・4.9・<2.0> | 体部下半~底部片。肥前系陶器の可能性もある。削り出し高台。底部及び高台を除き施釉。 | ①白色粒中量 ②良好 ③胎土:黄灰色(2.5Y5/1) | |
| | 4 | 瀬戸・美濃系腰鍔茶碗 | —・5.1・<2.3> | 体部下半~底部片。瀬戸焼。畳付は露胎とする。内面灰釉, 外面鉄釉を施し, 全体に釉は厚い。18世紀。 | ①白色粒少量 ②良好 ③胎土:にぶい黄褐色(10YR7/3) | D-3 グリッド |
| | 5 | 瀬戸・美濃系腰鍔茶碗 | (10.0)・—・<4.1> | 口縁部~体部片。瀬戸焼。体部中程に3条の沈線を横位に施す。体部外面中央より上と内面に灰釉, 沈線以下に鉄釉を施す。18世紀後半。 | ①白色粒少量 ②良好 ③胎土:黄灰色(2.5Y5/1) | D-3 グリッド |
| | 6 | 瀬戸・美濃系刷毛茶碗 | (13.0)・—・<3.7> | 口縁部~体部片。白泥。灰釉による刷毛目。17世紀末~18世紀前半。 | ①白色粒少量 ②良好 ③胎土:灰黄色(2.5Y6/2) | D-3 グリッド |
| | 7 | 肥前系磁器染付碗 | —・(3.6)・<2.6> | 体部下半~底部片。波佐見焼。体部二重網目文。高台三重の圏線。畳付に離れ砂付着。18世紀初頭。 | ①精良 ②良好 ③胎土:灰白色(5Y8/1) 染付:青灰色(5B5/1) | D-3 グリッド |
| | 8 | 肥前系磁器染付碗 | (7.5)・3.2・5.0 | 1/2存。くらわんか手。体部下端から高台にかけて三重の圏線。畳付に離れ砂付着。18世紀前半。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③染付:青灰色(10BG5/1) | D-3 グリッド |
| | 9 | 瀬戸・美濃系志野丸皿 | (13.0)・(8.0)・2.5 | 1/3存。鼠志野の可能性もあるが, 被熱のため不明。底部は削り出しによる輪高台。17世紀前半。 | ①白色粒中量 ②良好 ③褐灰色(10YR4/1) | D-3 グリッド |
| | 10 | 瀬戸・美濃系灰釉菊皿 | —・6.5・<2.5> | 1/2存。口縁部欠損。削り出し高台。底部及び高台周辺露胎。高台脇から体部にかけて回転ヘラケズリ。内面型押しにより菊花を表出。17世紀後半。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③胎土:淡黄色(2.5Y8/3) | D-3 グリッド |
| | 11 | 産地不明陶器灰釉皿 | 13.0・6.7・2.4 | 1/2存。削り出し高台。高台脇から体部にかけて回転ヘラケズリ。体部下端以下は露胎とし, 内面に重ね焼きの痕跡を残す。瀬戸・美濃系の製品か。17世紀前半。 | ①長石・白色粒少量 ②良好 ③オリーブ黄色(5Y6/3) | E-2 グリッド |
| | 12 | 瀬戸・美濃系灰釉皿 | —・5.1・<2.2> | 1/2存。口縁部欠損。見込み蛇の目軸剥ぎ。高台内面及び畳付露胎。 | ①白色粒・黒色粒少量 ②良好 ③胎土:灰白色(5Y7/1) | D-3 グリッド |
| | 13 | 土師質土器小皿 | —・3.4・<2.2> | 1/2存。口縁部欠損。ロクロ成形。底部回転糸切り。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②良好 ③黄褐色(10YR5/8) | |
| | 14 | 土師質土器小皿 | —・(8.0)・<1.7> | 1/4存。口縁部欠損。ロクロ成形。底部回転糸切り。 | ①長石・石英・白色粒・赤褐色粒中量 ②良好 ③橙色(7.5YR6/6) | |
| | 15 | 土師質土器小皿 | (10.8)・(7.3)・1.9 | 1/6存。ロクロ成形。底部回転糸切り。 | ①長石・石英・輝石・白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③にぶい橙色(7.5YR7/3) | D-3 グリッド |
| | 16 | 土師質土器小皿 | 6.0・4.5・1.2 | 完形。ロクロ成形。底部回転糸切り。口唇部煤付着。灯明使用。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・赤褐色粒多量 ②良好 ③橙色(7.5YR7/6) | D-3 グリッド |
| | 17 | 瀬戸・美濃系鉄釉香炉 | (15.0)・(10.7)・5.8 | 1/3存。削り出し高台。高台脇から体部にかけて回転ヘラケズリ。口縁内面から体部外面下端まで鉄釉。 | ①白色粒中量 ②良好 ③淡黄色(2.5Y8/3) | |

第9表 SX01 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|----------|------|------------------|--|---|---|-------------|
| | 18 | 瀬戸・美濃系 灰釉香炉 | —・(8.5)・<4.1> | 1/8存。底部及び体部外面下端回転ヘラケズリ。底部周縁部に足を貼り付け、指紋が残る。体部外面のみ施釉。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③淡黄色(2.5Y8/4) | D-3 グリッド |
| | 19 | 土師質土器 香炉 | —・(14.6)・<2.2> | 底部片。底部から体部にかけてヘラナデ。足を貼り付け後、指頭ナデ。煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③灰黄褐色(10YR5/2) | D-3 グリッド |
| | 20 | 瀬戸・美濃系 鉄絵鉢 | —・—・<2.6> | 体部下半～底部片。内面鉄絵。目跡。高台は削り出しで畳付を露胎とする。肥前系陶器の可能性もある。 | ①白色粒・黒色粒少量 ②普通 ③灰オリーブ色(5Y6/2) | |
| | 21 | 瀬戸・美濃系 鉄釉播鉢 | —・—・<4.6> | 体部片。ロクロ調整。内外面鉄釉。 | ①白色粒少量。粗い ②普通 ③胎土:にぶい黄橙色(10YR7/2) | E-2 グリッド |
| | 22 | 瀬戸・美濃系 鉄釉播鉢 | (34.0)・(14.0)・14.5 | 1/4存。ロクロ調整。外帯三段。内面全体に播目。丹波焼の可能性もある。 | ①大粒の長石・石英・白色粒密 ②普通 ③にぶい黄褐色(10YR5/4) | D-3 グリッド |
| | 23 | 瀬戸・美濃系 鉄釉播鉢 | —・—・<4.0> | 口縁部片。ロクロ調整。内外面鉄釉。 | ①白色粒少量 ②良好 ③胎土:浅黄褐色(10YR8/3) | |
| | 24 | 産地不明 陶器 播鉢 | —・—・<3.5> | 体部下端～底部片。内面全体に播目。炆器。丹波焼か。 | ①大粒の長石・石英・白色粒密 ②普通 ③暗灰黄色(2.5Y5/2) | D-3 グリッド |
| | 25 | 土師質土器 播鉢 | —・—・<5.7> | 体部下半～底部片。体部外面ナデ。内面6条1単位の播目が確認される。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/4) | |
| | 26 | 土師質土器 内耳鍋 | —・—・<11.0> | 口縁部～体部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・雲母・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③褐色(7.5YR4/3) | |
| | 27 | 土師質土器 内耳鍋 | —・—・<5.7> | 耳部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②普通 ③にぶい褐色(7.5YR5/4) | |
| | 28 | 土師質土器 内耳鍋 | —・—・<4.6> | 耳部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③にぶい橙色(7.5YR7/4) | |
| | 29 | 土師質土器 内耳鍋 | —・—・<13.3> | 口縁部～体部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/8) | |
| SX 01 | 30 | 土師質土器 内耳鍋 | —・—・<6.3> | 体部下半～底部片。底部及び体部下端ヘラケズリ後、ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③にぶい黄褐色(10YR6/4) | |
| | 31 | 常滑系 甕 | —・—・<6.2> | 頸部片。幅広の縁帯の痕跡を残す。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③褐灰色(10YR5/1) | E-2 グリッド |
| | 32 | 常滑系 甕 | —・—・<7.0> | 胴部片。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③暗赤褐色(2.5YR3/2) | |
| | 33 | 常滑系 甕 | —・—・<4.3> | 体部下端～底部片。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③暗赤褐色(2.5YR3/3) | |
| | 34 | 肥前系陶器 呉須絵壺か | —・—・<4.8> | 胴部片。内面が露胎であることから壺・瓶類と判断した。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③胎土:灰黄色(2.5Y7/2) | D-3 グリッド |
| | 35 | 土師質土器 壺・甕 | (20.0)・—・<5.6> | 口縁部片。玉縁状。内外面雑なナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③にぶい橙色(7.5YR6/4) | D-3 グリッド |
| | 36 | 肥前系磁器 染付徳利 | —・—・<9.6> | 体部片。染付により山水画を描いたとみられる。 | ①黒色粒密 ②良好 ③灰白色(2.5Y8/1) | |
| | 37 | 瓦質土器 火鉢 | —・—・<6.0> | 口縁部片。キザミを施した2条の突帯内にスタンプにより菊文を押圧する。内面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③黄灰色(2.5Y4/1) | E-2 グリッド |
| | 38 | 瓦質土器 火鉢 | —・—・<7.5> | 口縁部片。2条の突帯を巡らし、間に菊文を押圧する。内面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③黒褐色(10YR3/1) | D-3 グリッド |
| | 39 | 瓦質土器 火鉢 | —・—・<6.4> | 口縁部片。2条の突帯を巡らし、間に花文を押圧する。内面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒 ②不良 ③にぶい黄褐色(10YR5/4) | D-3 グリッド |
| | 40 | 瓦質土器 火鉢 | —・—・<7.3> | 口縁部片。2条の突帯を巡らし、間に八花文を押圧する。内面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③黄灰色(2.5Y5/1) | D-3 グリッド |
| | 41 | 瓦質土器 火鉢 | —・—・<5.7> | 口縁部片。2条の突帯を巡らす。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③灰色(N5/) | D-3 グリッド |
| | 42 | 瓦質土器 火鉢 | —・—・<8.3> | 体部片。突帯を巡らす。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③灰色(5Y6/1) | D-2 グリッド |
| | 43 | 瓦 丸瓦 | 全長<8.5>、幅<6.8>、厚さ2.0、重さ<168.0>g。破片。有段式とみられる。焼成の状況から中・近世瓦と判断した。凸面ナデ。凹面糸切り痕。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②還元 ③黄灰色(2.5Y4/1) | | |

第3章 調査の成果

第10表 SX01, SD01・06, SB06, SA01, SK01・02・04 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|------|-------|---|---|--|--|---------------|
| SX01 | 44 | 瓦丸瓦か | 全長<7.0>, 幅<3.7>, 厚さ1.3, 重さ<39.5>g。 破片。不明ながら丸瓦の一部としておく。凸面ナデ。凹面粗い布目。 | | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③黒褐色(10YR3/1) | |
| | 45 | 石製品砥石 | 全長<5.7>, 幅2.0, 厚さ1.4, 重さ<30.6>g。 1/2以上存。直方体。割れ口以外の4面をよく使用する。凝灰岩製。 | | | D-2 グリッド |
| | 46 | 石製品砥石 | 全長<7.0>, 幅<4.2>, 厚さ1.1, 重さ<54.0>g。 1/2以上存。板状。表裏及び左側面を使用する。泥岩製か。 | | | D-3 グリッド |
| | 47 | 石製品砥石 | 全長<8.1>, 幅4.0, 厚さ1.9, 重さ<101.7>g。 1/2以上存。板状。表面及び両側面をよく使用する。流紋岩製か。 | | | D-3 グリッド |
| | 48 | 石製品砥石 | 全長<11.2>, 幅5.0, 厚さ1.1, 重さ<184.3>g。 1/2以上存。板状。表裏及び両側面をよく使用する。泥岩製か。 | | | D-3 グリッド |
| | 49 | 石製品砥石 | 全長<11.0>, 幅4.0, 厚さ<2.0>, 重さ<161.5>g。 ほぼ完形。板状。表面及び両側面を使用する。粘板岩製か。 | | | D-3 グリッド |
| | 50 | 石製品砥石 | 全長<10.7>, 幅3.3, 厚さ2.5, 重さ<174.3>g。 1/2以上存。直方体。表裏及び両側面をよく使用する。砂岩製。 | | | D-3 グリッド |
| | 51 | 転用砥石 | 全長9.2, 幅8.3, 厚さ1.7, 重さ146.4g。 完形。須恵器の大甕の割れ口を砥石に二次利用している。 | | | D-3 グリッド |
| | 52 | 転用砥石 | 全長7.2, 幅7.8, 厚さ1.2, 重さ239.8g。 完形。内耳鍋の割れ口を砥石に二次利用している。 | | | D-3 グリッド |
| | 53 | 転用硯 | 全長9.5, 幅7.5, 厚さ2.1, 重さ239.8g。 完形。平瓦の凸面を敲打により窪ませる。墨の付着が顕著なため硯として二次利用したものか。 | | | D-3 グリッド |
| 54 | 転用硯 | 全長11.0, 幅13.1, 厚さ2.7, 重さ524.3g。完形。平瓦の凹面を敲打により窪ませる。墨の付着は確認できないが、53と類似することから硯としたものか。硯としては未使用。 | | | | |
| 55 | 銅製品煙管 | 全長5.7, 火皿径1.5, 管孔径1.0, 高さ2.3, 重さ8.8g。 完形。雁首。銅製。継ぎ目は側面で、補強帯はない。18世紀前半。 | | | D-3 グリッド | |
| 56 | 鉄製品釘 | 全長<3.7>, 幅0.6, 厚さ0.6, 重さ<4.8>g。 ほぼ完形, 先端部欠損。折頭式の角釘で、先端が曲がっていることから使用されたとみられる。 | | | D-2 グリッド | |
| SD01 | 1 | 瀬戸・美濃系灰釉壺 | 一・(8.0)・<4.4> | 胴部下端～底部片。美濃焼。削り出し高台。外面のみ施釉。徳利の底部か。 | ①白色粒少量 ②良好 ③オリーブ黄色(5Y6/3) | |
| | 2 | 土師質土器内耳鍋 | 一・一・<3.4> | 口縁部片。ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③にぶい黄褐色(10YR7/3) | |
| SD06 | 1 | 瀬戸・美濃系灰釉皿 | 一・(6.0)・<1.6> | 底部片。削り出し高台。高台脇から体部にかけて回転ヘラケズリ。見込みに目跡が2カ所認められる。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③灰白色(2.5Y8/1) | F-6 グリッド |
| | 2 | 瀬戸・美濃系灰釉菊皿 | 13.5・8.0・2.7 | 1/2存。削り出しによる輪高台。高台脇から体部にかけて回転ヘラケズリ。内面型押しにより菊花を表出。見込みに3カ所胎土目痕。17世紀中葉。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③淡黄色(2.5Y8/3) | F-6 グリッド |
| | 3 | 瓦質土器香炉 | (15.3)・(12.0)・5.5 | 1/3存。体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ヘラナデ。底部ヘラケズリ。 | ①長石・石英・白色粒密 ②普通 ③褐色(10YR4/1) | F-6・7 グリッド |
| | 4 | 常滑系片口鉢 | 一・一・<5.8> | 口縁部～体部上半片。口縁部ナデ。 | ①長石・石英・白色粒密 ②普通 ③灰褐色(7.5YR4/2) | F-7 グリッド |
| | 5 | 土師質土器内耳鍋 | 一・一・<7.4> | 口縁部～体部上半片。ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②普通 ③黒褐色(10YR3/1) | F-6 グリッド |
| SB06 | 1 | 土師質土器小皿 | 11.0・5.3・2.9 | ほぼ完形。ロクロ成形。底部回転系切り。内外面煤付着。見込みは滑らかで特徴はない。灯明使用されたものとみられる。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③灰黄褐色(10YR6/2) | P12 |
| | 2 | 土師質土器播鉢 | 一・一・<2.5> | 口縁部片。内外面ナデ。土師質土器としたが、燻化途中のものか。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒中量 ②未還元 ③黒褐色(7.5YR3/1) | P5 |
| | 3 | 土師質土器内耳鍋 | 一・一・<5.2> | 口縁部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③橙色(5YR6/6) | P4 |
| SA01 | 1 | 瓦質土器火鉢 | 一・一・<5.9> | 体部片。ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③黄灰色(2.5Y6/1) | P9 |
| | 2 | 常滑系甕 | 一・一・<3.7> | 胴部片。器厚は薄いですが、内面の状態から甕と判断した。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③灰赤色(2.5YR4/2) | P19 |
| SK01 | 1 | 土師質土器内耳鍋 | 一・一・<6.8> | 口縁部～体部上半片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③橙色(7.5YR6/6) | 上層 |
| SK02 | 1 | 土師質土器内耳鍋 | 一・一・<7.7> | 耳部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/3) | 上層 |
| SK04 | 1 | 土師質土器内耳鍋 | 一・(9.0)・<1.8> | 底部片。内外面ナデ。 | ①大粒の長石・石英・白雲母・白色粒多量 ②普通 ③にぶい黄褐色(10YR4/3) | 上層 |
| | 2 | 石製品砥石 | 全長52.5, 幅28.0, 厚さ19.5, 重さ33.0kg。 完形。大型。断面は台形状で掘え付けて使用したとみられ、部分的に研いだ痕跡が認められる。砂岩製。 | | | 上層 |

第 11 表 SK05・06・41・09・34, SE01 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|------|--------------|---|---|--|---|------------|
| SK05 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | (33.8)・(17.5)・ 〈17.8〉 | 1/10存。内外面ナデ。外面煤付着。15世紀後半。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②普通 ③にぶい橙色(7.5YR6/4) | 上層 |
| | 2 | 土師質土器 内耳鍋 | (33.0)・(16.0)・ 〈16.6〉 | 1/10存。内外面ナデ。内面に指頭圧痕残る。外面煤付着。15世紀後半。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③橙色(7.5YR6/6) | 上層 |
| | 3 | 土師質土器 内耳鍋 | ――・〈8.9〉 | 耳部片。内外面ナデ。口唇部煤付着。 | ①長石・石英・輝石・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③灰黄褐色(10YR5/2) | 上層 |
| SK06 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | ――・〈5.3〉 | 口縁部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白雲母・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③にぶい黄褐色(10YR5/3) | 上層 |
| SK41 | 1 | 鉄滓 | 全長5.3, 幅7.8, 厚さ2.7, 重さ85.1g。 碗形滓の断片か。緩やかに湾曲する。 | | | 上層 |
| SK09 | 1 | 瀬戸・美濃系 灰釉皿 | ――・〈1.7〉 | 体部片。内外面に灰釉。見込みに横位の沈線を1条巡らし、花卉のような痕跡を残す。菊皿か。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③胎土:浅黄色(2.5Y7/3) | 上層 |
| | 2 | 肥前系陶器 灰釉碗 | ――4.5・〈3.5〉 | 1/3存。全面に施釉し、暈付のみ露胎とする。 | ①白色粒・黒色粒少量 ②良好 ③胎土:にぶい黄褐色(10YR7/2) | 上層 |
| | 3 | 土師質土器 小皿 | (12.8)・(10.0)・1.9 | 1/6存。ロクロ成形。 | ①白色粒・黒色粒・赤褐色粒中量 ②良好 ③橙色(7.5YR7/6) | 上層 |
| | 4 | 土師質土器 内耳鍋 | ――・〈4.9〉 | 口縁部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/6) | 上層 |
| SK34 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | ――・〈4.9〉 | 口縁部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②瓦質化 ③灰黄褐色(10YR4/2) | 上層 |
| SE01 | 1 | 肥前系陶器 青茶丸碗 | (11.0)・――・〈5.1〉 | 口縁部～体部片。外面二重の圏線。花文を描く。18世紀。 | ①白色粒・黒色粒少量 ②良好 ③オリープ灰色(2.5GY5/1) 胎土:灰色(7.5Y6/1) | 上層 |
| | 2 | 肥前系磁器 染付碗 | (14.5)・(6.0)・7.5 | 1/6存。大碗。口縁部外面二重の圏線。体部外面花文を描く。高台の内外面に圏線。 | ①白色粒・黒色粒少量 ②良好 ③染付-青色 | 上層 |
| | 3 | 瀬戸・美濃系 鉄釉水注 | (4.3)・8.0・11.0 | ほぼ完形。把手欠損。後手囊形。肩部に3条の沈線を巡らす。底部回転ヘラケズリ。鉄釉。 | ①白色粒少量 ②良好 ③胎土:灰白色(7.5Y8/1) | 上層 |
| | 4 | 土師質土器 小皿 | 6.3・4.2・1.5 | 完形。ロクロ成形。底部回転糸切り。17世紀前半。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒少量 ②良好 ③橙色(7.5YR7/6) | 上層 |
| | 5 | 瓦質土器 香炉 | ――・〈2.9〉 | 体部～底部片。外面ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ。底部足を貼り付け後ナデ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②不良 ③褐灰色(10YR6/1) | 上層 |
| | 6 | 土師質土器 播鉢 | ――・〈5.6〉 | 体部下半片。5条1単位の播目が残る。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒多量 ②良好 ③褐色(7.5YR4/6) | 下層 |
| | 7 | 土師質土器 内耳鍋 | (26.0)・(12.0)・ 15.0 | 1/4存。口縁部ヨコナデ。体部外面縦位のヘラナデ, 下端横位のヘラナデ。内面横位のヘラナデ。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒密 ②良好 ③橙色(7.5YR6/6) | 上層 SX01 |
| 8 | 土師質土器 内耳鍋 | (30.8)・――・〈12.0〉 | 1/4存。口縁部ヨコナデ。体部外面縦位のヘラナデ。内面横位のヘラナデ。 | ①長石・石英・輝石・白色粒多量 ②良好 ③橙色(7.5YR6/6) | 上層 | |
| 9 | 土師質土器 内耳鍋 | (28.0)・――・〈13.0〉 | 口縁部～体部片。外面ヘラナデ, 指頭ナデ。内面ヘラナデ。外面下半煤付着。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③褐色(7.5YR6/6) | 上層 | |
| 10 | 土師質土器 内耳鍋 | (30.0)・――・〈11.3〉 | 口縁部～体部片。口縁部ヨコナデ。体部外面横位のヘラナデ, 全面煤付着。内面横位のヘラナデ。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒密 ②良好 ③にぶい橙色(7.5YR7/3) | 上層 | |
| 11 | 土師質土器 内耳鍋 | (30.0)・――・〈5.7〉 | 口縁部～体部片。口縁部ヨコナデ。体部外面横位のヘラナデ, 全面煤付着。内面横位のヘラナデ。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・白色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/6) | 上層 | |
| 12 | 土師質土器 内耳鍋 | (30.0)・――・〈13.0〉 | 口縁部～体部片。口縁部ヨコナデ。体部外面横位のヘラナデ, 全面煤付着。内面横位のヘラナデ。 | ①長石・石英・白雲母・輝石・砂粒・白色粒密 ②良好 ③にぶい褐色(7.5YR5/4) | 上層 | |
| 13 | 瓦質土器 火鉢 | ――・〈6.1〉 | 体部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・白色針状物質多量 ②普通 ③褐灰色(10YR4/1) | 下層 | |
| 14 | 瓦 丸瓦 | 全長<7.0>, 幅<4.0>, 厚さ1.2, 重さ<44.2>g。破片。凸凹面ナデ。側面ケズリ。焼成の状況から近世瓦と判断したが, 古瓦の可能性もある。 | | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③灰黄色(2.5Y6/2) | 上層 | |
| 15 | 瓦 平瓦 | 全長<6.0>, 幅<7.0>, 厚さ2.0, 重さ<125.7>g。破片。凹面布目。凸面ナデ。表面に光沢のある粉末が塗布され近世瓦と判断した。 | | ①長石・石英・輝石・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③暗赤褐色(2.5YR3/6) | 上層 | |
| 16 | 石製品 石臼 | 径<27.8>, 厚さ6.4, 孔径3.0, 重さ<3,460.0>g。下臼1/2存, 厚さは薄く, 磨面は僅かながら山形となり, 軸受けが貫通する。残存範囲では物入れが認められないことから下臼と判断した。目は摩耗している。安山岩製。 | | | 上層 | |
| 17 | 鉄製品 釘 | 全長<5.9>, 幅0.4, 厚さ0.5, 重さ<8.0>g。 ほぼ完形, 先端及び頭頂部欠損。角釘とみられ, 先端が錆により二又に剥離する。 | | | 下層 | |

第3章 調査の成果

第12表 SE02・03・04, SK10・15・24・28・29 出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|------|------|---------------|---|--|---|------------|
| SE02 | 1 | 常滑系鉢 | ---・<4.2> | 口縁部片。口縁部ヨコナデ。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③暗赤褐色(5YR3/3) | 上層 |
| | 2 | 土師質土器 内耳鍋 | (32.0)・---・<8.0> | 口縁部～体部上半片。内外面ヘラナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・輝石・白色粒多量 ②良好 ③にぶい・橙色(7.5YR7/4) | 上層 |
| | 3 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<6.1> | 口縁部～体部上半片。内外面ヘラナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・輝石・白色粒多量 ②良好 ③にぶい・黄橙色(10YR6/3) | 上層 |
| | 4 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<5.6> | 口縁部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質多量 ②良好 ③にぶい・橙色(7.5YR7/4) | 上層 |
| | 5 | 転用砥石 | 全長10.2, 幅9.6, 厚さ1.8, 重さ180.0g。 完形。平瓦の割れ口を砥石に二次利用している。 | | | 上層 |
| | 6 | 鉄製品 鍋 | 口径(22.0), 器高<3.3>, 重さ<62.5>g。 口縁部片。鑄造の鍋あるいは釜とみられる。 | | | 上層 |
| SE03 | 1 | 常滑系甕 | ---・<7.0> | 口縁部片。内外面ナデ。6b型式 | ①長石・石英・白色粒多量 ②良好 ③褐灰色(5YR4/1) | 上層 |
| | 2 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<6.3> | 口縁部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・輝石・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③にぶい・黄橙色(10YR7/4) | 上層 |
| | 3 | 石製品 硯 | 全長<6.3>, 幅<0.5>, 重さ<21.0>g。 1/3存。背面剥離。よく使い込まれている。粘板岩製。 | | | 上層 |
| SE04 | 1 | 常滑系 捏鉢 | ---(14.0)・<5.6> | 体部下端～底部片。体部下端外面は指頭ナデ。内面が平滑であることから捏鉢と判断した。 | ①大粒の長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②不良 ③暗赤褐色(5YR3/6) | 上層 下層 |
| | 2 | 土師質土器 鉢 | ---・<6.7> | 口縁部～体部上半片。外面ヨコナデ後、縦位の沈線。内面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒中量 ②良好 ③褐色(10YR4/4) | 上層 |
| | 3 | 常滑系 甕 | ---・<4.8> | 胴部片。 | ①白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③灰赤色(2.5YR4/2) | 下層 |
| | 4 | 石製品 滑石製石鍋 | 口径(23.8), 器高<6.1>, 重さ<116.6>g。口縁部～体部片。やや短めの鏝は断面台形状に作り出される。調整痕は不明で、内外面に横方向の擦痕が認められる。北九州産か。 | | | 上層 |
| SK10 | 1 | 瀬戸・美濃系 灰香釉 | (8.4)・---・<2.7> | 1/3存。小型。底部及び体部外面下端回転ヘラケズリ。内面口唇部より体部外面にかけて施釉。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③胎土:にぶい・黄褐色(10YR7/2) | 上層 |
| | 2 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<6.1> | 耳部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密。白色針状物質少量 ②良好。瓦質化 ③黒褐色(10YR3/1) | 上層 |
| | 3 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<3.6> | 耳部片。焙烙。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③にぶい・黄褐色(10YR7/3) | 上層 |
| SK15 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<3.8> | 口縁部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③黒褐色(10YR3/1) | |
| SK24 | 1 | 常滑系 甕 | ---・<3.7> | 胴部片。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③灰褐色(5YR4/2) | |
| | 2 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<5.7> | 耳部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③黄褐色(10YR5/6) | |
| | 3 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<4.5> | 口縁部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・輝石・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③にぶい・黄褐色(10YR7/4) | |
| SK28 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<5.4> | 耳部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/8) | 上層 |
| | 2 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<14.7> | 口縁部～体部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③にぶい・褐色(7.5YR5/4) | 上層 |
| | 3 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<6.0> | 口縁部片。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②普通 ③褐色(7.5YR4/6) | 上層 |
| SK29 | 1 | 土師質土器 小皿 | (10.8)・(4.6)・3.2 | 1/3存。ロクロ成形。底部端やや角張る。見込みやや窪む。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・赤褐色粒多量 ②不良 ③明褐色(7.5YR7/2) | 上層 |
| | 2 | 土師質土器 片口鉢 | (32.0)・(17.0)・16.8 | 1/3存。内外面ナデ。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③にぶい・褐色(7.5YR5/4) | 底上 33cm |
| | 3 | 土師質土器 播鉢 | (31.8)・(14.6)・<12.8> | 1/3存。内外面ナデ。内面6条1単位の播目。底部台状に角張る。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②良好 ③明褐色(7.5YR5/6) | 底上 36cm |
| | 4 | 土師質土器 内耳鍋 | (30.0)・---・<16.6> | 口縁部～体部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒密 ②良好 ③暗褐色(7.5YR3/4) | 上層 |

第 13 表 SK29・31・43・46, 中・近世遺構外出土遺物観察表

| 遺構 | 遺物番号 | 器種 | 計測値(cm) 口径・底径・器高 | 成・整形技法, 特徴 | ①胎土 ②焼成 ③色調 | 出土位置 |
|---------|------|----------------|---|--|---|-------------|
| SK 29 | 5 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<7.3> | 口縁部～体部上半片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒・白色針状物質密 ②普通 ③灰黄褐色(10YR5/2) | 上層 |
| | 6 | 鉄製品 釘 | 全長<2.5>, 幅0.5, 厚さ0.4, 重さ<1.6>g。 先端部片。断面矩形。 | | | 上層 |
| | 7 | 鉄滓 | 全長4.9, 幅7.3, 厚さ3.0, 重さ124.0g。 椀形滓。底面に砂付着。 | | | 上層 |
| | 8 | 鉄滓 | 全長8.0, 幅11.6, 厚さ3.5, 重さ430.0g。 椀形滓。底面に砂付着。 | | | 底上 55cm |
| SK 31 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<3.0> | 口縁部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③橙色(7.5YR6/8) | |
| SK 43 | 1 | 土師質土器 鉢 | ---・<5.4> | 体部下端～底部片。内面が平滑であることから鉢と判断した。内外面ナデ。 | ①長石・石英・金雲母・白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③にぶい黄褐色(10YR7/4) | |
| SK 46 | 1 | 土師質土器 内耳鍋 | ---・<3.0> | 体部下端～底部片。内外面ナデ。外面煤付着。 | ①長石・石英・白色粒多量 ②普通 ③黒褐色(2.5Y3/1) | 上層 |
| | 2 | 銭貨 景德元寶 | 直径2.5, 厚さ0.13, 重さ2.7g。 完形。初鑄, 北宋・景德元年(1004)。 | | | 底面 |
| | 3 | 銭貨 景德元寶 | 直径2.5, 厚さ0.13, 重さ2.8g。 完形。初鑄, 北宋・景德元年(1004)。 | | | 底面 |
| | 4 | 銭貨 天聖元寶 | 直径2.5, 厚さ0.12, 重さ<2.2>g。 ほぼ完形。初鑄, 北宋・天聖元年(1023)。 | | | 底面 |
| | 5 | 銭貨 天聖元寶 | 直径2.6, 厚さ0.13, 重さ3.4g。 完形。初鑄, 北宋・天聖元年(1023)。 | | | 底面 |
| | 6 | 銭貨 熙寧元寶 | 直径2.5, 厚さ0.13, 重さ<3.0>g。 ほぼ完形。初鑄, 北宋・熙寧元年(1068)。 | | | 底面 |
| | 7 | 銭貨 熙寧元寶 | 直径2.5, 厚さ0.12, 重さ2.6g。 完形。初鑄, 北宋・熙寧元年(1068)。 | | | 底面 |
| | 8 | 銭貨 元豐通寶 | 直径2.5, 厚さ0.13, 重さ3.3g。 完形。初鑄, 北宋・元豐元年(1078)。 | | | 底面 |
| | 9 | 銭貨 元豐通寶 | 直径2.5, 厚さ0.13, 重さ3.0g。 完形。初鑄, 北宋・元豐元年(1078)。 | | | 底面 |
| | 10 | 銭貨 元祐通寶 | 直径2.5, 厚さ0.13, 重さ3.5g。 完形。初鑄, 北宋・元祐元年(1086)。 | | | 底面 |
| | 11 | 銭貨 元祐通寶 | 直径2.4, 厚さ0.15, 重さ3.2g。 完形。初鑄, 北宋・元祐元年(1086)。 | | | 底面 |
| | 12 | 銭貨 元祐通寶 | 直径2.5, 厚さ0.12, 重さ3.0g。 完形。初鑄, 北宋・元祐元年(1086)。 | | | 底面 |
| | 13 | 銭貨 不明 | 直径2.3, 厚さ0.14, 重さ<2.2>g。 輪欠損。慶元通寶か。 | | | 底面 |
| | 14 | 銭貨 不明 | 直径2.4, 厚さ0.13, 重さ3.5g。 完形。銭種不明。 | | | 底面 |
| | 15 | 銭貨 不明 | 直径2.5, 厚さ0.16, 重さ3.2g。 完形。銭種不明。 | | | 底面 |
| | 16 | 銭貨 不明 | 直径2.5, 厚さ0.16, 重さ2.5g。 完形。銭種不明。梅孔(星形孔)。 | | | 底面 |
| | 17 | 銭貨 不明 | 直径2.5, 厚さ0.12, 重さ2.4g。 完形。銭種不明。 | | | 底面 |
| 中・近世遺構外 | 1 | 瀬戸・美濃系 灰釉皿 | (12.0)・(5.2)・2.7 | 1/3存。削り出し高台。高台脇から体部へかけて回転ヘラケズリ。釉は薄く、見込み及び畳付に重ね焼の痕跡。17世紀前半。 | ①白色粒・黒色粒・赤褐色粒多量 ②良好 ③胎土: 浅黄色(2.5Y7/3) | C-4 グリッド |
| | 2 | 肥前系磁器 染付碗 | (11.0)・---・<5.5> | 口縁部～体部片。花文を描く。18世紀。 | ①黒色粒少量 ②良好 ③染付-青灰色(5B6/1) | C-4 グリッド |
| | 3 | 肥前系磁器 染付小杯 | (7.5)・3.2・4.7 | 1/3存。高台外面二重の圏線。畳付は露胎とし離れ砂付着。17世紀後半。 | ①白色粒・黒色粒少量 ②普通 ③灰白色(2.5Y8/2) | C-3 グリッド |
| | 4 | 瀬戸・美濃系 鉄釉香炉 | ---・(8.0)・<2.7> | 体部下端～底部片。体部下端及び底部回転ヘラケズリ。足は細長く、貼り付け時の指紋を残す。17世紀。 | ①白色粒・黒色粒中量 ②良好 ③胎土: 灰白色(10YR7/1) | C-3 グリッド |
| | 5 | 瀬戸・美濃系 灰釉德利 | ---・6.5・<6.2> | 胴部下端～底部片。削り出し高台。胴部外面下端回転ヘラケズリ。外面のみ施釉。被熱。 | ①白色粒・黒色粒多量 ②良好 ③胎土: 暗灰黄色(2.5Y5/2) | C-4 グリッド |
| | 6 | 常滑系 甕 | ---・<3.8> | 体部下端～底部片。内面の状態から甕としておく。 | ①長石・石英・白色粒・黒色粒多量 ②普通 ③灰褐色(5YR5/2) | I-1 グリッド |
| | 7 | 鉄製品 錠 | 全長7.4, 幅0.5, 厚さ0.6, 重さ<12.5>g。 1/2存。先端は尖る。断面は矩形。 | | | B-6 グリッド |
| | 8 | 鉄製品 錠 | 全長<7.8>, 幅0.7, 厚さ0.8, 重さ<20.8>g。 1/2存。断面は矩形。 | | | D-8 グリッド |

出土遺物集計表凡例

- 出土遺物の集計は、接合後各遺構毎に約1cm四方以上に対して行った。この際、同一個体とみられるが、接合関係にないものはそれぞれ破片として扱っている。このため、甕・鍋・鉢・壺などの大型の器種は必然的に点数が多くなる傾向にあるが、出土量を知るひとつの目安とし提示した。なお、個体は1/2以上を残存するものとし、表では遺構を二分割した前者をあててアミをかけ、後者を破片数としている。
- 記載順は時代毎、遺構毎になっており、その順番は目次及び本文に併せた。
- 表の作成は遺物が出土した遺構のみである。
- 奈良・平安時代の遺物で、坏と碗、甕と壺、甌など部位によっては判断ができないものがある。その場合、供膳具においては坏、煮沸具では甕に集計した。瓦についても平瓦とした中には隅切瓦や熨斗瓦などの道具瓦が含まれている可能性もある。
- 坏は有台と無台とに分けたが、盤は全て有台と判断した。なお、蓋は164点中6点が返り付きで、土師器の甕のうち7点がロクロ調整であった。
- 表中における硯と砥石の()は、総数中の転用品数を示す。
- 中・近世の陶磁器は、産地別、施釉別で分類したが、碗や皿のさらなる詳細については、各遺構毎の出土遺物観察表を併せてご覧いただきたい。
- 銭貨のうち種別が確認できたものは景德元寶・天聖元寶・熙寧元寶・元豐通寶・元祐通寶である。

第14表 出土遺物集計表

| 種別 | 遺構名 | S I | | | | | | | | | | |
|---------|--------|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| | | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | | | | | | |
| 縄文時代 | 土器 | 深鉢 | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | 1 | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | |
| | | 磨石 | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 坏 | 1 | 10 | 1 | 22 | | 1 | | 4 | | 30 |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | |
| | | 碗 | | 1 | | | | | | | | |
| | | 皿 | | 1 | | 1 | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | 1 | | | | | | |
| | | 小型壺 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | 3 | | | | | | | | | |
| | | 甕 | | 73 | | 174 | | 149 | | 88 | | 211 |
| | | 坏 | | 16 | | 23 | | 48 | 1 | 65 | 1 | 85 |
| | | 高台付坏 | | 3 | | 1 | | 3 | 1 | 3 | | 10 |
| 須恵器 | 盤 | | | | | 3 | | | | | 3 | |
| | 蓋 | | 5 | | | | 4 | | 17 | | 32 | |
| | 高坏 | | | | | | | | 11 | | | |
| | 鉢 | | 1 | | | | | | | | | |
| | 短頸壺 | | | | | 2 | | | | 1 | 2 | |
| | 長頸壺 | | 1 | | | | | | | | | |
| | 壺・瓶類 | | | | | 2 | | 1 | | | 7 | |
| | 甕 | | 8 | | 17 | | 18 | | 12 | | 42 | |
| | 大甕 | | 3 | | 2 | | | | 2 | | 10 | |
| | 支脚 | | | | 2 | | | | | | | |
| | 土製品 | 粘土塊 | | | 1 | | 3 | | | | | |
| 鉄製品 | 鉄鏝 | | | | | | | 1 | | | | |
| | 鎌 | | | | | 1 | | | | | | |
| | 釘 | | | 1 | | | | 1 | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | 1 | | | |
| 銅製品 | 鉈尾 | | | | | | | | | 1 | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | 1 | | | | |
| | 丸瓦 | | | | 2 | | | | 2 | 2 | | |
| | 平瓦 | 1 | 1 | | 2 | | | | 6 | 9 | | |
| 陶磁器 | 常滑 | 鉢 | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | | | | 1 | | | | | | |
| | | 天目茶碗 | | | | | | | | | 1 | |
| | 瀬戸・美濃 | 灰釉碗 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉壺類 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉搦鉢 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | |
| 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | |
| 腰銅茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | |
| 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | |
| | 壺類 | | | | | | | | | | | |
| | 染付碗 | | | | | | | | | | | |
| 肥前系磁器 | 染付小杯 | | | | | | | | | | | |
| | 染付德利 | | | | | | | | | | | |
| | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | |
| 産地不明 | 搦鉢 | | | | | | | | | | | |
| | 小皿 | | | | | | | | | | | |
| 土師質土器 | 搦鉢 | | | | | | | | | | | |
| | 鍋 | | | | | | | | | 1 | | |
| | 内耳鍋 | | | | | | | | | | | |
| | 鉢 | | | | | | | | | | | |
| | 壺・甕 | | | | | | | | | | | |
| | 香炉 | | | | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 香炉 | | | | | | | | | | | |
| | 火鉢 | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | |
| | 平瓦 | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鍋 | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | |
| | 鏝 | | | | | | | | | | | |
| | 鉄滓 | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 煙管 | | | | | | | | | | | |
| | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 硯(転用) | | | | | | | | | | | |
| | 砥石(転用) | | | | | | | | | | | |
| | 石臼 | | | | | | | | | | | |
| 銭貨 | 自然鏤 | | | | | | | | 1 | | | |
| | 計 | 6 | 126 | 3 | 249 | 4 | 231 | 6 | 214 | 4 | 447 | |

| 種 別 | 遺 構 名 | S B | | | S K | | | | | | P | | | |
|---------|--------|-------|------|----|-----|------|----|----|----|----|----|----|---|---|
| | | 01 | 04 | 05 | 35 | 37 | 47 | 52 | 53 | 54 | 31 | 32 | | |
| 縄文時代 | 土 器 | 深鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 磨石 | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | 環 | | 3 | | | | | | | 1 | | | |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | | | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | 44 | | 4 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | |
| | | 坏 | 40 | 3 | 6 | 3 | 1 | 4 | 2 | | | 2 | 2 | |
| | | 高台付坏 | 7 | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 盤 | 3 | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | 13 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 須恵器 | 高坏 | | | | | | | | | | | |
| 鉢 | | | | | | | | | | | | | | |
| 短頸壺 | | | | | | | | | | | | | | |
| 長頸壺 | | | | | | | | | | | | | | |
| 壺・瓶類 | 5 | | | | | | | | | | | | | |
| 甕 | 21 | | 1 | 2 | | | | 1 | | | | | | |
| 大甕 | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘土塊 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土製品 | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉈尾 | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 平瓦 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | |
| | 熨斗瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| 中・近世 | 陶磁器 | 常 滑 | 鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | | 甕 | | | | | | | | | | | |
| | | 瀬戸・美濃 | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉碗 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉鉢 | | 1 | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉壺類 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉播鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | | 京焼写碗 | | | | | | | | | | | |
| | | | 腰鎗茶碗 | | | | | | | | | | | |
| | | 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | |
| | | | 壺類 | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系磁器 | 染付碗 | | | | | | | | | | | |
| | | | 染付小杯 | | | | | | | | | | | |
| | | | 染付德利 | | | | | | | | | | | |
| | | 産地不明 | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | |
| | | | 播鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | 土師質土器 | 小皿 | | | | | | | | | | | |
| | | | 播鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | | 鍋 | | | | | | | | | | | |
| | | | 内耳鍋 | | | | | | | | | | 2 | |
| | | | 鉢 | | | | | | | | | | | |
| | | | 壺・甕 | | | | | | | | | | | |
| | | | 香炉 | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 香炉 | | | | | | | | | | | | | |
| | 火鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| | 平瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鍋 | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | |
| | 鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | | |
| | 煙管 | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | | |
| | 硯（転用） | | | | | | | | | | | | | |
| | 砥石（転用） | | | | | 1(1) | | | | | | | | |
| 銭 貨 | 石臼 | | | | | | | | | | | | | |
| | 自然礫 | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 1 | 139 | 8 | 13 | 5 | 1 | 3 | 5 | 6 | 1 | 4 | 5 | 5 |

第3章 調査の成果

| 種別 | 遺構名 | S D | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|---------|-----------|-----------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | P 33 | S T 01 | S X 01 | 01 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 09 | 10 | | | |
| 縄文時代 | 土器 | 深鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 磨石 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 環 | | 7 | 12 | | 1 | 3 | | | | 1 | | | |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | 3 | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | 7 | 24 | 51 | 3 | 1 | | | 10 | 5 | 2 | 9 | | |
| | | 坏 | 1 | 28 | 33 | 3 | | 4 | 1 | 10 | 1 | 5 | 6 | | |
| | | 須恵器 | 高台付坏 | | 1 | 14 | 2 | | 1 | | 5 | 1 | 1 | 1 | |
| 盤 | | | 5 | 8 | | | | | 3 | | | 1 | | | |
| 蓋 | 1 | | 6 | 14 | | | | | 4 | 2 | | | | | |
| 高坏 | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | |
| 鉢 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 短頸壺 | | | | 4 | | | | | | | | | | | |
| 長頸壺 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 壺・瓶類 | 1 | | 2 | 7 | | | | | 1 | | 3 | | | | |
| 甕 | 1 | | 28 | 51 | 1 | 3 | 1 | 1 | 16 | 2 | 1 | 4 | | | |
| 大甕 | | | 4 | 12 | | | | | | | | | | | |
| 土製品 | 支脚 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 粘土塊 | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 不明 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉈尾 | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | 5 | 1 | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 平瓦 | | 5 | 42 | 1 | | | | 4 | 1 | | | | | |
| | 熨斗瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中・近世 | 常滑 | 鉢 | | | | | | | 1 | | | | | | |
| | | 甕 | | 1 | 9 | | | | | | 1 | | | | |
| | 瀬戸・美濃 | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉碗 | | | 7 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉皿 | | | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| | | 灰釉菊皿 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 灰釉鉢 | | 3 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉壺類 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | | 灰釉德利 | | 4 | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉香炉 | | 1 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉不明 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉碗 | | 1 | 7 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉鉢 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉播鉢 | | 3 | 4 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉香炉 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 鉄絵鉢 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 京焼写碗 | | | 4 | | | | | | | | | | |
| | | 腰鎗茶碗 | | | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 刷毛茶碗 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | 志野丸皿 | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 壺類 | | | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| | 肥前系磁器 | 染付碗 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 染付小杯 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | 産地不明 | 染付德利 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | | 灰釉皿 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | 土師質土器 | 播鉢 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 小皿 | | | 2 | 5 | | | | | | | | | |
| | | 播鉢 | | | | 2 | | | | | | | | | |
| | | 鍋 | | | | 4 | | | | | | | | | |
| | | 内耳鍋 | | 16 | 132 | 2 | 1 | 1 | | 6 | 1 | | | | |
| 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 壺・甕 | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | |
| 香炉 | | | | | 2 | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | 2 | | | | | | | | | | |
| 香炉 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 香炉 | | | | | | | | 2 | | | | | | |
| | 火鉢 | | 1 | 20 | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 丸瓦 | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | |
| | 平瓦 | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鍋 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | 錠 | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 煙管 | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 硯(転用) | | | 2(2) | | | | | | | | | | | |
| | 砥石(転用) | 1 | 1(1) | 8(2) | | | | | | | | | | | |
| 銭貨 | 石臼 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 自然礫 | | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 12 | 1 | 143 | 24 | 478 | 14 | 6 | 10 | 2 | 1 | 65 | 16 | 14 | 21 |

| 種 別 | 遺 構 名 | S B | | S A | S K | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|-------|------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|--|--|---|---|---|--|
| | | 03 | 06 | 01 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 41 | 45 | | | | | | | | | | | |
| 縄文時代 | 土 器 | 深鉢 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 磨石 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 坏 | | | | 1 | | | 2 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | 5 | 2 | | | 5 | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 坏 | 2 | 1 | | | 4 | 1 | | 7 | 1 | | 1 | | 2 | | | | | | | 1 | |
| 須恵器 | 高台付坏 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | 盤 | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| | 蓋 | 4 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 高坏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 短頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 長頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 壺・瓶類 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| | 甕 | | 1 | | | 2 | 1 | | | | 4 | | 4 | | 1 | | | | | | | | |
| | 大甕 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 土製品 | 支脚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 粘土塊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉦尾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 平瓦 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | | 1 | | | |
| | 熨斗瓦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中・近世 | 陶磁器 | 常 滑 | 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 甕 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 瀬戸・美濃 | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉壺類 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉搦鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 腰鎗茶碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 壺類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 染付碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系磁器 | 染付小杯 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 染付德利 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 産地不明 | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 搦鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 土師質土器 | 小皿 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 搦鉢 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鍋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 内耳鍋 | | | 3 | 1 | | 4 | 8 | | 1 | 3 | | 6 | | 6 | | | | | | |
| | | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 壺・甕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 香炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 香炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 瓦質土器 | 火鉢 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 平瓦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鍋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 錠 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 煙管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 硯(転用) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 砥石(転用) | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 石臼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 銭 貨 | 自然鑠 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | 13 | 1 | 15 | 4 | | 17 | 14 | 15 | 1 | 14 | 17 | 11 | 2 | 1 | | | | | | 2 | | |

第3章 調査の成果

| 種別 | 遺構名 | S K | | | S E | | | | S K | | | | | |
|---------|--------|-------|------|----|-----|-----|------|----|-----|-----|----|----|---|---|
| | | 09 | 27 | 34 | 01 | 02 | 03 | 04 | 10 | 14 | 15 | 17 | | |
| 縄文時代 | 土器 | 深鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 磨石 | | | | | | | | | | | | |
| | | 環 | 1 | | 1 | 11 | 2 | | 6 | | 1 | | | |
| | | 高台付坏 | | | 1 | 1 | | | 4 | | 1 | | | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | | 3 | 9 | 21 | 16 | 4 | 33 | | 4 | 1 | | |
| | | 坏 | 1 | 4 | 2 | 1 | 17 | 12 | 29 | | 1 | 4 | 1 | |
| | | 高台付坏 | | 2 | 1 | | 8 | 4 | 2 | | | 1 | | |
| | | 盤 | | | | | | | 6 | 1 | 1 | | | |
| | | 須恵器 | 蓋 | 2 | 2 | | 1 | 1 | 4 | 8 | | 1 | 1 | |
| 高坏 | | | | | 1 | 2 | 1 | | | | | | | |
| 鉢 | | | 1 | | 1 | | 2 | | | | | | | |
| 短頸壺 | | | | | | 2 | 2 | | | | | | | |
| 長頸壺 | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 壺・瓶類 | 1 | | | 1 | 5 | 2 | | 1 | | | | | | |
| 甕 | 4 | | | 4 | 20 | 7 | 3 | 11 | 1 | 2 | | 1 | | |
| 大甕 | | | | | 5 | 6 | | 8 | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘土塊 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土製品 | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| | 鈍尾 | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | | 1 | | | 5 | | | | | | |
| 瓦 | 平瓦 | 2 | | | 5 | 3 | 2 | 3 | | | | | | |
| | 熨斗瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉢 | | | | | 1 | | 1 | | | | | | |
| 中・近世 | 陶磁器 | 甕 | | | | | | 1 | 1 | | | | | |
| | | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉皿 | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉壺類 | | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉香炉 | | | | | | | | 1 | | | | |
| | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉播鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉水注 | | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 腰錆茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系陶器 | 碗 | 1 | | | 1 | | | | | | | |
| | | | 壺類 | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系磁器 | 染付碗 | | | | 2 | | | | | | | |
| | | | 染付小杯 | | | | 1 | | | | | | | |
| | | 産地不明 | 染付德利 | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | |
| | | | 播鉢 | | | | | | | | | | | |
| 土師質土器 | 小皿 | 4 | | | 1 | | | 1 | | | | | | |
| | 播鉢 | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | 鍋 | | | | | | | | | | | | | |
| | 内耳鍋 | 11 | | 2 | 60 | 19 | 4 | 2 | 3 | 2 | 1 | | | |
| | 鉢 | | | | | | | 1 | | | | | | |
| | 壺・甕 | | | | | | | | | | | | | |
| | 香炉 | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 不明 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | 香炉 | | | | 4 | | | | | | | | | |
| | 火鉢 | | | | 12 | | | | | | | | | |
| 瓦 | 丸瓦 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | 平瓦 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鍋 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | 錠 | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | | |
| | 煙管 | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 滑石製石鍋 | | | | | | | 1 | | | | | | |
| | 硯(転用) | | | | | | | | | | | | | |
| | 砥石(転用) | | | | | | 1(1) | | | | | | | |
| 銭貨 | 石臼 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | 自然礫 | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 28 | 12 | 21 | 5 | 183 | 2 | 82 | 16 | 129 | 6 | 13 | 8 | 2 |

| 種 別 | 遺 構 名 | S K | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|
| | | 20 | 24 | 25 | 28 | 29 | 31 | 32 | 36 | 40 | 42 | 43 | | | |
| 縄文時代 | 土 器 | 深鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 磨石 | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 環 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | 2 | 1 | 1 | 10 | 1 | 1 | 1 | | | | 3 | | |
| | | 坏 | | 1 | | 5 | 1 | | | | 1 | | 1 | 3 | |
| | | 高台付坏 | | | | 2 | 1 | | | | 1 | | 1 | | |
| | | 須恵器 | 盤 | | | | 1 | | | | | | | | |
| 蓋 | 1 | | | 2 | 4 | | | 1 | | 1 | | | | | |
| 高坏 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 壺・瓶類 | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 甕 | | | 1 | 2 | | | 7 | | | | | | 1 | | |
| 大甕 | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土製品 | 粘土塊 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 釘 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鈍尾 | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 平瓦 | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | |
| | 熨斗瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉢 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中・近世 | 陶磁器 | 甕 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | 天目茶碗 | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | | 灰釉碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉壺類 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉播鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 腰鎗茶碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 壺類 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 染付碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系磁器 | 染付小杯 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 染付德利 | | | | | | | | | | | | |
| | | 産地不明 | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 播鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小皿 | | | | | | 1 | | | | | | |
| | | 土師質土器 | 播鉢 | | | | | | 2 | | | | | | |
| | | | 鍋 | | | | 1 | | | | | | | | |
| | | | 内耳鍋 | | 5 | 1 | 9 | 12 | 2 | | | | | 1 | 1 |
| | | | 鉢 | | | | | 1 | | | | | | | |
| | | | 壺・甕 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 香炉 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 不明 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 香炉 | | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 火鉢 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 平瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鍋 | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 釘 | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | 錠 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉄滓 | | | | | | 2 | | | | | | | | |
| 銅製品 | 煙管 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 硯(転用) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 砥石(転用) | | | | | | | | | | | | | | |
| 銭 貨 | 石臼 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 自然礫 | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 3 | 9 | 6 | 36 | 2 | 28 | 4 | 1 | 3 | 2 | 4 | 6 | | |

第3章 調査の成果

| 種別 | 遺構名 | SK | | | | | | | P | | グリッド | | | | |
|---------|--------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|------|---|----|----|--|
| | | 44 | 46 | 51 | 55 | 57 | 58 | 60 | 11 | 22 | B-6 | | | | |
| 縄文時代 | 土器 | 深鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 環 | 1 | 2 | | 3 | 2 | | 1 | 1 | | | | 2 | |
| | | 高台付環 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | 須恵器 | 小型壺 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | 1 | | | 6 | 4 | 2 | 1 | 2 | | | | 15 | |
| | | 環 | | | | 3 | | | | 1 | | | | 3 | |
| | | 高台付環 | 2 | | | 1 | | | | | | | | 2 | |
| | | 盤 | | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| | | 蓋 | | | | 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | 1 | |
| | | 高環 | | | | | | | | | | | | | |
| 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土製品 | 長頸壺 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 壺・瓶類 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 甕 | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | 5 | | |
| | 大甕 | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | 支脚 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 粘土塊 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鉄製品 | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鎌 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 釘 | | | | | | | | | | | | | |
| | 銅製品 | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鈍尾 | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中・近世 | 瓦 | 熨斗瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 陶磁器 | 常滑 | 鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 甕 | | | | | | | | | | | | |
| | | 瀬戸・美濃 | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉壺類 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉播鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 腰鎗茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 壺類 | | | | | | | | | | | | |
| | 染付碗 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 肥前系磁器 | 染付小杯 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 染付德利 | | | | | | | | | | | | | |
| | 産地不明 | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 播鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | 土師質土器 | 播鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| 鍋 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内耳鍋 | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 壺・甕 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 香炉 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 香炉 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 火鉢 | | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 鍋 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 錠 | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 煙管 | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 硯(転用) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 砥石(転用) | | | | | | | | | | | | | | |
| 銭貨 | 石臼 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 16 | | | | | | | | | | | | |
| 自然礫 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 4 | 16 | 4 | 1 | 18 | 8 | 4 | 3 | 6 | 1 | 1 | 32 | | |

| 種別 | 遺構名 | グリッド | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|--------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|--|
| | | B-7 | C-3 | C-4 | C-5 | C-7 | C-8 | D-1 | D-7 | D-8 | E-1 | E-6 | | | |
| 縄文時代 | 土器 | 深鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 環 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | | | |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 甕 | 2 | 8 | | 2 | 1 | 3 | 3 | 8 | 8 | 2 | | | |
| | | 坏 | 7 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 3 | | 3 | 2 | 1 | | |
| | | 高台付坏 | | | 1 | | | | | | 2 | | | | |
| | | 盤 | | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | | 蓋 | 1 | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | |
| | | 須恵器 | 高坏 | | | | | | | | | | | | |
| 鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長頸壺 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 壺・瓶類 | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | | |
| 甕 | | | 4 | | 1 | | 1 | | 1 | 4 | 1 | | | | |
| 大甕 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘土塊 | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 鉄製品 | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅製品 | 鉈尾 | | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平瓦 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | |
| 中・近世 | 陶磁器 | 熨斗瓦 | | | | | | | 1 | | | | | | |
| | | 瀬戸・美濃 | 鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 甕 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉碗 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉皿 | | | 2 | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉壺類 | | | | | | 1 | | | | | | |
| | | | 灰釉德利 | | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄釉碗 | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄釉播鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄釉水注 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄釉香炉 | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腰鍔茶碗 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土師質土器 | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 壺類 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 染付碗 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | | 染付小杯 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | 染付德利 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 播鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小皿 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 播鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鍋 | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦質土器 | 肥前系磁器 | 内耳鍋 | | | | | | | 3 | | | | | | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 壺・甕 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 香炉 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | | | | | | | | |
| 瓦 | 産地不明 | 香炉 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 火鉢 | | 3 | 1 | | | | | | | 1 | | | |
| | | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄製品 | 土師質土器 | 平瓦 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鍋 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 釘 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 錠 | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 銅製品 | 瓦質土器 | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 煙管 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | | |
| 石製品 | 瓦 | 硯(転用) | | | | | | | | | | | | | |
| | | 砥石(転用) | | | | | | | | | | | | | |
| 銭貨 | 鉄製品 | 石臼 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 自然礫 | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | 10 | 24 | 9 | 6 | 3 | 9 | 10 | 12 | 2 | 20 | 8 | 2 | |

第3章 調査の成果

| 種別 | 遺構名 | グリッド | | | | | | | | 計 | | | | |
|---------|--------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|-------|-------|----|
| | | F-1 | F-2 | F-4 | F-6 | G-1 | H-2 | H-3 | I-1 | | | | | |
| 縄文時代 | 土器 | 深鉢 | | | | | | | | 1 | | | 4 | |
| | | 石鏝 | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 打製石斧 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 奈良・平安時代 | 土師器 | 磨石 | | | | | | | | | | | 2 | |
| | | 環 | | 3 | | 1 | | | | 1 | | | 3 | |
| | | 高台付坏 | | | | | | | | | | | 7 | |
| | | 埴 | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 皿 | | | | | | | | | | | 4 | |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | 3 | |
| | | 鉢 | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| | | 小型壺 | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 小型甕 | | | | | | | | | | | 3 | |
| | | 甕 | 16 | 34 | 1 | 2 | 4 | 10 | 10 | | | | 1,148 | |
| | 須恵器 | 坏 | 6 | 8 | | | 4 | 2 | 7 | | | | 3 | |
| | | 高台付坏 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | 2 | |
| | | 盤 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 3 | | | | 54 | |
| | | 蓋 | 3 | 7 | | | | 2 | 1 | | | | 1 | |
| | | 高坏 | | | | | | | | | | | 17 | |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | 6 | |
| | | 短頸壺 | | | | | | | | | | 1 | 12 | |
| | | 長頸壺 | | | | | | | | | | | 3 | |
| | | 壺・瓶類 | | | | | 2 | | 1 | | | | 50 | |
| 甕 | | 6 | 4 | 1 | | 6 | 1 | 5 | | | | 351 | | |
| 土製品 | 大甕 | | | | | | | | | | | 56 | | |
| | 支脚 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 鉄製品 | 粘土塊 | | | | | | | | | | | 5 | | |
| | 鉄鏝 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 鎌 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 銅製品 | 不明 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 鈍尾 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 石製品 | 磨石 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 丸瓦 | | | | 1 | | | | | | | 22 | | |
| 瓦 | 平瓦 | 3 | 1 | | | 1 | | | | | | 104 | | |
| | 熨斗瓦 | 2 | | | | | | | | | | 6 | | |
| | 鉢 | | | | | | | | | | | 3 | | |
| 中・近世 | 常滑 | 甕 | | | | | | | | 1 | 1 | | 19 | |
| | | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | 2 | |
| | | 灰釉碗 | | 1 | | | | | | | | | 8 | |
| | 瀬戸・美濃 | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | 1 | 4 |
| | | 灰釉菊皿 | | | | | | | | | | | 2 | 1 |
| | | 灰釉鉢 | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | 灰釉壺類 | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | 灰釉德利 | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | 灰釉香炉 | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | 灰釉不明 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 鉄釉碗 | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | 鉄釉鉢 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 鉄釉播鉢 | | | | | | | | | | | | 7 |
| | | 鉄釉水注 | | | | | | | | | | 1 | | |
| | | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 鉄絵鉢 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 京焼写碗 | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | 腰鍔茶碗 | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 刷毛茶碗 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 志野丸皿 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 肥前系陶器 | 碗 | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 壺類 | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 肥前系磁器 | 染付碗 | 1 | 1 | | | | | | | | | | 8 |
| | | 染付小杯 | | | | 1 | | | | | | | | 3 |
| | | 染付德利 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 産地不明 | 灰釉皿 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 播鉢 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 土師質土器 | 小皿 | | | | | | | | | | | 4 | 11 | |
| | 播鉢 | | | | | | | | | | | | 9 | |
| | 鍋 | | | | | | | | | | | | 6 | |
| | 内耳鍋 | 5 | 4 | | | 9 | | | 1 | 1 | | | 351 | |
| | 鉢 | | | | | | | | | | | | 6 | |
| | 壺・甕 | | | | | | | | 3 | | | | 3 | |
| | 香炉 | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 不明 | | | | | | | | | | | | 3 | |
| | 瓦質土器 | | | | | | | | | | | | 6 | |
| | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 瓦 | 火鉢 | | | | | | | | | 1 | | | 40 | |
| | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | 4 | |
| 鉄製品 | 平瓦 | | | | | | | | | | | | 3 | |
| | 鍋 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 釘 | | | | | | | | | | | | 2 | |
| 銅製品 | 錠 | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 鉄滓 | | | | | | | | | | | | 3 | |
| 石製品 | 煙管 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 滑石製石鍋 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 硯(転用) | | | | | | | | | | | | 2(2) | |
| | 砥石(転用) | | | | | | | | | | | | 12(5) | |
| 銭貨 | 石臼 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 自然礫 | | | | | | | | | | | | 16 | |
| 計 | 43 | 65 | 3 | 6 | 27 | 19 | 33 | 2 | | | 82 | 3,360 | | |

第4章 総括

第1節 土地利用の変遷

堀遺跡は、那賀郡衙の関連集落として知られており、本地点では奈良・平安時代と中・近世に大別できる集落の一部が調査された。全ての遺構、とくに中・近世においては、埋め戻されているため帰属時期を明確にするのは難しいが、重複関係やこれまでの調査成果を加味しながら集落の動態を確認し、本調査区における土地利用の変遷を概観してみたい。

第4地点で最も古い時期の発見は、縄文時代中期後半の加曾利E式期である。遺構は検出されなかったものの、土器4点と石器4点の資料を得た。ただし、縄文人の活動はうかがわれるが、隣接する第2地点で遺構・遺物は出土せず、第18地点でも土器の採取だけで遺構の展開は認められていない。

本調査において集落の営みが確認できるのは、8世紀後半の奈良時代末である。調査区北西において検出されたSI04・05が該当し、第2地点では39軒の竪穴建物跡が調査されたうち15軒がこの時期に比定されるなど、集落が最も拡大する時期にあっている。SI04と05はともに明瞭な支柱穴を伴う大型で、壁際を箱形の溝状に掘り込む掘り方に共通点を見出せる。両者は近接することから、8世紀後半の中でもいくつかの小期に分かれそうである。この時期の土器量は土師器と須恵器が拮抗し、供膳具は木葉下窯産の須恵器が主体を占めていた。

特殊な遺物としては、SI05の覆土上層から銅製帯金具（鈔帯）の鉈尾が出土している。鉈尾は残存全長2.3cm、幅2.2cmを計り、裏金具の装着が認められ、蛍光X線分析により純銅を素材とする鍛造製品であることが明らかとなった。帯金具の多くは鉈足を造り出す鍛造製品であり、一体化した鉈足の製作が難しい鍛造品の場合はどのように装着したのか問題となる。孔が微妙にずれていることから表金具の表面より別造りの鉈で留めた可能性も視野に入る。史料からみた使用期間については、慶雲四年（707）に革帯がはじめて用いられたとの記述があり、『日本後紀』の延暦十五年（796）には銅製の鈔帯が禁止され、大同二年（807）から弘仁元年（810）までは一時的に復活したことが知られる。集落の時期は8世紀後半であり、使用期間とは合致する。さらに、本資料は漆の付着は目視できないものの「烏油腰帯」とみられ、『養老令』の中の「衣服令」を考慮すると、大きさ及び材質から六位以下の官人に用いられたことがわかる。茨城県下では、平成10年時点で国衙工房・郡衙・廃寺・集落など27遺跡55点以上の帯金具の出土が知られ、黒澤秀雄氏は、それらの集成・分析を通して、官衙遺跡からの出土は少なく、郷長集落や国府・郡衙・駅家に隣接した集落などに伴うことを指摘している（黒澤 1998）。郡衙関連集落としての堀遺跡を再認識させられる資料といえよう。

続いて遺構が認められるのは、9世紀前半のSI03、中葉のSB01である。SB01は3間×3間の総柱建物で、版築により建てられ、豊島郡衙の御殿前遺跡において検出されている、「地中梁」（「柱筋溝状遺構」）と呼ばれる柱掘り方を連結した溝状の掘り込みと類似する痕跡が確認された。御殿前遺跡でのこの掘り込みは、8世紀第2四半期～9世紀第2四半期の建物跡において検出されており、上総国畔蒜郡衙の推定地である丹過遺跡でも用いられている構造である。SB01と同様の建物跡は調査されていないため性格を言及するには早急といえようが、第2地点で公的建物の可能性が指摘される、桁行8間以上、梁行2間の長屋風の側柱建物が発見されていること、東に位置する第18地点でこれと柱筋を揃える柱掘り方を検出し、さらに東の第9地点でも8世紀期中葉～9世紀中葉にかけて大型の東西棟建物群が調査されているなど、公的な機能を踏襲した建物が数期わたり存続したことは

第4章 総括

明らかで、SB01はその南限であった可能性は高い。そして、9世紀後半のSI02を経て10世紀初頭のSI01で、本調査区における奈良・平安時代の集落は終焉を迎える。

この後遺構が構築されるのは、中世後半まで待たねばならない。ただ、遺構は伴っていないが、13世紀末～14世紀初頭、鎌倉時代末の常滑製品と、北九州産とみられる滑石製石鍋が出土しており、遺跡内におけるこの時期の遺構埋蔵を示唆する。滑石製石鍋は次節において成果を整理したが、当地の歴史の変遷を考えるうえでの重要な資料である。

中・近世では、重複関係から15世紀後半以前の遺構にSK11・12・13が比定されるも時期の特定は難しい。時期の明確な遺構としては、15世紀後半～16世紀前半のSK01・02・05・06（地下式坑）やSK25・46などがある。第2地点でもこの時期の遺構が認められることから経度53.3度線付近を中心の中・近世の遺構は展開するとみられる。地下式坑の形態は、竪坑と主室が接続し、竪坑は段を伴わない無段式である。SK03・04は出土した内耳鍋の形態的特徴から16世紀前半に比定され、さらに、SK01・02において重複が認められるなど数期に及ぶ構築が明らかになる。竪坑の位置は北側と南側に大別することが可能で、時間差を示すものと理解できる。規模をみると、SK05を除く地下式坑は小型であり、総じて掘り込み深度は浅く、坑内の空間は狭くなる。地下式坑については、貯蔵施設、墓地施設、戦乱に伴う避難所説などが出されていることは周知の通りであるが、今回の調査ではその機能について言及できる資料は得られていない。しかし、本文で報告したSK45における竪坑の閉塞やその規模は、地下式坑の性格を考えるうえで意味をもつ成果であろう。

続いて16世紀前半には、SK03・04とともに方形竪穴状遺構のSK27・34、播鉢形のSK24・28、中葉へかけてSK29、16世紀後半～17世紀初頭にSB06、SK50・51、SA01が営まれる。SB06は長屋状の雑舎的建物で、周辺に多くの柱穴が認められ、建て替えあるいは補修が繰り返されていた。15世紀後半～17世紀初頭の遺構からは内耳鍋の出土が目立ち、生活感がある。一方、土師質土器小皿の出土は、全体で個体・破片を併せ15点と少なく、遺跡の性格や階層を示唆するものとみられる。

17世紀前半になると、特筆できる成果のひとつ、地山整形が行われる。限られた範囲での調査のため全容を明らかにし得ないが、西に浅い谷もしくは窪地があって、そこへ至る緩やかな傾斜地をL字形に削平したものと判断した。重複する地下式坑は、覆土中に天井の崩落土が少ないか、認められないことから、台地整形の過程で天井やその一部が削平されたと考えられる。それに対して溝跡としたSD01、井戸跡、方形竪穴状遺構のSK07、大型方形土坑のSK08・17は、同時期あるいはその直後の構築で関連するとみられる。この後当地は整地され17世紀後半に方形竪穴状遺構のSK09、大型方形土坑の

第15表 遺構変遷表

| 時 期 | 遺 構 |
|-----------------------|---|
| 8世紀後半 ～ 9世紀前半 | 竪穴建物跡 … SI03・04・05 掘立柱建物跡 … SB04・05 土 坑 … SK52 |
| 9世紀中葉～後半 | 竪穴建物跡 … SI02 掘立柱建物跡 … SB01 |
| 10世紀初頭 | 竪穴建物跡 … SI01 |
| 15世紀後半以前 | 土 坑 … SK11・12・13 |
| 15世紀後半 ～ 16世紀 | 地下式坑 … SK01・02・05・06 大型方形土坑 … SK25 土 坑 … SK46 |
| 16世紀前半 ～ 中葉 | 地下式坑 … SK03・04 方形竪穴状遺構 … SK27・34 土 坑 … SK24・28・29 |
| 16世紀後半 ～ 17世紀初頭 | 掘立柱建物跡 … SB06 柵 列 … SA01 土 坑 … SK50・51 |
| 17世紀前半 | 台地整形遺構 … SX01 溝 跡 … SD01 方形竪穴状遺構 … SK07 井戸跡 … SE01・02・03・04 大型方形土坑 … SK08・17 土 坑 … SK19・22・23・30・31・42 |
| 17世紀後半 | 方形竪穴状遺構 … SK09 大型方形土坑 … SK10・14・15 土 坑 … SK20・21・26・33 |
| 17世紀代 | 塚 … ST01 溝 跡 … SD02 |
| 近世後期 | 溝 跡 … SD03・04・05・06・07・08 09・10・11 |

SK10・14・15が掘り込まれている。17世紀前半の遺物は、瀬戸・美濃製品と在地の土器で占められていた。16世紀末～17世紀前半の豊臣後期に出土の中心があり、大坂の陣を経て急速に減少する志野製品は、年代を決定するうえで基準となるものであるが、調査では丸皿1点の出土にとどまった。県下では小大名の居城である守谷市の守谷城跡、つくばみらい市の小張城跡（鹿島神社遺跡）、武家屋敷の笠間市宍戸城跡、上層農民の屋敷跡であるつくば市の柴崎片岡上館跡、その他の調査で志野製品の出土がみられ、少量であるが水戸城跡でも発見されている。本遺跡での1点は、遺跡の性格や関わる人々の階層が余り高くないことを暗示しているかのようなのである。注目される遺物としては砥石が挙げられ、転用を加えると13点を数え、椀形滓3点も出土した。埋め戻しの覆土中や整地層に含まれたもので、時期については第30地点の調査で、8世紀後半に帰属する鍛冶工房が調査されているため古代の可能性もあるが、据え付けて用いたとみられる大型品や内耳鍋も転用されているなど近世の所産として理解した。井戸も多く、直接的な痕跡は捉えていないが、台地整形は鍛冶あるいは何らかの工房を伴う可能性がある。近世初頭における当地の営みを示すものであろう。なお、第15表に遺構の時間的な位置付けを掲載しておく。

第2節 滑石製石鍋について

滑石製石鍋は、9世紀末～16世紀初頭へかけて消費された煮沸具のひとつで、14世紀前半を盛期とし、西日本を中心に東北から沖縄の列島各地で出土している。広島県福山市の草戸千軒町遺跡においては約二千点に上り、関東地方では鎌倉から多くの出土がみられるもの他県では極端に減少し、茨城県では茨城町の宮ヶ崎城跡で1点、土浦市の神出遺跡では印版への転用品とみられる遺物が1点確認できる。

滑石製石鍋の生産地については、長崎県の西彼杵半島一帯を主要地に、山口県宇部市の下請川南遺跡が知られる。国指定の生産遺跡、長崎県西海市のホグット遺跡と下請川南遺跡の滑石では、ホグット遺跡が粗粒で、下請川南遺跡には直閃石が含まれるなど違いが明らかにされている（今岡他 2006）。本資料の産地については科学分析を実施しておらず言及しづらいものの、北九州あるいはその周辺からもたらされた可能性がある。

本資料は、口縁部から体部へかけての破片であり、全体像までは明らかにできないが、体部は直線的に開いて、口縁部は角張り罫は台形状となる。高田大輔氏の分類ではC群、13世紀代に相当する（高田 2001）。福岡県太宰府内における中心的な消費地、観世音寺で出土した滑石製石鍋について、型式を整理し変遷を検討した杉原敏之氏の論考に立脚するならば、C群の1に類似し13世紀末～14世紀初頭に位置付けられる（杉原 2007）。本資料は、SE04の覆土上層から出土したもので、遺構に伴うものではない。今回の調査でこの時期の遺構は発見されていないが、6b型式の常滑甕を近くから得ており、本資料を鎌倉時代末の所産としても大過ないと考えられる。

滑石製石鍋の出土遺跡を概観すると、県下の宮ヶ崎城跡の場合、涸沼の水上交通路を扼する場所にあたる。千葉県では2006年時点で船橋市の夏見大塚遺跡や市原市の台遺跡、君津市の郡遺跡など9遺跡において確認され（津田 2006）、荘園や官衙周辺の交通路上に位置する傾向がみてとれる。とくに、台遺跡は上総国府、郡遺跡は周准郡衙の外縁にあたり、堀遺跡もまた郡衙関連の集落跡で、近辺には東海道が通り、那珂川の渡河地点を擁していた。一般に9世紀後半以降になると郡司権限の縮小に伴い郡衙機能は衰退・消滅していくとされるが、少なくとも鎌倉時代にこれらの遺跡では、統治機構である律令的な郡衙は解体しても、地域の中心であった可能性はある。その背景には交通の要地と

第4章 総括

しての様相がうかがわれ、当地に残された源義家に滅ぼされる有徳人の「一盛長者伝承」などはこれを示唆するものと理解できる。地名調査を行った茨城大学の田中裕氏は、古代道は中世も活用しつづけ、同地区が枢要の地として機能し続けた。としたうえで、「古代に形成された景観（官衙、寺院、官道、駅家の集中配置）が、後世の歴史をある程度規定するとみてよかろう」と述べている（田中 2014）。

今回出土した滑石製石鍋はこれを予測させるには十分であり、郡衙のその後を探究する端緒となる資料である。「台渡里官衙遺跡群」がどのように終焉を迎え、中世にかけて地域社会の中で変質を遂げていくのか、一つの課題が提示されたといえる。

主な引用・参考文献

- 浅井哲也 1992・1993 「茨城県内における奈良・平安時代土器（Ⅰ・Ⅱ）」 『研究ノート』創刊号・2号
（財）茨城県教育財団
- 茨城県立歴史館 1944 『茨城県における古代瓦の研究』学術調査報告4
- 水戸市堀遺跡発掘調査会 1995 『水戸市堀遺跡』
（財）茨城県教育財団 1998 『宮ヶ崎城跡』茨城県教育財団文化財調査報告第141集
- 黒澤秀雄 1998 「茨城県出土の『腰帯具』について」 『研究ノート』7号 （財）茨城県教育財団
- 土浦市教育委員会 土浦市遺跡調査会 1999 『東出・神出・中井遺跡』
- 高田大輔 2001 「関東地方出土の滑石製石鍋」 『埼玉考古』第36号 埼玉考古学会
- 全国シンポジウム「中世窯業の諸相」実行委員会 2005 『中世窯業の諸相-生産技術の展開と編年-』
- 築瀬裕一 2006 「地下式坑の分類と編年試論-中馬場遺跡他の千葉県事例をもとに-」
『房総中近世考古』第2号 房総中近世考古学研究会
- 今岡照喜 中村徹也 早坂康隆 鈴木康之 2006 「滑石製石鍋原材料の比較研究-長崎県ホグット遺跡と山口県下請川南遺跡-」 『考古学と自然科学』 日本文化財科学会
- 津田芳男 2006 「千葉県内における中世煮炊具について」 『房総中近世考古』第2号
房総中近世考古学研究会
- （財）茨城県教育財団 2006 『新善光寺跡 宍戸城跡』茨城県教育財団文化財調査報告第256集
- 山武考古学研究所 2006 『宍戸城跡』
- 鹿島神社遺跡調査会 2006 『鹿島神社遺跡（小張城跡）』
- つくば市教育委員会 2007 『柴崎片岡上館跡』
- 杉原敏之 2007 「観世音寺出土の滑石製石鍋」 『観世音寺』考察編 九州歴史資料館
東国中世考古学研究会 2007 『地下式坑を考える-地下式坑の全国集成とその検討-』
第3回東国中世考古学研究会大会資料集
- 水戸市教育委員会 2008 『堀遺跡（第9地点）』水戸市埋蔵文化財調査報告第19集
- 水戸市教育委員会 2009 『堀遺跡（第18地点）』水戸市埋蔵文化財調査報告第33集
- 茨城県考古学協会 2011 『茨城中世考古学の最前線～編年と基準資料～』
- 水戸市教育委員会 2012 『堀遺跡（第36地点）』水戸市埋蔵文化財調査報告第52集
- 水戸市教育委員会 2012 『古代常陸の現像 那賀郡衙と台渡里官衙遺跡群』
- 田中 裕 他 2014 『常陸国那賀郡家周辺遺跡の研究-報告編（地名・遺構・遺物）-』
茨城大学人文学部考古学研究室
- 地域文化財研究所 2014 『加東割遺跡3次』流山市埋蔵文化財調査報告Vol. 52
- 水戸市教育委員会 2014 『水戸城跡発掘調査報告書Ⅰ』水戸市埋蔵文化財調査報告書第61集

写真図版





調査区全景（南東から）



調査区北部全景（西から）



調査区東部全景（南東から）



調査区西部全景（北から）



調査前現況（南東から）



調査前現況（北西から）



TP01 基本堆積土層（北東から）



TP02 基本堆積土層（南西から）



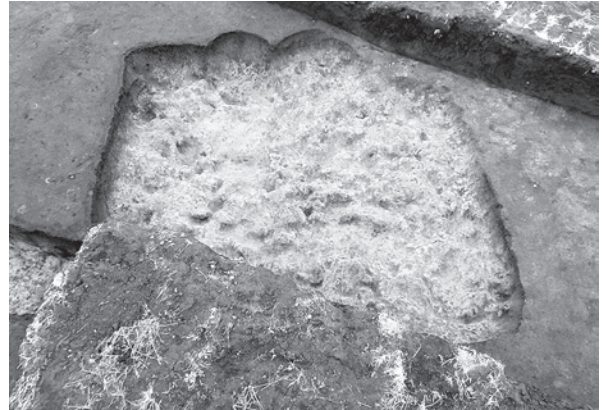
SI01 全景 (東から)



同 土層断面 (北東から)



同 遺物出土近景 (北東から)



同 完掘全景 (東から)



SI02 全景 (南から)



同 土層断面 (北から)



同 カマド調査状況 (南から)



SI03 全景 (東から)



SI03 カマド近景 (南から)



SI04 全景 (東から)



同 遺物出土状況 (東から)



同 遺物出土近景 (南から)



同 完掘全景 (東から)



SI05 全景 (南から)



同 P1 土層断面 (西から)



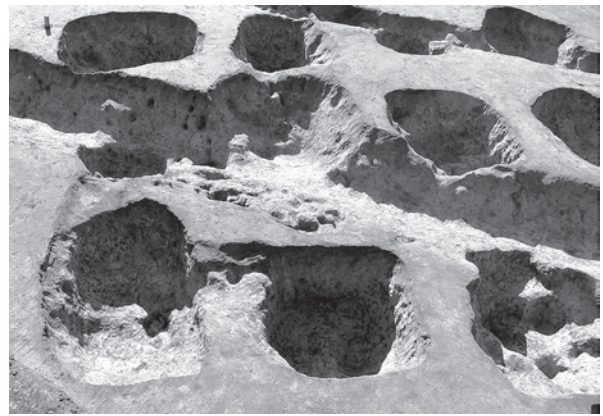
同 完掘全景 (西から)



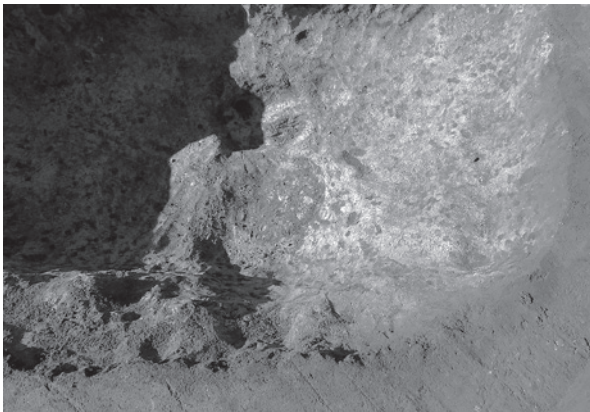
SB01 全景 (空撮)



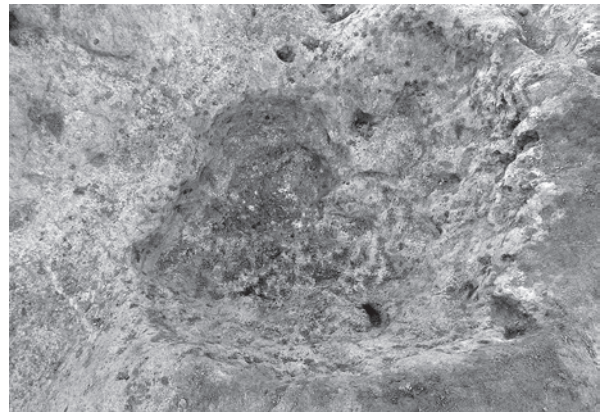
同 柱痕確認状況 (東から)



同 柱掘り方構築状況 (北から)



同 P1 底面近景 (東から)



同 P2 底面近景 (東から)



SB01 P1 土層断面（北東から）



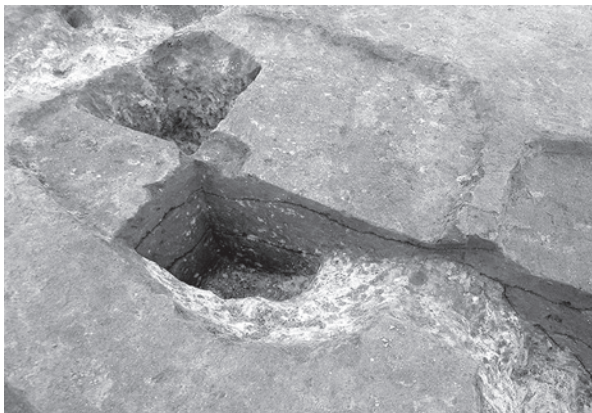
同 P1 土層断面（南西から）



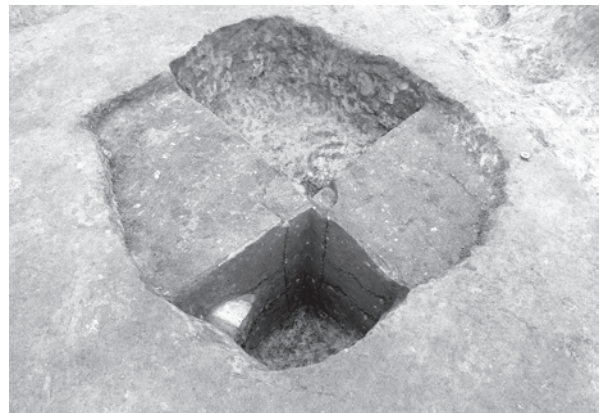
同 P3 土層断面（北西から）



同 P5 土層断面（北西から）



同 P7 土層断面（北東から）



同 P8 土層断面（南東から）



同 P9 土層断面（南西から）



同 P12 土層断面（南西から）

図版 6



SB02 全景 (南から)



同 柱痕確認状況 (南から)



同 P2 土層断面 (南から)



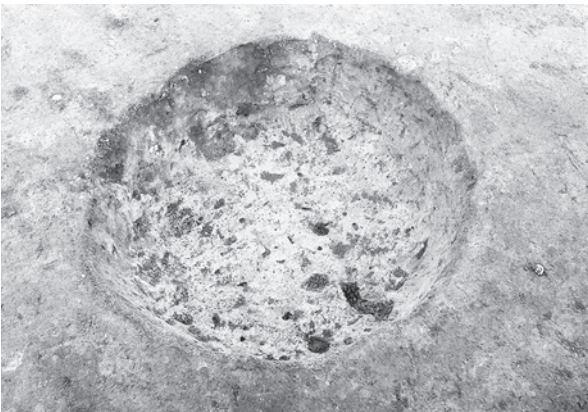
同 P4 土層断面 (西から)



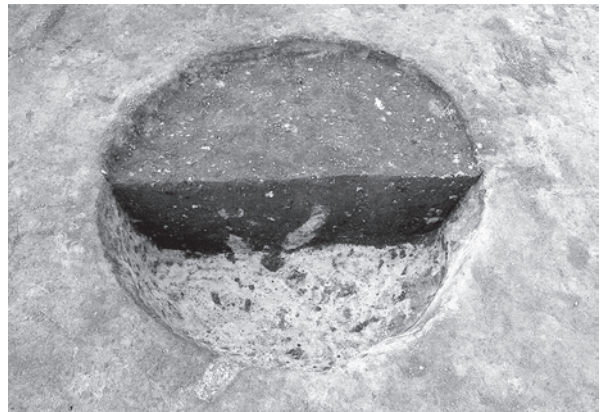
SB04 全景 (北から)



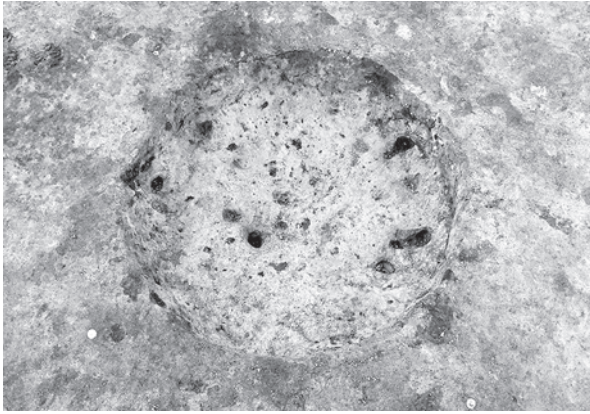
SB05 全景 (東から)



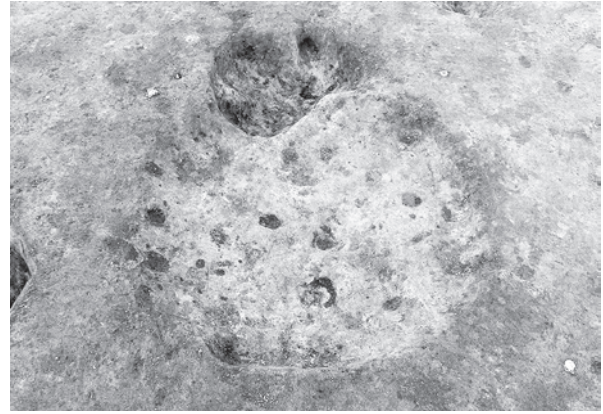
SK35 全景 (西から)



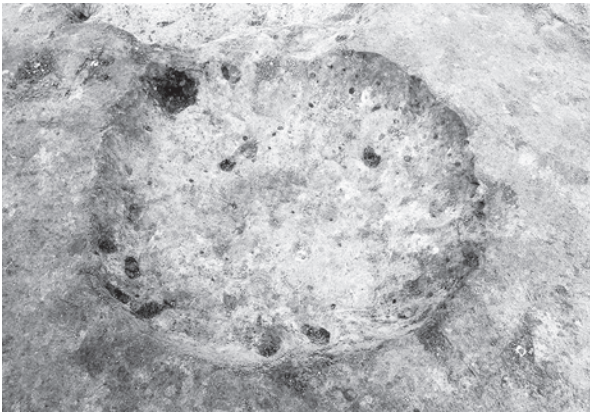
同 土層断面 (北東から)



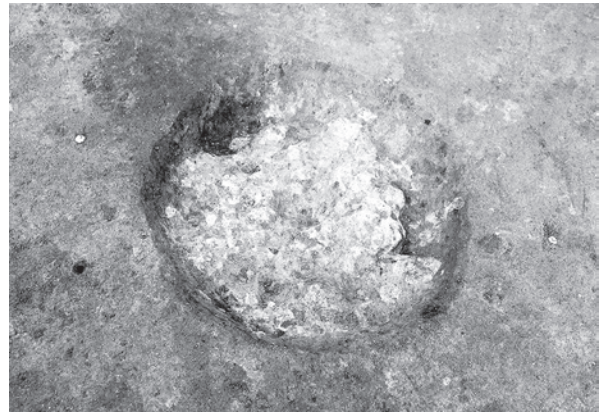
SK37 全景 (南から)



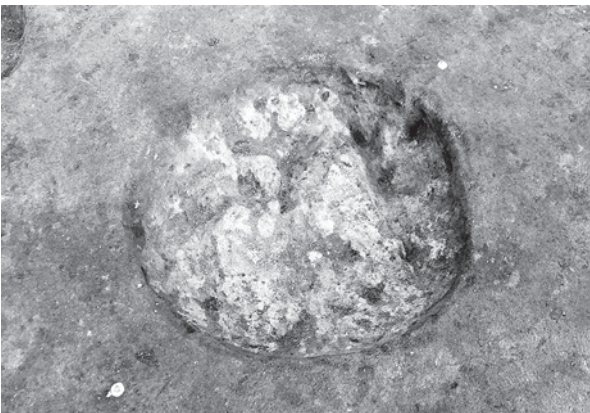
SK38 全景 (南から)



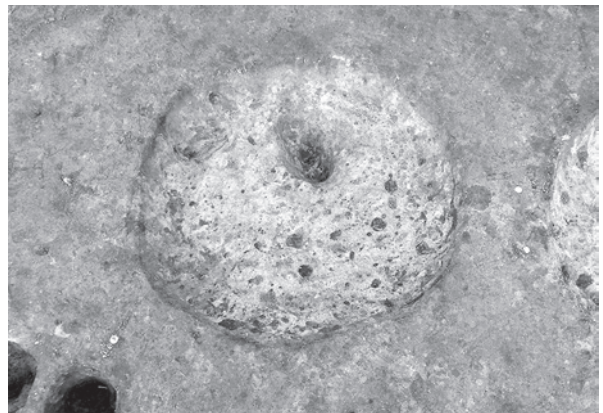
SK47 全景 (南から)



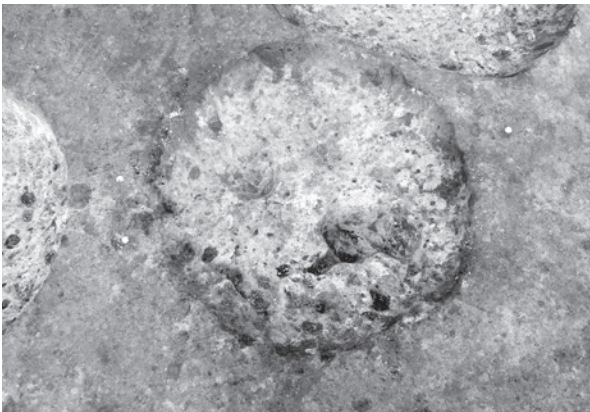
SK48 全景 (南から)



SK49 全景 (北西から)



SK52 全景 (南西から)



SK53 全景 (南西から)



SK54 全景 (南東から)

図版 8



ST01 現況（北から）



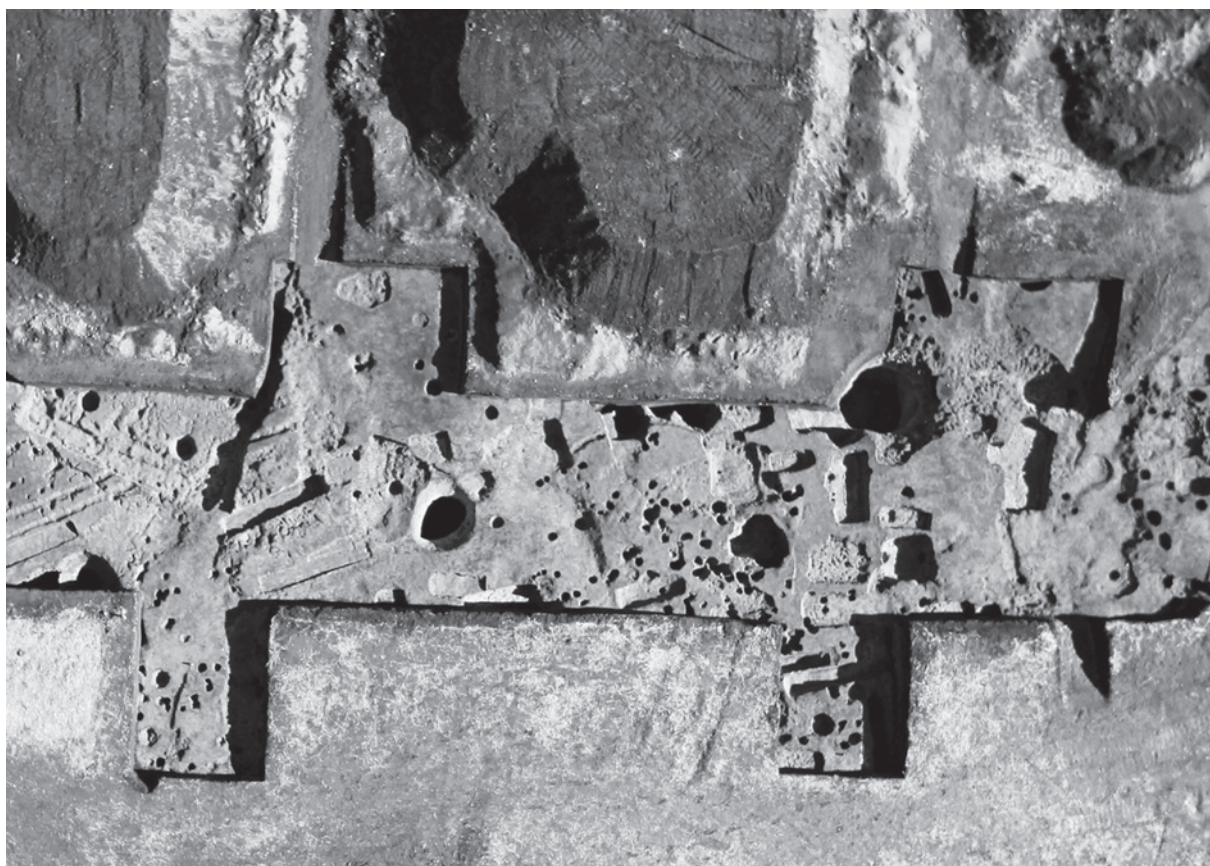
同 現況（東から）



同 土層断面（北から）



同 完掘全景（北東から）



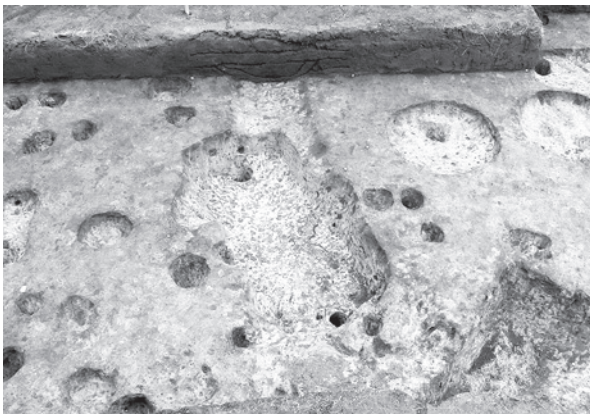
SX01 全景（空撮）



SD01 全景（北東から）



同 土層断面（南東から）



SD02, SK27 全景（南西から）



SD03・11 全景（北東から）



SD04 全景（北東から）



SD05・06・07 全景（南東から）



同 全景（北西から）



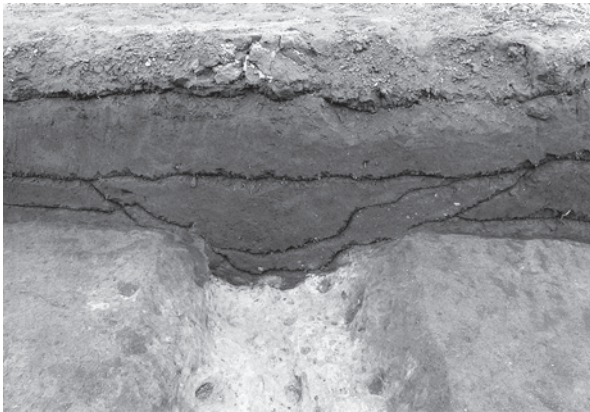
SD05・06 土層断面（北西から）



SD08 全景（北西から）



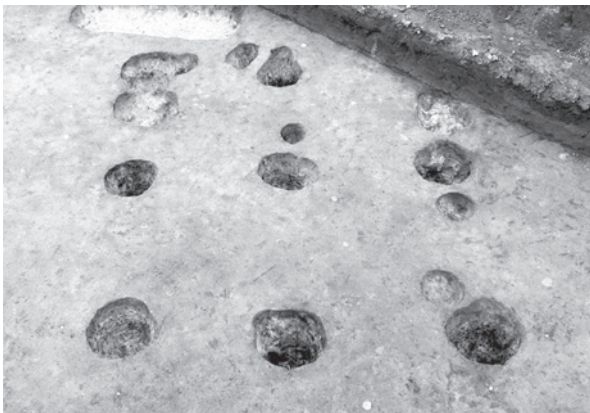
SD09 全景（北東から）



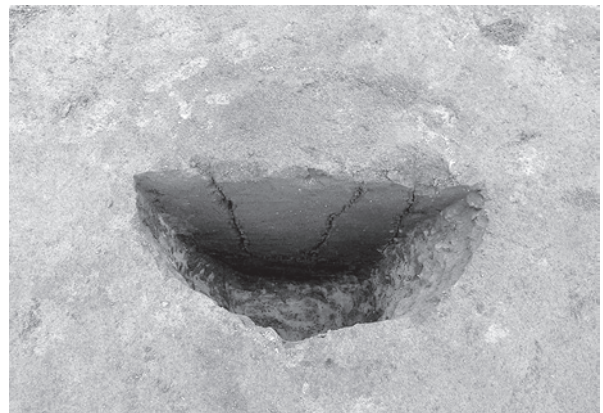
同 土層断面（南西から）



SD10 全景（西から）



SB03 全景（西から）



同 P2 土層断面（西から）



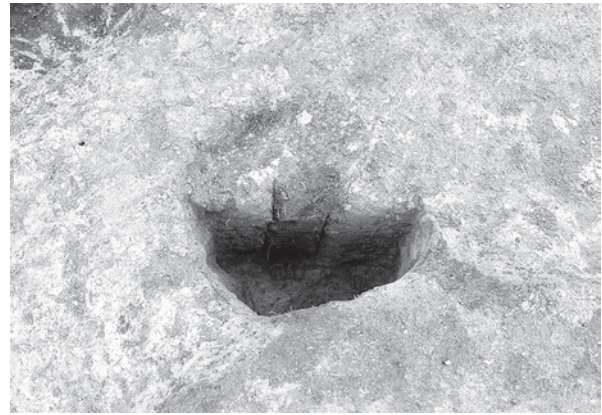
同 P3 土層断面（西から）



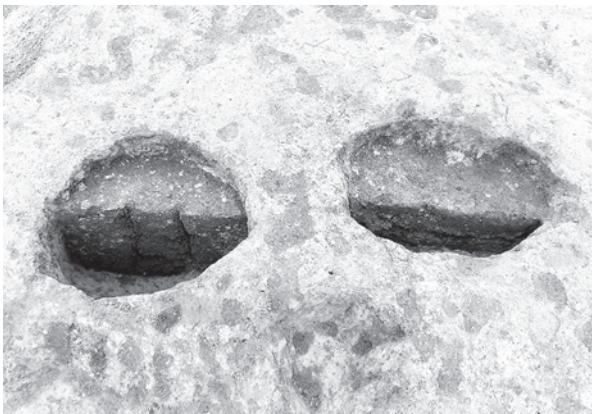
同 P5・10 土層断面（北から）



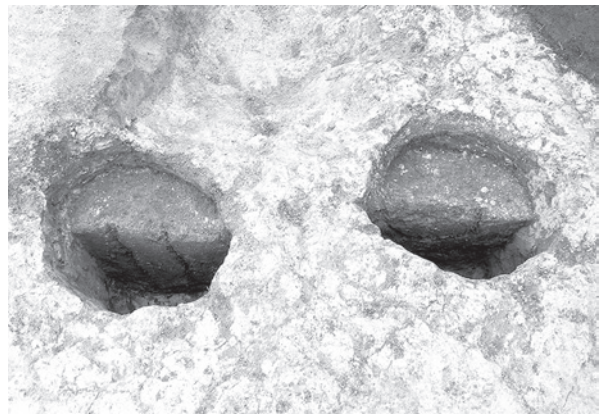
SB06, SK50・51 全景 (北東から)



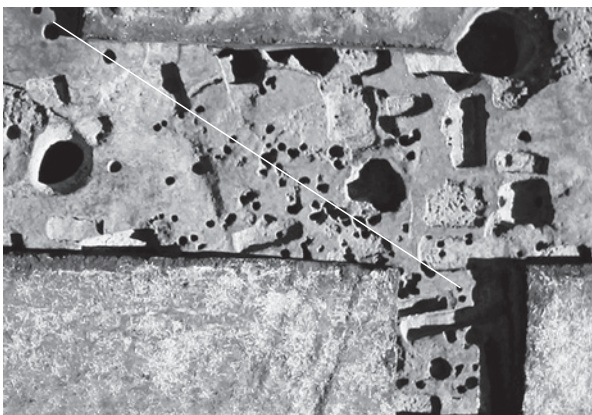
SB06 P1 土層断面 (南東から)



同 P12・13 土層断面 (北西から)



同 P14・15 土層断面 (北西から)



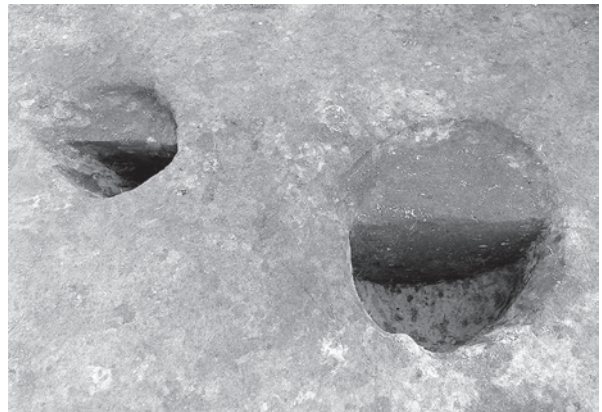
SA01 全景 (空撮)



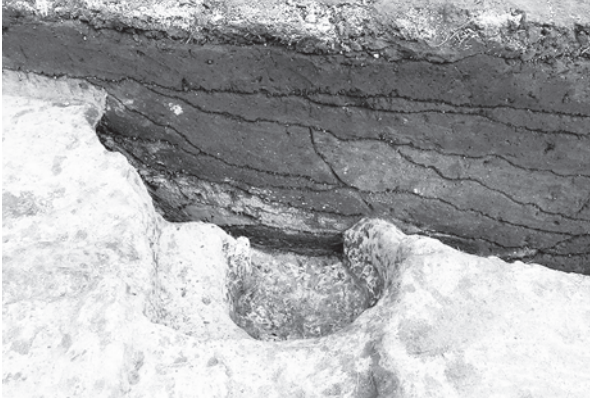
同 P11・12・14 土層断面 (東から)



同 P15・20 土層断面 (西から)



同 P42・43 土層断面 (西から)



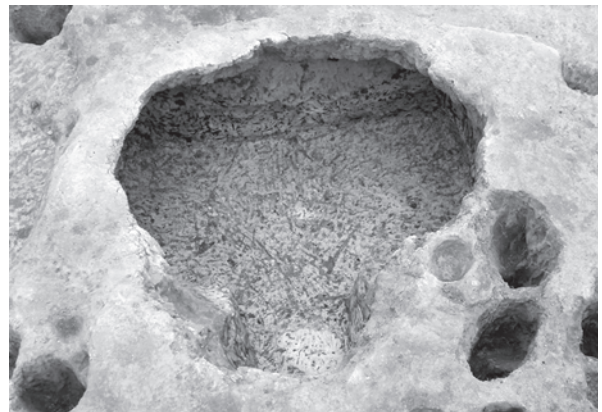
SK01・13 全景（南西から）



SK02 全景（南西から）



SK03・12 全景（北西から）



SK04 全景（北西から）



同 土層断面（北西から）



SK05 全景（南西から）



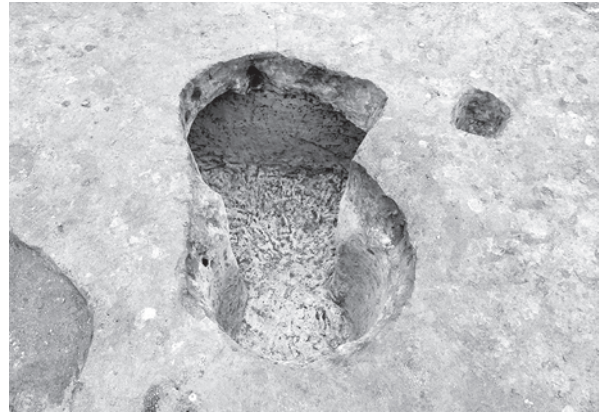
同 土層断面（北西から）



SK06 全景（北から）



SK41 全景 (東から)



SK45 全景 (南から)



同 土層断面 (北西から)



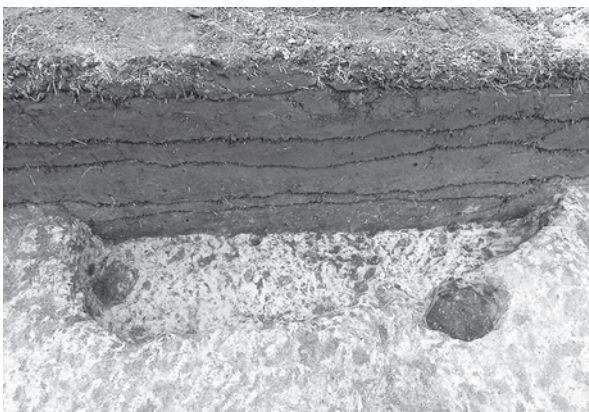
SK07・08, P01 全景 (南から)



SK07 全景 (西から)



同 土層断面 (北から)



SK09 全景 (北東から)



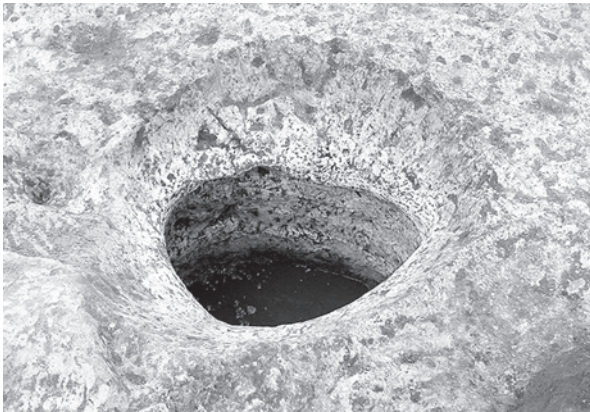
SK34 全景 (北西から)



SE01 全景 (西から)



同 土層断面 (西から)



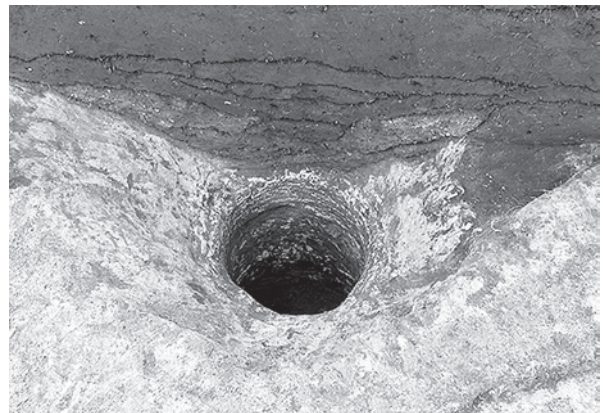
SE02 全景 (北東から)



同 礫検出状況 (南東から)



同 土層断面 (東から)



SE03 全景 (東から)



SE04 全景 (北西から)



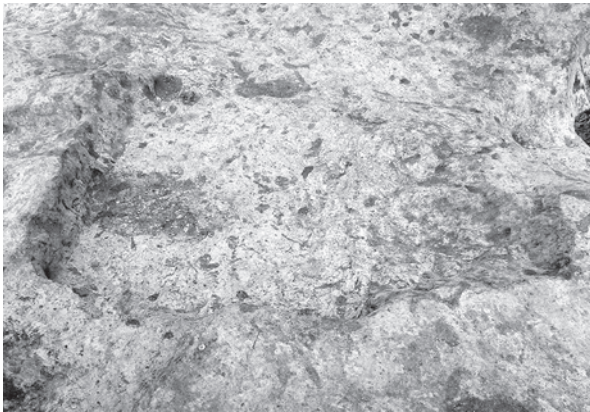
同 土層断面 (西から)



SK10 全景（北東から）



SK11 全景（南西から）



SK14 全景（北東から）



SK15・16・21 全景（北から）



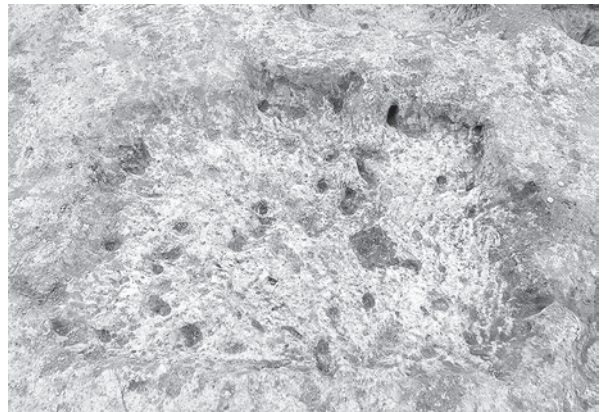
SK15・16 土層断面（北から）



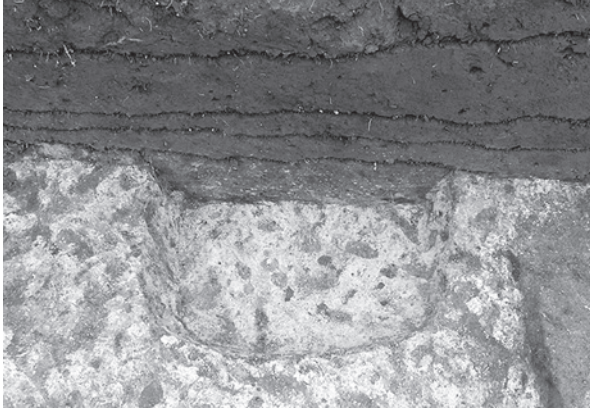
SK17 全景（西から）



同 土層断面（東から）



SK18 全景（西から）



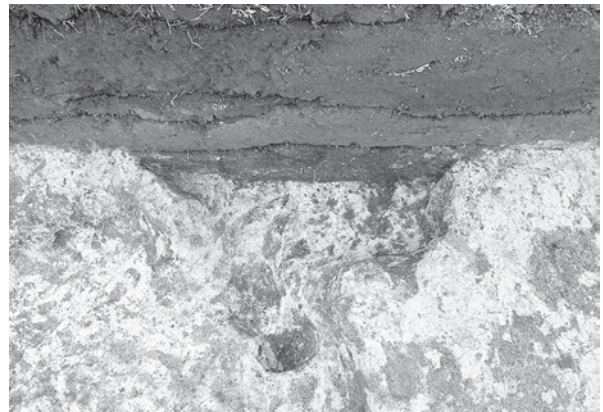
SK19 全景（北東から）



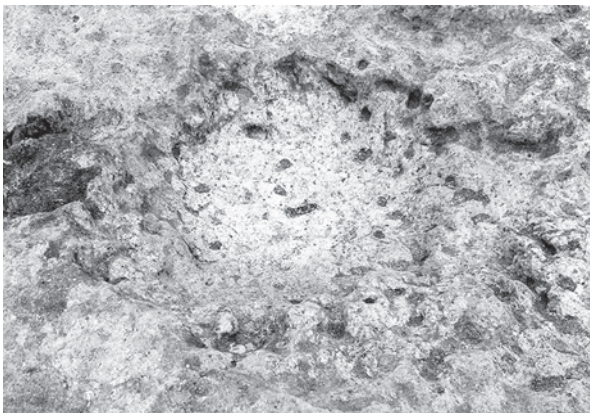
SK20 全景（北東から）



SK22 全景（北東から）



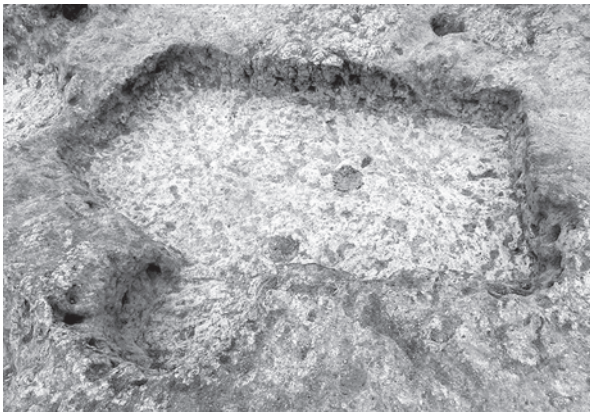
SK23 全景（北東から）



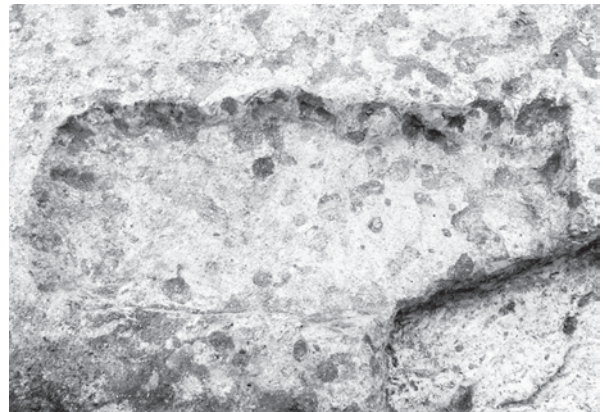
SK24 全景（東から）



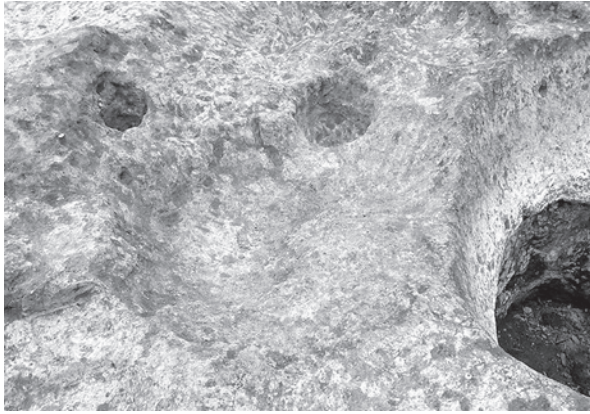
SK24・25 土層断面（北東から）



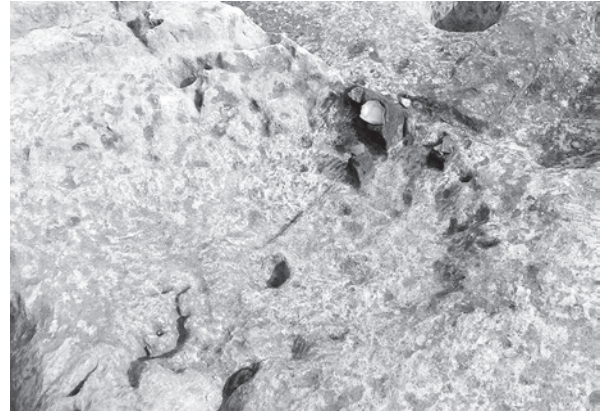
SK25 全景（北から）



SK26 全景（西から）



SK28 全景 (西から)



SK29 遺物出土状況 (南西から)



同 土層断面 (南から)



SK30 全景 (西から)



SK31 全景 (北から)



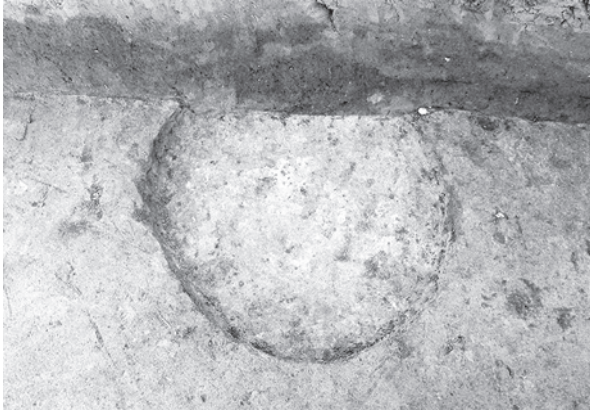
SK32 全景 (北東から)



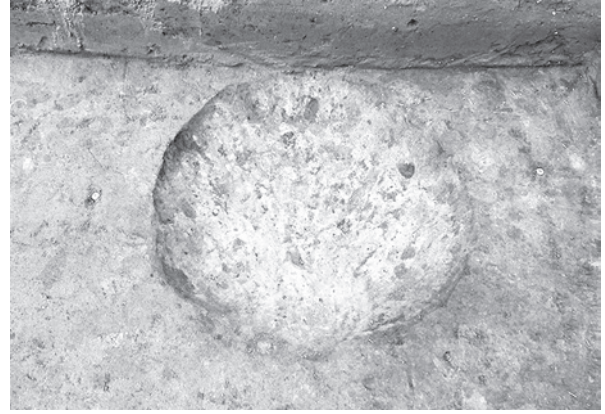
SK33 全景 (南東から)



SK36 全景 (北東から)



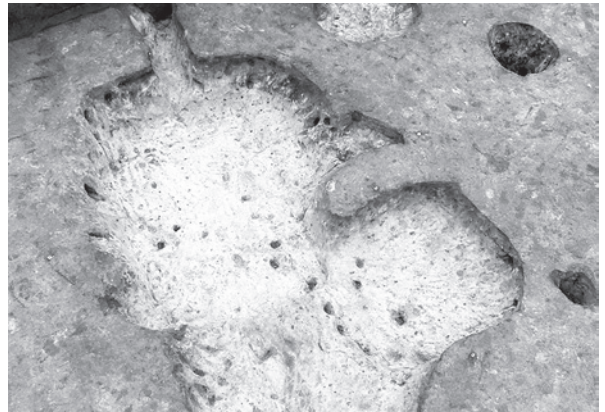
SK39 全景（南西から）



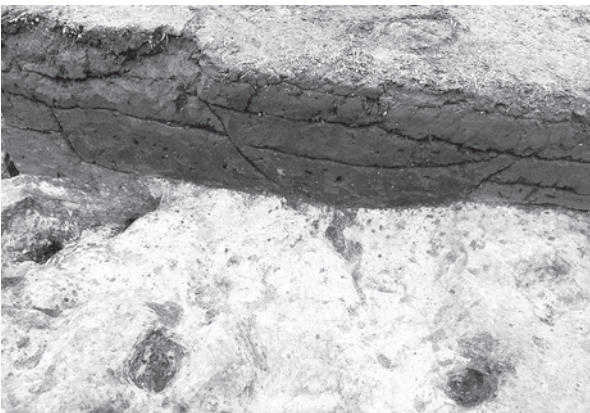
SK40 全景（北西から）



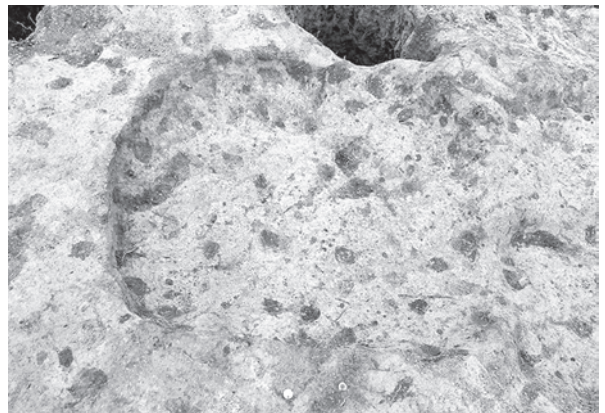
SK42 全景（北東から）



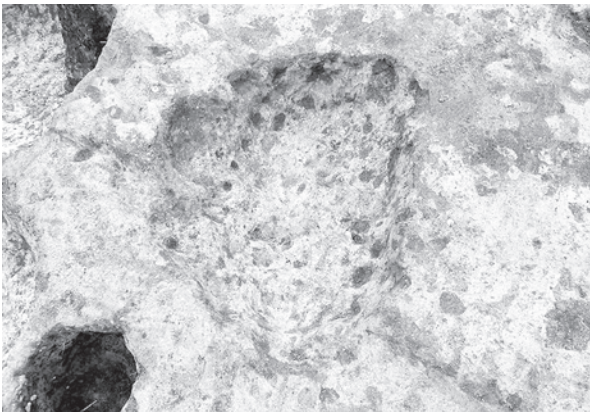
SK43・44 全景（南西から）



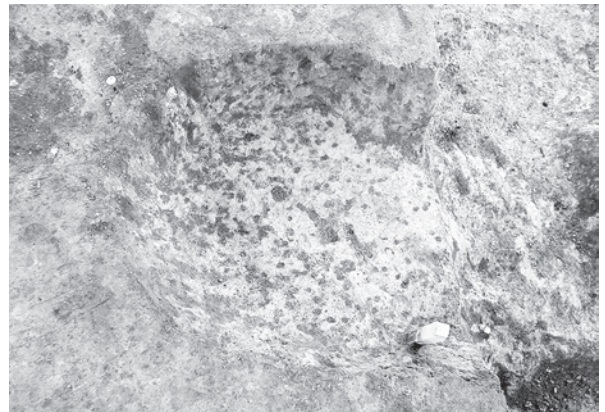
SK46 全景（北東から）



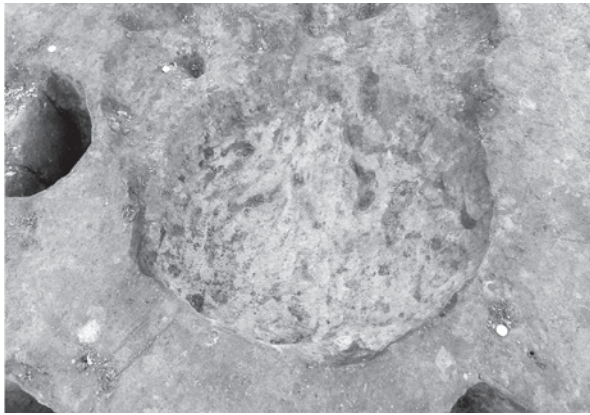
SK50 全景（北東から）



SK51 全景（北西から）



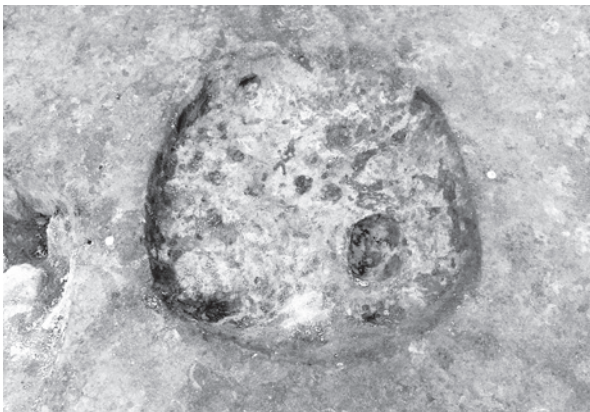
SK55 全景（北から）



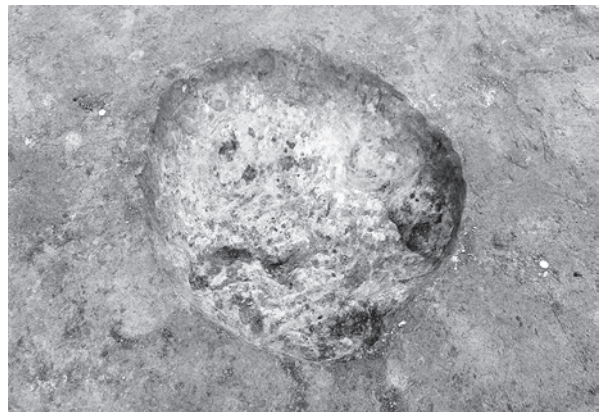
SK56 全景（北から）



SK57・59 全景（北西から）



SK58 全景（北東から）



SK60 全景（東から）



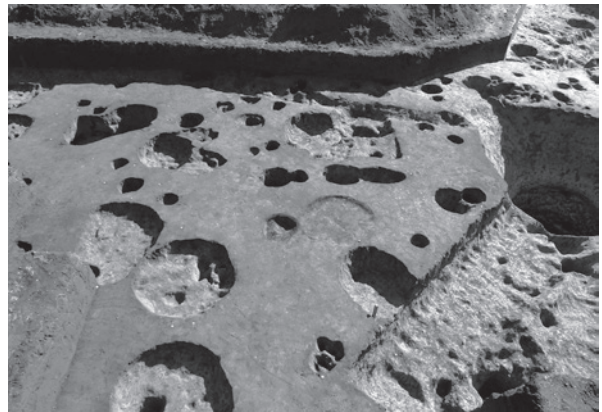
P04～10 全景（南東から）



P11～17 全景（北東から）

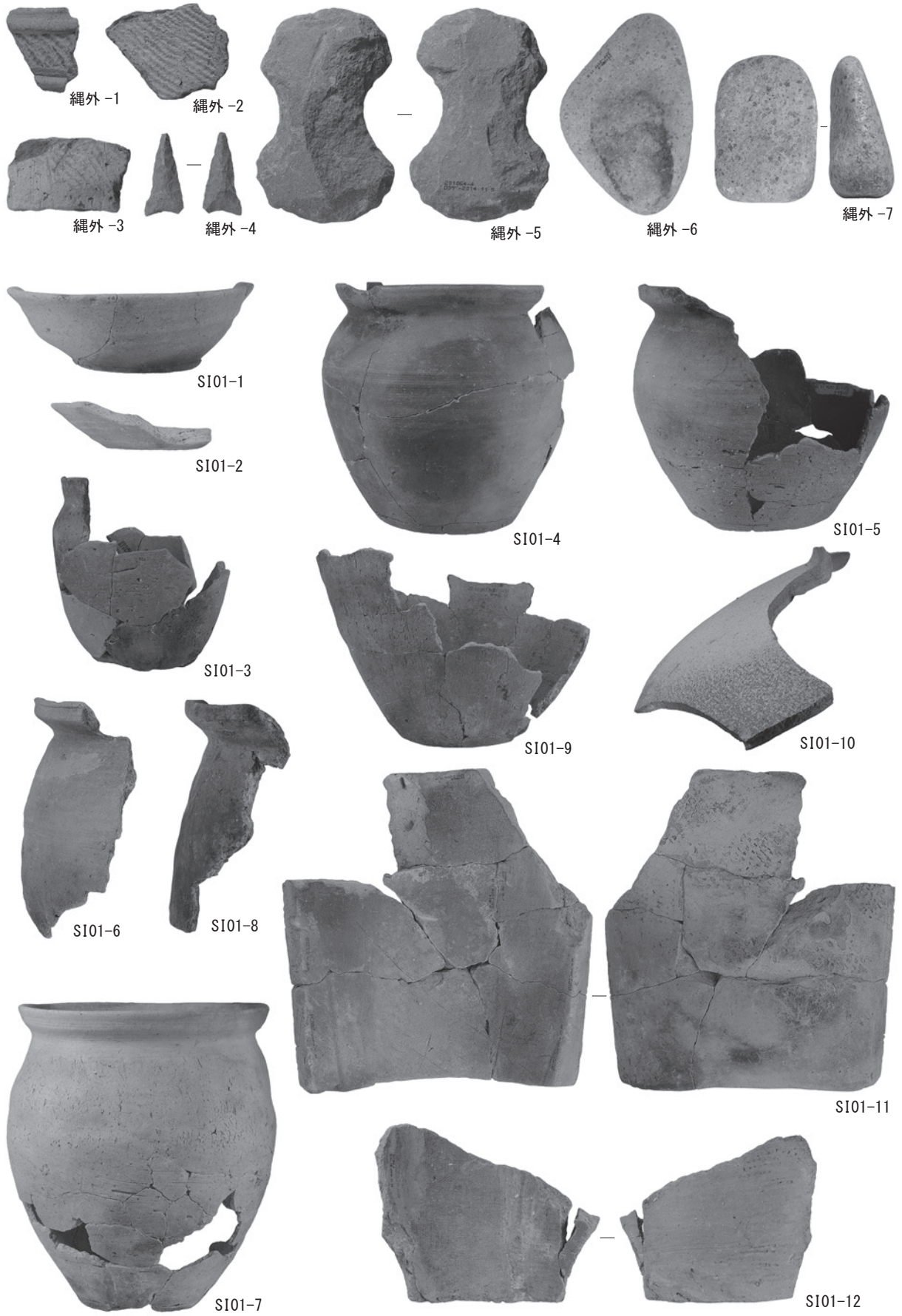


P27 全景（北東から）

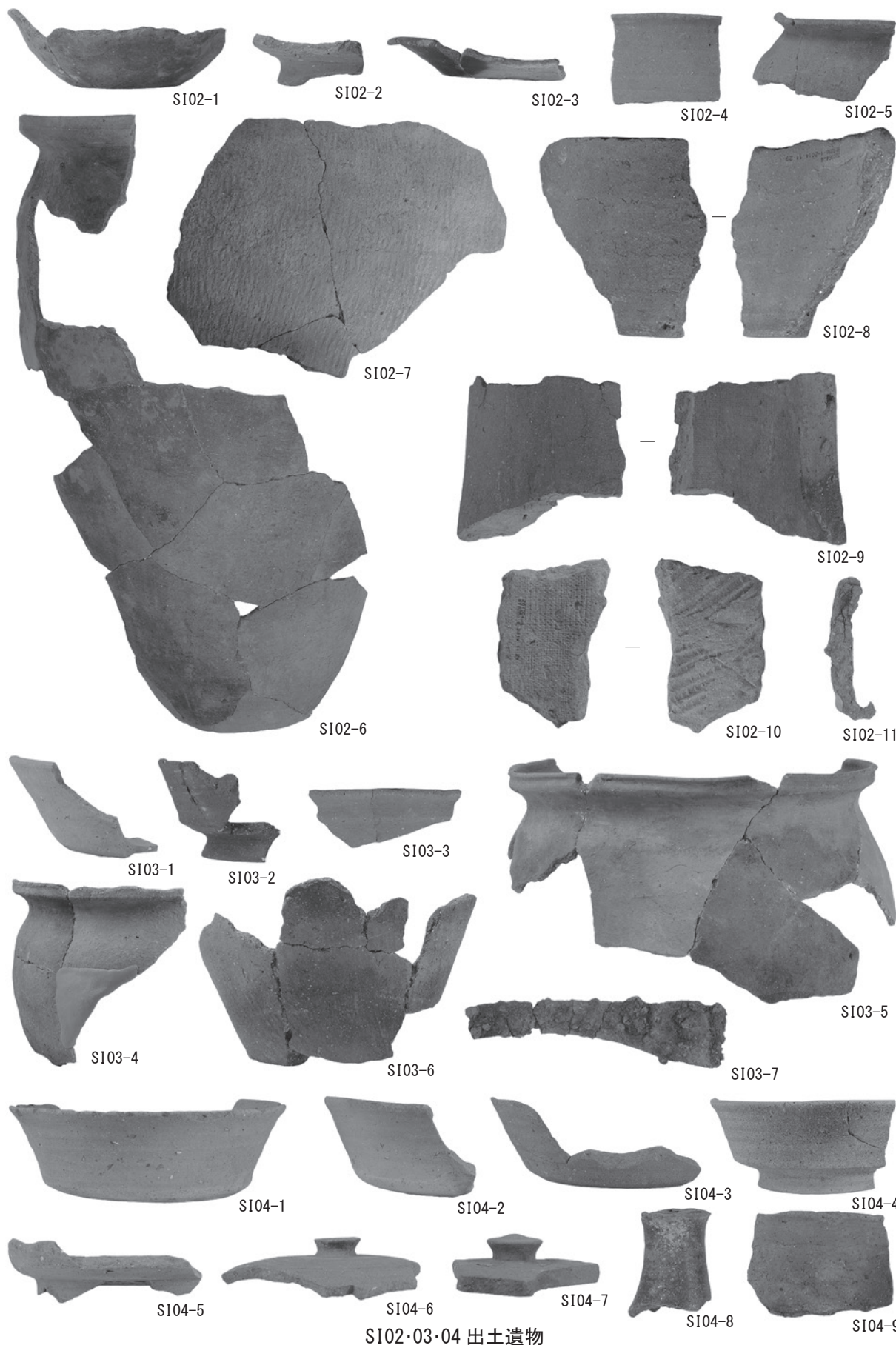


P28～33 全景（北西から）

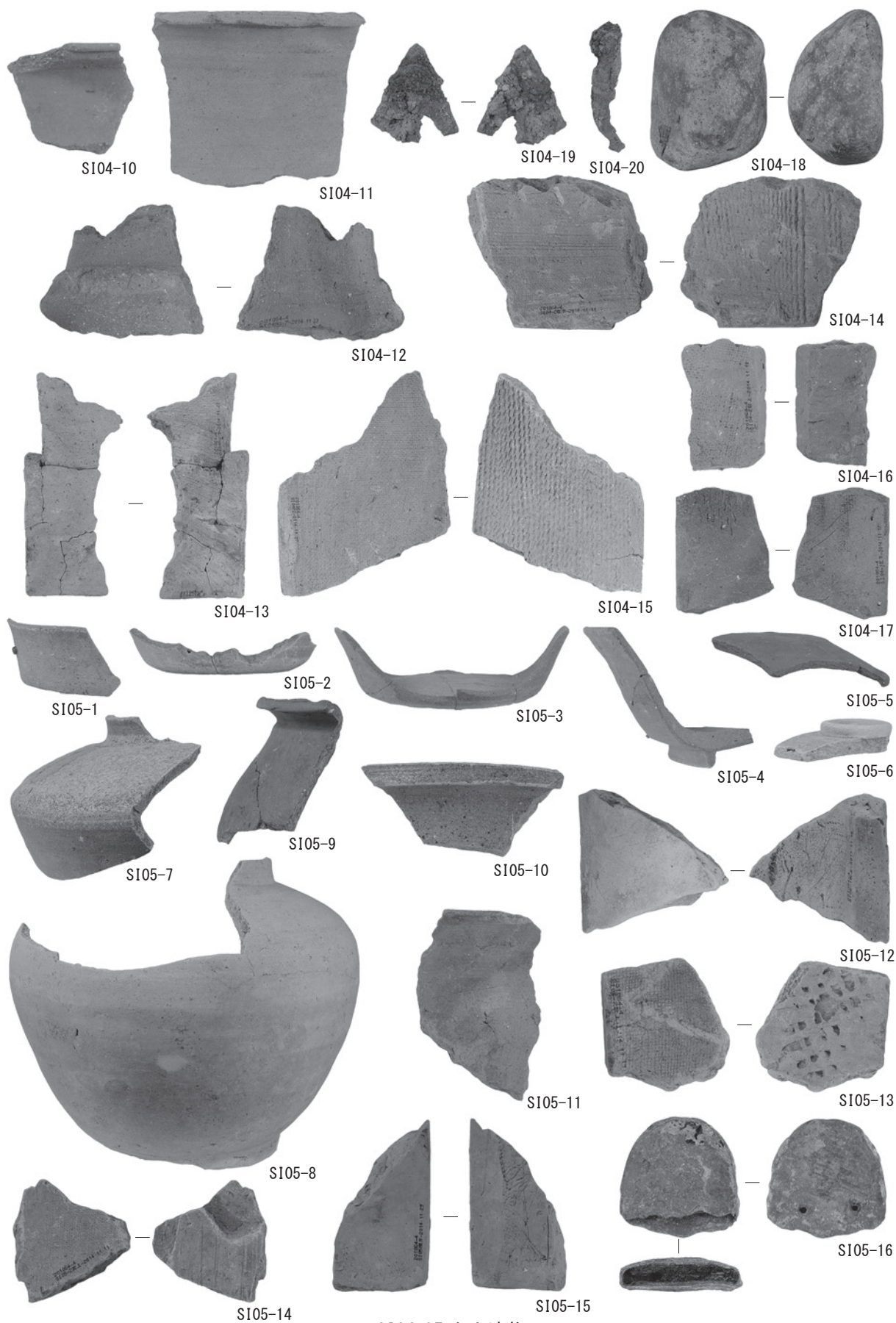
図版 20



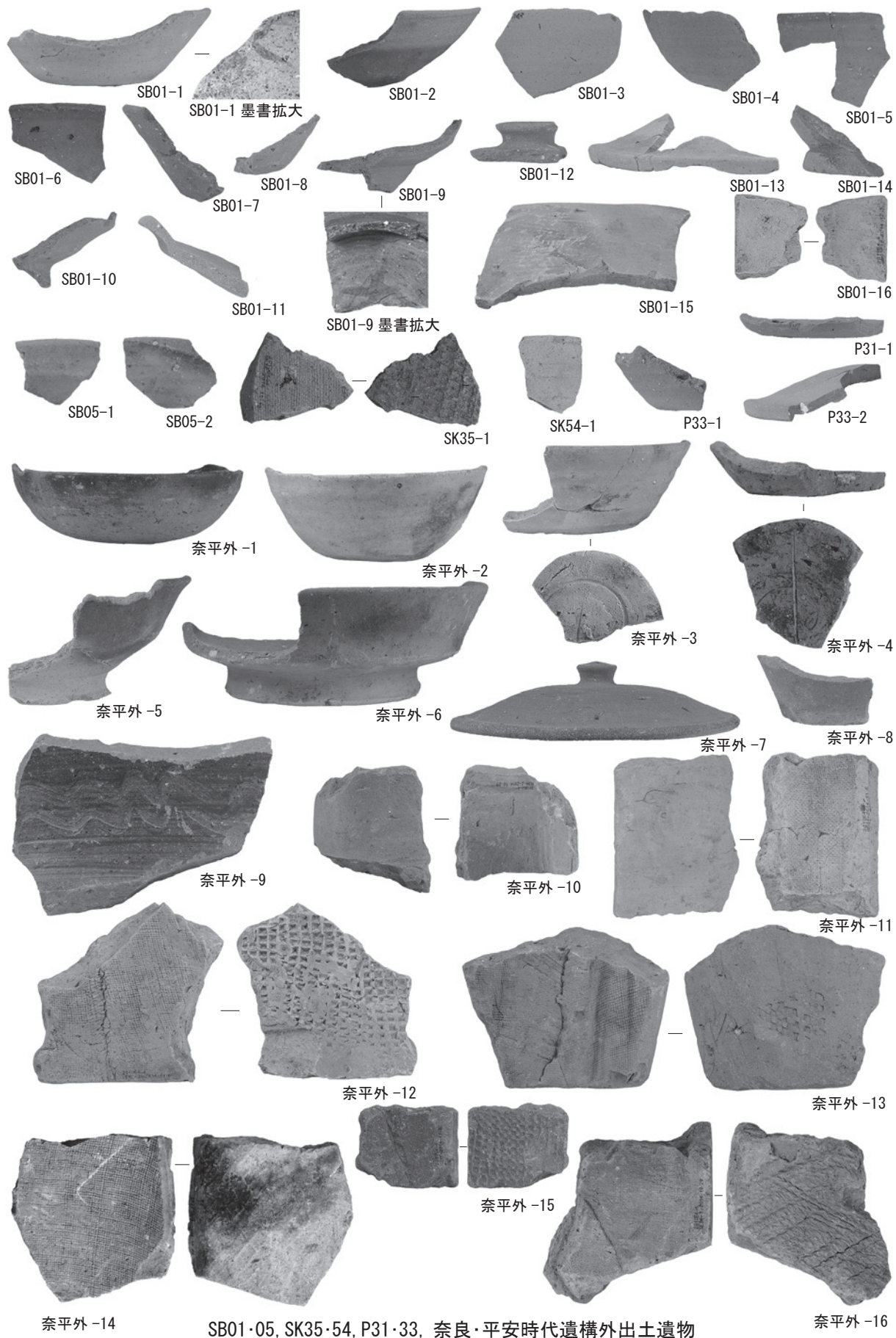
縄文時代遺構外, SI01 出土遺物



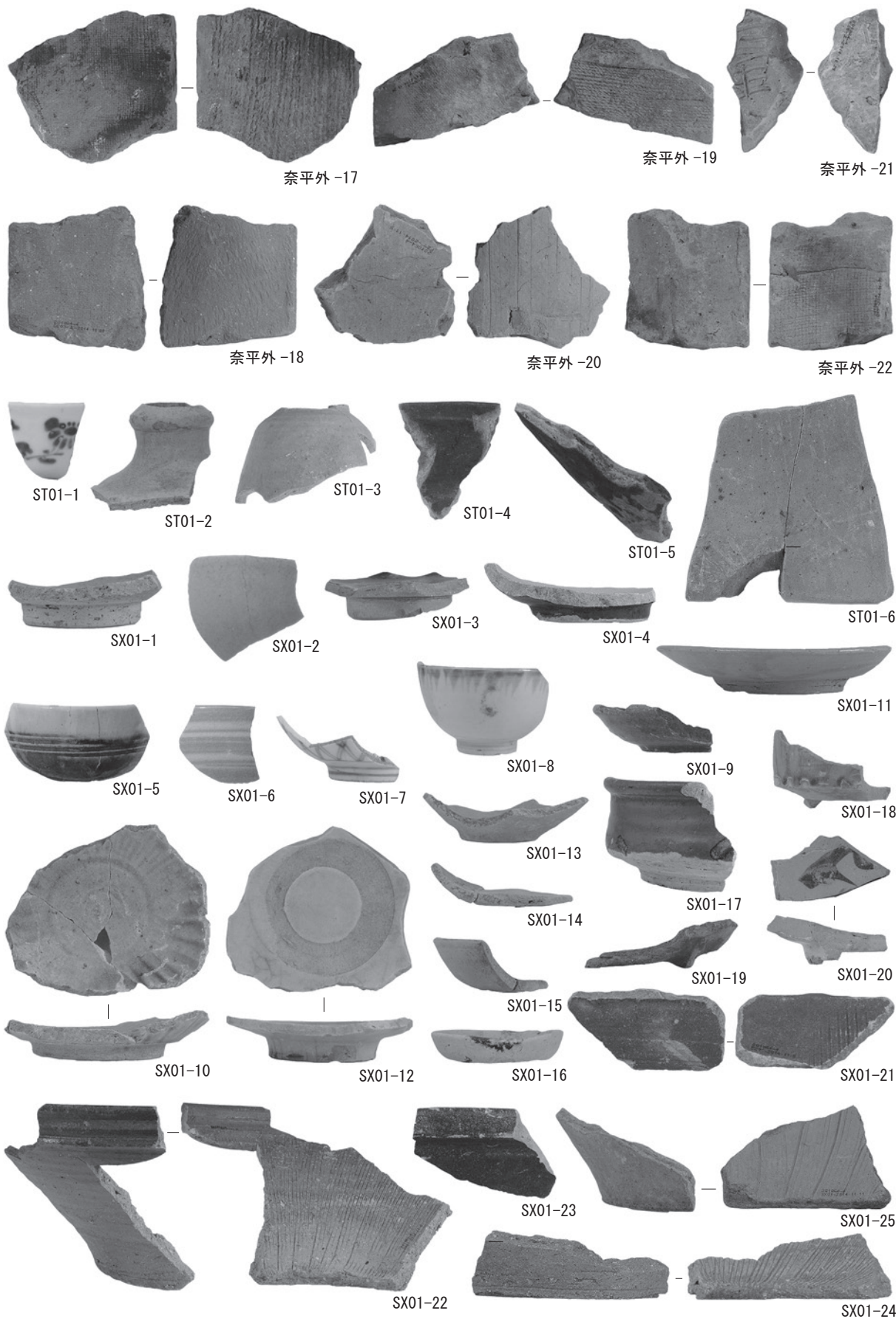
S102·03·04 出土遺物



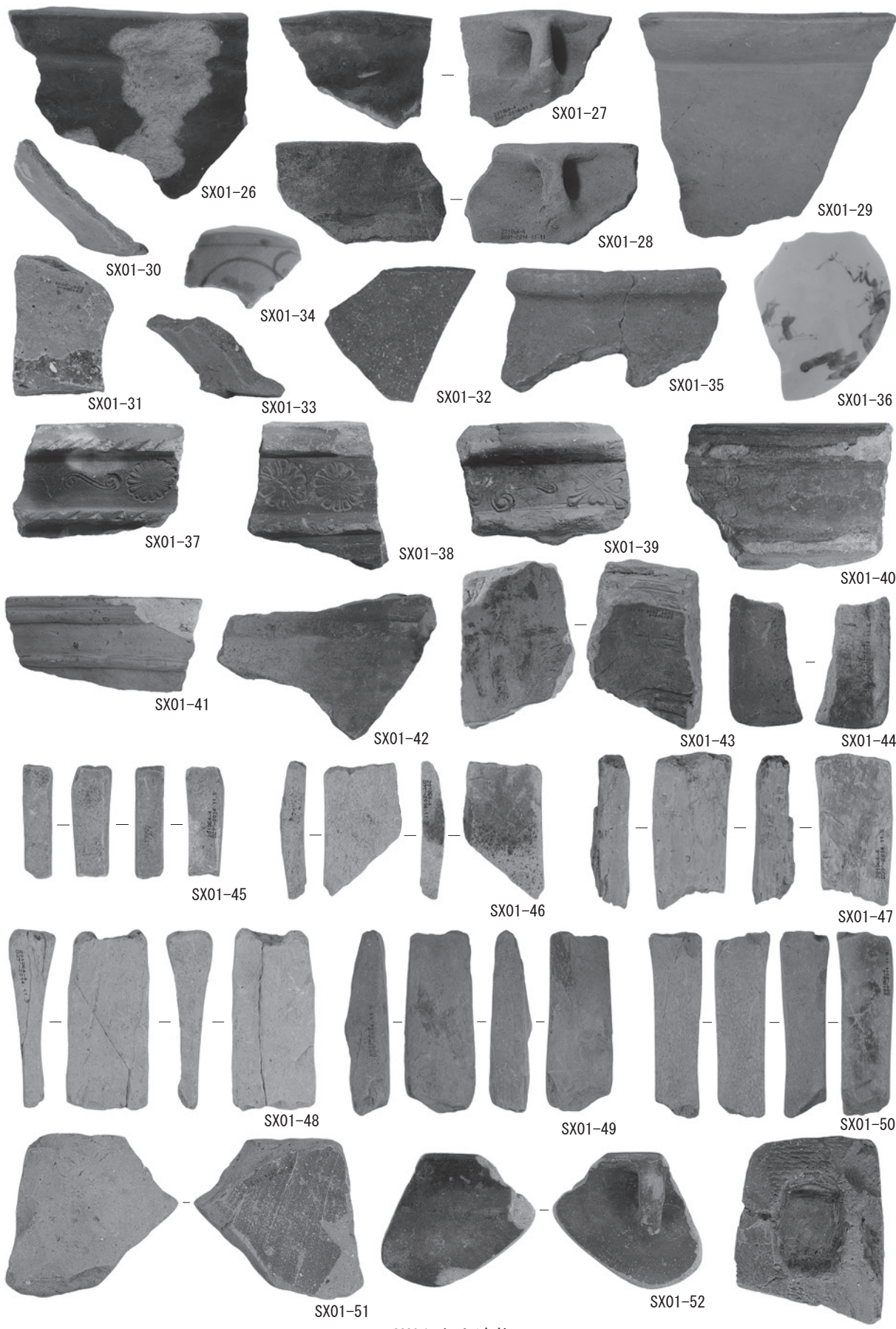
S104-05 出土遺物



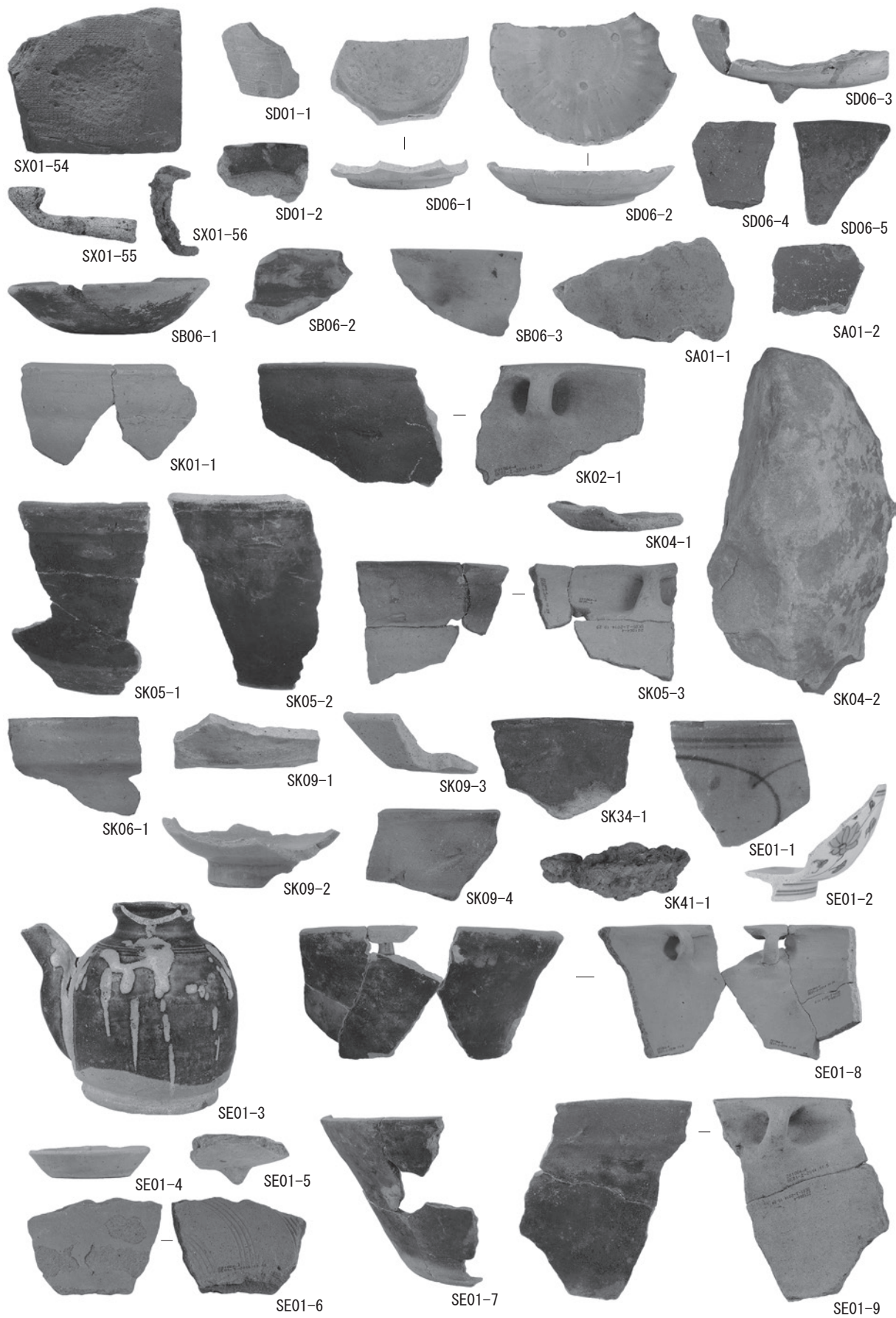
SB01-05, SK35-54, P31-33, 奈良・平安時代遺構外出土遺物



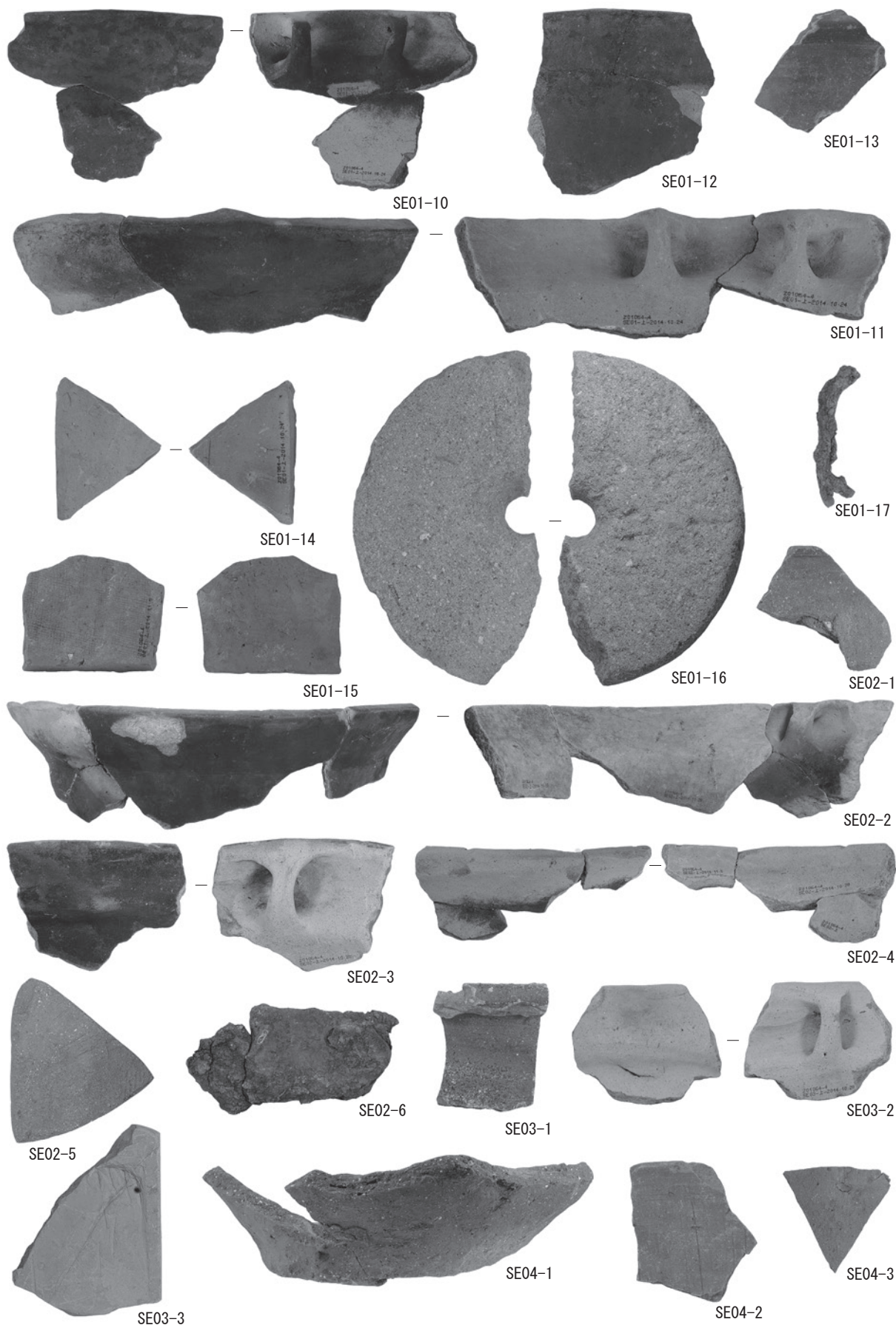
奈良・平安時代遺構外, ST01, SX01 出土遺物



SX01 出土遺物

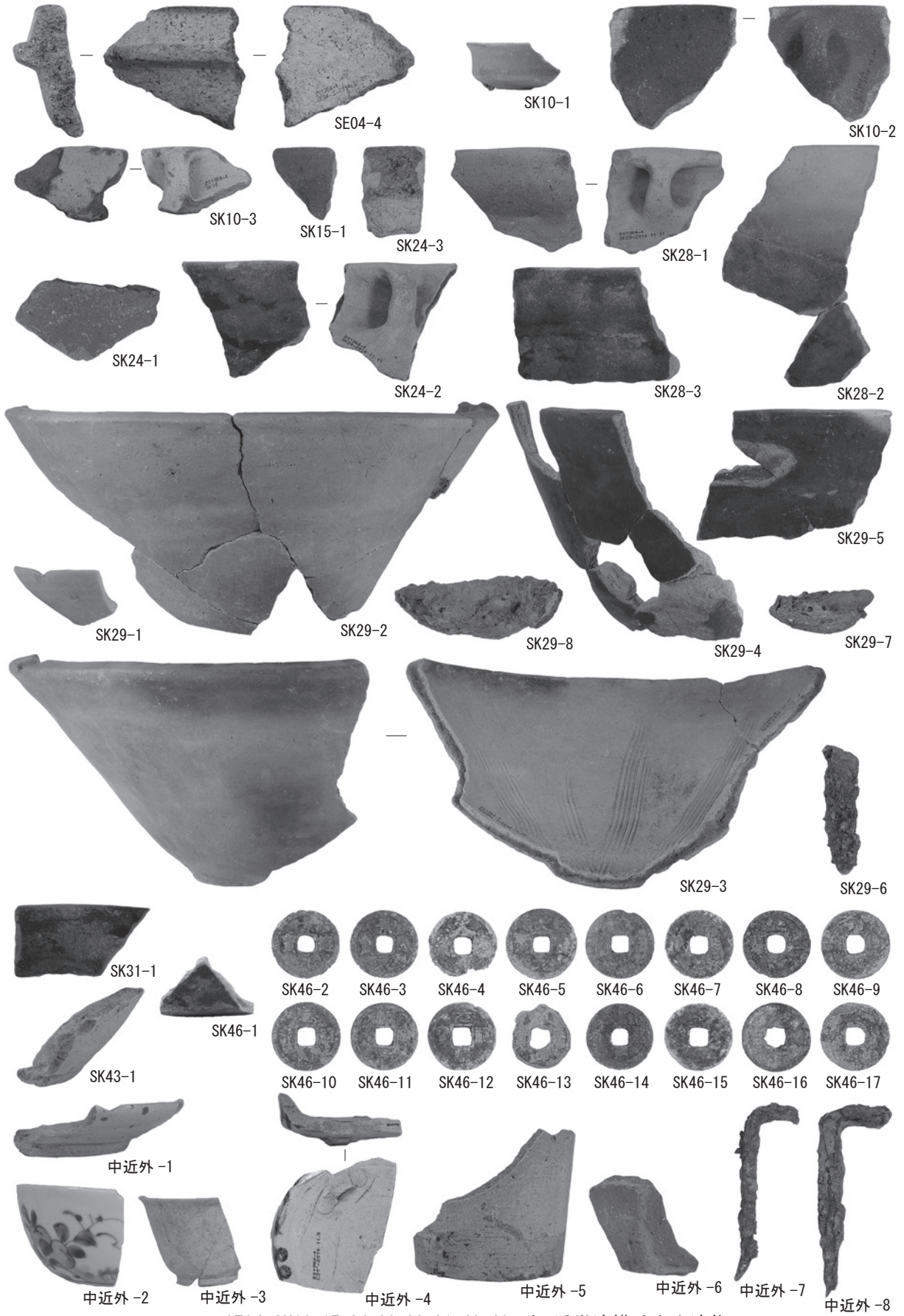


SX01, SD01-06, SB06, SA01, SK01-02-04-05-06-09-34-41, SE01 出土遺物



SE01·02·03·04 出土遺物

図版 28



SE04, SK10·15·24·28·29·31·43·46, 中・近世遺構外出土遺物

抄 録

| | | | | | | | | |
|--------------|--|---|--|--|-----------------------|---------------------------|---|------|
| ふりがな | ほりいせき だいよんちてん | | | | | | | |
| 書 名 | 堀 遺 跡 (第4地点) | | | | | | | |
| 副 書 名 | 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 水戸市埋蔵文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 65 | | | | | | | |
| 編 著 者 名 | 間宮正光 米川暢敬 | | | | | | | |
| 編 集 機 関 | 株式会社 地域文化財研究所 〒 270-1327 千葉県印西市大森 2596-9 | | | | | | | |
| 発 行 機 関 | 水戸市教育委員会 / 株式会社 KUNO / 株式会社 地域文化財研究所 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2015 年 6 月 30 日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ° , ' , " | ° , ' , " | 20141014 ~ 20141205 | 2,273.99 ㎡ | 宅地造成 |
| ほりいせき 堀遺跡 | いばらきけんみとしほりまち 茨城県水戸市堀町 428-1・3・4, 431, 433 | 201 | 064 | 36° 24' 16.38" | 140° 25' 41.31" | | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主 な 遺 構 | 主 な 遺 物 | | | 特記事項 | |
| 堀 遺 跡 | 集落跡 | 奈良・平安時代 | 竪穴建物跡 5軒 掘立柱建物跡 4棟 土坑 9基 ピット 6本 塚 1基 台地整形遺構 1ヵ所 溝跡 11条 掘立柱建物跡 2棟 柵列 1条 地下式坑 8基 方形竪穴状遺構 4基 井戸跡 4基 土坑 39基 ピット 30本 | 縄文土器:加曾利E式 石器:石鏃・打製石斧・磨石 土師器:坏・埴・皿・蓋・鉢・壺・甕 須恵器:坏・盤・蓋・高坏・鉢・壺・甕 瓦 :丸瓦・平瓦・熨斗瓦 常滑系:鉢・甕 瀬戸・美濃系:天目茶碗・碗・皿・鉢・ 壺類・徳利・香炉・播鉢・ 水注・志野丸皿 肥前系陶器:碗・壺類 肥前系磁器:染付碗・小杯・徳利 土質質土器:小皿・播鉢・鍋・内耳鍋・鉢・ 壺・香炉 瓦質土器:香炉・火鉢 土製品:支脚・粘土塊 石製品:滑石製石鍋・硯・砥石・石臼・ 磨石 金属製品:鉄鏃・鎌・釘・鏝・鉈尾・鍋・ 煙管・鉄滓 銭貨:景德元寶・天聖元寶 熙寧元寶・元豊通寶 元祐通寶 | | | 奈良・平安時代では、版築技法を用いた3間×3間の総柱建物が調査され、豊島郡衙の御殿前遺跡において検出されている「地中梁」(「柱筋溝状遺構」)と同様の構造を示していた。また、竪穴建物の覆土上層から純銅製帯金具の鉈尾が出土し、郡衙近傍遺跡の性格を物語っている。 中・近世では、遺構を伴っていないが、北九州地域で生産されたとみられる13世紀末～14世紀初頭の滑石製石鍋が発見され、郡衙のその後を考える上で注目される資料が得られた。 | |
| | 要 約 | <p>堀遺跡は那賀郡衙の関連集落として知られていたが、調査により奈良・平安時代と、中・近世に大別できる結果となった。奈良・平安時代では8世紀後半～10世紀初頭にかけて営まれた集落の一部で、版築技法を伴う大型の掘立柱建物跡が調査されている。中・近世では15世紀後半～16世紀代に地下式坑や大型の土坑、掘立柱建物跡が機能し、17世紀前半に台地が整形され、方形竪穴状遺構や井戸跡が構築された。その後整地され18世紀に終焉を迎える。台地整形の目的については明らかにできなかったが、椀形滓や砥石が出土していることから工房が営まれた可能性がある。</p> | | | | | | |

堀遺跡発掘調査報告書一覧

| No. | 書名 | 副書名 | 発行年月 |
|------|---------------------------------------|-----|------------|
| | 堀遺跡（第2地点） | | 1995年12月発行 |
| | －堀町住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |
| 第19集 | 堀遺跡（第9地点） | | 2008年9月発行 |
| | －宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |
| 第32集 | 堀遺跡（第16地点） | | 2009年10月発行 |
| | －市道渡里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）－ | | |
| 第33集 | 堀遺跡（第18地点） | | 2009年11月発行 |
| | －市道渡里31, 41号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |
| 第39集 | 堀遺跡（第3地点） | | 2011年1月発行 |
| | －宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |
| 第41集 | 堀遺跡（第16地点） | | 2011年1月発行 |
| | －市道渡里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）－ | | |
| 第45集 | 堀遺跡（第7地点） | | 2011年3月発行 |
| | －市道渡里41, 222号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |
| 第52集 | 堀遺跡（第36地点） | | 2012年3月発行 |
| | －市道渡里43, 205号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |
| 第56集 | 堀遺跡（第35地点） | | 2013年3月発行 |
| | －共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－ | | |

水戸市埋蔵文化財調査報告第65集

堀遺跡（第4地点）

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27年6月22日（2015） 印刷

平成27年6月30日（2015） 発行

編集 株式会社 地域文化財研究所

発行 水戸市教育委員会

株式会社 KUNO

株式会社 地域文化財研究所

印刷 株式会社 ライフ TEL 0476-24-1564
